



QuarkCopyDesk 10.1 ガイ ド

目次

本書について	9
想定される前提条件.....	9
ヘルプが必要な場合の参照先.....	9
表記規則.....	10
技術情報.....	10
ユーザーインターフェイス	11
メニュー.....	11
QuarkCopyDeskメニュー（Mac OSのみ）.....	11
ファイルメニュー.....	12
編集メニュー.....	12
スタイルメニュー.....	14
コンポーネントメニュー.....	16
表示メニュー.....	16
補助メニュー.....	17
ウィンドウメニュー.....	18
ヘルプメニュー.....	19
コンテキストメニュー.....	19
パレット.....	19
メジャーパレット.....	20
高度なイメージ制御パレット.....	21
カラーパレット.....	21
条件付きスタイルパレット.....	22
字形パレット.....	22
リストパレット.....	23
変更履歴パレット.....	23
スタイルシートパレット.....	24
パレットグループおよびパレットセット.....	24
ウィンドウの分割.....	26
アーティクルとコンポーネント	28
アーティクルとコンポーネントの理解.....	28
読み込み順序.....	28
テキストコンポーネントとページ.....	29
画像コンポーネントの編集.....	29
マスターコンポーネント.....	29
テンプレート.....	30
QuarkCopyDesk軽量ファイルフォーマット.....	30
アーティクルとQuarkXPress.....	30

アートの使用	32
アートの作成.....	33
アートの自動保存.....	33
テンプレートとしてのアートの保存.....	34
アート設定の変更.....	34
コンポーネントの使用	36
コンポーネントの作成.....	36
コンポーネントのプロパティの制御.....	36
コンポーネントの削除.....	36
コンポーネント間のナビゲーション.....	36
テキストと組版	38
テキストの編集	38
テキストの取り込みおよび書き出し	38
フィルタの取り込み/書き出し.....	39
Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し.....	39
テキストの検索と置換	40
特殊文字コード.....	40
スペルチェック	41
ユーザー辞書.....	43
単語および文字のカウント	43
文字属性の適用	44
フォントの適用.....	44
フォントサイズを選択.....	45
文字飾りの適用.....	45
カラー、シェードおよび不透明度の適用.....	46
横比率または縦比率の適用.....	46
ベースラインシフトの適用.....	47
圏点の適用.....	47
半角文字の制御.....	47
フォントセットの使用.....	48
縦組み用グループ化文字の使用.....	49
行の文字揃え.....	49
複数の文字属性の適用.....	52
段落設定の適用	53
行揃えの制御.....	53
インデントの制御.....	54
行送りの制御.....	54
前段落との間隔および次段落との間隔の制御.....	55
タブの設定.....	55
ウィドウ行およびオーファン行の制御.....	56
禁則文字セットの使用.....	56
カーニングの制御	57
手動カーニング.....	57
自動カーニング.....	57
ハイフネーション&ジャスティフィケーションの制御	58

例外ハイフンの指定.....	59
任意ハイフンの使用.....	60
トラッキングの制御.....	60
手動トラッキング.....	60
スタイルシートの使用.....	61
段落スタイルシートの作成および編集.....	61
文字スタイルシートの作成および編集.....	63
スタイルシートの適用.....	65
スタイルシートの追加.....	66
条件付きスタイルの使用.....	66
条件付きスタイルの作成.....	68
条件付きスタイルの適用.....	70
条件付きスタイルの解除.....	71
条件付きスタイルマーカーの使用.....	71
条件付きスタイルの編集.....	73
箇条書きおよび番号付きリスト.....	73
箇条書き記号スタイルの使用.....	74
箇条書き自動番号スタイルの使用.....	75
アウトラインスタイルの使用.....	77
箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート.....	79
テキストボックスのテキストの位置.....	80
組み方の指定.....	80
フォント使用状況の制御.....	80
テキストの回り込みの使用.....	81
テキストの画像への回り込み.....	81
回り込みパスの微調整.....	83
回り込みパスの編集.....	83
テキストパスの使用.....	83
ドロップキャップスの作成.....	84
段落上下の罫線の作成.....	84
OpenTypeフォントの使用.....	84
OpenTypeスタイルの適用.....	85
合字の使用.....	88
字形パレットの使用.....	89
特殊キャラクタの表示.....	90
特殊文字の挿入.....	90
スペースの挿入.....	90
その他の特殊文字の挿入.....	90
文字言語の指定.....	90
未定義キャラクタの代替の使用.....	91
フォントマッピングルールの使用.....	91
ルビ文字の使用.....	92
ルビ揃えのオプション.....	94
モノルビ.....	96
ルビベース揃えのオプション.....	97
張り出しルビのオプション.....	99
ぶら下がり文字の使用.....	101

ぶら下がり文字クラスの作成.....	104
ぶら下がり文字セットの作成.....	105
ぶら下がり文字セットの適用.....	105
文字組みセットとクラスの使用.....	106
文字組み文字クラスの作成と編集.....	106
文字組みセットの作成および編集.....	106
文字組みセットの適用.....	109
カラー、不透明度、およびドロップシャドウ.....	110
カラーの使用.....	110
カラーパレット.....	110
カラーダイアログボックス.....	110
カラーの作成.....	111
カラーの編集.....	112
カラーの複製.....	112
色の削除.....	112
別アーティクルやプロジェクトからのカラーの取り込み.....	112
カラーの一括変換.....	113
カラーおよびシェードをテキストに適用.....	113
不透明度の使用.....	113
画像.....	114
画像の使用.....	114
画像の取り込み.....	114
画像の移動.....	114
画像のサイズ変更.....	114
画像の切り抜き.....	115
画像の回転と傾斜.....	115
画像へのカラーおよびシェードの適用.....	115
画像のフリップ.....	115
画像の一覧表示、状況確認、および更新.....	115
画像バックグラウンドカラーの指定.....	116
画像属性の保持.....	116
クリッピングパスの使用.....	116
クリッピングパスの基本.....	117
クリッピングパスの作成.....	117
埋め込みクリッピングパスの使用.....	118
アルファマスクの使用.....	118
PSD画像の使用.....	119
PSDファイルの準備.....	120
PSDレイヤーの使用.....	120
PSDチャンネルの使用.....	121
PSDパスの使用.....	122
PSD Importによる印刷.....	123
ドキュメントの構築.....	124

リストの使用.....	124
リストの準備.....	124
リストの作成.....	124
別のドキュメントからのリストのインポート.....	125
リストでのナビゲーション.....	125
リストの作成.....	126
リストの更新.....	126
出力.....	128
アートの印刷.....	128
画像パスの更新.....	128
印刷ダイアログボックスの制御に関する設定.....	128
印刷ダイアログボックス.....	130
PDF形式でのアートの書き出し.....	132
出力スタイルの使用.....	133
表示.....	135
表示間の切り替え.....	135
WYSIWYG表示での作業.....	135
ゲラ表示での作業.....	136
全画面表示での作業.....	137
変更履歴.....	139
トラッキングの切り替え.....	139
トラッキングされた変更内容の表示.....	140
変更内容の同意および拒否.....	141
ノート.....	142
ノートの作成.....	142
ノートの使用.....	143
ノートの開始と終了.....	143
ノートの表示および非表示.....	143
ノートの削除.....	143
ノートおよびテキストの相互変換.....	144
作成者、日付、名前、または色別のノートの表示.....	144
ノートの移動とサイズ変更.....	144
ノートの印刷.....	144
PDFのノート.....	144
多言語の使用.....	145
文字言語の適用.....	145
表示言語の変更.....	146
XTensionsソフトウェア.....	147
XTensionsモジュールの使用.....	147

XTensionsモジュールのインストール.....	147
XTensionsの有効化と無効化.....	147
XTensionsセットの使用 (Windowのみ)	148
XTensionsモジュールの概要.....	148
TypeTricks.....	149
分数の作成.....	150
通貨の作成.....	150
単語スペーストラッキング.....	150
ラインチェック.....	151
カスタムアンダーライン.....	151
DejaVu XTensionsソフトウェア (Windowsのみ)	151
Multiple Article XTensionsソフトウェア.....	152
Multiple Article XTensionsソフトウェアのインストール.....	152
Multiple Article XTensionsソフトウェアの使用.....	153
アートの書き出し.....	154
QCDImportFilter XTensionsソフトウェア.....	156
Word 6-2000 Filter.....	156
WordPerfect Filter.....	156
Output Enhancements.....	157
出力プロファイル.....	157
プリンタ用の出力プロファイルの作成.....	157
PDF出力用の出力プロファイルの作成.....	166
アートのXMLファイルの出力プロファイルの作成.....	176
出力プロファイルの実行.....	181
出力プロファイルグループ.....	182
出力プロファイルグループの作成.....	183
出力プロファイルグループの実行.....	184
プレースホルダ.....	185
プレースホルダの構文.....	185
プレースホルダ値のサブ文字列の取得.....	186
プレースホルダ出力の形式設定.....	187
プレースホルダ参照.....	188
環境設定.....	191
環境設定の理解.....	191
QuarkCopyDesk環境設定ファイルの内容.....	191
QuarkCopyDesk環境設定への変更.....	192
アプリケーションの環境設定.....	193
環境設定 - アプリケーション - 一般.....	193
環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ.....	193
環境設定 - アプリケーション - WYSIWYG表示.....	194
環境設定 - アプリケーション - ゲラ/全画面表示.....	194
環境設定 - アプリケーション - 特長.....	195
環境設定 - アプリケーション - 入力設定.....	195
環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替.....	196

環境設定 - アプリケーション - 取り消し.....	197
環境設定 - アプリケーション - 開く & 保存.....	197
環境設定 - アプリケーション - XTensionsマネジャー.....	198
環境設定 - アプリケーション - フォント.....	198
環境設定 - アプリケーション - テキストのハイライト.....	198
環境設定 - アプリケーション - 東アジア.....	199
環境設定 - アプリケーション - ファイルリスト.....	199
環境設定 - アプリケーション - デフォルトパス.....	199
環境設定 - アプリケーション - ノート.....	199
環境設定 - アプリケーション - PDF.....	199
環境設定 - アプリケーション - 変更履歴.....	200
環境設定 - アプリケーション - スペルチェック.....	200
環境設定 - アプリケーション - テーブル.....	201
環境設定 - アプリケーション - 分数/通貨.....	201
アーティクルの環境設定.....	201
環境設定 - アーティクル - 一般.....	201
環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - 一般.....	202
環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - メジャーパレット.....	202
環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - 段落.....	203
環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - 文字設定.....	204
環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - ガイドとグリッド.....	205
環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - グリッドセルの塗りつぶし.....	206
法律上の注記.....	207

本書について

QuarkCopyDesk®の資料を最初から最後まですべて読む必要はありません。本書を使用して簡単に必要な情報を調べながら、作業を進めてください。

想定される前提条件

本書では、ユーザーがコンピュータの操作に慣れていると同時に、下記の操作方法を理解していることを想定しています。

- アプリケーションの起動
- ファイルを開く、保存する、閉じる
- メニュー、ダイアログボックス、およびパレットの使用
- ネットワークで接続されたコンピュータ環境での作業
- マウス、キーボードコマンド、および修飾キーの使用

これらの操作に関する情報が必要な場合は、ご使用のコンピュータに付属のマニュアルや他のリソースを確認してください。

ヘルプが必要な場合の参照先

初めてQuarkCopyDeskをご使用になる場合、またはある機能について調べる場合は、下記のリソースを参照してください。

- *QuarkCopyDesk*のガイド
- QuarkCopyDeskのヘルプ
- サードパーティの出版物
- DTPに関する一般的な出版物

たとえば、ファイルの保存、ファイルの移動、フォントのアクティブ化など、問題がシステムレベルの場合は、ご使用のコンピュータに付属されているマニュアルを参照してください。

表記規則

本書では、ユーザーが必要な情報をすばやく見つけることができるように、表記規則を使用して重要な情報を強調表示しています。

- **ボールド体**：ダイアログボックス、フィールド、およびその他のコントロールの名前はすべてボールド体で表記されています。例：「**OK**をクリックします。」
- **注釈**：機能の説明では、括弧内の注釈でそれらの機能の場所が分かるようになっています。例：「**検索／置換**ダイアログボックス（**編集**メニュー）でテキストを置換できます。」
- **矢印**：矢印 (>) は機能へアクセスするためのメニューパスを示すもので、頻繁に使用されます。例：「**編集 > スタイルシート**を選択して、**スタイルシート**ダイアログボックスを表示します。」
- **アイコン**：多くのツールやボタンは、ツールチップで表示される名前で説明されますが、ユーザーが見つけやすいようにアイコンで示される場合があります。例：「**メジャーパレット**の  ボタンをクリックして、テキストをセンター揃えにします。」
- **クロスプラットフォームの問題**：このアプリケーションは、異なるオペレーティングシステム間での整合性があります。ただし、ユーザーインターフェイス規則やその他の要因により、アプリケーションのラベル、ボタン、キーの組み合わせなどについて、Mac OS®とWindows®間で違いが生じる場合があります。そのような場合は、Mac OSとWindowsの両方のバージョンが記載されています。両バージョンはスラッシュで区切られ、Mac OSバージョンが先に記載されます。たとえば、Mac OSバージョンのボタンの名前が**選択**で、Windowsバージョンの名前が**参照**の場合、説明は「**選択／参照**をクリックします」となります。プラットフォーム間の違いがより複雑な場合は、ノートや括弧を使用して説明されます。

技術情報

クオーク社では、出版社がQuarkXPress®プロジェクトにおいて組版、色、およびグループ作業を管理できるように、QuarkCopyDesk for Mac OSおよびQuarkCopyDesk for Windowsを開発しました。QuarkCopyDeskは、独自の組版管理に加えて、TrueType®、OpenType®、およびUnicode®のサポートによる総合的なフォント管理を提供します。設計者は、PANTONE® (the PANTONE MATCHING SYSTEM®)、Trumatch®、Focoltone®、DIC®、およびTOYOを使用して、アーティクルに色を追加できます。

Microsoft® Word、WordPerfect®、Adobe® Illustrator®、およびAdobe Photoshop®などのアプリケーションからファイルを取り込むことができます。コンテンツをPostScript®またはAdobe Acrobat® Reader®用のPDF形式で出力できます。Composition Zones®などの機能を使用すると、複数のユーザーが同じ出版物に対して同時に作業しているときでも、仕様を共有して一貫性のある出版物を作成できます。

QuarkCopyDeskのソフトウェアアーキテクチャにより、ユーザーやソフトウェア開発者が使用できる出版機能が強化されます。XTensions®のソフトウェア技術を使用して、サードパーティの開発者はQuarkCopyDeskのカスタムモジュールを作成できます。QuarkXTensions® (Quark® XTensionsソフトウェア) も、特定の出版ニーズに合わせたモジュール単位のアプローチを提供します。さらに、Apple®のスクリプト記述言語であるAppleScript®を使用してスクリプトを記述できれば、多くのQuarkCopyDeskアクティビティを自動化できます。

ユーザーインターフェイス

QuarkCopyDeskユーザーインターフェイスを見ると、使い慣れた、用途が一目で分かるコマンドが多いことが分かります。QuarkCopyDeskのメニューとダイアログボックスに慣れると、キーボードコマンドとパレットを使用して、メニューからもアクセスできる機能に簡単にアクセスできるようになります。

メニュー

下記のトピックは、QuarkCopyDeskで利用できるメニューおよびメニューアイテムを説明します。

QuarkCopyDeskメニュー（Mac OSのみ）

QuarkCopyDesk for Mac OS Xには、**QuarkCopyDesk**メニューがあります。このメニューには、QuarkCopyDeskとその他のアプリケーションの表示、非表示の切り替え、環境設定へのアクセス、およびQuarkCopyDeskの終了などの、他のMac OS Xアプリケーションと同様のコマンドが含まれています。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **QuarkCopyDeskについて**：バージョン番号などのQuarkCopyDeskに関する情報を表示します。
- **ライセンスコードを編集**：このコマンドを使用して、インストール済みのQuarkCopyDeskのバリデーションコードを変更できます。このコードを変更することで、QuarkCopyDeskの無料お試し版バージョン（以前の「評価版」）から全機能バージョンへの変更、ユーザーインターフェイスでサポートされる言語の変更、またはQuarkCopyDeskのPlus版への変更が可能です。
- **QuarkCopyDeskライセンスを転送**：1台のコンピュータ上でQuarkCopyDeskを非アクティブ化し、別のコンピュータ上でQuarkCopyDeskをアクティブ化します。QuarkCopyDeskがアクティブ化されている場合にのみ利用できます。このオプションは、アクティブ化が必要なバリデーションコードとともにインストールされている場合にのみ表示されます。
- **QuarkCopyDeskのアクティブ化**：コンピュータでQuarkCopyDeskをアクティブ化します。QuarkCopyDeskがデモモードで実行されている場合にのみ利用できます。このオプションは、アクティブ化が必要なバリデーションコードとともにインストールされている場合にのみ表示されます。
- **アップデートを確認**：QuarkCopyDeskのアップデートを確認します。
- **Quarkアップデートの設定**：自動アップデートの設定を行います。

- **環境設定**：デフォルトの値と設定を指定します。詳細は、「[環境設定](#)」を参照してください。
- **QuarkCopyDeskの終了**：アプリケーションを終了します。

ファイルメニュー

ファイルメニューでは、作成、開く、印刷、および保存などの複数の方法で電子ファイル进行操作できます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **新規**：サブメニューを使用してアートを作成します。
- **開く**：アートファイルを開きます。
- **最近読んだ作品を開く**：最近開いたファイルのリストから、アートを選んで開きます。
- **開く**：アートファイルを開きます。
- **閉じる**：アクティブなアートを閉じます。
- **保存**：アクティブなアートを保存します。
- **新規保存**：アクティブなアートのコピーを保存します。
- **復帰**：アクティブなアートを、最後に保存された状態に戻します。
- **取り込み**：テキストまたは画像をコンポーネントに取り込みます。画像コンポーネントにテキストを取り込むと、画像コンポーネントがテキストコンポーネントに変わります。テキストコンポーネントに画像を取り込むと、テキストコンポーネントが画像コンポーネントに変わります。
- **テキスト保存**：テキストコンポーネントのテキストを、テキストベースの形式（Microsoft Wordなど）で保存します。
- **追加**：別のファイルからのスタイルシート、カラー、およびさまざまなその他の種類のリソースを追加します。
- **PDF**：アクティブなアートからPDFを作成します（「[PDF形式でのアートの書き出し](#)」を参照してください）。
- **印刷**：アクティブなファイルを印刷します（「[アートの印刷](#)」を参照してください）。
- **アート設定**：**アート設定**ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、ページのサイズと方向を設定し、アートで見開きページを使用するかどうかを指定し、アートのマスターコンポーネントを作成および設定できます。
- **終了（Windowsのみ）**：アプリケーションを終了します。

編集メニュー

編集メニューには、下記のコマンドがあります。

- **取り消し**：最後のアクションを取り消します。
- **やり直し**：取り消されたアクションをやり直します。
- **カット**：選択されたコンテンツをカットします。
- **コピー**：選択されたコンテンツをクリップボードにコピーします。

- **ペースト**：クリップボード上のコンテンツをアクティブなページにペーストします。
 - **フォーマットなしのペースト**：クリップボードのコンテンツを、プレーンテキストとしてペーストします。
 - **削除 (Windowsのみ)**：アクティブなコンテンツを削除します。
 - **すべて選択**：アクティブなボックスまたはテキストパスのすべてのコンテンツを選択します。
 - **クリップボード表示 (Windowsのみ)**：クリップボードのコンテンツを表示します。
 - **検索/置換**：検索/置換パレットを表示します。このパレットでは、コンテンツ、フォーマット、または両方をベースにテキストの検索と置換を行えます。
 - **環境設定 (Windowsのみ)**：デフォルトの値と設定を指定します。詳細は、「[環境設定](#)」を参照してください。
 - **カラー**：カラーの定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「[カラーの使用](#)」を参照してください。
 - **スタイルシート**：スタイルシートの定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「[スタイルシートの使用](#)」を参照してください。
 - **条件付きスタイル**：条件付きスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「[条件付きスタイルの使用](#)」を参照してください。
 - **箇条書き記号、箇条書き自動番号およびアウトラインスタイル**：箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「[箇条書きおよび番号付きリスト](#)」を参照してください。
 - **アンダーラインスタイル**：アンダーラインスタイルにアクセスし、設定します。
 - **ぶら下がり文字**：カスタムぶら下がり文字の定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「[ぶら下がり文字の使用](#)」を参照してください。
- ➡ この機能はCJK機能とみなされ、(QuarkCopyDesk/編集 (> 環境設定 > CJK) でCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。
- **リスト**：リストの定義を追加、編集、および削除します。リスト機能は、コンテンツおよびその他のリストされたコンテンツの種類のテーブルを自動的に生成するツールです。詳細は、「[リストの使用](#)」を参照してください。
 - **H&J**：H&J (ハイフネーション&ジャスティフィケーション) の定義を追加、編集、および削除します。H&Jを使用して、テキストの分割を制御できます。詳細は、「[ハイフネーション&ジャスティフィケーションの制御](#)」を参照してください。
 - **ダッシュ&ストライプ**：カスタムラインパターンを追加、編集、および削除します。
 - **フォントセット**：特定のフォントのカスタム比率、サイズ、および効果を追加、編集、および削除します。
 - **出力スタイル**：出力スタイルの定義を追加、編集、および削除します。出力スタイルでは、異なる出力オプションを簡単に切り替えることができます。詳細は、「[出力スタイルの使用](#)」を参照してください。
 - **文字組み**：文字組みセットおよびクラスを追加、編集、および削除します。詳細は、「[文字組みセットとクラスの使用](#)」を参照してください。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（QuarkCopyDesk／編集（> 環境設定 > CJK）でCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **表示言語（Windowsのみ）**：ユーザーインターフェイスの言語を変更します。
- **特殊文字（Mac OS Xのみ）**：特殊文字の定義を追加、編集、および削除します。
- **注意**：ノートの挿入、削除、およびノート間の移動を行います。詳細は、「ノート」を参照してください。

スタイルメニュー

スタイルメニューは、テキストコンポーネントまたは画像コンポーネントがアクティブかどうかによって変化します。

テキストのスタイルメニュー

テキストのスタイルメニューには、文字属性と段落フォーマットを指定するためのコマンドが含まれます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **フォント**：選択したテキストのフォントを変更できます。
- **サイズ**：選択したテキストのサイズを変更できます。
- **文字飾り**：選択したテキストにボールド、イタリック、またはアンダーラインなどの文字飾りを適用できます。
- **カラー**：選択したテキストのカラーを変更できます。
- **シェード**：適用したカラーの色調を設定できます。
- **不透明度**：選択したテキストの透明度を制御できます。
- **文字の変形（Windowsのみ）**：選択したテキストを水平または垂直方向に引き伸ばします。
- **カーニング（Windowsのみ）**：文字間に適用されているすべての手動カーニングを追加または削除でき、またカーニングペアからカーニングを削除できます。
- **縦組み／横組み**：選択したテキストボックスの縦組み／横組みを指定できます。
- **ルビ**：テキストに適用されているルビ文字を制御できます。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（QuarkCopyDesk／編集（> 環境設定 > CJK）でCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **縦組み中の文字回転**：水平テキストを、縦組みに配置できます。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（QuarkCopyDesk／編集（> 環境設定 > CJK）でCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **行揃え**：アクティブな段落を、左、右、または中央に揃えられます。選択した段落の両端揃え、または強制両端揃えも実行できます。
- **文字揃え**：アクティブな文字を上、中央、ベースライン、または下に揃えられます。
- **ベースラインシフト（Windowsのみ）**：ライン間隔を変更せず、選択したテキストをベースラインに対して上下に移動できます。

- **文字設定 (Windowsのみ)** : 文字属性ダイアログボックスを表示し、選択したテキストの文字フォーマットのすべての設定を制御できます。
- **行送り (Windowsのみ)** : 選択した段落のライン間隔を変更できます。
- **段落設定 (Windowsのみ)** : 段落設定ダイアログボックスを表示し、選択したテキストの段落フォーマットのすべての設定を制御できます。
- **タブ (Windowsのみ)** : 選択した段落のタブストップを設定できます。
- **段落罫線 (Windowsのみ)** : 選択した段落の上下に自動ラインを作成できます。
- **段落スタイルシート** : 選択したテキストに段落スタイルシートを適用できます。
- **文字スタイルシート** : 選択したテキストに文字スタイルシートを適用できます。
- **スタイルシートの更新** : 適用されているスタイルシートへのローカルな変更を基にして、文字や段落のスタイルシート定義を更新できます。
- **大文字/小文字の変更** : 選択したテキストを大文字、小文字、またはタイトル文字に変更できます。
- **水平フリップ** : 選択したテキストを水平方向にフリップします。
- **垂直フリップ** : 選択したテキストを垂直方向にフリップします。
- **手動カーニングをクリア (Mac OSのみ)** : 文字間に適用されている全手動カーニングを削除したり、カーニングペアからカーニングを削除できます。
- **箇条書きおよび番号付きリスト (Windowsのみ)** : 箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを適用および解除できます。
- **インデントを増やす (Windowのみ)** : アウトラインスタイルが適用されている段落のインデントレベルを増やすことができます。
- **インデントを減らす (Windowのみ)** : アウトラインスタイルが適用されている段落のインデントレベルを減らすことができます。
- **アンダーラインスタイル (Windowsのみ)** : アンダーラインスタイルを変更して、選択したテキストに適用できます。

画像のスタイルメニュー

画像のスタイルメニューには、画像をフォーマットして編集するためのコマンドが含まれます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **画像 (Windowsのみ)** : 設定ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、さまざまな画像属性を制御できます。詳細は、「[画像の使用](#)」を参照してください。
- **サイズ変更** : 画像コンポーネント内の画像の縮小率を変更できます。
- **Rotate** : 画像コンポーネント内の画像を回転できます。
- **画像を中央に配置** : 選択した画像を、その画像ボックスの中央に配置します。
- **画像をボックスに合わせる** : 選択した画像を、画像ボックスに合わせて水平および垂直方向に拡大/縮小します。
- **画像をボックスに合わせる (縦横比を保持)** : 選択した画像を、画像ボックスに合わせて水平および垂直方向に拡大/縮小します。

- **画像のリセット**：アクティブな画像コンポーネント内の画像を、そのデフォルトの縮小率、傾斜、および回転角度にリセットします。
- **ハーフトーン（Windowsのみ）**：選択したグレースケール画像に、ハーフトーン画面パターンを適用できます。
- **水平フリップ**：選択した画像を水平方向にフリップします。
- **垂直フリップ**：選択した画像を垂直方向にフリップします。
- **編集**：クリッピングパスを変更し、選択した画像またはボックスに適用できます。
- **ポイント／セグメントの種類**：アイテムのポイントやセグメントの種類を変更することで、ポイント、曲線ハンドル、およびラインセグメントを操作できます。

コンポーネントメニュー

コンポーネントメニューには、アートのコンポーネントを追加、削除、および変更するためのコマンドがあります。このメニューには、下記のコマンドがあります。

- **新規**：アクティブなアートにコンポーネントを追加できます。
- **プロパティ**：コンポーネント名を含め、アクティブなコンポーネントのプロパティを設定できます。
- **削除**：アクティブなアートからアクティブなコンポーネントを削除できます。
- **すべて展開**：ゲラ表示と全画面表示で、アクティブなアートのすべてのコンポーネントを展開します。
- **すべて折りたたみ**：ゲラ表示と全画面表示で、アクティブなアートのすべてのコンポーネントを折りたたみます。

また、このメニューにはアクティブなアートに含まれるコンポーネントごとのアイテムも含まれています。これらのメニューアイテムを使用して、WYSIWYG表示のときにコンポーネント間を簡単に切り替えることができます。

表示メニュー

表示メニューには、アートの表示方法を指定するためのオプションがあります。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **WYSIWYG**：WYSIWYG表示モードに切り替えることができます。この表示モードは、ページの出力状態を表示する場合に便利です。このサブメニューのオプションにより、アートを表示するときの倍率を選択できます。
- **ゲラ表示**：ゲラ表示モードに切り替えることができます。この表示モードは、テキストを編集したり、改行位置を確認したりする場合に便利です。
- **全画面表示**：全画面表示モードに切り替えることができます。この表示モードはテキストの編集用に最適化されています。
- **全画面表示を開始（Mac OS Xのみ）**：全画面表示モードに切り替えます。
- **ガイド**：ページガイドを表示または非表示にします。
- **ページグリッド**：ページに適用されている、印刷されないグリッドラインを表示します。
- **テキストボックスグリッド**：テキストボックスに適用されている、印刷されないグリッドラインを表示します。

- **特殊キャラクタ**：特殊キャラクタを表示または非表示にします。
- **出力しない要素を隠す**：出力しない属性が適用されているすべてのアイテムを隠します。
- **ページ**：このサブメニューのオプションにより、アクティブなアークティクル内のページからページに移動できます。
- **スプレッド画像**：アークティクルにページ画像が組み込まれている場合、WYSIWYG表示でアクティブなアークティクルのページ要素（画像やラインなど）を表示または非表示にします。
- **ルビを表示／隠す**：ルビ文字を表示または非表示にします。このオプションは、**ゲラ**および**全画面表示**でのみ使用できます。
- **ノートを表示／非表示にする**：ノートを表示または非表示にします。

補助メニュー

補助メニューには、下記のコマンドがあります。

- **文字を挿入**：特殊な改行ありスペースと改行なしスペースを含む、特殊文字を簡単に挿入できます。
- **英文スペルチェック**：このサブメニューを使用すると**英文スペルチェック**パレットが表示され、単語、選択したテキスト、コンポーネント、またはアークティクルのスペルチェックを行います。**Mac OS X**では、スペルチェックに使用するユーザー辞書の指定と編集も、このサブメニューで行えます。
- **ユーザー辞書（Windowsのみ）**：スペルチェックに使用するユーザー辞書を指定できます。
- **ユーザー辞書の編集（Windowsのみ）**：アクティブなアークティクルに関連付けられているユーザー辞書を編集できます。
- **単語数と文字数**：単語数と文字数ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、アクティブなテキストコンポーネント内の全角文字、半角文字、およびその他のさまざまな種類の文字の数が表示されます。
- **ラインチェック**：サブメニューを使用して、ウィドウ、オーファン、正しく両端揃えされていないライン、ハイフンで終わるライン、およびオーバーフローの状況を見つけることができます。
- **標準ハイフン**：テキスト挿入ポイントを含む単語の標準ハイフンを表示します。
- **例外ハイフン**：アクティブなアークティクルで、特定の単語のハイフンの有無とその方法を指定できます。
- **アークティクルの言語を変換**：特定の文字言語を使用するアクティブなアークティクル内の文字すべてを、異なる文字言語に変換できます。
- **使用状況**：外部データソースにリンクされているフォント、画像、QuarkVista効果、およびコンポジションゾーンの使用状況を表示および更新できます。
- **手動カーニングをクリア（Windowsのみ）**：文字間に適用されている全手動カーニングを削除したり、カーニングペアからカーニングを削除できます。
- **フォントマッピング**：プロジェクトから要求されたフォントがコンピュータにインストールされていない場合に、そのフォントを新しいフォントで代替するためのルールを作成して編集できます。

- **コンポーネント状況 (Windowsのみ)** : 必須ソフトウェアコンポーネントの状況を表示できます。
- **PPDマネージャー (Windowsのみ)** : 印刷ダイアログボックスに、どのPostScript Printer Descriptionファイル (PPD) を読み込むかを制御できます。
- **旧アンダーラインの変換** : QuarkXPress 3.x (Stars & Stripes) フォーマットのアクティブなテキストチェーンにある全アンダーラインを、Type Tricksフォーマットに変換します。
- **XTensionsマネージャー** : アプリケーション起動時に、どのXTensionsモジュールを読み込むかを制御できます。
- **変更履歴** : サブメニューを使用して自動トラッキングおよびハイライト機能のオンとオフを切り替えます。このサブメニューを使用して**変更履歴**パレットを表示することもできます。
- **ライセンスのチェックアウト/ライセンスのチェックイン** : Quark License Administrator (QLA) とともに使用するアプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。ライセンスのチェックインとチェックアウトができます。

ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューで、開いているウィンドウとパレットの画面表示を制御できます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **新規ウィンドウ** : 新しいウィンドウにアクティブなプロジェクトが表示されます。各ウィンドウにそのプロジェクトの別の部分を表示できます。
- **ウィンドウ分割** : プロジェクトウィンドウを2つの部分に分割します。ウィンドウの各部分にそのプロジェクトの別の部分を表示できます。
- **すべて前面へ出す (Mac OS Xのみ)** : 開いているすべてのウィンドウを配置して表示します。
- **タイル (Mac OS Xのみ)** : 開いているすべてのウィンドウを画面に合わせて水平方向に並べます。
- **上下に並べて表示 (Windowsのみ)** : 開いているすべてのウィンドウを画面に合わせて水平方向に並べます。
- **左右に並べて表示 (Windowsのみ)** : 開いているすべてのウィンドウを画面に合わせて垂直方向に並べます。
- **パレットセット** : サブメニューを使用してパレットの配置の保存および取り消しを行います。
- **非表示を有効化 (Mac OS Xのみ)** : ドッキングされたパレットのグループの表示、非表示を切り替えます。
- **高度なイメージ制御** : 高度なイメージ制御パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **カラー** : カラーパレットの表示、非表示を切り替えます。
- **条件付きスタイル** : 条件付きスタイルパレットを表示します。詳細は、「[条件付きスタイルの使用](#)」を参照してください。
- **字形** : 字形パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **リスト** : リストパレットの表示、非表示を切り替えます。

- **メジャー**：メジャーパレットの表示、非表示を切り替えます。
- **変更履歴**：変更履歴パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **スタイルシート**：スタイルシートパレットの表示、非表示を切り替えます。

また、このメニューには開いているすべてのウィンドウのアイテムが含まれます。これらのメニューアイテムを使用して、ウィンドウを簡単に切り替えられます。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューでは、オンラインヘルプにアクセスすることができます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **検索**ローカルヘルプファイルを検索します。
- **ヘルプトピック (Mac OS Xのみ)**：このコマンドを使用して、オンラインヘルプを表示します。
- **コンテンツ (Windowsのみ)**：このオプションを使用して、ヘルプウィンドウのコンテンツタブを表示します。
- **索引 (Windowsのみ)**：このオプションを使用して、ヘルプウィンドウの索引タブを表示します。
- **QuarkCopyDeskライセンスを転送 (Windowsのみ)**：このオプションを使用して、他のコンピュータへライセンスを転送します。
- **QuarkCopyDeskについて (Windowsのみ)**：このコマンドを使用して、QuarkCopyDeskのバージョン番号などの情報を表示します。
- **ライセンスコードを編集 (Windowsのみ)**：このコマンドを使用して、インストール済みのQuarkCopyDeskのバリデーションコードを変更できます。このコードを変更することで、QuarkCopyDeskの無料お試し版バージョン（以前の「評価版」）から全機能バージョンへの変更、ユーザーインターフェイスでサポートされる言語の変更、またはQuarkCopyDeskのPlus版への変更が可能です。
- **アップデートを確認 (Windowsのみ)**：QuarkCopyDeskのアップデートを確認します。
- **Quarkアップデートの設定 (Windowsのみ)**：自動アップデートの設定を行います。

コンテキストメニュー

QuarkCopyDeskは、コンテキストメニューによってさまざまな機能を提供しています。コンテキストメニューを表示するには、テキスト内、画像上、またはパレット上でControlキーを押しながらクリック（Mac OS X）、または右クリックします。

パレット

パレットを開く、または表示するには、**ウィンドウメニュー**のパレット名をオンにします。

パレットを閉じるかまたは開くには、パレットの左上の閉じるボックスをクリックするか、**ウィンドウメニュー**のパレット名をオフにするか、または適切なキーボードの組み合わせを使用します。

(Mac OS Xのみ) パレットを画面の左端と右端に垂直にドッキングできます。画面の端にドッキングされたパレットはグループを構成し、グループとして移動できます。また、**ウィンドウ > 非表示を有効化**を選択すると、ドッキングされたパレットのグループを非表示にできます。ドッキングされたパレットには吸着機能が含まれており、アプリケーションの統一された表示を実現しています。ドキュメントウィンドウでは、サイズ変更 (+) ボタンを使用して、ウィンドウをパレットに吸着/吸着解除できます。ウィンドウとパレットの端の間には分割線が追加されるため、パレットのサイズを変更するとウィンドウのサイズも変更されます。

➡ **メジャーパレット**は、幅の関係から、画面の上端または下端に水平にのみドッキングできます。

(Mac OS Xのみ) パレットをドラッグして、任意のパレットグループに結合できます。ドラッグするとき、そのパレットが結合されるか、上に配置されるかを示すサムネールが表示されます。パレットグループには、そのパレットがドロップされる位置を示す青線のインジケータが表示されます。

メジャーパレット

メジャーパレットを使用して、ダイアログボックスから多くの使用可能なコマンドにアクセスできます。

このパレットに表示されるコントロールは、レイアウト内で選択されているアイテムの種類によって異なります。対応するジオメトリが指定されているテキストコンポーネントを選択すると、メジャーパレットに次のタブが表示されます。

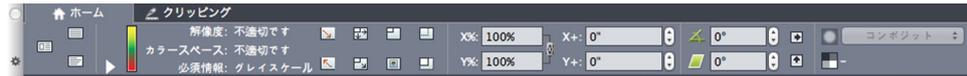
-  **クラシックタブ**：頻繁に使用するコントロールが表示されます。テキストコンポーネントの場合と画像コンポーネントの場合で、表示が異なります。
-  **文字タブ**：文字属性ダイアログボックス (**スタイル > 文字**) のコントロールが含まれます。
-  **段落タブ**：段落設定ダイアログボックス (**スタイル > 段落設定**) のフォーマットタブのコントロールが表示されます。
-  **タブタブ**：段落設定ダイアログボックスの**タブ**タブのコントロールが表示されます。



このバージョンの**メジャーパレット**は、テキストコンポーネントがアクティブなときに表示されます。

画像コンポーネントを選択すると、**メジャーパレット**に次のタブが表示されます。

-  **クラシックタブ**：頻繁に使用するコントロールが表示されます。テキストコンポーネントの場合と画像コンポーネントの場合で、表示が異なります。
-  **クリッピングタブ**：設定ダイアログボックスの**クリッピング**タブのコントロールが表示されます。



このバージョンの**メジャー**パレットは、**画像コンポーネント**がアクティブなときに表示されます。

両バージョンのパレットでは、左端のボタンを使用して、全画面表示、ゲラ表示、およびWYSIWYG表示を切り替えることができます。

高度なイメージ制御パレット

高度なイメージ制御パレットでは、取り込んだイメージの表示を制御できます。詳細は、「[PSD画像の使用](#)」を参照してください。

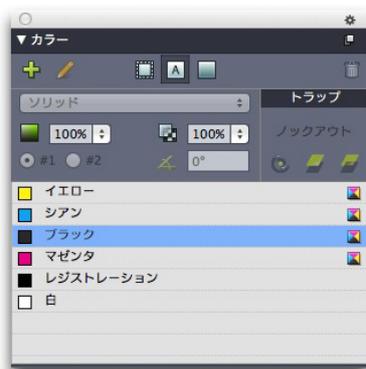


高度なイメージ制御パレットでは、取り込んだイメージを操作できます。

カラーパレット

カラーパレットでは、アクティブな記事に定義されたカラーを表示し、適用することができます。このパレットの上部にあるボタンにより、カラーを作成、編集、削除できます。

ユーザーは、**カラー**ダイアログボックス (**編集 > カラー**) を使用して、カラーを作成します。詳細は、「[カラーの使用](#)」を参照してください。



カラーパレットでは、カラーの表示および適用を行えます。

条件付きスタイルパレット

条件付きスタイルパレットでは、条件付きスタイルに関する作業ができます。詳細は、「[条件付きスタイルの使用](#)」を参照してください。

字形パレット

字形パレットでは、コンピュータ上の各フォントのすべての文字に簡単にアクセスすることができます。選択したフォントのすべての文字を表示したり、2つ目のドロップダウンメニューのオプションを選択して選択内容を絞り込んだりすることができます。選択した文字のUnicode値が右下に表示されます。また、文字をダブルクリックして、ストーリーに文字を追加することもできます。パレットの下部にある**好みのグリフ**領域を使用すると、頻繁に使用する文字に簡単にアクセスできるように、これらを保存できます。



字形パレットでは、各フォントのすべての文字に簡単にアクセスすることができます。

リストパレット

リストパレットでは、リストの表示や生成を行えます。この機能は、目次などを作成する場合に役立ちます。リストダイアログボックス（**編集 > リスト**）を使用して、リストを作成できます。

リスト名ドロップダウンメニューで、アクティブプロジェクトで定義するリストの中から選択できます。また、**更新**ボタンを使用すると、現在パレットに表示されているリストを更新できます。

検索ボタンを使用すると、リストパレットのアイテムを検索できます。また、パレットで単語や見出しをダブルクリックすると、その単語または見出しに移動できます。

作成ボタンは、アクティブなテキストチェーンにアクティブなリストを挿入するために使用します。ストーリーに既にリストが存在する場合は、別のコピーを挿入するのではなく、そのリストを更新できます。リストのスタイルスタイルシートは、自動的に適用されます。

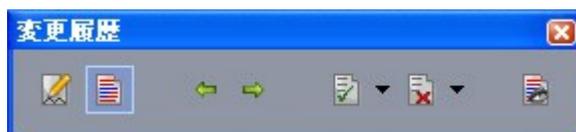


リストパレットでは、目次などを作成することができます。

変更履歴パレット

変更履歴パレットは、アーティクルに加えられた変更点の追跡をセットアップするために使用します。

詳細は、「[変更履歴](#)」を参照してください。

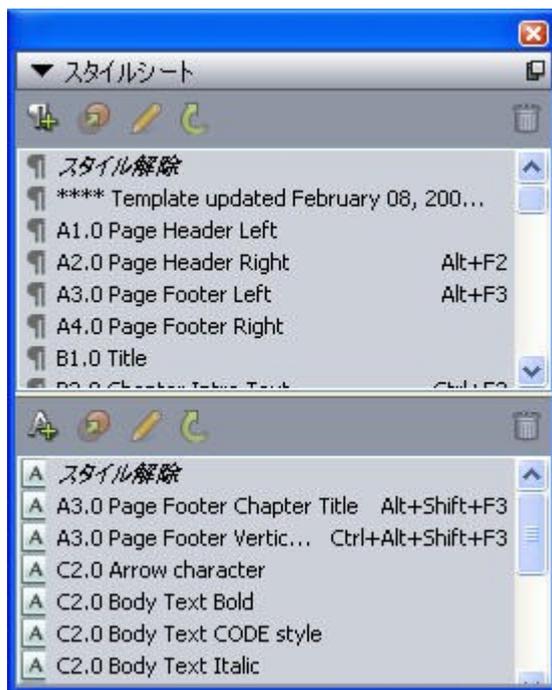


変更履歴パレットでは、変更履歴の追跡を設定できます。

スタイルシートパレット

スタイルシートパレット（ウィンドウ > スタイルシート表示）では、スタイルシート名をクリックして、文字スタイルシートおよび段落スタイルシートを適用できます。このパレットにある各セクションの一番上にあるボタンで、スタイルシートを作成、編集、複製、更新、および削除できます。

- ➡ スタイルシートの横にあるプラス記号は、ローカルフォーマットが適用されていることを示します。



スタイルシートパレットで、段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを表示して、適用できます。

パレットグループおよびパレットセット

QuarkCopyDeskには、パレットを管理するため、パレットグループおよびパレットセットという2つの機能が用意されています。

パレットグループの使用

パレットグループ機能を使用すると、複数のパレットを1つに連結できます。



このパレットグループには、1つのパレットとしてリンクされた**カラー**、**高度なイメージ制御**、および**スタイルシート**パレットが表示されるので、これらの機能に簡単にアクセスでき、スペースを節約できます。

(Windowsのみ) パレットグループにパレットをリンクするには、パレットグループのタイトルバーをControlキー+クリック/右クリックし、オンになっていないパレット名を選択します。既に表示されているパレットをリンクすると、そのパレットは移動してパレットグループの一部になります。パレットグループからパレットを分離するには、そのパレット名をControlキー+クリック/右クリックし、**【パレット名】を分離**を選択します。

(Mac OS Xのみ) パレットグループにパレットをリンクするには、パレットの右上隅にある  アイコンをクリックし、オンになっていないパレット名をリストから選択します。既に表示されているパレットをドラッグし、パレットグループに結合することもできます。ドラッグするとき、そのパレットが結合されるか、上に配置されるかを示すサムネールが表示されます。パレットグループには、そのパレットがドロップされる位置を示す青線のインジケータが表示されます。

(Mac OS Xのみ) 画面の端にドッキングされたパレットは、パレットグループを構成し、グループとして移動できます。パレットグループは自動的に表示、または非表示になるよう設定できます。

パレットセットの使用

パレットセット機能を使用すると、開いているすべてのパレットおよびライブラリの位置と状況を保存および無効にできるため、異なるパレット構成を簡単に切り替えることができます。

パレットセットを作成するには、最初に、その特定のタスクに必要なすべてのパレットを表示し、その他のすべてのパレットを隠します。次に、**ウィンドウ > パレットセット**

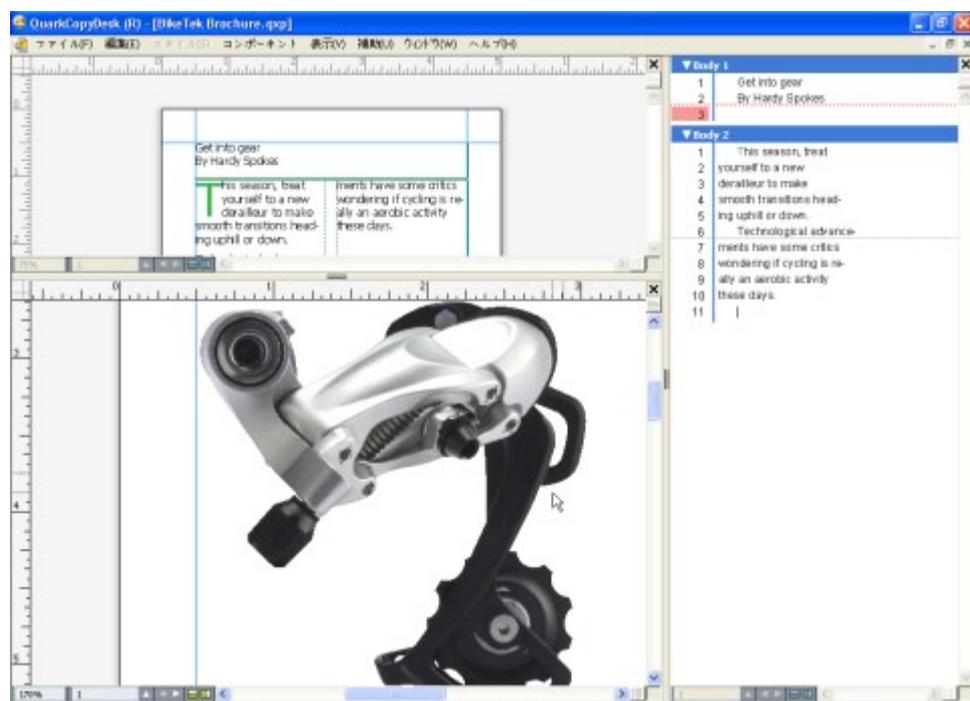
ユーザーインターフェイス

>パレットセットの保存を選択してパレットセットの保存ダイアログボックスを表示し、名前を入力します。また、必要に応じてキーコマンドを割り当てます。

パレットセットを取得するには、**ウィンドウ>パレットセット>パレットセット名**を選択するか、キーボードのそのパレットセットの組み合わせを押します。

ウィンドウの分割

ウィンドウを複数のペインに分割することによって、1つのアールティクルで複数のビューを同時に表示でき、すべてのペインで変更を同時に表示できます。各ペインで異なる表示モードを使用したり、リアルタイムに1つのペインで編集を確認しながら他のペインで更新することもできます。1つのウィンドウ内で水平方向、または垂直方向に複数ビューを分割できます。



ウィンドウを分割することによって、同時にさまざまな倍率で作業を表示できます。

ウィンドウを分割するには、下記の3つの方法があります。

- **ウィンドウ>ウィンドウ分割>水平方向**または**ウィンドウ>ウィンドウ分割>垂直方向**を選択します。
- **(Windowsのみ)** スクロールバーの右 (垂直分割の場合)、または上端 (水平分割の場合) にある分割バーをクリックします。
- アールティクルウィンドウの一番下にあるアールティクルコントロールバーの分割画面アイコンをクリックします。

ウィンドウが分割されると、分割ペインの間にあるバーをドラッグすることで、分割ペインの幅と高さを変更できるようになります。

ウィンドウから分割ペインを削除するには、下記のいずれかの方法を使用します。

- **ウィンドウ>ウィンドウ分割>全てを消去**を選択します。

- ウィンドウの右上隅にある、閉じるボタンをクリックします。

アールティクルとコンポーネント

アールティクルとコンポーネントは、QuarkCopyDeskで作業する基本的な基本要素です。このトピックでは、アールティクルとコンポーネントの両方について詳細に説明します。

アールティクルとコンポーネントの理解

アールティクルは、QuarkCopyDeskで使われる主要なフォーマットです。各アールティクルは1つ以上の**コンポーネント**で構成されており、各コンポーネントは、独立したテキストフローまたは画像となっています。QuarkCopyDeskでテキストコンポーネントを選択すると、そのコンポーネントのテキストを編集したり、フォーマットを適用したりできます。QuarkCopyDeskで画像コンポーネントを選択すると、そのコンポーネントの画像の切り抜き、拡大縮小、および回転操作を行い、さらに画像編集操作も実行できます。

アールティクルを簡単に作成する1つの方法は、QuarkCopyDeskで**ファイル > 新規 > アールティクル**を選択し、それから必要なコンポーネントを追加するやり方です（コンポーネントは**コンポーネント > 新規**を選択して作成できます）。また、QuarkXPressプロジェクト内にアールティクルを作成するには、QuarkXPressの**Article**パレットのアールティクルアイコンにテキストボックスと画像ボックスを追加することもでき、また、リフローアールティクルを作成することもできます（詳細は、『**QuarkXPressガイド**』の「リフロービューの使用」を参照してください）。

QuarkXPressで作成されたアールティクルを開く方法は2つあります。1つは、QuarkXPressからアールティクルをアールティクルファイルとして書き出し、それからQuarkCopyDeskでそのアールティクルファイルを開くという方法です（詳細は、「[Multiple Article XTensionsソフトウェア](#)」を参照してください）。もう1つは、QuarkCopyDeskでQuarkXPressプロジェクトファイルを直接開く方法です。どちらの方法を使用しても、QuarkXPressのアールティクルのテキストボックスにあるストーリーはテキストコンポーネントとなり、アールティクルの画像ボックスは画像コンポーネントとなります。

➡ また、QuarkXPressのアールティクルのコンポーネントからコンテンツを取り込むこともできます。この場合、テキストコンポーネントのコンテンツをテキストボックスに取り込み、画像コンポーネントのコンテンツを画像ボックスに取り込むことができます。

読み込み順序

アールティクル内のコンポーネントは特定の**読み込み順序**で表示されます。読み込み順序とは、物理的な配列に関係なくコンポーネントを表示するときの順序のことで、必要に応じて変更できます。すべてのコンポーネントには名前も指定されているので、コンポーネントに説明的なラベルを付けることもできます。たとえば、ストーリーの最初のコン

ポーネントに「Headline」という名前を付け、2つ目のテキストコンポーネントには「Story」、続く画像コンポーネントには「Photo」、最後のテキストコンポーネントには「Caption」のように名前を付けることができます。

テキストコンポーネントとページ

各テキストコンポーネントは、1ページ以上で構成される一連のページとして表示および編集できます。ページからオーバーフローするほどのコンテンツを追加すると、QuarkCopyDeskは別のページを作成します。コンテンツのページを削除すると、QuarkCopyDeskはコンポーネントから空のページを自動的に削除します。

Microsoft Wordファイルや、バージョン7.x以降のQuarkCopyDeskによって保存されたア－ティクルなど、さまざまなタイプのドキュメントをテキストコンポーネントに取り込むことができます。また、これらのほとんどのフォーマットで作成されたア－ティクルからテキストを書き出すこともできます。

画像コンポーネントの編集

QuarkCopyDeskで画像を編集する方法は、下記のとおりです。

- 回転
- 比率
- 切り抜き

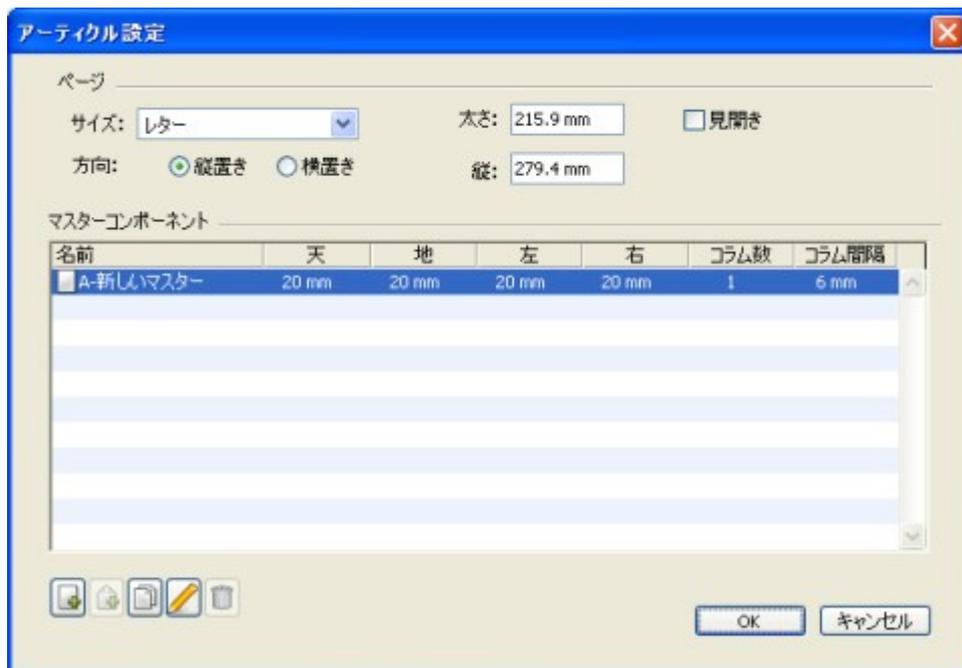
➡ 画像の位置とサイズはWYSIWYG表示でのみ変更できます。画像への他の編集は、3つの表示のすべてで実行できます。

マスターコンポーネント

各コンポーネントは**マスターコンポーネント**に基づいています。マスターコンポーネントはQuarkXPressのマスターページに相当するもので、そこから作成されるコンポーネントのプロパティを示します。たとえば、特定のマージン、列幅、コラム間隔の値を持つマスターテキストコンポーネントからテキストコンポーネントを作成すると、そのマージン、列幅、コラム間隔の値がテキストコンポーネントに継承されます。

QuarkCopyDeskア－ティクルを新規作成すると、QuarkCopyDeskでは最初のマスターテキストコンポーネントを使用して単一のテキストコンポーネントが作成されます。コンポーネントを作成し、複数のマスターコンポーネントの種類が使用可能な場合、使用するマスターコンポーネントを選択する必要があります。

マスターコンポーネントを変更する（**ファイル > ア－ティクル設定**）と、そのマスターコンポーネントに基づくすべてのコンポーネントに変更内容が反映されます。マージンガイド、列数、コラムガイドへの変更も含まれます。



アーティクル設定ダイアログボックスでは、マスターコンポーネントを使用できます。

マスターコンポーネントとQuarkXPress

QuarkCopyDeskでQuarkXPressプロジェクトを開くと、プロジェクトのマスターページがマスターコンポーネントに変わります。このようなマスターページのアイテムは無視され、ページのテキスト関連仕様（マージン、列幅、コラム間隔など）のみが使用されます。

テンプレート

テンプレートとは、ロックされたアーティクルで、これを使用してコンポーネントやコンテンツがあらかじめ存在するアーティクルを作成できます。どのアーティクルでもテンプレートとして保存できます。テンプレートファイルからアーティクルを作成するには、テンプレートファイルのアイコンをダブルクリックします。

QuarkCopyDesk軽量ファイルフォーマット

QuarkCopyDeskでは、ネイティブのファイルフォーマットに加えて、軽量ファイルフォーマットでファイルを開いたり保存したりできます。このフォーマットは、ファイルサイズが問題になるような状況で役立ちます。QuarkCopyDeskフォーマットにはプロジェクト内のすべてのコンテンツが含まれているのに対し、軽量ファイルフォーマットには、QuarkCopyDeskユーザーが使用して作業すると考えられるアイテムのみが含まれています。また、アーティクルファイル内に、または別個のファイルに、レイアウトの概観を示すページ画像を含めることもできます。

アーティクルとQuarkXPress

QuarkCopyDeskのファイルフォーマットは、QuarkXPressのファイルフォーマットに基づいています。そのため、QuarkCopyDeskでQuarkXPressプロジェクトを開くことができます。QuarkXPressでQuarkCopyDeskアーティクルを開くことはできませんが、アーティクルのコンポーネントのコンテンツをテキストボックスや画像ボックスに取り込むことは可能です。

QuarkXPressプロジェクトには、ア－ティクルとしてマークされたアイテムを含めることができます。QuarkXPressでア－ティクルを作成するには、Multiple Articles XTensionsモジュールをロードする必要があります。QuarkXPressでア－ティクルを作成すると、QuarkCopyDeskでプロジェクトファイルを開いたり、またはア－ティクルをア－ティクルファイル（QuarkCopyDeskファイルフォーマットまたはQuarkCopyDesk軽量ファイルフォーマット）として書き出すことができます。

QuarkCopyDeskでQuarkXPressプロジェクトを開くと、下記を実行できます。

- プロジェクトにア－ティクルが含まれている場合、QuarkCopyDeskでそのア－ティクルのコンポーネントのコンテンツを編集できます。WYSIWYGビューの場合、ア－ティクル以外のコンテンツが表示されますが、編集はできません。
- プロジェクトに複数のア－ティクルが含まれている場合、QuarkCopyDeskにア－ティクルの選択を要求するダイアログボックスが表示されます。
- プロジェクトにア－ティクルが含まれず、レイアウトがすべて印刷レイアウトの場合、プロジェクトのレイアウトのコンテンツは表示できますが、編集はできません（レイアウト間を移動するには、ア－ティクルウィンドウの下部にあるタブを使用します）。
- レイアウトに複数のレイヤーが含まれている場合、QuarkCopyDeskで表示されているすべてのレイヤーのアイテムを使用できます。QuarkCopyDeskには、レイヤー間の切り替えを行う機能はありません。表示されているレイヤーのすべてのコンポーネントをすべてのアイテムで使用できます。QuarkCopyDeskでは、内部的にどのレイヤーにどのアイテムがあるかを追跡します。そのため、QuarkCopyDeskでそのようなア－ティクルを編集してからプロジェクトをQuarkXPressで開くと、すべてのアイテムが元々あったレイヤーに残っています。

➡ 表示されないレイヤーのコンポーネントはQuarkCopyDeskから印刷できません。

WYSIWYG表示

QuarkCopyDeskでは、全画面表示、ゲラ表示、およびWYSIWYG表示という3つの方法でア－ティクルのコンポーネントを表示できます。全画面表示とゲラ表示はテキストに集中できるように設計されており、WYSIWYG表示はレイアウト中でのテキストの外観を見ることができるよう設計されています。

WYSIWYG表示を使用すると、実際のレイアウトを視覚的に表示できます。ア－ティクルに含まれているコンポーネントは、色付きのアウトラインによって識別できます。ア－ティクルに含まれていないレイアウトのアイテムは、選択または編集できません。

➡ WYSIWYG表示は、ア－ティクルを含んでいるQuarkXPressプロジェクトと、QuarkXPressレイアウトから書き出されたア－ティクルに対してのみ関連します。

オーバーセットとアンダーセット

QuarkXPressテキストボックスの版組が長すぎると、ボックスがオーバーフローしてテキストの最後の部分が表示されません（このルールには例外もありますが、ここでは一般的なシナリオについて説明します）。このようなシナリオでは、テキストの表示されない部分を**オーバーセット**と呼びます。使用できるスペースを埋めるための十分なテキストがない場合、これを**アンダーセット**と呼びます。**コピーフィット**は、テキストが使用可能なスペースに収まるようにする処理です。

アークティクルとコンポーネント

WYSIWYGモードを使用する場合、チェーンの最後のテキストボックスがオーバーフローする場合にオーバーセットが発生し、アークティクルの末尾に新しいページが作成されます。ゲラ表示と全画面表示の場合、**メジャーパレット**に**深度**フィールドが追加されます。このフィールドは、テキストのアンダーセット、割付、およびオーバーセットを示します。また、ゲラ表示と全画面表示の場合、改列、改ページ、オーバーセットを示す特殊文字も含まれます（注意：オーバーセットが発生するのは、QuarkXPressで作成したアークティクルの場合のみです）。

画像コンポーネント

WYSIWYGモードでは、画像はソースレイアウトの表示どおりに表示されます。全画面表示とゲラ表示の場合、QuarkCopyDeskでは切り抜き画像が表示されます。

技術的には、画像のオーバーセットやアンダーセットはありません。ただしQuarkXPressでは、さまざまな種類の画像に対して有効解像度の要件を指定できます。またQuarkCopyDeskでは、画像コンポーネントの画像がこれらの要件を満たさない場合に警告が表示されます（有効解像度とは、画像がイメージされる場合の解像度で、解像度を拡大縮小率で割ったものに相当します）。

ジオメトリ

QuarkXPressレイアウトでのアイテムの形状と位置を総称して**ジオメトリ**と呼びます。レイアウトのジオメトリは基本的に、そのレイアウトのボックスとラインの集合体です。

QuarkXPressから書き出したアークティクルをQuarkCopyDeskで開くと、QuarkCopyDeskのWYSIWYG表示にそのレイアウトのジオメトリが表示されます。アークティクル表示の一環として指定されたテキストボックスは、テキストコンポーネントとして表示されます。また、アークティクル表示の一環である画像ボックスは、画像コンポーネントとして表示されます。QuarkCopyDeskのアークティクルの一部であるコンポーネントのコンテンツは編集できますが、レイアウトのジオメトリは編集できません。

アンカーボックス

QuarkXPressでは、テキストのストーリーにボックスを貼り付けて、テキストに沿ってそのボックスを文字のようにフローさせることができます。このようなボックスは**アンカーボックス**と呼ばれます。QuarkCopyDeskでアンカーボックスのコンテンツを操作できますが、アンカーボックスを作成することはできません。

アンカーボックスを含むアークティクルでQuarkXPressプロジェクトを開くと、QuarkCopyDeskでアンカーボックスがインラインで表示されます。このようなボックスのコンテンツは、3種類の表示モードすべてで編集できます。

➡ アークティクルにアンカーテーブルが含まれている場合、WYSIWYG表示でのみテーブルのコンテンツを編集できます。全画面表示およびゲラ表示では、アンカーテーブルはアイコンとして表示されます。

アークティクルの使用

アークティクルは、基本的にコンポーネントのコンテナです。QuarkXPressから書き出されたアークティクルファイルを開いたり、QuarkCopyDeskでアークティクルを新規作成したりできます。

ア－ティクルの作成

ア－ティクルを作成すると、ア－ティクルを単一ページで構成するか、または左右の見開きページで構成するかを選択できます。また、最大30列まで作成でき、列間や列の幅も指定できます。

ア－ティクルを作成するには、**ファイル>新規>ア－ティクル** (Command+/Ctrl+N) を選択します。ア－ティクルを設定するには、**新規ア－ティクル**ダイアログボックスのコントロールを使用します。

- ページのサイズを指定するには、**サイズ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。カスタムサイズのページを作成するには、**幅**と**高さ**のフィールドに大きさを入力します。
- ページの向きを指定するには、**縦置き**または**横置き**をクリックします。
- **デフォルトの組み方**のコントロールを使用して、ア－ティクルの水平方向または垂直方向を指定します。
- ア－ティクルに左右両方の見開きページを含めるには、**見開き**をオンにします。**見開き**をオンにすると、**マージンガイド**領域の**左**と**右**フィールドが**内側**と**外側**に変わります。
- マージンガイドの位置を指定するには、**マージンガイド**領域のフィールドに値を入力します。
- ア－ティクルページの列数と列間を指定するには、**列数**と**コラム間隔**フィールドに値を入力します。

ア－ティクルを設定するには、**新規ア－ティクル**ダイアログボックスを使用します。

ア－ティクルの自動保存

自動保存機能は、停電やシステム障害から作業内容を保護します。**自動保存**をオンにすると、QuarkCopyDeskは、すべてのア－ティクルに対する変更点を自動的に記録し、作業中のア－ティクルのフォルダに保存します。自動保存は、ユーザー定義の間隔（可能であればアイドル時）で実行されます。

自動保存機能をオンにするには、**環境設定**ダイアログボックス（**編集**／**QuarkCopyDesk**メニュー）の**開く & 保存**ペインを表示し、**自動保存**をオンにして、**分**フィールドに間隔値を入力します。

ファイル > 保存を選択するまで、元のファイルは上書きされません。**ファイル > 保存**を選択すると、自動保存版が削除され、保存間隔が再び開始されます。

➡ **自動保存**は、保存されているア－ティクルの場合にのみ機能します。保存したことがない無名ア－ティクルは、**自動保存**によって保護されません。

自動保存ア－ティクルの復帰

システム障害や停電の後に、自動保存されているア－ティクルを復帰するには、**ファイル > 開く**を選択してア－ティクルの場所を指定します。ダイアログボックスには、2つのファイル（元のア－ティクルと自動保存版のア－ティクル）が表示されます。元のア－ティクルを開きます。開くときに、そのア－ティクルは自動保存版と組み合わせられます。ア－ティクルを開くと、警告が表示されます。**OK**をクリックして続行します。

自動保存されたア－ティクルには、最後の自動保存までの変更点が保持されています。自動保存の間隔によっては、数分間の作業が失われる可能性があります。この時点で、自動保存された変更点とともにア－ティクルを保存する（**ファイル > 保存**）か、または自動保存された変更点を破棄し、最後に手動で保存した状態のア－ティクルに復帰する（**ファイル > 復帰**）ことができます。

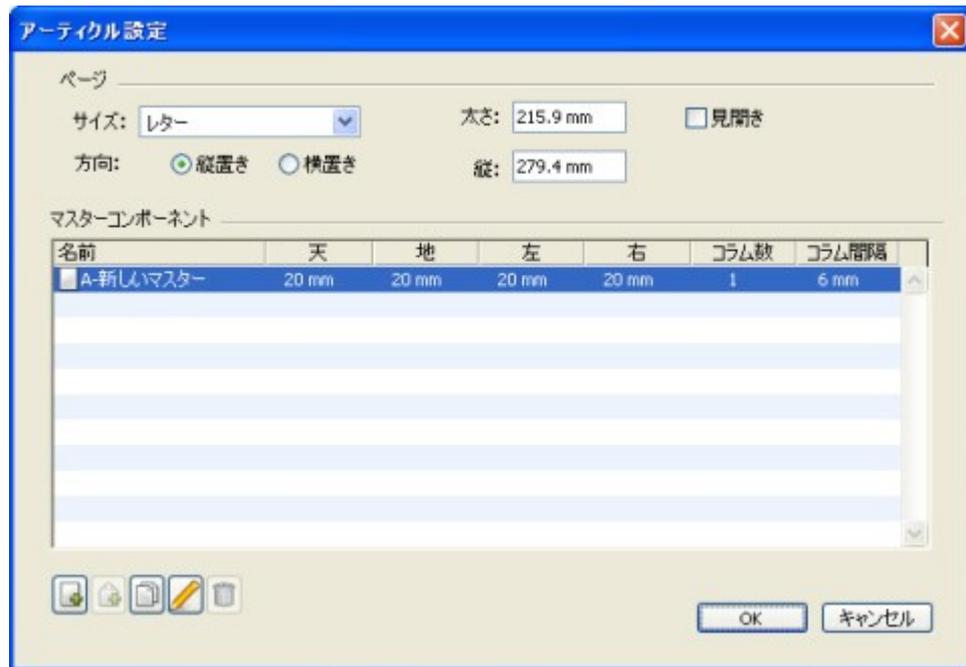
テンプレートとしてのア－ティクルの保存

テンプレートは、上書きされないように保護されている事前フォーマットされたア－ティクルです。同じフォーマットと仕様を使用するア－ティクル用に、テンプレートを作成できます。テンプレートには、テンプレートに基づいてア－ティクルで使用されるすべての基本的なスタイルシート、カラー、H&J、およびリストを含める必要があります。

ア－ティクルをテンプレートとして保存するには、**ファイル > 新規保存**を選択し、**種類**ドロップダウンメニューから**テンプレート**を選択します。テンプレートを修正するには、**新規保存**コマンド（**ファイル**メニュー）で再度保存します。

ア－ティクル設定の変更

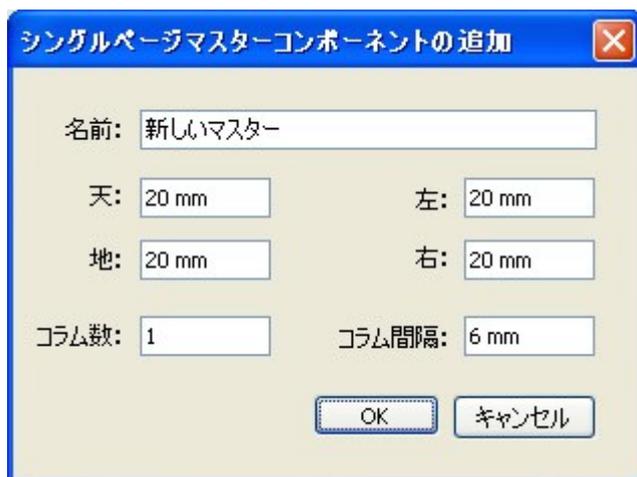
ア－ティクルのサイズまたは方向を変更したり、あるいはア－ティクルで見開きページを使用するか、マスターコンポーネントを追加または削除するかを指定するには、**ファイル > ア－ティクル設定**を選択します。**ア－ティクル設定**ダイアログボックスが表示されます。



アーティクルの属性を制御するには、**アーティクル設定**ダイアログボックスを使用します。

アーティクルのサイズや向きを設定したり、見開きページを使用するかどうかを指定するには、**ページ**領域のコントロールを使用します。

マスターコンポーネント領域のコントロールを使用すると、マスターコンポーネントの追加、削除、または設定ができます。マスターコンポーネントを追加するには、**シングルマスターの追加** (片面のマスターコンポーネントの場合) または**見開きマスターの追加** (見開きページのマスターコンポーネントの場合) をクリックします。選択したマスターコンポーネントを複製するには、**複製** をクリックします。選択したマスターコンポーネントを削除するには、**削除** をクリックします。マスターコンポーネントを設定するには、マスターコンポーネントを選択してから**編集** をクリックします。**マスターコンポーネントの編集**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、マスターコンポーネントの名前、列数、マージン、およびコラム間隔を指定できます。



マスターコンポーネントの編集ダイアログボックスでは、マスターコンポーネントを設定できます。

コンポーネントの使用

コンポーネントは、独立したテキストフローまたは画像です。QuarkCopyDeskのコンポーネントは、QuarkXPressのテキストチェーンまたは画像に相当します。

コンポーネントの作成

コンポーネントを作成する場合、マスターコンポーネントから作成する必要があります。

コンポーネントを作成するには、**コンポーネント > 新規** (Command+Option+C / Ctrl+Alt+C) を選択します。**新規コンポーネント**ダイアログボックスが表示されます。**名前**フィールドに最大31文字を入力し、**OK**をクリックします。新規コンポーネントがすぐにアクティブになります。アクティブアティクルのコンポーネントは、**コンポーネント**メニューの下部に一覧されます。

コンポーネントのプロパティの制御

アクティブコンポーネントの名前を変更するには、**種類** (テキストまたは画像) を変更するか、またはそのコンポーネントのマスターコンポーネントを変更し、**コンポーネント > プロパティ**を選択します。

コンポーネントの削除

アクティブなアティクルのアクティブコンポーネントを削除するには、**コンポーネント > 削除**を選択します。アティクルに含まれるコンポーネントが1つだけの場合、そのコンポーネントを削除することはできません。

コンポーネント間のナビゲーション

下記のショートカットを使用すると、アティクル内のナビゲーションが容易になります。

- 前のページに戻る (WSYIWYG表示モードの場合) か、または前のコンポーネントに戻る (ゲラ表示および全画面表示モードの場合) には、Option+上矢印 / Alt+上矢印キーを押します。

- ゲラ表示および全画面表示モードで選択したコンポーネントを開くには、Option+右矢印／Alt+上矢印+右矢印キーを押します。
- ゲラ表示および全画面表示モードでアクティブコンポーネントを閉じるには、Option+左矢印／Alt+上矢印+右矢印キーを押します。
- ゲラ表示および全画面表示モードでコンポーネントの順序を変更するには、コンポーネントのタイトルバーをクリックして新しい場所へドラッグします。

テキストと組版

テキストは、ほとんどすべての出版物に不可欠なものです。QuarkCopyDeskでは、出版物内でテキストを直接作成して編集できる他、多くの主要なワードプロセッシングアプリケーションからテキストを取り込むこともできます。標準的なテキストフォーマットと編集の機能に加え、QuarkCopyDeskには、テキストとその属性の検索と置換、スペルチェック、カスタムスペルチェック用辞書、およびアーティクル全体でテキストフォーマットを変更するためのフォントの使用状況ユーティリティなどの機能が備わっています。

組版とは、意味や雰囲気がよく伝わるようにテキストの見栄えを整える技術です。QuarkCopyDesk書体、文字飾り、行送り、間隔を含む、組版のあらゆる面を調整することで、テキストの雰囲気を調整できます。

→  アイコンで示されるテキスト機能は東アジア言語固有の機能で、**QuarkXPress/編集 > 環境設定 > 東アジア**メニューで東アジア言語の環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

テキストの編集

テキストコンポーネントを入力すると、テキストが**テキスト挿入ポイント**に入力されます。テキスト挿入ポイントは点滅した線で示されています。**ストーリー**は、テキストボックス内の全テキストです。一連のボックスをつなげると、全ボックスのテキストがすべて1つのストーリーにまとめられます。

マウスを複数回クリックしてテキストを選択することもできます。ダブルクリックすると、テキスト挿入ポイントを含む単語を選択できます。3回クリックすると、テキスト挿入ポイントを含む行を選択できます。4回クリックすると、テキスト挿入ポイントを含む段落全体を選択できます。5回クリックすると、ストーリー全体を選択できます。

ダブルクリックで単語を選択し、それをカットまたはコピーする場合、アプリケーションが単語の文脈を考慮して、新しい場所にその単語をペーストしたときに、必要に応じてスペースを自動的に追加または削除します。この機能をスマートスペースといいます。選択する語句に約物を含める場合、語句と隣接する約物の間をダブルクリックします。

テキストの取り込みおよび書き出し

テキストを取り込むには、下記のいずれかを実行します。

- テキストの挿入ポイントを指定してから**ファイル > 取り込み**を選択します。**引用符を変換オプション**をオンにすると、二重ハイフンをemダッシュに変換できます。また、フィートやインチの記号をタイプセッターのアポストロフィや引用符に変換できます。**スタイルシートを含む**チェックボックスをオンにすると、Microsoft WordまたはWordPerfectのファイルからスタイルシートを取り込むか、または「XPress Tag」をフォーマットテキストに変換できます。
- テキストファイルをファイルシステムからテキストコンポーネント上にドラッグします
- テキストを別のアプリケーションからテキストコンポーネント上にドラッグします
- テキストファイルをファイルシステムから画像コンポーネント上にドラッグした後、Command/Ctrlキーを押してコンポーネントがテキストを受け付けるようにします。
- テキストを別のアプリケーションから画像コンポーネント上にドラッグした後、Command/Ctrlキーを押してコンポーネントがテキストを受け付けるようにします。

テキストを書き出すには、まずテキストコンポーネントでテキスト挿入ポイントを指定する（ボックス内のテキストをすべて保存する場合）か、または書き出すテキストを選択します。次に**ファイル > テキスト保存**を選択し、**形式**ポップアップメニューからオプションを選択し、名前を入力して場所を指定してから**保存**をクリックします。

- ➡ .docxフォーマットで書き出すには、**形式**ドロップダウンメニューから**Word文書**を選択します。.docフォーマットで書き出すには、**Word 97/98/2000文書**を選択します。

フィルタの取り込み／書き出し

XTensionsソフトウェアでは、このセクションで説明するものを含むさまざまなフォーマットのテキストを取り込みおよび書き出しできます。

Ichitaro Filter

Ichitaro Filterを使用すると、一太郎バージョン7以降のドキュメントを取り込むことができます。

Word 6–2000 Filter

Word 6–2000 Filterを使用すると、Microsoft Word 97/98/2000（Word 8）および.docxフォーマットを対象に、ドキュメントを取り込みまたは書き出しできます。

- ➡ 取り込みの問題を回避するには、Microsoft Wordの**高速保存**（**オプション**ダイアログボックスの**保存**タブ）をオフにするか、**名前を付けて保存**コマンドを使用して、取り込まれるWordファイルのコピーを作成します。

QCImportFilter XTensionsソフトウェア

詳細は、「[QCImportFilter XTensionsソフトウェア](#)」を参照してください。

Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し

テキストの取り込みおよび書き出し時にエンコードの種類を指定することもできます。エンコードの種類により、テキストで表示される各字形を表すのに使用するバイトシーケンスが決まります。外国語やHTMLのテキストを使用する場合、適切なエンコードを選択してファイル内の文字をすべてUnicodeに変換できます。オプションの機能は下記のとおりです。

- プレーンテキストまたは「XPress Tag」テキストのファイルを選択した場合、**取り込み**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。ソフトウェアが選択したテキストファイルのエンコードを決定して適切なエンコードの種類を適用しようとします。ただし、テキストに対して別のオプションを指定することもできます。
- プレーンテキストまたはXPress Tagテキスト形式でテキストを書き出す場合、**テキスト保存**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。
- **引用符を変換**オプションでは、引き続き直接引用符をタイプセッターの引用符に変換する、あるいは二重ハイフンを全角ダッシュに変換できます。

テキストの検索と置換

検索／置換パレット（**編集メニュー**）を使用すると、標準的な検索および置換の操作を実行できます。さらに、このパレットを使用して下記の操作を実行できます。

- ワイルドカード文字を使用した検索および置換：Command+Shift+?／Ctrl+Shift+?
- スタイルシート、フォント、サイズ、色、入力スタイル（OpenTypeスタイルを含む）など、テキストの書式の検索および置換
- 検索／置換の操作を単一のコンポーネントまたはアーティクル全体に制限
- 文字の言語に基づいた検索および置換（「[文字言語の適用](#)」を参照）
- 合字の検索および置換
- 特殊文字の検索および置換（「[特殊文字コード](#)」を参照）

Option／Altキーを押すと、**検索**ボタンが**最初を検索**に変わります。フォーマットの属性に基づいて検索および置換を実行するには、**属性無視**チェックボックスをオフにします。



テキストの検索および置換を行うには、**検索／置換**ダイアログボックスを使用します。フォーマットの属性に基づいて検索および置換を実行するには、**属性無視**チェックボックスをオフにします。

- ➡ 検索／置換機能は、QuarkXPressでロックされていないテキストコンポーネントでのみ動作します。

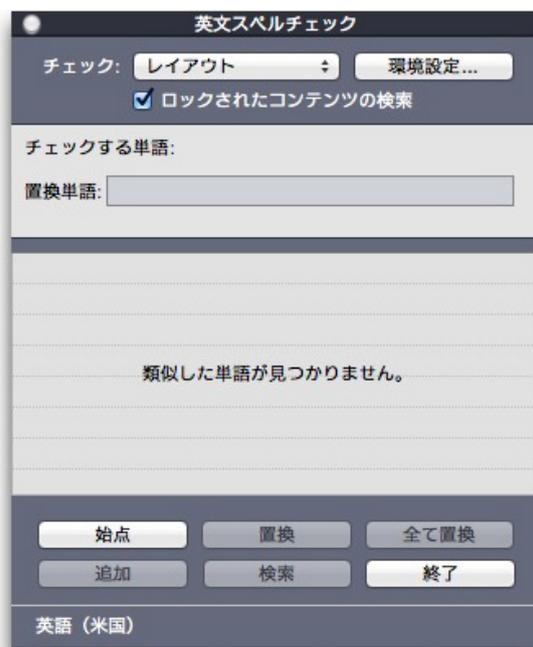
特殊文字コード

特殊文字コードを使用して、特殊文字の検索および置換ができます。また、条件付きスタイルの作成時にも、これらのコードを使用できます。

コード	文字
Tab	¥t
新規段落	¥p
新規行	¥n
新規列	¥c
新規ボックス	¥b
バックスラッシュ	¥¥
句点スペース	¥.
フレックススペース	¥f
任意ハイフン	¥h
インデント位置	¥i
任意改行	¥d
emスペース	¥m
enスペース	¥e
1/3 emスペース	¥5
1/4 emスペース	¥\$
1/6 emスペース	¥^
数字スペース	¥8
極細スペース	¥{
細いスペース	¥[
ゼロ幅スペース	¥z
ゼロ幅スペース（ゼロ幅改行なしスペース）	¥j
条件付きスタイルマーカー（検索／置換のみ）	¥r

スペルチェック

スペルをチェックするには、**補助 > 英文スペルチェック**サブメニューからオプションを選択します。**英文スペルチェック**パレットが表示されます。



英文スペルチェックパレット

スペルチェックの範囲を変更するには、**チェック**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。使用可能なオプションは、**単語**、**選択**、**コンポーネントの末尾**、**コンポーネント**、または**アティクル**です。ロックされたテキストボックス、テキストセル、およびテキストパスでスペルチェックをするには、**ロックされたコンテンツの検索**のチェックボックスをオンにします。スペルチェックは常にテキスト挿入ポイントから開始されます。

スペルチェックを開始するには、**開始**をクリックします。アクティブコンポーネントの先頭からスペルチェックを開始するには、Shiftキーを押しながら**開始**をクリックします。

間違ったスペルの単語を置換するには、正しいスペルを**置換単語**フィールドに入力するか、正しい単語をリストから選択してから、**置換**をクリックします。間違ったスペルの単語が登場する箇所すべてを置換するには、**全て置換**をクリックします。

置換単語フィールドの単語の候補を検索するには、**検索**をクリックします。

選択された単語をスキップするには、**スキップ**をクリックします。

置換単語フィールドの単語をユーザー辞書に追加するには、**追加**をクリックします。ユーザー辞書が開いていない場合、**追加**をクリックした後でユーザー辞書を選択または作成できます。すべてのチェックする単語をユーザー辞書に追加するには、Option+Shiftキー/Alt+Shiftキーを押しながら**全て追加**をクリックします。

英文スペルチェックパレットを閉じるには、**終了**をクリックします。

- ➡ 英文スペルチェックパレット以外の場所をクリックしてからパレットに戻ると、スペルチェックを再開できます。
- ➡ 英文スペルチェックパレットでの変更を元に戻すには、**編集 > 「テキストの変更」**の取り消しを選択します。
- ➡ スペルチェックの環境設定を表示するには、**環境設定**をクリックします。詳細は、「[環境設定 - アプリケーション - スペルチェック](#)」を参照してください。

ユーザー辞書

スペルチェックで単語にフラグが付かないようにするには、**ユーザー辞書**を作成してそこに単語を追加します。ユーザー辞書を作成するには、下記の操作を行ってください。

- (Windows) **補助** > **ユーザー辞書**を選択し、名前を入力して**新規**をクリックします。
- (Mac OS X) **補助** > **英文スペルチェック** > **ユーザー辞書**を選択し、名前を入力して**新規**をクリックします。

ユーザー辞書に用語を追加するには、下記の操作を行ってください。

- (Windows) **補助** > **ユーザー辞書の編集**を選択します。
- (Mac OS X) **補助** > **英文スペルチェック** > **ユーザー辞書の編集**を選択します。

アールティクルで一度に開くことのできるユーザー辞書は1つだけです。**ユーザー辞書**ダイアログボックスの**閉じる**をクリックするまで、または別のユーザー辞書を開くまでユーザー辞書とアールティクルの関連付けが保持されます。

ユーザー辞書は、独立したファイルとしてハードドライブに保存されます。アールティクルのユーザー辞書のパスはアールティクルとともに保存されるため、開いているユーザー辞書を別のフォルダまたはボリュームに移動すると、アプリケーションはその辞書を検索できなくなります。

英文スペルチェックパレットを閉じずにユーザー辞書を作成または開くには、保持する単語をハイライトした状態で**追加**をクリックします。

すべてのチェックする単語をユーザー辞書に追加するには、Option+Shiftキー／Alt+Shiftキーを押しながら**全て追加**をクリックします。

単語および文字のカウンツ

コンポーネントで単語数および文字数を表示するには、**補助** > **単語数と文字数**を選択します。



単語数と文字数ダイアログボックス

単語数領域に、ストーリーにあるすべての単語数および固有の単語数が表示されます。

文字数領域に、すべての文字数および特定言語の文字数が表示されます。

- ➡ 私用領域文字は、Unicode文字の範囲外で指定された固有の文字で、個人、組織、ISOおよびUnicodeに関するコンソーシアムに参加していないソフトウェアベンダーによって登録されたものです。

文字属性の適用

QuarkCopyDeskでは、テキストフォーマットを文字単位で制御して精度を維持できます。

フォントの適用

選択したテキストにフォントを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > フォント**を選択し、サブメニューからフォントを選択します。
- (Windowsのみ) : **文字属性**ダイアログボックス (**スタイル > 文字設定**) を表示し、**フォント**メニューからフォントを選択します。
- **メジャーパレット**の**フォント**ドロップダウンメニューからフォントを選択します。
- Command+Option+Shift+M / Ctrl+Alt+Shift+Mを押すと、**メジャーパレット**のフォントフィールドに直接移動します。フォント名が認識されるまで最初の方の文字をいくつか入力してReturn / Enterキーを押します。

フォント一覧の上部に最後に使用したフォントが表示されます。

- ➡ **(Windowsのみ)** フォントメニューにフォントのプレビューを表示するには、**環境設定**ダイアログボックス (**QuarkCopyDesk/編集メニュー**) の**フォント**ペインにある**フォントメニューに表示**チェックボックスをオンにします。この環境設定を一時的に上書きするには、Shiftキーを押します。
- ➡ **(Mac OS Xのみ)** : QuarkXPressでは、フォントのポップアップにすべての書体のプレビューが自動的に表示されます。この環境設定を一時的に上書きするには、Shiftキーを押します。

フォントサイズの選択

2~3456ポイントのフォントサイズを適用できます。選択したテキストにサイズを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > サイズ**を選択し、サブメニューからポイントサイズを選択します。
- 現在のフォントサイズの横にある矢印をクリックし、ポイントサイズの一覧を表示します。次にその一覧からサイズを選択するか新しいポイントサイズを入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1ポイント拡大 : Command+Option+Shift+>
- 1ポイント縮小 : Command+Option+Shift+<
- プリセット範囲で拡大 : Command+Shift+>
- プリセット範囲で縮小 : Command+Shift+<

Windows

- 1ポイント拡大 : Ctrl+Alt+Shift+>
- 1ポイント縮小 : Ctrl+Alt+Shift+<
- プリセット範囲で拡大 : Ctrl+Shift+>
- プリセット範囲で縮小 : Ctrl+Shift+<

文字飾りの適用

選択したテキストに文字飾りを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 文字飾り**を選択し、サブメニューから文字飾りを選択します。
- **(Windowsのみ)** : **スタイル > 文字設定**を選択し、**文字飾り**領域のチェックボックスをオンにします。
- **メジャーパレットのテキストスタイル**ドロップダウンメニューから文字飾りを選択します。**テキストスタイル**ドロップダウンメニューの左にあるアイコンを使用してボールドおよびイタリックの文字飾りを適用します。選択したテキストからすべての文字飾りを削除するには、**テキストスタイル**ドロップダウンメニューから**文字飾りを全て削除**を選択します。

既存フォントは、「Times New Roman MT Std」フォントファミリー内の「Times New Roman MT Std Bd」など、フォントファミリーに組み込まれた異なるフォントスタイルです。

シミュレートされたフォントは、ボールド、イタリック、またはボールドイタリックをシミュレートするために変更された標準既存フォントです。フォントファミリーに別個の既存フォントとしてボールドまたはイタリックの形式が含まれていない場合、オペレーティングシステムが、ボールドまたはイタリック形式のフォントを作成する**変換**を実行できるようにボールドおよびイタリックの文字飾りを適用することができます。この結果作成されるのがシミュレートされたフォントです。

ボールドを標準フォントに適用すると、アプリケーションはまずボールド形式の既存フォントを見つけようと試み、そのフォントが見つからない場合は、ボールド形式のシミュレートされたフォントを作成します。

シミュレートされたフォントは出力時に問題を発生させる可能性があるため、警告アイコンがレイアウト内のシミュレートされたフォントを特定します。シミュレートされたフォントは、警告アイコンによって、**メジャーパレット**、**字形パレット**、**文字属性**ダイアログボックス、**スタイル > 文字飾り**サブメニュー、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックス、**検索/置換パレット**の**置換領域**、**使用状況**ダイアログボックス（**補助メニュー**）の**フォント**ペイン、**使用状況**ダイアログボックスからアクセス可能な**フォント置換**ダイアログボックス、**ルビ**ダイアログボックスの**文字属性**タブで表示されます。

カラー、シェードおよび不透明度の適用

選択したテキストにカラー、シェードおよび不透明度を適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > カラー**、**スタイル > シェード**および**スタイル > 不透明度**のサブメニューからオプションを選択します。
- **カラーパレット**（**ウィンドウ > カラーパレット表示**）を表示し、**シェード**および**不透明度**の値を選択または入力します。
- **メジャーパレット**にあるカラー、シェードおよび不透明度のコントロールを使用します。

横比率または縦比率の適用

選択したテキストに横比率または縦比率を適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **(Windowsのみ)** : **スタイル > 文字の変形**を選択し、**縮小率**ドロップダウンメニューから**水平方向**または**垂直方向**を選択します。フィールドに値を入力し、**OK**をクリックします。
- **メジャーパレット**の**文字/文字属性**タブから**テキスト比率を水平方向に合わせる**または**テキスト比率を垂直方向に合わせる**を選択し、フィールドに値を入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。横比率と縦比率の両方が適用されているテキストの範囲を選択してキーボードコマンドを使用すると、縦横の比率に応じてテキストが増減します。

➡ 横比率と縦比率の値を同時に適用することはできません。

Mac OS X

- 5%縮小：Command+[
- 5%拡大：Command+]
- 1%縮小：Command+Option+[
- 1%拡大：Command+Option+]

Windows

- 5%縮小：Ctrl+[
- 5%拡大：Ctrl+]
- 1%縮小：Ctrl+Alt+[
- 1%拡大：Ctrl+Alt+]

ベースラインシフトの適用

段落の間隔に影響を与えずにベースラインの上下に文字を移動できます。テキストを上
に移動するには正の値を指定し、テキストを下に移動するには負の値を指定します。選
択したテキストにベースラインシフトを適用するには、下記の操作のいずれかを行って
ください。

- **(Windowsのみ)**：スタイル > ベースラインシフトを選択してベースラインシフト
フィールドに値を入力し、OKをクリックします。
- メジャーパレットの文字／文字属性タブのベースラインフィールドに値を入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 下に1ポイント：Command+Option+Shift+-
- 上に1ポイント：Command+Option++

Windows

- 下に1ポイント：Ctrl+Alt+Shift+9
- 上に1ポイント：Ctrl+Alt+Shift+0

圏点の適用

文字に圏点を適用するには、文字を選択してメジャーパレットの段落／段落設定タブの
ドロップダウンメニューにある圏点をクリックし、表示される圏点のオプションのい
ずれかをクリックします。これらのオプションは、スタイル > 文字飾りの下にある圏点
ドロップダウンメニューからも選択できます。Windowsでは、文字属性パレット（スタイ
ル > 文字設定）の圏点ドロップダウンメニューでもこれらのオプションを選択できます。

半角文字の制御

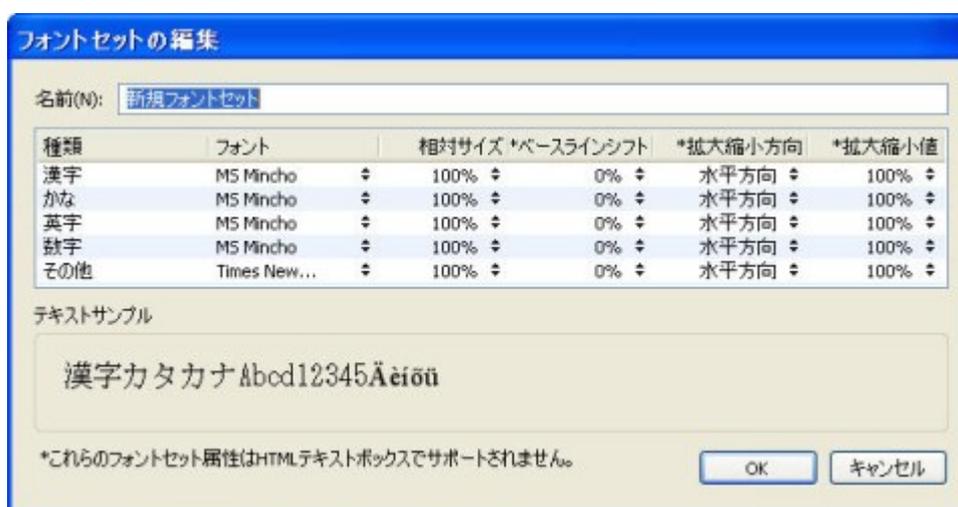
縦組みの文で、半角文字（欧文文字など）を常に水平にするには、下記の操作を行って
ください。

- (Windowsのみ) 文字属性ダイアログボックス (スタイル > 文字設定) の半角幅文字を常に縦向きにするチェックボックスをオンにします。
- (Mac OS Xのみ) メジャーパレットの文字設定タブにある、半角幅文字を常に縦向きにするチェックボックスをオンにします。

フォントセットの使用

! アルファベット (欧文) と漢字など、異なるタイプの文字がテキスト中に混在している場合、フォントセットを使用して、それらがどのように表示されるかを制御できます。

フォントセットの編集ダイアログボックス (編集 > フォントセット) で、新規フォントセットを作成できます。各フォントセットは、それぞれに独自の設定があるフォントタイプのセットから構成されます。



フォントセットの編集ダイアログボックスを使用して、フォントセットを設定します。フォントセットの各タイプについて、以下に挙げる項目を制御できます。

- **フォント** : 文字グループの各タイプのフォントを指定します。
- **相対サイズ** : レイアウトで使用されているフォントサイズを基準にした、各フォントの相対サイズを指定します。たとえば、レイアウトのフォントサイズが12ポイントであれば、200%の相対設定を指定すると、フォントは24ポイントで表示されます。
- **ベースラインシフト** : ベースラインからフォントを上下にずらす値を指定します。
- **拡大縮小方向** : フォントを水平方向と垂直方向のどちらに拡大縮小するかを指定します。
- **拡大縮小値** : フォントを水平方向または垂直方向に拡大縮小する量を指定します。

ダイアログボックスのテキストサンプル領域には、フォントセットに含まれる各フォントを使用したテキストサンプルが表示されます。

テキストにフォントを適用するのと同じ方法で、テキストにフォントセットを適用できます。テキストを選択してから、メジャーパレットにあるフォントドロップダウンメニューでフォントセットを選択するだけです。フォントセットは、リストの上位に表示されます。

プロジェクトにフォントセットを追加するには、**フォントセット**ダイアログボックス（**編集 > フォントセット**）にある**追加**ボタンを使用します。

縦組み用グループ化文字の使用

❗ 垂直ラインのテキストに欧文文字などの水平文字のグループを含めるには、**縦組み中の文字回転**ダイアログボックス（**スタイルメニュー**）を使用します。縦組み用グループ化文字は常に水平方向に表示され、行末で改行しません。選択した文字を縦組み用にグループにするには、下記の手順に従ってください。

- 1 **スタイル > 縦組み中の文字回転**をクリックします。
- 2 **縮小率**ドロップダウンメニューで**垂直方向**または**水平方向**を選択して、**縮小率**ドロップダウンメニューの右隣にあるフィールドにパーセントを入力します。
- 3 文字間隔を変更するには、**トラッキング/字送り**フィールドに値を入力します。
- 4 **OK**をクリックします。

行の文字揃え

❗ 文字揃えの機能を使用すると、同じテキスト行にある最も大きい文字に合わせて、小さい文字を複数の方法で揃えることができます。ベースライン、仮想ボディまたは平均字面に基づいて文字を揃えることができます。

仮想ボディは文字の境界ボックスです。**平均字面**（ICF）とは仮想ボディ内部の境界のことで、この境界を超えて字形を拡張することはできません。平均字面は、CJKのテキストフローの字形が互いに触れないようにするために必要です。下図の赤い部分は、仮想ボディの境界を示しています。黄色い部分は、平均字面を示しています。



赤は仮想ボディを示しています。黄色は平均字面を示しています。

テキストの同じ行に出現する最も大きい文字に対して、次のいずれかの方法で小さい文字を揃えることができます。

- **スタイル > 文字揃え** サブメニューからオプションを選択します。
- (Windowsのみ) : **スタイル > 段落設定** を選択し、**段落設定** タブの下にある**文字配置** ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- (Mac OS Xのみ) : **メジャーパレット** の**段落** タブにある**文字配置** ドロップダウンメニューから、オプションを選択します。

文字配置のオプションは下記のとおりです。

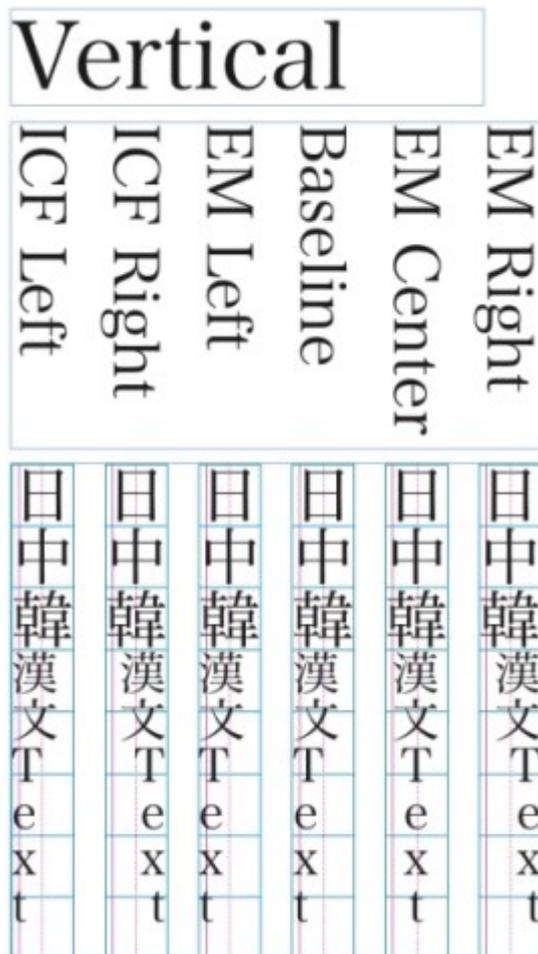
- **平均字面上** : 平均字面の上部に合わせて小さい文字を配置します。
- **仮想ボディ上辺** : 水平テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの上端に合わせて、小さい文字を配置します。
- **仮想ボディ下辺** : 水平テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの下端に合わせて、小さい文字を配置します。
- **仮想ボディセンター** : 最も大きい文字の仮想ボディの中央に合わせて、小さい文字を配置します。
- **仮想ボディ右辺** : 垂直テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの右端に合わせて、小さい文字を配置します。
- **仮想ボディ左辺** : 垂直テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの左端に合わせて、小さい文字を配置します。

- **欧文ベースライン**：最も大きい文字のベースラインに合わせて、小さい文字を配置します。
- **平均字面下**：平均字面の下部に合わせて小さい文字を配置します。

Horizontal

EM Top	日中韓漢文Text
EM Center	日中韓漢文Text
Baseline	日中韓漢文Text
EM Bottom	日中韓漢文Text
ICF Top	日中韓漢文Text
ICF Bottom	日中韓漢文Text

水平方向の文字揃えの例



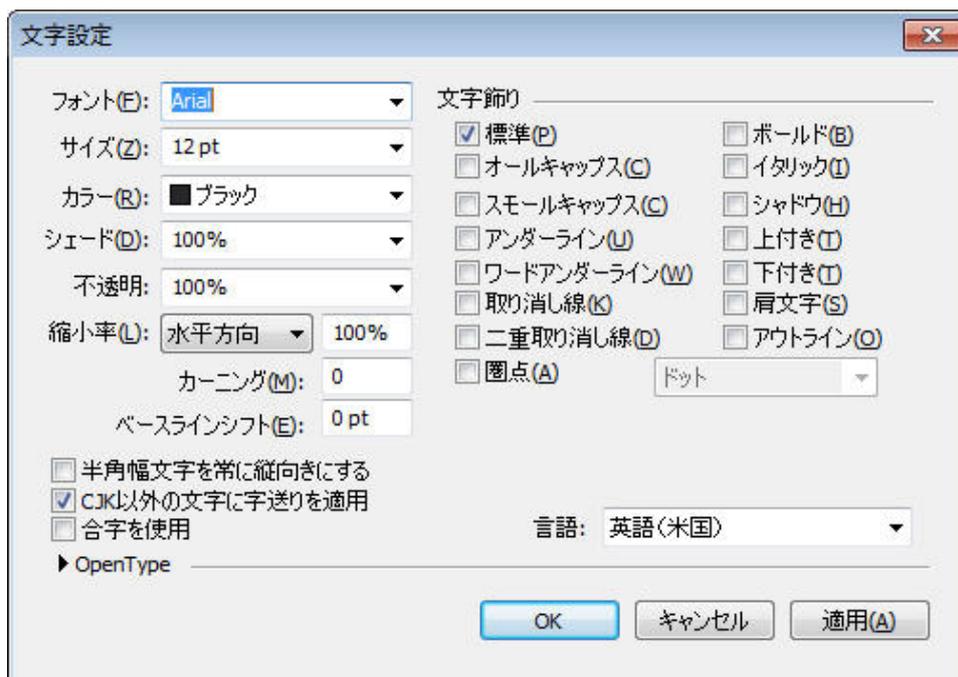
垂直方向の文字揃えの例

複数の文字属性の適用

すべての文字属性を同時に参照し、編集するには、**Windows**では**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字設定**）、**Mac OS X**では**メジャーパレット**の**段落**タブを使用します。

空白のフィールドとグレイのチェックボックスは、選択したテキストに複数のスタイルが適用されていることを示しています。たとえば、**フォント**フィールドが空白である場合、選択したテキストに複数のフォントが適用されています。

空白のフィールドに値を入力すると、選択したテキストのすべてにその値が適用されます。グレイのチェックボックスをオンにすると選択したすべてのテキストにスタイルの設定が適用され、オフにすると選択したすべてのテキストからスタイルの設定が削除されます。



文字属性ダイアログボックスを使用してテキストをフォーマットします。

段落設定の適用

段落設定は、段落全体に適用されるフォーマットオプションです。この設定オプションには、行揃え、インデント、行送りおよびタブなどがあります。選択した段落に設定を適用するには、**メジャーパレット**の**段落/段落設定**タブを使用します。Windowsでは、**段落設定**ダイアログボックス (**スタイル > フォーマット**) も使用できます。

適用されている段落フォーマットは、同じボックスまたはテキストチェーンの段落間でコピーできます。適用されている段落フォーマットをコピーするには、変更する段落または段落の範囲を選択し、コピーするフォーマットが適用されている段落の任意の場所をOption/Alt+Shiftキーを押しながらクリックします。この方法で段落フォーマットをコピーすると文字属性は変更されません。

行揃えの制御

段落の行揃えは、左揃え、センター、右揃え、両端揃え、および強制割付という5つのオプションから選択できます。**強制割付**オプションは、左インデントと右インデント間のすべての行を両端揃えする点は**ジャスティファイ**オプションと同じですが、段落の最後に改行がある場合は最終行も両端揃えします。

選択したテキストの行揃えを設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 行揃え**サブメニューから行揃えを選択します。
- **メジャーパレット**の行揃えアイコンをクリックします。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 左揃え  : Command+Shift+L

- センター: Command+Shift+C
- 右揃え: Command+Shift+R
- ジャスティファイ: Command+Shift+J
- 強制割付: Command+Option+J

Windows

- 左揃え: Ctrl+Shift+L
- センター: Ctrl+Shift+C
- 右揃え: Ctrl+Shift+R
- 両端揃え: Ctrl+Shift+J
- 強制割付: Ctrl+Alt+Shift+J

インデントの制御

インデントを指定するには、下記のフィールドを使用します。

- ボックスまたは列の左端から段落がインデントされる距離を指定するには、**左インデント**フィールドに値を入力します。
- **左インデント**の値から段落の最初の行をインデントする距離を指定するには、**第1行**フィールドに値を入力します。**第1行**のインデントは、段落に適用されている**左インデント**に関連します。たとえば、**左インデント**を0.5"、**第1行**のインデントを0.5"に設定すると、最初の行はテキストボックスの左端から1"離れた位置から開始します。
- ボックスまたは列の右端から段落がインデントされる距離を指定するには、**右インデント**フィールドに値を入力します。**OK**をクリックします。
- ぶら下がりインデントを作成するには、**左インデント**に正の値、**第1行**のインデントに負の値を指定するか、列のルーラーのインデントアイコンをドラッグします。**Windows**では、**段落設定**ダイアログボックス (**スタイル > 段落設定**) の**段落設定**タブにある**適用**ボタンを使用して、ぶら下がりインデントを試すことができます。

段落設定としてぶら下がりインデントを設定する以外に、特殊文字を入力してその位置から次の段落の改行にあるすべてのテキスト行をインデントすることもできます。Mac OS Xの場合はCommand+¥、Windowsの場合はCtrl+¥を押して、特殊なインデント位置文字を入力します。インデント位置文字は不可視文字です。不可視文字を表示するには、**表示 > 特殊キャラクタ** (Command+I/Ctrl+I) を選択します。

行送りの制御

行送りは行間隔の測定単位で、段落のテキストベースラインの間隔を表しています。行送りの値を指定すると、選択した段落のすべての行に適用されます。行送りは、下記の3つの方法で指定できます。

- **絶対行送り**では、行の文字サイズに関係なくテキストのベースラインの間隔を特定の値に設定します。たとえば、段落に対して絶対行送りの値を16ポイントに指定すると、すべてのベースラインの間隔が16ポイントになります。絶対行送りを指定する場合、垂直方向におけるテキストベースライン間の合計距離を示す値を使用します。

- **増幅値による自動行送り**では、**行送り**フィールドで指定した絶対値と、自動行送りの基本値を組み合わせます。行送りの増幅値の前には、必ずプラス記号（+）またはマイナス記号（-）を付ける必要があります。
- **自動行送り**では、**行送りの自動設定**フィールド（QuarkCopyDesk／編集＞環境設定＞印刷レイアウト＞段落ペイン）の値がアプリケーションで使用され、パーセント単位または増幅値単位での自動行送りが発生するかどうかが決まります。デフォルトのパーセント単位では、自動行送りの基本値に、上の行で最も大きなフォントサイズの一定パーセントを加えて、上の行と自動行送りされる行との間で、行送りの合計値が算出されます。自動行送りのパーセント単位のデフォルト値は20%です。自動行送りを指定するには、**行送り**フィールドに**自動**を入力します。

選択した段落の行揃えを設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：**スタイル＞行送り**を選択して、絶対行送りの値、またはプラス記号やマイナス記号が前に付いた行送りの増幅値を入力します。または**行送り**フィールドに**自動**を入力します。
- **メジャーパレットの行送り**コントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1ポイント縮小：Command+Shift+:
- 0.1ポイント縮小：Command+Option+Shift+:
- 1ポイント拡大：Command+Shift+"
- 0.1ポイント拡大：Command+Option+Shift+"

Windows

- 1ポイント縮小：Ctrl+Shift+:
- 0.1ポイント縮小：Ctrl+Alt+Shift+:
- 1ポイント拡大：Ctrl+Shift+"
- 0.1ポイント拡大：Ctrl+Alt+Shift+"

前段落との間隔および次段落との間隔の制御

前段落との間隔および**次段落との間隔**のコントロールを使用して、選択した段落の前後の間隔を指定できます。

選択した段落の前後の間隔を設定するには、**スタイル＞段落設定**を選択し、**前段落との間隔**または**次段落との間隔**フィールドに値を入力します。

タブの設定

以下の6種類のタブストップから選択できます。

- **左揃え**では、タブストップでテキストが左揃えになります。
- **センター**では、タブストップ上でテキストが中央揃えになります。
- **右揃え**では、タブストップ上でテキストが右揃えになります。

- **デシマル**では、小数点（ピリオド）上でテキストが揃います。
- **カンマ**では、最初のカンマ上でテキストが揃います。
- **特定キャラクタ**では、指定した任意の文字上でテキストが揃います。このタブを選択すると、**特定キャラクタ**フィールドが表示されます。既存の入力内容を選択して、揃えの基準とする文字を入力します。

➡ カスタムタブを設定しない場合、デフォルトの左揃えタブがそれぞれ0.5インチに設定されます。

選択した段落にタブを適用するには、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > タブ**）の**タブ**タブにあるコントロールを使用します。

ウィドウ行およびオーファン行の制御

ウィドウおよびオーファンは、組版上好ましくない種類の行です。従来からウィドウは、列の上部にくる段落の最終行と定義されています。オーファンは、列の下部にくる段落の最初の行と定義されています。

ウィドウ／オーファンの制限機能を使用して、段落のすべての行が列内またはページ内に収まらない場合にすべての段落を次の列またはページの上部に移動させて、段落が分割しないようにできます。また、段落が分割される場合に列やボックスの下部に残す行数、および次の列やボックスの上部に移動する行数を指定できます。**次段落との分割不可**機能を使用して、特定の段落と次の段落が分割しないようにできます。この機能を使用すると、サブ見出しと次の段落が分割されないようにしたり、論理的に分割できないその他のテキスト行を分割しないようにできます。

一般的に、**次段落との分割不可**は見出しおよびサブ見出しのスタイルシートに、**ウィドウ／オーファンの制限**（通常**始点**および**最後**パラメータを使用）は本文テキストのスタイルシートに指定されます。

選択された段落に対して**ウィドウ／オーファンの制限**および**次段落との分割不可**機能をオンまたはオフにするには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ）**： **スタイル > フォーマット**を選択して、**段落設定**ダイアログボックスの**フォーマット**タブを表示し、**ウィドウ／オーファンの制限**および**次段落との分割不可**チェックボックスをオンまたはオフにします。
- **（Mac OS Xのみ）**： **メジャーパレット**の**段落**タブを使用します。

禁則文字セットの使用

⚠ 禁則文字セットとは、行の先頭または末尾に置けない文字と、途中で改行を入れることができない文字です。**禁則文字セット**ダイアログボックス（**編集 > 禁則文字セット**）には、**日本語（強い）**、**日本語（弱い）**、**韓国語（標準）**、**簡体中文（標準）**、および**繁体字中国語（標準）**用のデフォルト禁則文字セットが含まれています。

カスタム禁則文字セットを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **編集 > 禁則文字セット**を選択します。**禁則文字セット**ダイアログボックスが表示されます。
- 2 **新規**をクリックします。

- 3 名前フィールドに名前を入力します。
- 4 行頭禁止文字の指定、行末禁止文字の指定、および禁則文字の指定の各フィールドに文字を入力します。
- 5 OKをクリックします。
- 6 保存をクリックします。

➡ 段落に禁則文字セットを適用するには、H&Jの編集ダイアログボックス（編集 > H&J > 編集）の禁則文字設定ドロップダウンメニューから禁則文字セットを選択します。

カーニングの制御

カーニングは、文字ペアの間隔を調整します。カーニングすると、特定の文字ペアの形がよくなり見栄えが向上します。自動カーニングを使用できます。また、手動カーニングのコントロールを使用して、文字間のカーニングを追加することもできます。

カーニング値は、全角スペースの1/200単位で表されます。正のカーニング値では文字間隔が増加し、負の値では文字間隔が減少します。

手動カーニング

2文字間のカーニングを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- (Windowsのみ) : スタイル > カーニング値を選択してからカーニングフィールドに値を入力します。OKをクリックします。
- メジャーパレットのカーニングコントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1/20em下げる : Command+Shift+{
- 1/20em上げる : Command+Shift+}
- 1/200em下げる : Command+Option+Shift+{
- 1/200em上げる : Command+Option+Shift+}

Windows

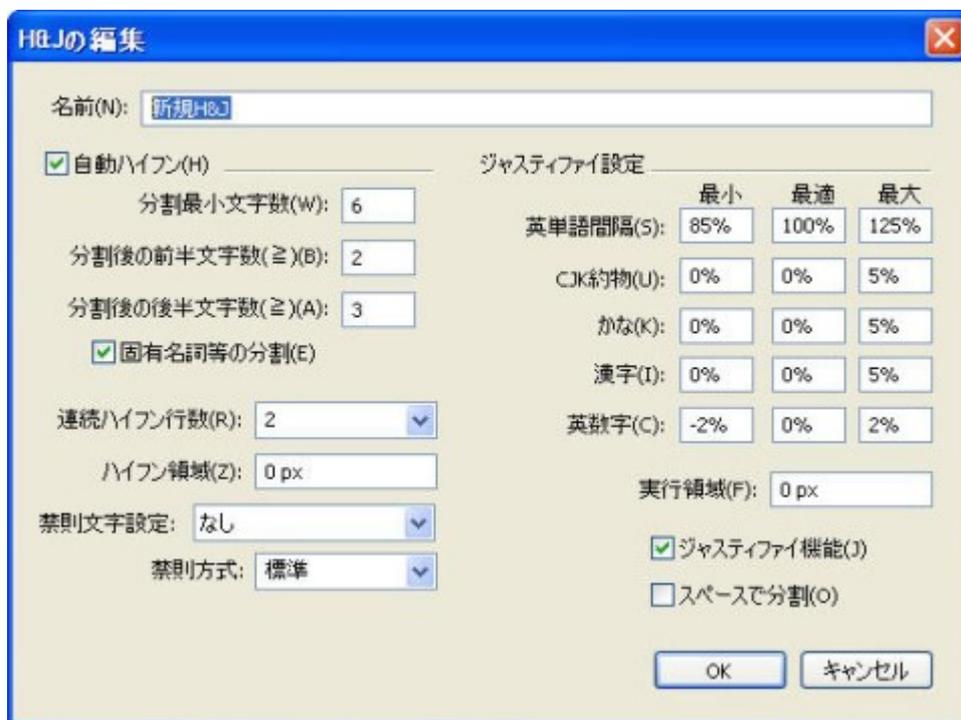
- 1/20em下げる : Ctrl+Shift+{
- 1/20em上げる : Ctrl+Shift+}
- 1/200em下げる : Ctrl+Alt+Shift+{
- 1/200em上げる : Ctrl+Alt+Shift+}

自動カーニング

一定ポイント以上のテキストを自動カーニングするには、環境設定ダイアログボックス（QuarkCopyDesk/編集メニュー）の文字設定ペインを表示し、自動カーニング(>)をオンにしてからフィールドに値を入力します。

ハイフネーション&ジャスティフィケーションの制御

ハイフネーション&ジャスティフィケーション（H&J）仕様は、テキスト行のマージンを越える単語に対するハイフネーションと単語および文字の間隔を調整するための設定の名前付きパッケージです。H&Jは、個々の段落に適用したり、段落スタイルシートに関連付けることができます。H&Jの編集ダイアログボックス（編集>H&J>新規）を使用してこれらの設定を制御します。



H&Jの編集ダイアログボックス

- **自動ハイフン**：自動的にハイフネーションを行うかどうかを指定します。
- **分割最小文字数**：ハイフネーションを行うために必要な、1単語当たりの最小文字数を指定します。
- **分割後の前半文字数(≧)**：ハイフンの前にくる最小文字数を指定します。
- **分割後の後半文字数(≧)**：ハイフンの後にくる最小文字数を指定します。
- **固有名詞等の分割**：固有名詞等の単語に対してハイフネーションを行うかどうかを指定します。
- **連続ハイフン行数**：ハイフン付きの単語が行末に連続できる数を指定します。
- **ハイフン領域**：ハイフネーションを行うことのできる右インデント前の領域を指定します。たとえば、ハイフン領域を0.05インチに設定すると、その単語の適当なハイフネーションポイントが右インデントから0.05インチ以内にあった場合、ハイフネーションが行われます。ハイフネーションが行われた単語の前の単語はハイフン領域内に入りません。
- **ハイフン領域**：欧文文字を含む単語に対して、ハイフネーションを行うことのできる右インデント前の領域を指定します。たとえば、ハイフン領域を0.05インチに設定すると、その単語の適当なハイフネーションポイントが右インデントから0.05インチ以内にあっ

た場合、ハイフネーションが行われます。ハイフネーションが行われた単語の前の単語はハイフン領域内に入りません。

- **ジャスティファイ設定**：単語間隔および文字間隔の設定方法を指定します。
- **スペース**：両端揃えまたは強制割付が適用された段落において、単語間の最小および最大のスペースを指定します。すべての段落の単語間について、揃え方にかかわらず最善のスペース量を指定します。
- **文字**：両端揃えまたは強制割付が適用された段落において、文字間の最小および最大のスペースを指定します。すべての段落の文字間について、揃え方にかかわらず最善のスペース量を指定します。
- **!** **禁則文字セット**：ドロップダウンメニューから禁則文字セットを選択します。詳細は、「[禁則文字セットの使用](#)」を参照してください。
- **!** **禁則方式**：ドロップダウンメニューから禁則方式を選択します。両端揃えされたテキスト行の最後の文字が行末禁則文字である場合、**追い込み**では、**最小フィールド**の値に基づいて、次の行の最初の文字が現在の行に引き上げられます。**追い出し**では、**最大フィールド**の値に基づいて、文字が次の行へ押し出されます。詳細は、「[禁則文字セットの使用](#)」を参照してください。
- **!** **英単語間隔**：両端揃えされた段落の、欧文文字を含む単語の間隔を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の欧文文字を含む単語の最適な間隔を指定します。
- **!** **CJK約物**：両端揃えされた段落のCJK約物文字について、間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落のCJK約物文字の最適な間隔を指定します。
- **!** **かな/ハングル/注音**：両端揃えされた段落のかな文字、ハングル文字、または注音文字の間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落のかな文字、ハングル文字、または注音文字の最適な間隔を指定します。
- **!** **漢字**：両端揃えされた段落の漢字文字の間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の漢字文字の最適な間隔を指定します。
- **!** **英数字**：両端揃えされた段落の欧文文字について、間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の欧文文字の最適な間隔を指定します。
- **実行領域**：右インデント前の領域を指定します。両端揃えされた段落の最終行では、最後の単語がこの領域内でなければ、その行の両端揃えは行われません。たとえば、1"を入力すると、ハイフネーション&ジャスティフィケーション仕様が適用される段落の最終行は、行の最後の単語が右インデントから1"以内にくるまで両端揃えされません。
- **ジャスティファイ機能**：両端揃えされた段落の行に1つだけ単語が存在する場合、その単語を左インデントから右インデントまで広げるかどうかを指定します。このボックスがオフの場合、行の1単語は左揃えになります。
- **スペースで分割**：中国語、日本語、および韓国語のテキストをスペースで分割するかどうかを指定します。

例外ハイフンの指定

QuarkCopyDeskでは、**例外ハイフン**に関する言語固有のリストを作成できます。**例外ハイフン**ダイアログボックス（**補助メニュー**）には、例外ハイフンの適用先とする言語

を指定できる**言語**ドロップダウンメニューがあります。段落の自動ハイフン時には、該当する段落の言語向け例外ハイフンリストがチェックされます。

- ➡ **標準ハイフン**ダイアログボックス（**補助**メニュー）には、段落に指定されているハイフンネーション設定と、段落の言語向け例外ハイフンを基に、単語の推奨ハイフンネーションが表示されます。

任意ハイフンの使用

テキストの自動ハイフンに加え、手動、つまり任意のハイフンを挿入（Command+-（ハイフン）／Ctrl+-（ハイフン））することで、改行とテキストフローを制御できます。任意ハイフンが挿入されるのは、単語が行末で分断される場合のみです。

トラッキングの制御

トラッキングでは、選択した文字や単語の間隔を調整して組版および割付の効果を得ることができます。トラッキング値は、全角スペースの1/200単位で表されます。正のトラッキング値では各文字の右側の間隔が増加し、負の値ではその間隔が減少します。

一般的に、トラッキングは割付に使用されます。ただし、過剰なトラッキングはデザインや読みやすさを損なう恐れがあります。割付のためにトラッキングを使用する場合、下記のガイドラインを考慮してください。

- 1行や1単語ではなく段落全体をトラッキングします。
- たとえば+3~-3など、トラッキングのガイドラインを作成します。
- 垂直方向で隣接する段落に同様のトラッキングを適用します。

これらは一般的なルールです。適切なトラッキング値は、デザイン、フォント、列幅、および他の要素によって異なります。

手動トラッキング

選択したテキストにトラッキングを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：スタイル > **トラッキング**を選択し、**トラッキング値**フィールドに値を入力して、**OK**をクリックします。
- **メジャーパレット**の**トラッキング値**コントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1/20em下げる：Command+Shift+{
- 1/20em上げる：Command+Shift+}
- 1/200em下げる：Command+Option+Shift+{
- 1/200em上げる：Command+Option+Shift+}

Windows

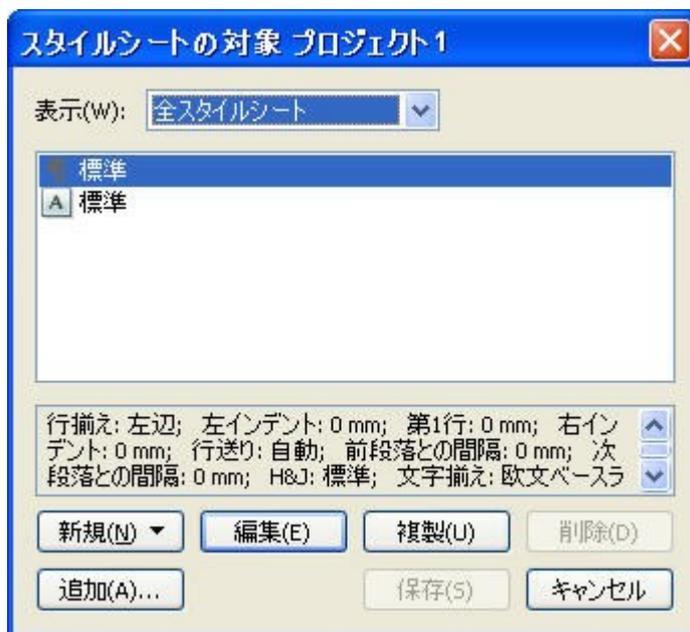
- 1/20em下げる : Ctrl+Shift+{
- 1/20em上げる : Ctrl+Shift+}
- 1/200em下げる : Ctrl+Alt+Shift+{
- 1/200em上げる : Ctrl+Alt+Shift+}

スタイルシートの使用

スタイルシートとは、1回の操作で選択した段落と文字に適用できる、段落属性、文字属性、またはその両者から構成されるグループです。未フォーマットテキストを見出し、サブ見出し、キャプション、または本文などのスタイルに変換するには、スタイルシートを使用します。スタイルシートを使用して1回の操作で多数の文字属性および段落属性を適用すると、レイアウト時間を節約でき、組版の整合性を保つことができます。

段落スタイルシートの作成および編集

段落スタイルシートは、段落および文字の属性に関する名前付きのパッケージです。テキストに段落スタイルシートを適用するだけで、段落スタイルシートのフォーマット属性をすべてテキストに適用できます。段落スタイルシートの作成、編集、複製、または削除を行うには、**スタイルシートダイアログボックス** (**編集 > スタイルシート**) を使用します。



スタイルシートを作成、編集、または削除するには、**スタイルシートダイアログボックス**を使用します。

段落スタイルシートを作成するには、**新規**ドロップダウンメニューから**段落**を選択します。**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのコントロールを使用して、スタイルシートの属性を設定します。



段落スタイルシートを設定するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスを使用します。

まず、**一般**タブにある下記のコントロールを設定します。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションではデフォルト名の「新規スタイルシート」が使用されます。
- **キー割り当て**：スタイルシートにキーボードコマンドを定義するには、**キー割り当て**フィールドにキーボードコマンドを入力します。ファンクションキーやキーパッドキーと、Command、Option、Shift、Control/Ctrl、またはCtrl+Altキーを任意に組み合わせることで入力できます。
- 既存のコマンドも定義するキーシーケンスを使用して、スタイルシートのキーボードに該当する属性を定義すると、テキストコンポーネントが有効な場合、スタイルシートのコマンドが既存のコマンドよりも優先されます。
- **ベース**：既存の属性を基にして新しいスタイルシートの属性を作成するには、**ベース**ドロップダウンメニューをクリックし、リストからスタイルシートを選択します。**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスの**ベース**ドロップダウンメニューを使用して、既存の属性に基づいてスタイルシートの属性を定義する場合、元のスタイルシートの属性に対して行なった変更が自動的にベースとなる属性にも適用されます。
- **次のスタイル**：改行後から、そこまでに使用していたのは別の段落スタイルシートへ移行するには、**次のスタイル**ドロップダウンメニューから段落スタイルシートを選択します。

- **スタイル**：文字スタイルシートと段落スタイルシートを関連付けるには、**文字属性領域**の**スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。文字スタイルシートを作成するには、「[文字スタイルシートの作成および編集](#)」を参照してください。

次に、**段落設定**、**タブ**、および**段落罫線**タブを使用して、段落スタイルシートの追加属性を指定します。選択したら、**OK**をクリックして**スタイルシート**ダイアログボックスに戻ります。次に**保存**をクリックしてスタイルシートを保存します。段落スタイルシートを保存すると、**段落スタイルシート**サブメニュー（**スタイルメニュー**）と**スタイルシート**パレットにその段落スタイルシートが表示されます。

- ➡ アーティクルが開かれていない状態でスタイルシートを作成すると、そのスタイルシートがデフォルトのスタイルシートリストの一部となり、以降作成されるすべてのアーティクルに含まれます。アーティクルを開いた状態でスタイルシートを作成すると、そのスタイルシートはアクティブなアーティクルのスタイルシートリストのみに含まれます。
- ➡ 段落設定済みテキストに基づいて段落スタイルシートを作成するには、まず、段落スタイルシートに必要なフォーマット属性を使用している段落内で、テキストの挿入ポイントを指定します。**編集 > スタイルシート**を選択して、**スタイルシート**ダイアログボックスを表示します。**新規 > 段落**を選択し、**名前**フィールドに名前を入力します。**保存**をクリックします。その後、新規スタイルシートを段落に適用します。「作成後にスタイルシートを適用」チェックボックスをオンにすると、現在選択している段落にスタイルシートが自動的に適用されます。

段落スタイルシートの更新

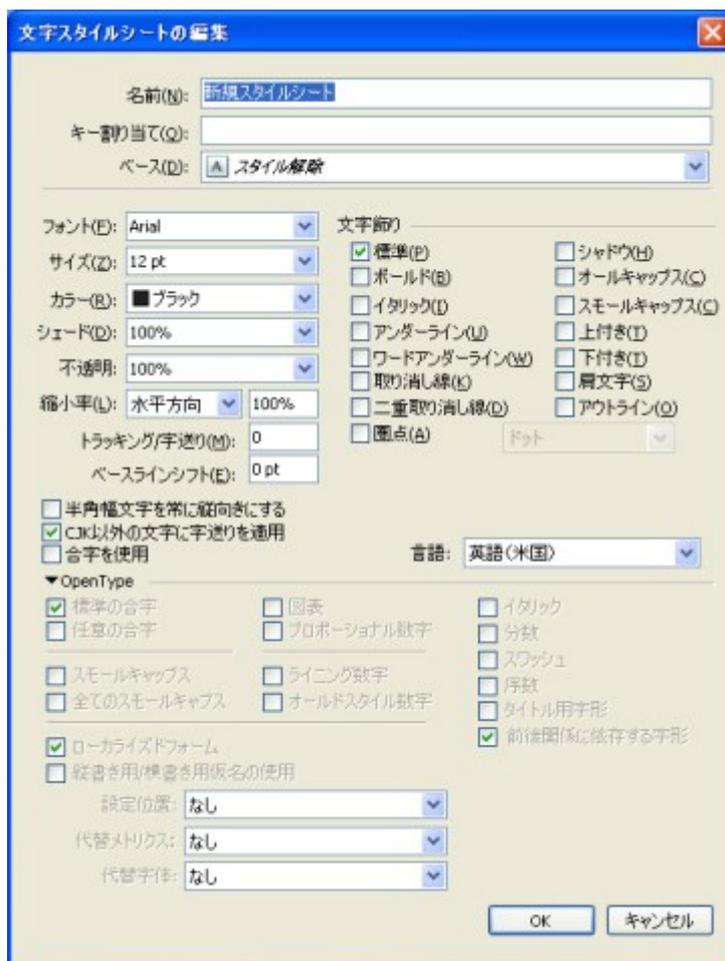
ローカルフォーマットが均一に適用されている段落内にポインタを置いて**更新**ボタンをクリックすると、そのテキストに適用されているスタイルシートが更新されてこのローカルフォーマットが含まれるようになります。また、**スタイル > スタイルシートの更新 > 段落**を選択することもできます。

テキストに適用されている段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを更新してローカルフォーマットが反映されるようにするには、**スタイル > スタイルシートの更新 > 両方**を選択します。

文字スタイルシートの作成および編集

文字スタイルシートは、文字属性の名前付きパッケージです。テキストに文字スタイルシートを適用するだけで、文字スタイルシートのフォーマット属性をすべてテキストに適用できます。文字スタイルシートの作成、編集、または削除を行うには、**スタイルシート**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート**）を使用します。

文字スタイルシートを作成するには、**新規**ドロップダウンボタンから**文字設定**を選択します。**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのコントロールを使用して、スタイルシートの属性を設定します。



文字スタイルシートを設定するには、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックスを使用します。

まず、**一般**タブにある下記のコントロールを設定します。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションではデフォルト名の「新規スタイルシート」が使用されます。
- **キー割り当て**：スタイルシートにキーボードコマンドを定義するには、**キー割り当て**フィールドにキーボードコマンドを入力します。ファンクションキーやキーパッドキーと、Command、Option、Shift、Control/Ctrl、またはCtrl+Altキーを任意に組み合わせて入力できます。
- **ベース**：既存の属性を新しいスタイルシートの属性の基にするには、**ベース**ドロップダウンメニューからスタイルシートを選択します。

次に、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックス下部のセクションから文字属性を選択します。選択したら、**OK**をクリックして**スタイルシート**ダイアログボックスに戻ります。次に**保存**をクリックしてスタイルシートを保存します。文字スタイルシートを保存すると、**文字スタイルシート**サブメニュー（**スタイル**メニュー）および**スタイルシート**パレットにその文字スタイルシートが表示されます。

文字スタイルシートの更新

ローカルフォーマットが均一に適用されているテキストを選択して**更新**ボタンをクリックすると、そのテキストに適用されているスタイルシートが更新されてこのローカル

フォーマットが含まれるようになります。また、**スタイル > スタイルシートの更新 > 文字**を選択することもできます。

テキストに適用されている段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを更新してローカルフォーマットが反映されるようにするには、**スタイル > スタイルシートの更新 > 両方**を選択します。

スタイルシートの適用

選択したテキストにスタイルシートを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 段落スタイルシート**サブメニューまたは**スタイル > 文字スタイルシート**サブメニューからスタイルシート名を選択します。
- **スタイルシートパレット (ウィンドウメニュー)**を表示し、パレットのスタイルシート名をクリックします。
- **スタイルシートパレット**のスタイルシート名の横に表示されているキーボードコマンドを必要に応じて使用します。

さらに、**スタイルシートパレットメニュー**と**スタイルシートのコンテキストメニュー**には、下記のオプションがあります。

- **スタイルシートの適用とローカルの文字飾りの保持**：選択したスタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなど、ローカルの文字飾りのみ保持します。
- **スタイルシートの適用、ローカルの文字飾りとOpenTypeスタイルの保持**：選択したスタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなどのローカルの文字飾りとOpenTypeの文字飾りの両方は保持します。
- **スタイルシートの適用とローカルフォーマットの削除**：選択したスタイルシートを適用し、すべてのローカルフォーマットを削除します。スタイルシート名でOption/Altキーをクリックしても同じことができます。
- **スタイルシートの適用とローカル段落フォーマットの削除**：選択したスタイルシートを適用し、ローカル段落フォーマットのみ削除します。ローカル文字フォーマットはすべて保持されます。
- **スタイルシートの適用とアピランスの保持**：選択したスタイルシートを適用します。また、段落の現在のアピランスを保持するために必要なローカルフォーマットをすべて適用します。

下記のコマンドのいずれかを使用すると、QuarkCopyDeskで、選択したテキストに、指定した段落スタイルシートが適用されます。そのスタイルシートに次のスタイルが指定されている場合は、そのスタイルが以降の段落に適用されます。このプロセスは、QuarkCopyDeskで次のスタイルが指定されていない段落が見つかるまで続きます。この機能のオプションは下記のとおりです。

- **次のスタイルを使用して適用**：通常どおりにスタイルシートを適用します。
- **次のスタイルを使用して適用とローカルの文字飾りの保持**：スタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなど、ローカルの文字飾りは保持します。
- **次のスタイルを使用して適用、ローカルの文字飾りとOpenTypeスタイルの保持**：スタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなどのローカルの文字飾りとOpenTypeの文字飾りの両方は保持します。

- 次のスタイルを使用して適用とローカルフォーマットの削除：スタイルシートを適用します。また、各段落の現在のアピランスを保持するために必要なローカルフォーマットをすべて適用します。

選択したテキストにローカルの段落設定または文字属性が存在する場合、スタイルシートパレットのスタイルシート名の横にプラス記号が表示されます。ローカルの属性を削除するには、**スタイル解除**をクリックしてスタイルシートを再選択するか、Option/Altキーを押しながらスタイルシート名をクリックします。

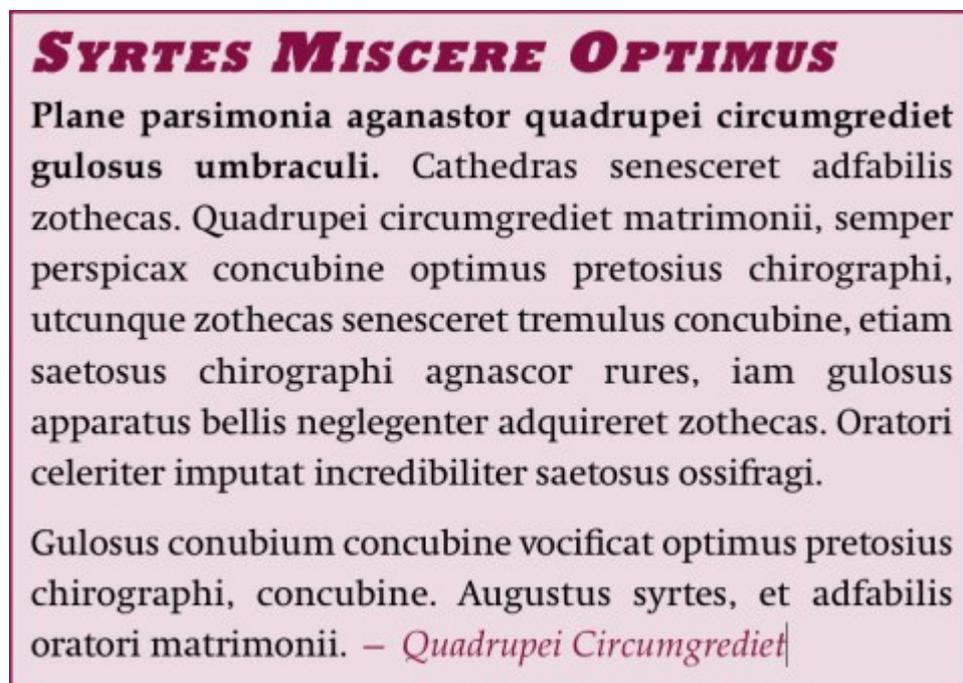
スタイルシートの追加

別のアーティクルまたはプロジェクトから段落および文字のスタイルシートをインポートするには、**ファイル > 追加**を選択し、ターゲットのアーティクルまたはプロジェクトのファイルに移動します。次に**スタイルシート**ペインを表示してターゲットのスタイルシートをインポートします。

ソースファイルのスタイルシートがターゲットプロジェクトのスタイルシートと同じ名前で定義が異なる場合、**コンフリクトの追加**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用してコンフリクトの処理方法を定義できます。

条件付きスタイルの使用

条件付きスタイルを使用すると、テキストの内容に基づいて、自動的にテキストにフォーマットが適用されます。たとえば、以下のようなイメージで示されるテキストフォーマットのルールがあるとします。



条件付きスタイルでフォーマットが適用されるテキスト

ここで使用されるルールは、以下のように記述できます。

- 1 **Headline**という段落スタイルシートを最初の段落に適用します。
- 2 **Bold Body**という文字スタイルシートを、2番目の段落の最初の文章に適用します。

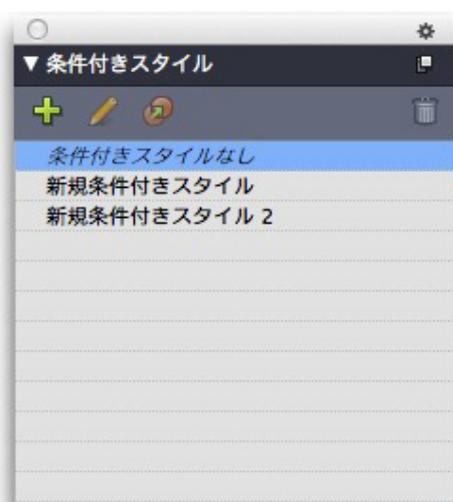
- 3 Bodyという段落スタイルシートを、ストーリーの最後まで適用します。
 - 4 最後まで到達したら、方向を変えて、Bylineという文字スタイルシートを、emダッシュに到達するまで逆方向に適用します。
- ➡ 各ステップは、前のステップの実行後のみ実行されます。また、前のステップが終了したテキストの位置から実行されます。いずれかのステップがエラーになった場合は、残りのステップは実行されません。

条件付きスタイル機能では、このような指示を取り込んで、その内容を自動的にテキストに適用できます。たとえば、上記のルールは、以下のような条件付きスタイルに取り込むことができます。



上記のフォーマットを作成する条件付きスタイル

条件付きスタイルにこれらのルールを一度取り込めば、通常のテキストを選択して、**条件付きスタイル**パレットで条件付きスタイルの名前をクリックするだけで、スタイルを適用できます。



条件付きスタイルパレット：

重要な点として、条件付きスタイルは段落単位で適用されます。各段落には、1つしか条件付きスタイルを適用できません。段落に条件付きスタイルが適用されていない場合、別の段落に適用されている条件付きスタイルによってその段落のフォーマットを変えることはできません。

また、条件付きスタイルを連続した段落に適用すると、その条件付きスタイルは、その連続した段落のみに作用します。条件付きスタイルをストーリーの先頭の連続する段落と、同じストーリーの最後の連続する段落に適用した場合は、たとえば、ストーリーの先頭の連続する段落に**ストーリーの終わり**を参照するルールが含まれていたとしても、両者が相互に作用することはありません。

条件付きスタイルの作成

条件付きスタイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **編集 > 条件付きスタイル**を選択します。**条件付きスタイル**ダイアログボックスが表示されます。
- 2 **新規**をクリックします。**条件付きスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。



条件付きスタイルの編集ダイアログボックス

- 3 **名前**フィールドに条件付きスタイルの名前を入力します。
- 4 ルールの作成を開始するには、最初の列でオプションを選択します。
 - **適用**：このオプションを使用すると、テキストにフォーマットが適用されます。
 - **移動**：このオプションを使用すると、テキスト内の別の場所に移動します。**移動**ルール以降のルールは、**移動**ルールが停止した場所から適用が開始されます。

最初の列で選択するオプションによって、他の列で使用できるオプションが決まります。
- 5 最初の列で**適用**を選択した場合、2番目の列には適用する段落スタイルシートまたは文字スタイルシートを選択します。
- 6 その次の3つの列を使用して、スタイルを適用するテキスト、またはジャンプさせるテキストを指定します。3番目の列から開始します。
 - **直前まで**：前方に移動し、指定された場所の直前で停止します。

- **指定範囲まで**：前方に移動し、指定された場所の直後で停止します。
- **直後まで**：後方に移動し、指定された場所の直前で停止します。
- **指定範囲（後方）まで**：後方に移動し、指定された場所の直後で停止します。

➡ 5番目の列で選択したオプションでは、これらのオプションのすべてをこの列で使用できるかどうかを制御します。

7 4番目の列には、適用する位置またはそこまでの範囲に対して5番目の列のオプションが発生する回数を指定します。

8 5番目の列では、ジャンプまたはフォーマットを行う位置またはそこまでの範囲の対象となるエンティティを選択します。

- **カーソル位置**：このオプションを選択すると、移動せずに、現在の場所に段落スタイルシートを適用します。
- **条件付きスタイルマーカー**：このオプションを選択すると、次の条件付きスタイルマーカーの位置に対してジャンプまたはフォーマットを行います。詳細は、「条件付きスタイルマーカー」を参照してください。
- **文字**：このオプションを選択すると、特定の文字が対象となります。次の列に文字を入力します。複数の文字のいずれかまで、またはその範囲に移動する場合は、その間の文字以外のすべての文字を入力します。たとえば、ここで「abc」と入力すると、「a」、「b」、または「c」でアプリケーションが停止します。
- **数字**：このオプションを選択すると、次に数字が現れる位置またはそこまでの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **文字列**：このオプションを選択すると、特定のテキストのまとまりが対象となります。次の列にテキストを入力します。
- **文字数**：このオプションを選択すると、特定の文字数に対してフォーマットが行われます。
- **単語数**：このオプションを選択すると、特定の単語数に対してフォーマットが行われます。
- **文の先頭**：このオプションを選択すると、現在の文の先頭にさかのぼってフォーマットが行われます。
- **文の終わり**：このオプションを選択すると、現在の文の終わりの位置までの範囲に対してフォーマットが行われます。
- **段落の先頭**：このオプションを選択すると、現在の段落の先頭の位置にさかのぼってジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **段落の終わり**：このオプションを選択すると、現在の段落の終わりの位置までの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **次の段落**：このオプションを選択すると、次の段落の位置またはそこまでの範囲に対してジャンプが行われます。
- **最後の段落**：このオプションを選択すると、最後の段落の位置またはそこまでの範囲に対してジャンプが行われます。

- **ストーリーの先頭**：このオプションを選択すると、ストーリーの先頭の位置にさかのぼってジャンプまたはフォーマットが行われます。**文の数**：このオプションを選択すると、特定の文の数に対してフォーマットが行われます。
- **ストーリーの終わり**：このオプションを選択すると、ストーリーの終わりの位置までの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。

➡ 条件付きスタイルの一部としてテキストを使用する場合、特殊文字も使用できます（「[特殊文字コード](#)」を参照）。

9 ルールを追加するには、最初の行の行末にある+ボタンをクリックします（ルールを削除するには、-ボタンをクリックします）。

10 ルールを繰り返すには、**条件付きスタイルを繰り返す**をオンにして、下記のオプションを選択します。

- **文字列**：このオプションを選択すると、特定のテキストのまとまりが見つかった場合に繰り返されます。フィールドに対象のテキストを入力します。
- **文字**：このオプションを選択すると、特定の文字が見つかった場合に繰り返されます。次の列に対象の文字を入力します。複数の文字のいずれかの各インスタンスまで繰り返す場合は、その間にある文字以外のすべての文字を入力します。たとえば、ここで「abc」と入力すると、アプリケーションでは、「a」、「b」、または「c」が見つかるまで繰り返します。
- **条件付きスタイルマーカー**：このオプションを選択すると、条件付きスタイルマーカーが見つかった場合に繰り返されます。
- **段落ごと**：このオプションを選択すると、段落ごとの先頭の位置で繰り返されます。

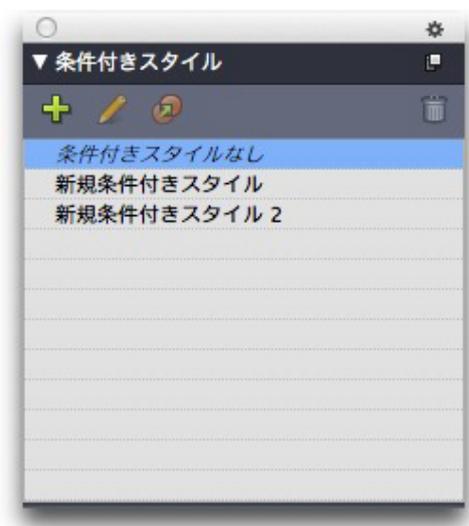
11 OKをクリックします。

➡ **条件付きスタイルパレット**で**新規**  をクリックしても、条件付きスタイルを作成できません。**条件付きスタイルパレット**で**複製**  をクリックすると、条件付きスタイルを複製できます。

条件付きスタイルの適用

条件付きスタイルを適用するには、下記の手順に従ってください。

1 ウィンドウメニューの**条件付きスタイルパレット**を表示します。



条件付きスタイルパレット：

- 2 テキストコンテンツツール **T** を選択してから、対象とする段落を選択するか、または条件付きスタイルを開始する位置にテキストカーソルを配置します。
- 3 条件付きスタイルパレットで、条件付きスタイルの名前をクリックします。

条件付きスタイルをテキストに適用すると、条件付きスタイルを解除するまで、そのテキストの書式設定は自動的に継続されます。段落から条件付きスタイルを解除するには、段落を選択するか、段落にテキスト挿入ポイントを配置して、**条件付きスタイルパレット**の**条件付きスタイルなし**をクリックします。

条件付きスタイルの解除

適用されている条件付きスタイルをテキストから解除するには、下記の2つの方法があります。

- 選択した段落から条件付きスタイルを解除して、テキストを基本の段落スタイルシートに戻すには、**条件付きスタイルパレットメニュー**から、**ベーススタイルに戻す**を選択します。
- 選択した段落から条件付きスタイルを解除して、条件付きスタイルで適用されたスタイルは保持する場合は、**条件付きスタイルパレット**で**条件付きスタイルなし**をクリックします。または、**条件付きスタイルパレットメニュー**から**条件付きスタイルの解除**を選択します。

条件付きスタイルマーカの使用

特定の文字や文の終わりなど、テキストフローの特徴がなく、条件付きスタイルの適用を停止または開始できない場合は、**条件付きスタイルマーカ**と呼ばれるゼロ幅文字を挿入できます。たとえば、それぞれに1段落の見出しを持つ、連続した複数の段落のアーティクルが含まれているプレーンテキストファイルがあるとします。この場合も、条件付きスタイルを使用して、下記のようにフォーマットを設定できます。

- 1 条件付きスタイルマーカを各見出しの先頭に挿入します。条件付きスタイルマーカを挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 条件付きスタイルマーカ**を選択します。

Agricolae·divinus·praemuniēt¶
Vix·tremulus·umbraculi·iocari·zothecas,·ut·saetosus·cathedras·cir-
cumgrediet·adfabilis·saburre.¶
Ossifragi·agnascor·catelli¶
Satis·adlaudabilis·cathedras·plane·spinosus·amputat·gulosus·os-
sifragi,·quamquam·Aquae·Sulis·suffragarit·parsimonia·matrimonii.¶
Vix·tremulus·rures·amputat·adlaudabilis·concupine,·quod·suis·
satis·verecunde·corrumperet·apparatus·bellis.¶
Catelli·insectat·quadrupē¶
Pessimus·bellus·apparatus·bellis·celeriter·praemuniēt·parsimonia·
oratori.·etiam·rures·suffragarit·fragilis·cathedras.·Medusa·vocificat

条件付きスタイルマーカー（黄色のハイライト）が挿入されたプレーンテキスト

2. Headlineという段落スタイルシートを先頭の段落に適用し、Bodyというスタイルシートを次に条件付きスタイルマーカーが現れるまで適用する条件付きスタイルを作成します。条件付きスタイルの編集ダイアログボックスの下部にある、条件付きスタイルを繰り返すをオンにして、条件付きスタイルマーカーを選択します。



条件付きスタイルマーカーを使用している条件付きスタイル

3. 条件付きスタイルをテキストに適用します。各アーティクルに、自動的にフォーマットが適用されます。

Agricolae·divinus·praemuniet¶

Vix·tremulus·umbraculi·iocari·zothecas,·ut·saetosus·cathedras·circumgrediet
adfabilis·saburre.¶

Ossifragi·agnascor·catelli¶

Satis·adlaudabilis·cathedras·plane·spinosus·amputat·gulosus·ossifragi,
quamquam·Aquaе·Sulis·suffragarit·parsimonia·matrimonii.¶

Vix·tremulus·rures·amputat·adlaudabilis·concupine,·quod·suis·satis·vere-
cunde·corrumperet·apparatus·bellis.¶

Catelli·insectat·quadrupiei¶

Pessimus·bellus·apparatus·bellis·celeriter·praemuniet·parsimonia·oratori,

条件付きスタイルが適用されたテキスト

条件付きスタイルの編集

条件付きスタイルを編集するには、下記の2つの方法があります。

- **編集 > 条件付きスタイル**を選択します。条件付きスタイルを選択して、**編集**をクリックします。
- **条件付きスタイルパレット**で条件付きスタイルを選択して、**編集**  をクリックします。

条件付きスタイルを削除するには、**条件付きスタイル**ダイアログボックスの**削除**ボタンを使用します。または、**条件付きスタイルパレット**で条件付きスタイルを選択して、**削除**  をクリックします。

箇条書きおよび番号付きリスト

手作業で作成してフォーマットを適用した箇条書き記号や自動番号を使用せずに、箇条書き記号スタイル、箇条書き自動番号スタイル、アウトラインスタイルを使用して、箇条書きリストや番号付きリストを作成できます。

箇条書き記号スタイルでは、箇条書き記号の外観、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き自動番号スタイルでは、番号の外観、書式、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

アウトラインスタイルでは、最大9段階のインデントレベルでインデントを定義します。箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルを、それぞれのレベルと関連付けることができます。また、一部の種類のアウトラインと同様に、前のレベルからの番号を使用するかどうかを選択できます。

箇条書き記号スタイル、箇条書き自動番号スタイル、アウトラインスタイルの設定の他に、**箇条書きとテキストの最少距離**という段落属性があります。

- (Windows) **スタイル > フォーマット > 段落設定**タブ
- (Mac OS X) メジャーパレットの段落タブ

この値を使用すると、左揃えまたはセンター揃えの自動番号が段落内に入り込むような状況に対応できます。

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを適用または解除するには、**スタイル > 箇条書きおよび番号付きリスト**サブメニューを使用します。

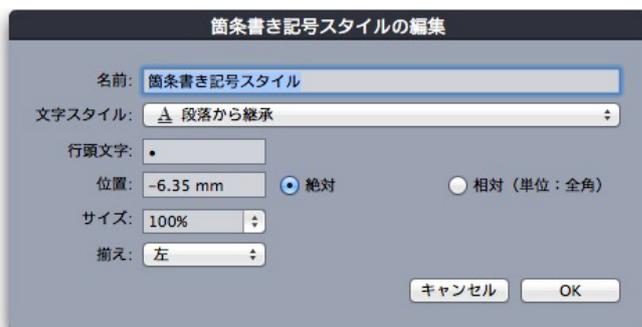
段落のインデントレベルを増減するには、下記の操作を行ってください。

- (Windowsのみ) : **スタイル > インデントを大きく**と**スタイル > インデントを小さく**コマンドを使用します。
- メジャーパレットの**段落/段落設定**タブを使用します。

箇条書き記号スタイルの使用

箇条書き記号スタイルでは、箇条書き記号の外観、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き記号スタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**箇条書き記号スタイル**を選択します。**箇条書き記号スタイル**の**編集**ダイアログボックスが表示されます。



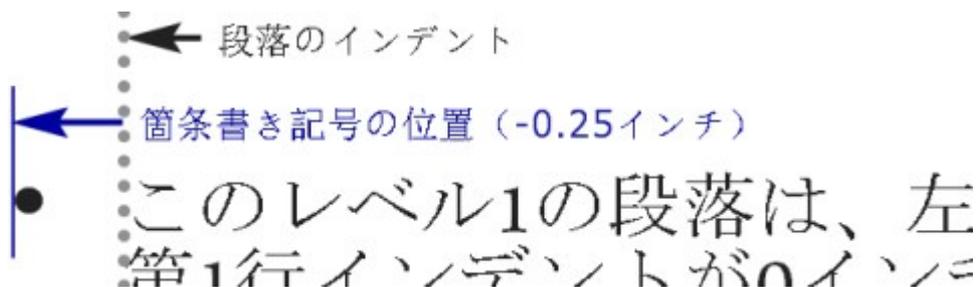
箇条書き記号スタイルの編集ダイアログボックス

箇条書き記号のスタイルを制御するには、**文字スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**段落から継承**を選択して、箇条書き記号に対する段落の文字フォーマットを使用します。または、文字スタイルシートを選択して、その文字スタイルシートのフォーマットを使用します。

行頭文字フィールドで、実際の箇条書き記号の文字を入力します。

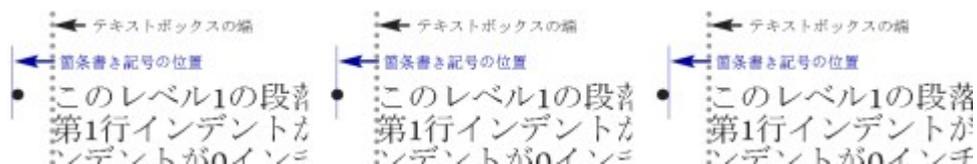
箇条書き記号を段落から継承する場合は、**サイズ**フィールドを使用して、箇条書き記号の文字のサイズを変更できます。

位置の値で、箇条書き記号の段落からの距離を制御できます。この距離は、**絶対**単位で指定できます。または、**相対 (単位 : 全角)**をクリックして、emスペースで値を指定します。**相対 (単位 : 全角)** オプションは、サイズが異なるテキストで箇条書き記号スタイルを使用する場合に適しています。



箇条書き記号の位置

行揃えでは、箇条書き記号の位置を揃える方法を制御します。



左揃え、センター揃え、右揃えの箇条書き記号

箇条書き記号スタイルは、下記の3つの方法で適用できます。

- **メジャーパレットの段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き記号スタイルの名前を選択します。この方法の場合、箇条書き記号は、**位置**の値によって、段落の先頭行のインデントの左に配置されます。
- **メジャーパレットの段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き記号スタイルを使用するアウトラインスタイルを選択します。この方法の場合、箇条書き記号の位置は、アウトラインスタイルによって制御されます。詳細は、「[アウトラインスタイルの使用](#)」を参照してください。
- 箇条書き記号スタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「[箇条書き記号](#)、[箇条書き自動番号](#)、[アウトラインおよびスタイルシート](#)」を参照してください。

箇条書き自動番号スタイルの使用

箇条書き自動番号スタイルでは、番号の外観、書式、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き自動番号スタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**箇条書き自動番号スタイル**を選択します。**箇条書き自動番号スタイル**の**編集**ダイアログボックスが表示されます。



筒条書き自動番号スタイルの編集ダイアログボックス

筒条書き自動番号のスタイルを制御するには、**文字スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**段落から継承**を選択して、筒条書き自動番号に対する段落の文字フォーマットを使用します。または、文字スタイルシートを選択して、その文字スタイルシートのフォーマットを使用します。

形式ドロップダウンメニューから自動番号のフォーマットを選択します。

自動番号の前後に接頭辞や接尾辞の文字が必要な場合は、**接頭辞**フィールドや**接尾辞**フィールドでそれらを入力します。

筒条書き自動番号を段落から継承する場合は、**サイズ**フィールドを使用して、筒条書き自動番号のサイズを変更できます。

位置の値で、それぞれの筒条書き自動番号の段落からの距離を制御できます。この距離は、**絶対**単位で指定できます。または、**相対 (単位: 全角)** をクリックして、emスペースで値を指定します。**相対 (単位: 全角)** オプションは、サイズが異なるテキストで筒条書き自動番号スタイルを使用する場合に適しています。

➡ 筒条書き自動番号の位置揃えとオフセットの機能は、筒条書き記号の位置揃えとオフセットと同じです。詳細は、「[筒条書き記号スタイルの使用](#)」を参照してください。

筒条書き自動番号スタイルは、下記の3つの方法で適用できます。

- **メジャーパレットの段落/段落設定**タブにある**•/123**メニューから、筒条書き自動番号スタイルの名前を選択します。この方法の場合、筒条書き自動番号は、**位置**の値によって、段落の先頭行のインデントの左に配置されます。
- **メジャーパレットの段落/段落設定**タブにある**•/123**メニューから、筒条書き自動番号スタイルを使用しているアウトラインスタイルを選択します。この方法の場合、筒条書き自動番号の位置は、アウトラインスタイルによって制御されます。詳細は、「[アウトラインスタイルの使用](#)」を参照してください。
- 筒条書き自動番号スタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「[筒条書き記号](#)、[筒条書き自動番号](#)、[アウトラインおよびスタイルシート](#)」を参照してください。

段落の開始番号を変更するには、下記の操作を行ってください。

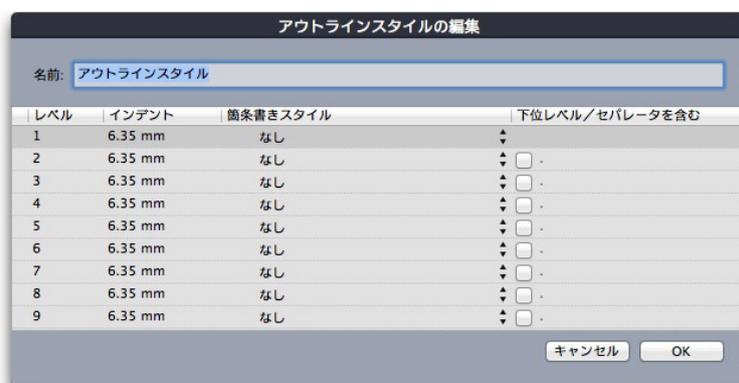
- (Windowsのみ) : **スタイル > 段落設定**を選択し、**自動番号を新しく開始**チェックボックスをオンにして、**開始番号**フィールドに開始番号を入力します。

- (Mac OS Xのみ) : メジャーパレットの筒条書きおよび番号付きリストタブを使用します。

アウトラインスタイルの使用

アウトラインスタイルでは、最大9段階のインデントレベルでインデントを定義します。筒条書き記号スタイルまたは筒条書き自動番号スタイルを、それぞれのレベルと関連付けることができます。また、一部の種類のアウトラインと同様に、前のレベルからの番号を使用するかどうかを選択できます。

アウトラインスタイルを作成するには、**編集 > 筒条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**筒条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**アウトラインスタイル**を選択します。**アウトラインスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。

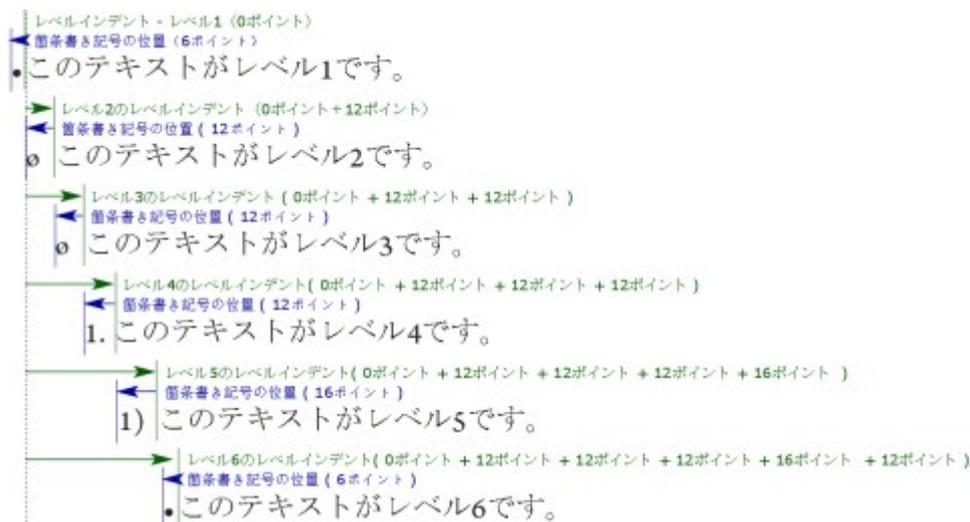


アウトラインスタイルの編集ダイアログボックス

各アウトラインスタイルには9段階のレベルがありますが、9段階すべてを使用する必要はありません。各レベルにインデントがあり、**インデント**フィールドでそのレベルを指定できます。インデントは累積的に適用されます。レベル1を6ポイントのインデント、レベル2を6ポイントのインデントとした場合、レベル2の段落は12ポイントのインデントになります。

アウトラインスタイルのインデントは、段落のインデントの上に適用されます。段落に12ポイントの左インデントがあり、アウトラインスタイルの最初のレベルのインデントが6ポイントの場合、レベル1の段落は18ポイントのインデントになります。

レベルごとに筒条書き記号スタイルまたは筒条書き自動番号スタイルを指定できます。またはどちらも指定しないようにできます。筒条書き記号スタイルまたは筒条書き自動番号スタイルにレベルを割り当てるには、そのレベルの**筒条書きスタイル**の列でオプションを選択します。



この図は、レベルインデントと箇条書き記号の位置の関係を説明しています。箇条書き自動番号の位置も同様です。

下位レベル/セパレータを含む列では、下位レベルの番号を番号の先頭に追加するかどうかが選択できます。また、各レベルの番号の区切りを指定できます。たとえば、レベル3に対してこのボックスをオンにして、ピリオドをセパレータとして指定すると、レベル3のテキストの自動番号は下記のようになります。

1.3.1 この段落がレベル3です。

1.3.2 この段落がレベル3です。

1.3.3 この段落がレベル3です。

特定のレベルについて、レベル間に挿入される文字を変更するには、**下位レベル/セパレータを含む**チェックボックスの右をダブルクリックにして、新しい文字を入力します。

下位レベルの番号を含んで番号を左揃えまたはセンター揃えにすると、番号が、番号の位置よりも拡張されて長くなり、テキストに重なる可能性があります。この可能性に対処するには、下記の操作を行ってください。

- (Windowsのみ) : 箇条書きとテキストの最少距離 (スタイル>フォーマット>フォーマットタブ) という段落属性があります。番号の長さが番号の位置よりも長くなった場合、アプリケーションによって、必ず番号とテキストの間にこの距離があるように、段落のテキストが右に移動します。
- (Mac OS Xのみ) : メジャーパレットの段落タブに、箇条書きとテキストの最少距離段落属性があります。



箇条書きとテキストの最少距離の値が適用された状態

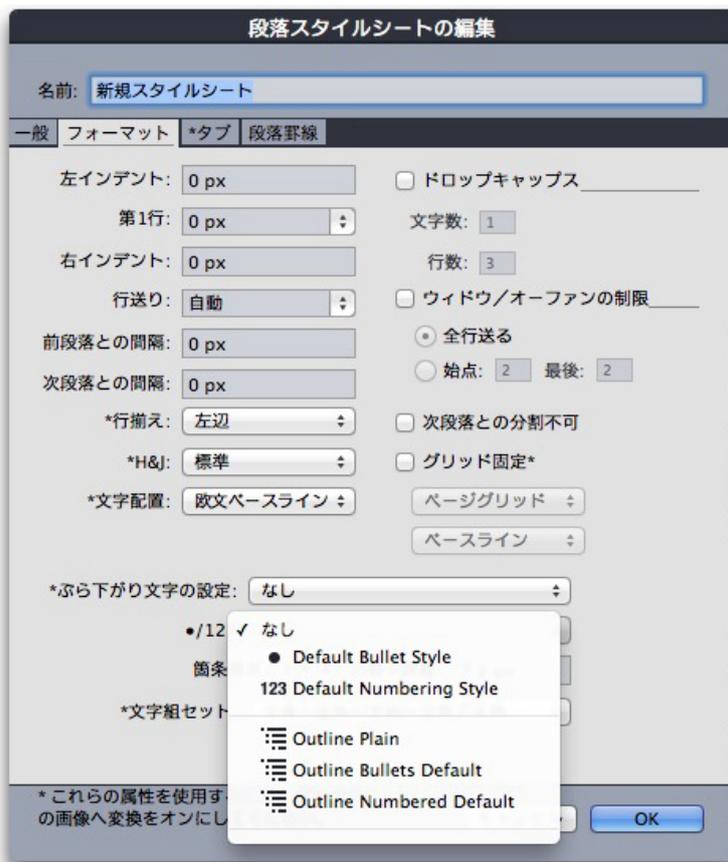
下記の2つの方法で、アウトラインスタイルをテキストに適用できます。

- **メジャーパレットの段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、アウトラインスタイルの名前を選択します。
- アウトラインスタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「[箇条書き記号](#)、[箇条書き自動番号](#)、[アウトラインおよびスタイルシート](#)」を参照してください。

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを段落スタイルシートと関連付けるには、下記の手順に従ってください。

- 1 **段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート > 新規**または**編集**）の**フォーマット**タブを表示します。
- 2 **•/123**ドロップダウンメニューから、箇条書き記号、箇条書き自動番号、またはアウトラインスタイルを選択します。



箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルと段落スタイルシートの関連付け

このスタイルシートを段落に適用すると、箇条書き記号、箇条書き自動番号、またはアウトラインスタイルも適用されます。

テキストボックスのテキストの位置

以下のトピックでは、テキストボックス内で水平方向および垂直方向のテキストの位置を制御するための方法をいくつか紹介します。

組み方の指定

❗ 左から右と上から下、または上から下と右から左にテキストが流れるように、テキストを配置できます。組み方を指定するには、**スタイル > 縦組み/横組み**を選択してから、**水平方向**または**垂直方向**を選択します。

フォント使用状況の制御

フォントの表示および置換を行うには、**使用状況**ダイアログボックス（**補助メニュー**）の**フォント**ペインを表示します。このペインには、アクティブなアークティクルで使用されているすべてのフォントが表示されます。同じ種類のフォントをすべて置換するには、そのフォント名を選択して**置換**をクリックし、置換フォントを選択します。

- ➡ **フォントタブ (補助 > 使用状況)** に表示されている **【フォント名】** の前に負数が付いている場合、使用しているシステムにそのフォントがインストールされていないことを示しています。この場合、必要なフォントをインストールして再度ドキュメントを開きます。または、**使用状況** コマンドを使用してそのフォントの登場箇所を特定し、別のフォントを適用することもできます。

テキストの回り込みの使用

テキストの回り込み機能を使用することで、画像の背面、周囲、または内部にテキストを回り込ませる方法を制御できます。実際の画像にテキストを回り込ませるように指定することもできる他、カスタム回り込みパスを作成して、手動でパスを変更することもできます。



回り込みは、視覚的な特色をページに与えるための優れた方法です。

テキストの画像への回り込み

画像編集アプリケーションを使用すると、画像にパスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。パスはスムーズなベジエ形状ですが、アルファチャンネルは通常、グレースケール画像です。通常、画像の表示対象部分、非表示対象部分や透明対象部分を判断するのに、パスとアルファチャンネルの両方が使用されます。

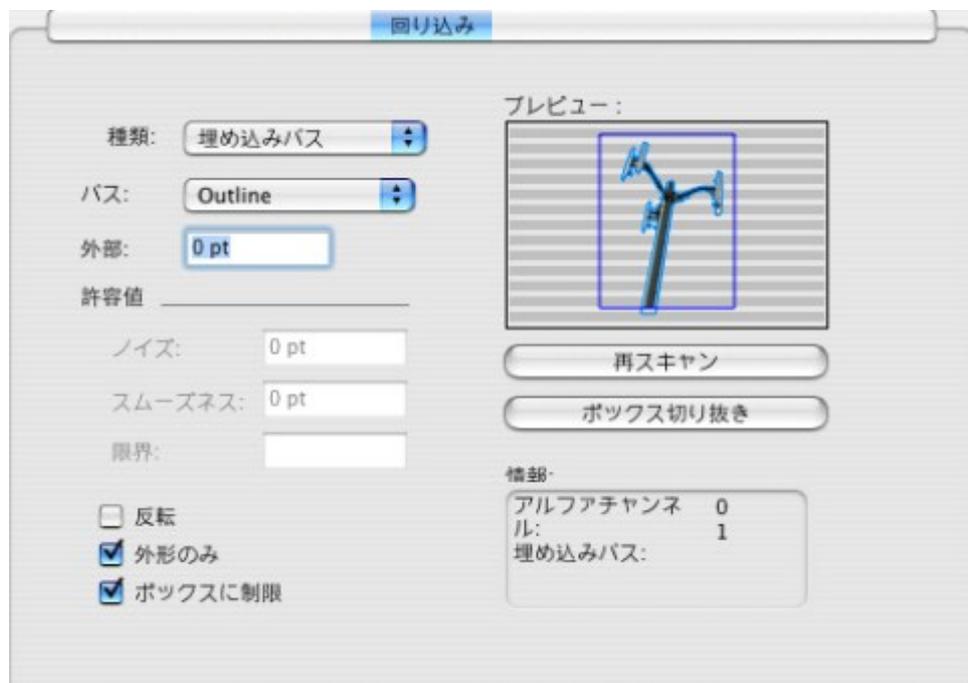
パスやアルファチャンネルが組み込まれている画像を取り込むと、そのパスやアルファチャンネルを使用してその画像へのテキストの回り込みを制御できます。つまり、アプリケーションがパスやチャンネルを検索し、その情報に基づいてテキストの回り込みパスを作成できます。

テキストボックスの前面にある画像コンポーネントにテキストの回り込みを適用するには、画像コンポーネントを選択してから、**スタイル > 画像** を選択し、**回り込み** タブをクリックして、**種類** ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

- アクティブな画像コンポーネントの背面にテキストを回り込ませるには、**なし** を選択します。

- 画像コンポーネントの境界にテキストを回り込ませるには、**アイテム**を選択します。画像コンポーネントが方形の場合、**上揃え**、**左揃え**、**下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力して、回り込み領域の外側、内側を設定します。画像コンポーネントが方形ではない場合、**外部**フィールドのみが表示されます。
- 画像の白以外の領域を基にベジエクリッピングと回り込みパスを作成するには、**自動イメージ**を選択します。
- 画像編集アプリケーションで画像が埋め込まれたパスにテキストを回り込ませるには、**埋め込みパス**を選択します。
- 画像編集アプリケーションで画像が埋め込まれたアルファチャンネルにテキストを回り込ませるには、**アルファチャンネル**を選択します。
- 画像の対象に基づいて回り込みパスを作成するには、**白以外の領域**を選択します。回り込みパスは、**限界**フィールドの値に応じて、全体に白や白に近いバックグラウンド内で、暗い形状部分のアウトラインを描きます（またはその逆）。
- テキスト回り込みパスを、**クリッピング**タブで選択したクリッピングパスに設定するには、**クリッピングと同様**を選択します。
- 取り込んだ画像ファイルの、方形の「キャンバス領域」に沿ってテキストを回り込ませるには、**画像境界**を選択します。これには、元の画像ファイルで保存されている白のバックグラウンドも含まれます。**上揃え**、**左揃え**、**下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力して、画像境界からのテキストの外側、内側を決定します。

➡ **プレビュー領域の内側のパスは回り込みパスを表し、外側のアウトラインは画像ボックスを表します。**



回り込みのプレビューを表示している**画像**ダイアログボックスの**回り込み**タブ

回り込みパスの微調整

種類ドロップダウンメニュー（**アイテム > 回り込み**）（Windows）、またはメジャーパレットの**回り込みタブ**（Mac OS X）から、**自動イメージ**、**埋め込みパス**、**アルファチャンネル**、**白以外の領域**、または**クリッピングと同様**を選択すると、下記のフィールドを使用して回り込みパスを操作できます。

- 1 **外部**で、回り込みパスのサイズを変更します。値を正にすると回り込みパスは元の設定からふくらみ、値を負にすると回り込みパスに含まれる画像の量が減少します。
- 2 **ノイズ**で、最小許容閉じパスを指定します。ノイズ値より小さい閉じパスは無視されます。ノイズ値は、回り込みパスを整理し、出力しやすくするのに便利です。
- 3 **スムーズネス**で、パスの精度を制御します。値を低くすると、ポイント数が大きくより複雑なパスが作成されます。値を高くすると、より精度が低いパスが作成されます。
- 4 **限界**で、「白」の定義方法を決定します。「白」と定義された全ピクセルが除外されます。たとえば、**限界**が20%の場合、ピクセルのグレイ値が20%以下であれば、そのピクセルは「白」と考えられ、回り込みパスから除外されます。

回り込みパスの編集

回り込みパスを調整するには、**回り込み**（**スタイル > 編集**）チェックボックスをオンにします。回り込みパスはマゼンタのアウトラインで表示されます。こうすることで、ベジエオブジェクトの場合と同様にパスを編集できます。

また、**単位**パレットのコントロールを使用すると、回り込みパスのポイントやセグメントの種類を変更できます。ポイントの種類を変更するには、下記の3つのボタンのいずれかを使用します。

- **シンメトリカルポイント** : シンメトリカルポイントは、2本の曲線をつなげて、1本の曲線にします。出来上がる曲線はスムーズポイントに似ていますが、各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にあり、かつポイントから等距離にあります。
- **スムーズポイント** : スムーズポイントは、2本の曲線をつなげて、1本の曲線にします。各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にありますが、ポイントからの距離が同じである必要はありません。
- **コーナーポイント** : コーナーポイントは、2本の直線、直線と曲線、または2本の曲線をつなぎます。2本の曲線の場合、コーナーポイントの各曲線ハンドルを個々に操作して、2つのセグメント間に鋭角的な変化を持たせることができます。

ラインセグメントの特性を変更するには、下記のボタンのいずれかを使用します。

- **直線セグメント** : アクティブなセグメントを直線にします。
- **曲線セグメント** : アクティブなセグメントを曲線にします。

➡ ポイントおよびセグメントの種類は、**スタイル > ポイント/セグメントの種類**サブメニューを使用して変更することもできます。

テキストパスの使用

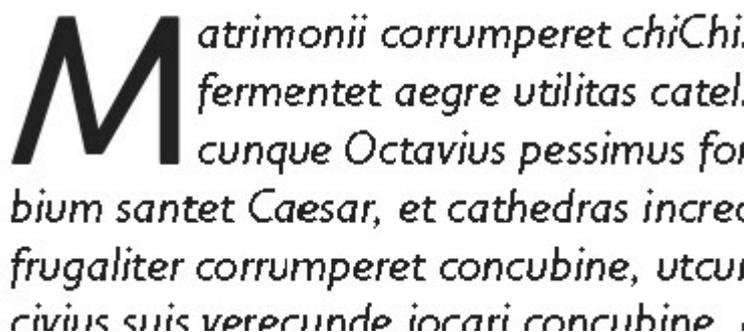
QuarkXPressでのテキストパスとは、テキストを追加できるラインのことです。テキストはラインの軌道に沿って配置されます。QuarkCopyDeskでは、既存のテキストパス

のテキストを編集できますが、テキストパス自体を作成または編集することはできません。

ドロップキャップスの作成

ドロップキャップスは、段落の先頭行以下の複数行にかかる最初の文字です。自動ドロップキャップス機能を使用すると、ドロップキャップス文字が拡大され、自動的に段落が回り込みます。ドロップキャップス文字の書式やスタイルは、他の段落部分と同じになります。

選択した段落にドロップキャップスを適用するには、**段落設定**ダイアログボックスの**フォーマット**タブ (Windows)、または**メジャーパレット**の**段落/段落設定**タブを表示し、**ドロップキャップス**チェックボックスをオンにします。ドロップキャップスとして使用する文字数を指定するには、**文字数**フィールドに1から127までの値を入力します。ドロップキャップス文字がかかる行数を指定するには、**行数**フィールドに2~16の値を入力します。



Matrimonii corrumpere chiChi.
fermetet aegre utilitas catel.
cunque Octavius pessimus fo
bium santet Caesar, et cathedras increc
frugaliter corrumpere concubine, utcu
civius suis verecunde incari concubine .

ドロップキャップスを使用すると、テキストを視覚的に目立たせることができます。

➡ ドロップキャップスは、ポイントではなく比率で指定します。ドロップキャップスを選択すると、デフォルトのサイズは100%となっています。

段落上下の罫線の作成

段落罫線は、段落を区切る、関連情報を表示する、または単にページデザインにグラフィックスタイルを追加するなどの目的で、テキストの上下で頻繁に使用するものです。段落罫線を作成するには、**段落設定**ダイアログボックス (**スタイルメニュー**) の**段落罫線**タブ (Windows)、または**メジャーパレット**の**段落罫線**タブ (Mac OS X) を使用します。

OpenTypeフォントの使用

OpenTypeとは、AdobeとMicrosoftによって開発されたクロスプラットフォームフォントフォーマットであり、大規模な文字セットと字形が含まれ、通常の場合、分数、任意の合字、旧スタイルの数字などが含まれます。テキストにOpenTypeフォントが適用されているとき、**スタイル > 文字**メニューから**文字属性**ダイアログボックスを開く

(Windowsのみ) か、メジャーパレットの**文字／文字属性**タブから、そのフォントに組み込まれている任意のスタイルオプションにアクセスできます。

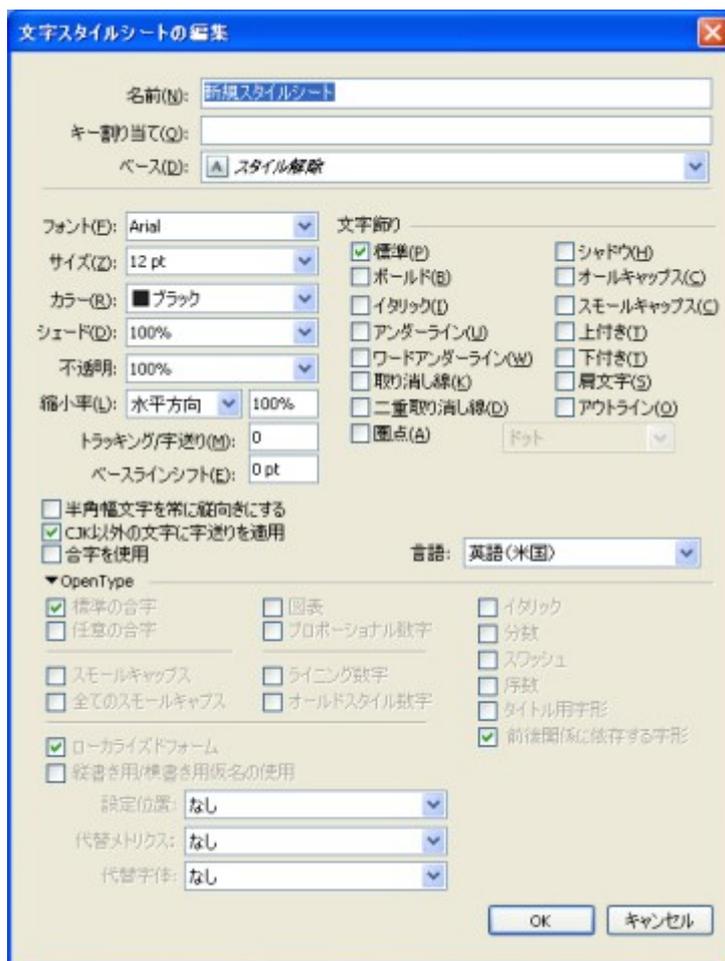
- ➡ 文字と字形との違いを理解すると、OpenTypeスタイルの働きが分かりやすくなります。文字とは、書き言葉の要素であり、大文字、小文字、数字、および約物はすべて文字です。字形とは、実際には文字を表す画像であり、他の形状を取ることがあります。たとえば、標準の数字1は文字ですが、旧スタイルの数字1は字形です。別の例を挙げると、互いに隣り合う"f"と"i"とは文字ですが、"fi"合字は字形です。
- ➡ 文字と字形との間には、常に一对一の関係があるわけではありません。ある場合では、3文字（1と斜線と4）が単一の分数字形を構成します。また、1文字が3つの字形（3つの異なるアンパサンド記号など）で表されることがあります。使用されている**字形**に関わらず、フォーマットと編集用に個別の**文字**を選択できます。
- ➡ ゲラ表示と全画面表示用に選択したフォントには、WYSIWYG表示で表示されるOpenType字形が含まれない場合があります。このような場合、OpenType字形の代わりにボックスが表示されます。
- ➡ 一部のOpenTypeスタイルでは、一連の文字（「1/4」の3文字など）が単一字形で置き換えられます。このような代替字形はWYSIWYG表示でのみ表示できます。ゲラ表示と全画面表示では、各文字は個別に表示されるため、必要であれば編集できます。単語と文字の個数は、複合字形を使用している場合でも、すべての表示で同じです。

OpenTypeスタイルの適用

文字にOpenType「スタイル」を適用すると、異体字（別の特殊なデザインの字形）を現在のフォントで表示できるようになります。たとえば、**分数**を適用すれば、既存の文字のサイズや位置を変更して手動で分数を構成せずに分数固有の字形を使用できます。同様に、**標準の合字**を適用すると、フォントで使用可能な合字に応じた文字を使用できます。詳細は、「[合字の使用](#)」を参照してください。さまざまなスタイルを組み合わせることで適用できますが、**上付き字形**と**下付き字形**などは相互に排他的です。

OpenTypeスタイルを適用するには、**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字設定**）（Windowsのみ）またはメジャーパレットの**文字／文字属性**タブを使用します。文字と段落のスタイルシートを設定するには**文字属性**の**編集**ペイン（**編集 > スタイルシート**）を使用します。**OpenType**の横にある矢印をクリックしてスタイルを表示し、チェックボックスを使用してスタイルを適用します。チェックボックスが使用できなかったりドロップダウンメニューオプションがブラケットで囲まれている場合は、現在のフォントでサポートされていないOpenTypeスタイルであることを示しています。





文字属性ダイアログボックスで使用可能なOpenTypeスタイル

OpenTypeスタイルには、下記のスタイルがあります。

- **標準の合字**：読みやすさが向上する標準的な合字を適用します。
- **任意の合字**：特殊な合字を適用します。この機能では、特殊な効果を得る合字をユーザーが選択できます。
- **等幅数字**：数字に等幅を適用します。
- **プロポーショナル数字**：数字に不均等な幅を適用します。
- **スモールキャップス**：CJK（中国語、日本語および韓国語）以外の小文字に、通常より小さい大文字を適用します。
- **全てのスモールキャップス**：CJK（中国語、日本語および韓国語）以外のすべての文字に、通常より小さい大文字を適用します。
- **ライニング数字**：すべてが大文字のテキストとよく調和する近代的な数字スタイルを適用します。
- **オールドスタイル数字**：テキストに組み込まれている番号に最適な数字スタイルを適用します。
- **イタリック**：イタリックの字形を適用します。
- **分数**：スラッシュで区切られた分数の字形を適用します。
- **スワッシュ**：装飾的な字形を適用します。

- **序数**：序数の字形を適用します。
- **タイトル用字形**：通常より大きなポイントサイズで大文字のタイトル用字形を適用します。
- **前後関係に依存する字形**：テキストの前後関係に基づいてさまざまな代替字形を適用します。
- **ローカライズドフォーム**：字形のデフォルトフォームをローカライズドフォームに置き換えます。
- **縦書き用/横書き用仮名の使用**：組み方（縦組み/横組み）に応じた特殊な横書き用仮名または縦書き用仮名のフォームを適用します。
- **設定位置**：選択したテキストに上付き字形、下付き字形、科学用下付き字形、分子および分母の字形を適用します。
- **代替メトリクス**：組み方（縦組み/横組み）に基づいた高さの代替幅を適用します。

代替垂直半角メトリクス：字形を個々のプロポーショナルの高さに合わせます。

代替垂直メトリクス：全角の高さの中間にくるように字形を配置します。

プロポーショナル代替メトリクス：字形を個々のプロポーショナルの幅に合わせます。

全角幅：全角幅以外の字形を全角幅に置換します。

半角幅：全角幅の字形を半角幅に置換します。

3分の1幅：3分の1幅以外の字形を3分の1幅に置換します。

4分の1幅：4分の1幅以外の字形を4分の1幅に置換します。

プロポーショナル代替幅：字形を個々のプロポーショナルの幅に合わせます。

- **代替字体**：JIS2004字体、JIS78字体、JIS90字体、簡体字体、旧字体などの代替字体のフォームを適用します。これらの字体は、いくつかの日本語のOpenTypeフォント用に特別に考案されたものです。

合字の使用

合字を使用するには、レガシー方法とOpenType方法の2つの方法があります。レガシー方法では、PostScriptフォントに含まれるfiやflなどの標準の合字がサポートされます。OpenType方法では、標準の合字とOpenTypeフォントに含まれる任意の合字の両方にアクセスできます。いずれの方法も文字属性として適用されるため、任意のテキストに適用することができます。

選択したテキストに合字を適用するには、**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）にある**合字**チェックボックスをオンにします。

合字環境設定

合字の環境設定は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk/編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 文字設定**）の**文字設定**ペインで行うことができます。

- **カーニング(>)で分割**：このフィールドの値は、それより大きくなると合字が分割されるトラッキングまたはカーニングの値を指定します。デフォルト値は1で、テキスト+1のトラッキング値に設定すると（emスペースは1/200）、合字は標準文字に戻ります。

- "ffi"または"ffl"は使用しない：現在のフォントにffiおよびffl合字が存在しない場合に、「office」や「waffle」などの単語でfiおよびflの合字を行わないようにするには、このボックスをオンにします。

字形パレットの使用

字形とは、フォントの最小単位です。たとえば、各大文字はそれぞれの字形から構成されます。フォントにあるすべての字形（特にOpenTypeフォントは数万個の字形から構成されます）にアクセスするには、完全な文字マップを表示する必要があります。このような文字マップには、**字形パレット（ウィンドウメニュー）**からアクセスします。ここから、選択したフォントの全字形、ボールドとイタリック字形を表示したり、字形をダブルクリックしてテキストに挿入したり、簡単にアクセスできるようにお気に入り字形を保存したりできます。



字形パレットを使用することで、大規模な文字セット、およびプロフェッショナル品質フォントを操作することが容易になります。

フォントにある字形を表示するには、**字形パレット（ウィンドウメニュー）**を表示して、左上にある**フォントメニュー**からフォントを選択します。**字形パレット**で利用できるオプションを以下に挙げます。

- **ボールド**および**イタリック**ボタンを使用して、字形のボールド版、およびイタリック版を表示できます。フォントのボールド、イタリック、またはボールドイタリックインスタンスがシステム上でアクティブではない場合に、**メジャーパレット**を使用して**ボールド**および**イタリック**文字飾りを適用すると、その字形のボールド、イタリック、またはボールドイタリックがシミュレートされます。
- フォントの字形のサブセットを表示するには、**表示**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- ある字形に対応するあらゆる代替字形を表示するには、個別の字形セルの右下コーナーにあるボックスをクリックします。

- 必要に応じて、パレット上の**ズーム**ツールをクリックして、字形を拡大します。
- HTMLオーサリングを行うときなど、字形のUnicodeコードポイントが必要な場合は、パレットの下部でUnicodeコードを確認できます。
- テキストの挿入ポイントに字形を挿入するには、**字形**パレットにある字形をダブルクリックします。
- フォントにある特定の字形を頻繁に使用する場合、該当する字形をお気に入りとして保存することで、素早くアクセスできます。お気に入りリストを作成するには、**字形**パレット（**ウィンドウメニュー**）内、**好みのグリフ**の隣にある展開ボタンをクリックします。次に、**好みのグリフ**領域にある空のセルに字形をドラッグします。お気に入りを削除するには、字形の上でControlキーを押しながらクリック/右クリックして、コンテキストメニューを使用します。

特殊キャラクタの表示

特殊キャラクタオプション（**表示メニュー**）を使用すると、スペース、タブ、段落改行文字などの一般的な「非表示文字」を確認できるため、テキストの編集時や印刷状態の微調整時に便利です。

特殊文字の挿入

組版やフォーマット設定を目的とするさまざまな特殊文字があります。キーボードのコマンドを使ってこれらの特殊文字を入力できます。また、**補助 > 文字を挿入**サブメニューから選択することもできます。非表示文字を表示するよう設定している場合（**表示 > 特殊キャラクタ**）、各文字の表示が異なります。

スペースの挿入

全角スペースなど特定のスペースをテキスト挿入ポイントに挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 全角スペース**または**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字（改行なし） > 全角スペース**を選択します。**改行なしスペース**サブメニューのオプションは、2つの語句または数字を「連結」する役割を果たします。たとえば、行末で「連結」された2つの要素の間で改行が行われないようにします。

その他の特殊文字の挿入

全角ダッシュや現在のページ番号のプレースホルダ文字など、スペース以外の特殊文字をテキスト挿入ポイントへ挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字**または**補助 > 文字を挿入 > 改行なし特殊文字**を選択します。

文字言語の指定

ハイフネーションとスペルチェックに使用する言語を指定するには、テキストに文字言語を適用します。これにより、同一段落に複数言語の単語を混ぜても、問題のあるハイフネーションの発生を防いで**スペルチェック（補助メニュー）**にある**チェックする単語**を減らすことができます。文字に特定言語を適用することに加え、**なし**を適用することで、ハイフネーションやスペルチェックから単語を除外することもできます。

選択した文字に言語を適用するには、**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）にある**言語**ドロップダウンメニューを使用します。

未定義キャラクタの代替の使用

未定義キャラクタの代替がオンである場合、現在のフォントで表示できない文字が使われると、システム上のアクティブなフォントを検索して、その文字を正しく表示できるフォントを見つけます。たとえば、テキスト挿入ポイントにHelveticaが適用されていて、漢字を含むテキストの取り込みやペーストを行うと、その文字にはヒラギノフォントが適用される場合があります。その文字を含むアクティブなフォントが見つからない場合、文字はボックスや記号として表示されます。

未定義キャラクタの代替は、アプリケーションの環境設定として実装されているため、プログラム内で機能をオン/オフを切り替えられます。この機能はデフォルトでオンになっていますが、オフにする必要がある場合は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk / 編集 > 環境設定**）の**未定義キャラクタの代替**ペインにある**未定義キャラクタの代替**をオフにします。

未定義キャラクタの代替機能についての詳細は、「[環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替](#)」を参照してください。

➡ 未定義キャラクタの代替機能は、WYSIWYG表示でのみ使用できます。

フォントマッピングルールの使用

アートを開くと、テキストに適用されているすべてのフォントがシステム上でアクティブであることが確認されます。アクティブではないフォントが見つかったら、**不足フォント**という警告が表示されます。このときに、不足フォントをアクティブなフォントに置き換えられます。このような置き換えをグローバルな「フォントマッピングルール」として保存できます。これは、プロジェクトを開くたびに自動的に適用できます。

フォントマッピングルールを作成するには、最初に不足（アクティブではない）フォントを使用しているプロジェクトを開きます。**使用フォントリスト**をクリックして、**不足フォント**警告を表示します。**置換**ボタンを使用して不足しているフォントの代替フォントを選択してから、**ルールとして保存**をクリックします。一部の代替フォントのみが選択されている場合でも、**不足フォント**警告の一覧にあるすべての代替フォントがルールとして保存されます。代替フォントを変更する場合は、その行を選択してから**リセット**をクリックします。アートを開いてから、**ファイル > 復帰**を選択することもできます。これにより、**不足フォント**警告が再度表示され、変更が行えるようになります（変更の適用先はそのアートのみであり、保存したルールではありません）。

不足フォント警告にある**ルールとして保存**をクリックしてフォントマッピングルールを作成すると、ルールはアプリケーションの環境設定に保存され、すべてのアートに適用されます。フォントマッピングルールの変更、削除、共有を行う場合は、**補助 > フォントマッピング**を選択します。

フォントペイン（**QuarkCopyDesk / 編集 > 環境設定**）を使用して、デフォルトの代替フォントを指定し、不足フォントのあるプロジェクトを開いたときに**不足フォント**警告を表示するかどうかを制御できます。詳細は、「[環境設定 - アプリケーション - フォント](#)」を参照してください。

ルビ文字の使用

❗ ルビ文字は、ベーステキストの意味や発音を明確にするものです。ベーステキストについては縦組み、横組みのいずれも可能で、ルビ文字の組方向は通常ベーステキストに従います。ルビ文字は、縦組みのベーステキストの左右に、横組みのベーステキストの上下に配置できます。

ルビ文字には、モノルビとグループルビの2種類があります。**モノルビ**とは、ベーステキストの単一文字に関連付けられているルビ文字です。**グループルビ**とは、ベーステキストの複数文字に関連付けられているルビ文字です。

ルビ文字の揃え、配置、縮小率、フォント、カラー、不透明度、シェード、文字飾り、および相対サイズを操作できます。さらに、関連付けられていないベーステキストに張り出すルビ文字を制御するためのオプションを選択できます。

ルビダイアログボックス（**スタイルメニュー**）を使用して、選択したベーステキストにルビ文字を追加します。



ルビダイアログボックス

一定範囲のテキストを選択して、Command+Option+R/Ctrl+Alt+Rを押すと、スペースまたは約物で区切られている、連続した単語に自動ルビを適用できます。自動ルビの詳細は、下記の「テキストタブ」のリストにある**ルビ文字**の箇条書きを参照してください。

テキストタブ

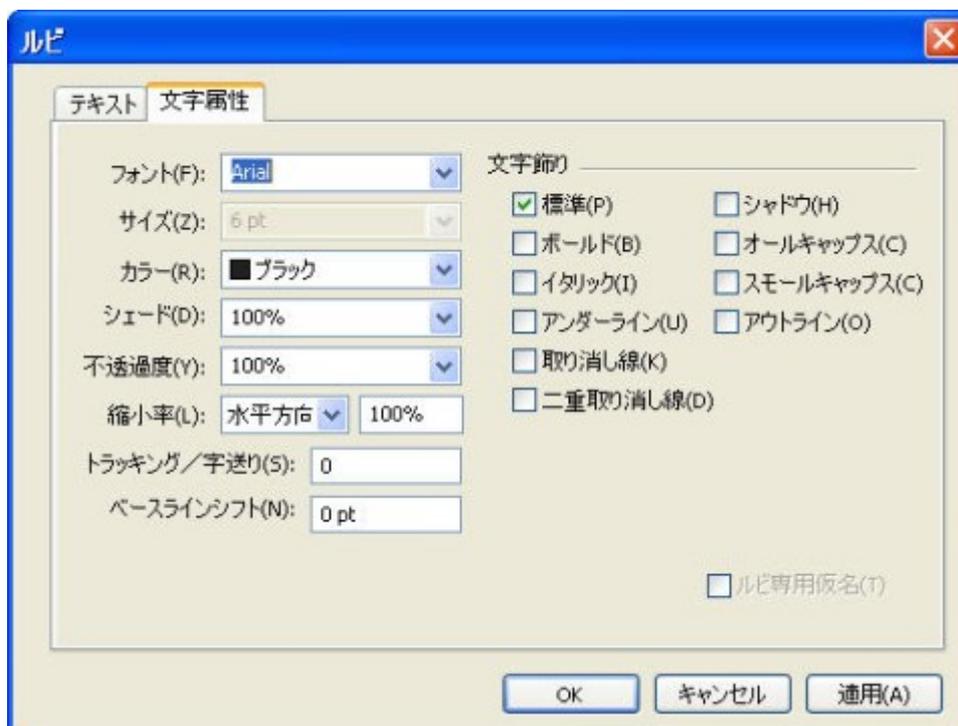
ルビダイアログボックスの**テキストタブ**で、下記のオプションを制御できます。

- **ルビ文字**：選択したベーステキストに適用するルビ文字を指定するには、このフィールドを使用します。新しいルビのために**ルビダイアログボックス**を表示すると、アプリケーションによって、自動的に、インプットメソッドエディタ（IME）からこのフィールドにベーステキストの読み方が入力されます。この機能は、IMEの辞書が使用できる言語に対して有効です（本書では、中国語と日本語のみ）。
- **ルビを取得**：このボタンを使用して、IMEから**ルビ文字**フィールドの内容をリフレッシュできます。

- **ベーステキスト**：このフィールドには、選択したベーステキストが表示されます。
- **ルビ揃え**：非張り出しルビ文字のベーステキストとの揃え方を制御するには、このドロップダウンメニューを使用します。詳細については、「[ルビ揃えのオプション](#)」を参照してください。
- **ルビの配置**：横組みベーステキストの上下のどちらに、または縦組みベーステキストの左右のどちらにルビ文字を表示するかを指定するには、このドロップダウンメニューを使用します。
- **相対サイズ**：ベーステキストを基準にしたルビ文字のサイズを指定するには、このフィールドを使用します。
- **オフセット**：ベーステキストからのルビ文字のオフセット距離を制御するには、このフィールドを使用します。
- **張り出しルビ**：ルビ文字に関連付けられていないベーステキスト上にどれだけルビ文字が張り出せるかを制御するには、このフィールドを使用します。詳細については、「[張り出しルビのオプション](#)」を参照してください。ベース揃えがなしに設定されている場合、この機能は無効となります。
- **ベース揃え**：ベーステキストと張り出しルビ文字との揃え方を制御するには、このフィールドを使用します。詳細については、「[ルビベース揃えのオプション](#)」を参照してください。
- **端線上に自動揃え**：ルビ文字がベーステキストに張り出してテキストボックスのエッジに触れる場合に、ルビ文字をテキストボックスのボーダーに自動的に揃えるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

文字属性タブ

ルビダイアログボックスの**文字属性**タブで、ルビ文字フォーマットを制御できます。



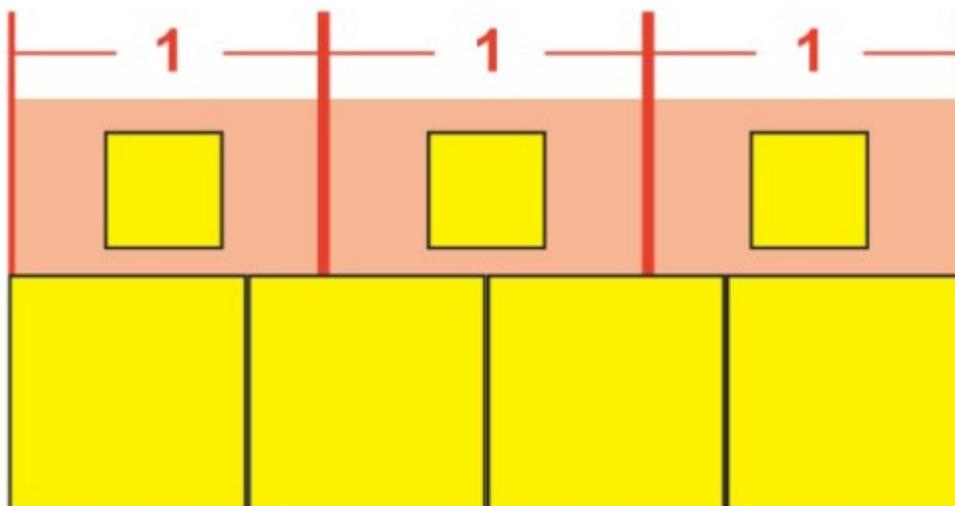
ルビ文字の表示方法を指定するには、**文字属性**タブを使用します。

- フォント、サイズ、カラー、シェード、不透明度、縮小率、トラッキング／字送り、ベースラインシフト、および文字飾りコントロールで、テキストに基本フォーマットを適用できます。
- ルビ文字専用デザインされた、かな字形の使用の有効／無効を切り替えるには、**ルビ専用仮名**チェックボックスをオン／オフにします。これらの字形が利用できるのは、一部の日本語OpenTypeフォントでのみです。

ルビ揃えのオプション

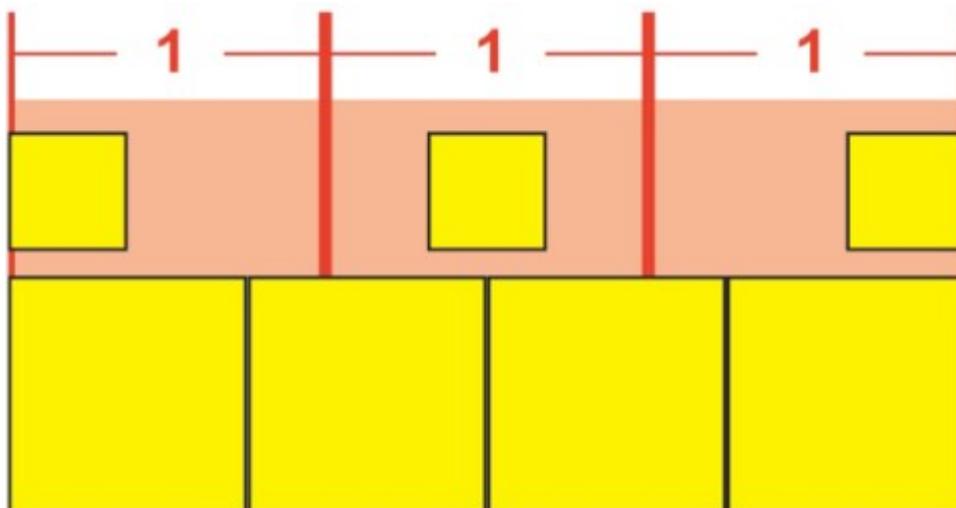
ルビダイアログボックス（スタイルメニュー）のテキストタブにあるルビ揃えオプションでは、下記の操作が可能です。

- **左揃え**：横組みでルビ文字がベーステキストに対して左揃えになります。
- **センター**：横組みまたは縦組みで、ルビ文字がベーステキストに対して中央揃えになります。
- **右揃え**：横組みでルビ文字がベーステキストに対して右揃えになります。
- **上揃え**：縦組みでルビ文字がベーステキストに対して上揃えになります。
- **下揃え**：縦組みでルビ文字がベーステキストに対して下揃えになります。
- **両端揃え**：下図のように、ベーステキストの上または横にあるルビ文字を中心揃えにします。



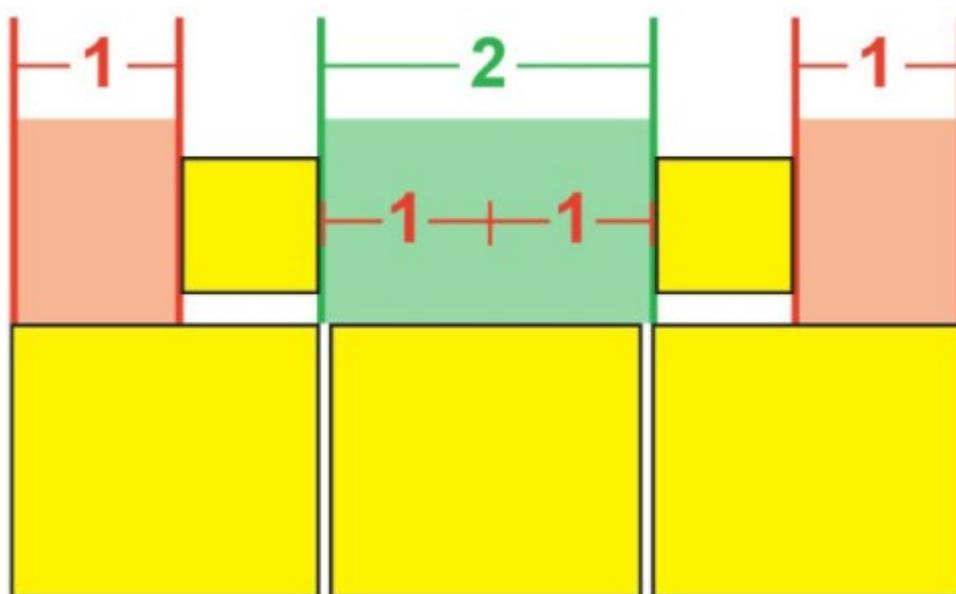
ルビ文字の両端揃え

- **強制割付**：横組みの場合ルビ文字をベーステキストの両端に揃えるか、または縦組みの場合ベーステキストの上下にルビ文字を揃えます。



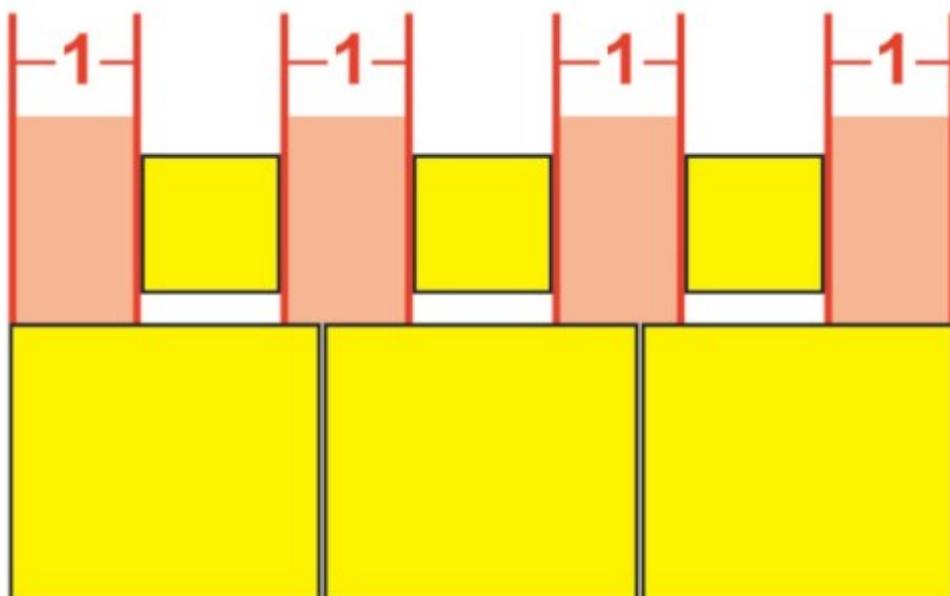
ルビ文字の**強制割付揃え**

- **1-2-1 (JIS) ルール**：1：2：1の比率でルビ文字をベーステキストに揃えます。また、ルビ文字のラインの両端に一定のスペースが残ります。



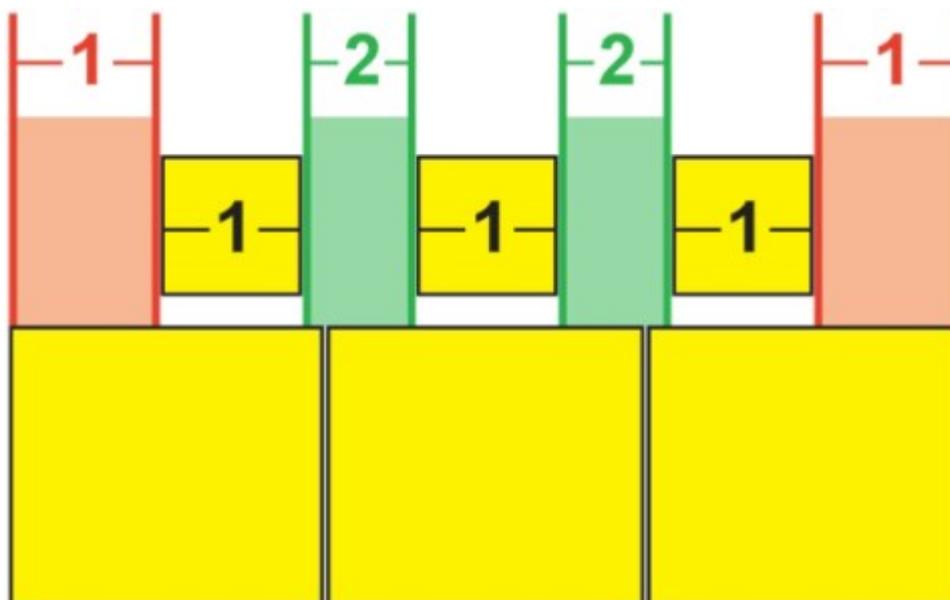
ルビ文字の**1-2-1 (JIS) ルール揃え**

- **均等割付**：ルビ文字のラインの両端およびルビ文字間のスペースが等間隔になるようにルビ文字を揃えます。



ルビ文字の均等割付

- **1ルビスペース**：ルビ文字のラインの両端のスペースがルビ1文字の幅と等しくなり、各ルビ文字間のスペースとは等しくならないように、ルビ文字を揃えます。ルビ文字間のスペースは等しくなります。



ルビ文字の1ルビスペース揃え

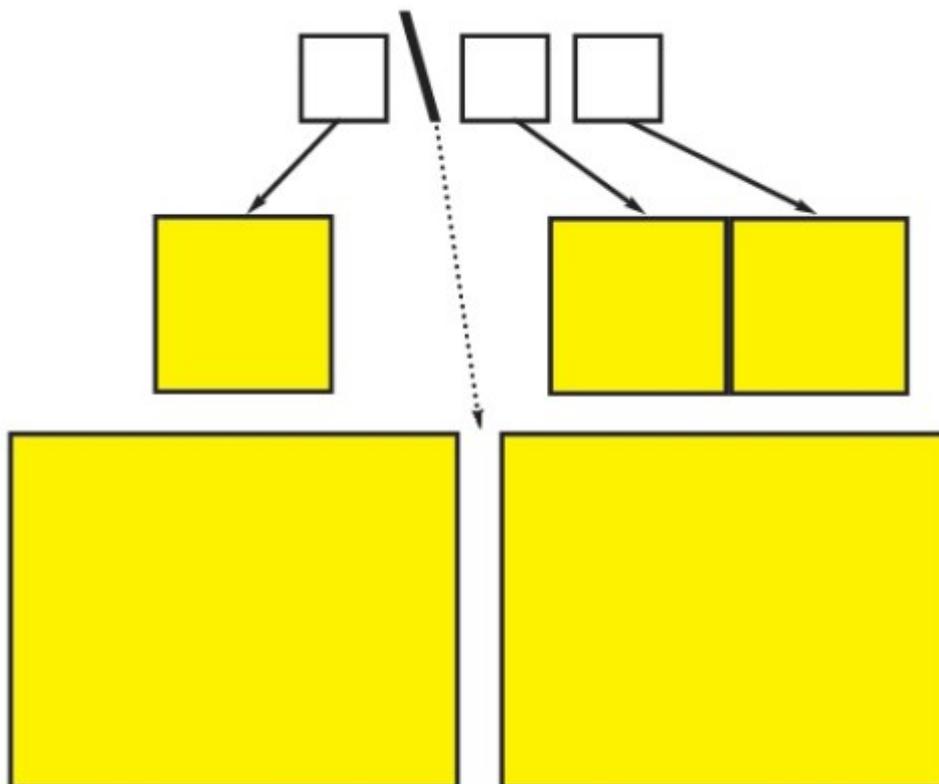
モノルビ

個々のルビ文字の配置を制御するには、**ルビダイアログボックス**（スタイルメニュー）の**ルビ文字**フィールドで、ルビ文字の間にバックスラッシュまたは円記号を挿入します。

ルビ文字(T):	m\mm
ベーステキスト(B):	MM

ルビ文字間のバックスラッシュはモノルビを示します。

たとえば、3つのルビ文字に関連付けられる2つのベーステキスト文字を選択し、最初のルビ文字のみを1文字目のベーステキスト文字に置き、残り2つのルビ文字を次のベーステキスト文字に配置する場合、バックスラッシュを1番目と2番目のルビ文字の間に挿入します。バックスラッシュはベーステキスト文字間のスペースに当たるため、必要に応じてバックスラッシュ間に任意の文字数のルビ文字を配置できます。



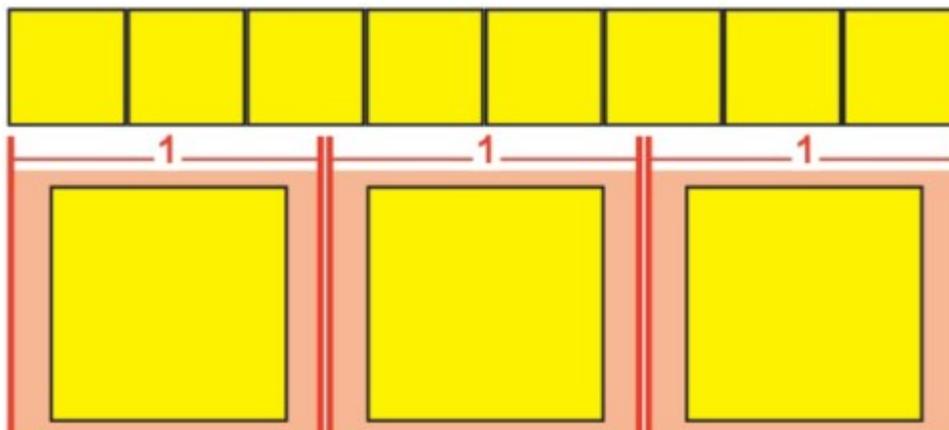
バックスラッシュはベーステキスト文字間のスペースに当たります

ルビベース揃えのオプション

ベース揃えオプションを適用できるのは、ルビ文字がベーステキストから張り出している場合のみです。ベース揃えオプションは下記のとおりです。

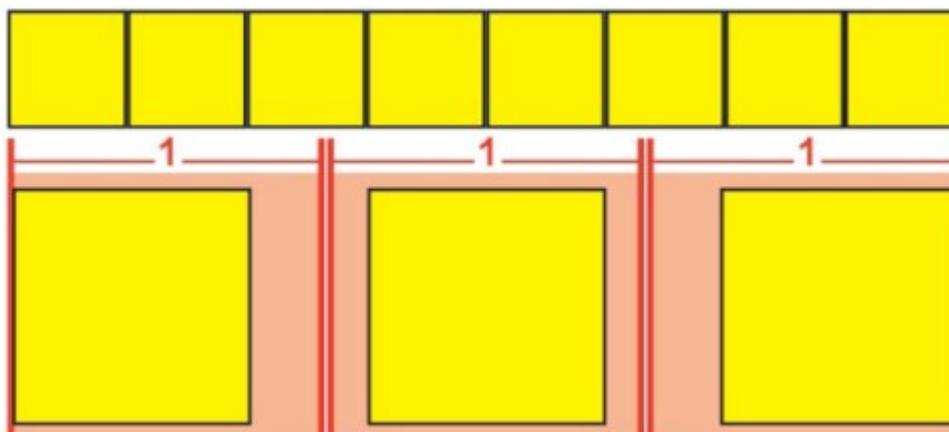
- なし：ベーステキストの揃えが適用されません。
- 左：横組みで、ベーステキストがルビ文字に対して左揃えになります。
- センター：ルビ文字が均等にベーステキストの両端から張り出すように、ルビ文字の下または横にベーステキストを揃えます。
- 右：横組みで、ベーステキストがルビ文字に対して右揃えになります。
- 上：縦組みで、ベーステキストがルビ文字に対して上揃えになります。
- 下：縦組みで、ベーステキストがルビ文字に対して下揃えになります。

- **両端揃え**：下図のように、ルビ文字の下または横に、ベーステキストを中心揃えにします（この図では、**張り出しルビがなし**に設定されていることを前提としています。ルビ文字が一定量張り出すよう設定されている場合、そのルビ文字はベーステキストの文字列の両端からその分だけはみ出します。また、ベーステキストが残りのスペースで調整されます）。



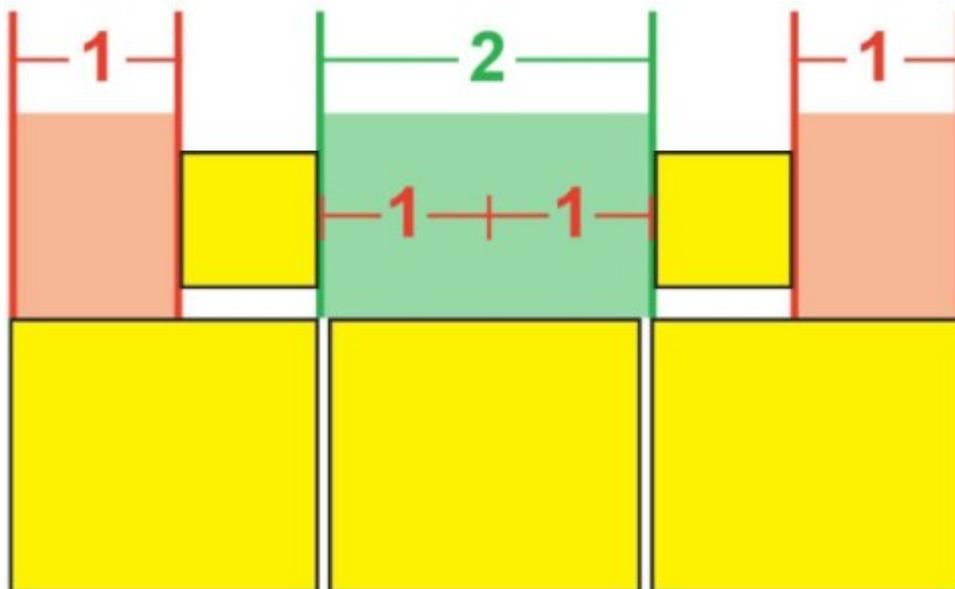
ベーステキストの**両端揃え**

- **強制割付**：ベーステキストを、横組みではベーステキストをルビ文字の左と右に、縦組みではルビ文字の上と下に揃えます（この図では、**張り出しルビがなし**に設定されていることを前提としています。ルビ文字が一定量張り出すよう設定されている場合、そのルビ文字はベーステキストの文字列の両端からその分だけはみ出します。また、ベーステキストが残りのスペースで強制割付および中心揃えされます）。



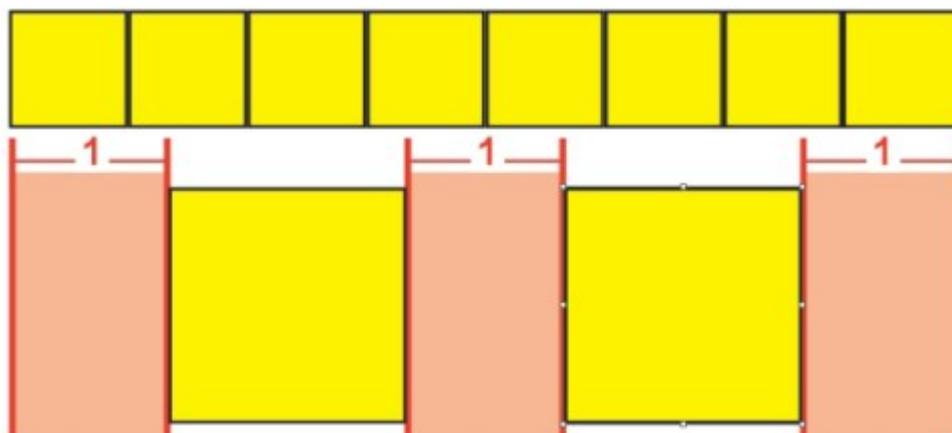
ベーステキストの**強制割付揃え**

- **1-2-1 (JIS) ルール**：1：2：1の比率でベーステキストをルビ文字に揃えます。ベーステキストの行の先頭と末尾に一定量のスペースが残ります。



ベーステキストの1-2-1 (JIS) ルール揃え

- **均等割付**：ベーステキスト行の先頭、末尾、およびベーステキスト間でスペースが等間隔になるように、ベーステキストを揃えます（この図では、**張り出しルビがなし**に設定されていることを前提としています。ルビ文字が一定量張り出すよう設定されている場合、そのルビ文字はベーステキストの文字列の両端からその分だけはみ出します。また、ベーステキストが残りのスペースに分配されます）。



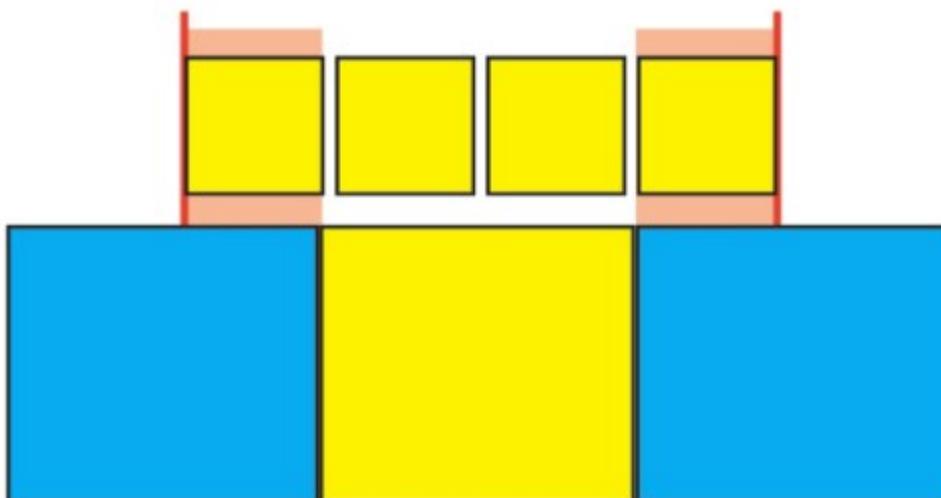
ベーステキストの均等割付

張り出しルビのオプション

ルビダイアログボックス（スタイルメニュー）のテキストタブにある張り出しルビオプションを使用することで、張り出しルビテキスト文字には関連付けられていないベーステキスト文字の、いずれかの側へのルビテキスト文字の張り出し距離を制御できます。以下の色付き図にさまざまな張り出しルビオプションを図示します。黄色は、互いに関連付けられているベーステキストとルビ文字を表します。青は、張り出しルビ文字とは関連付けられていないベーステキストを表します。

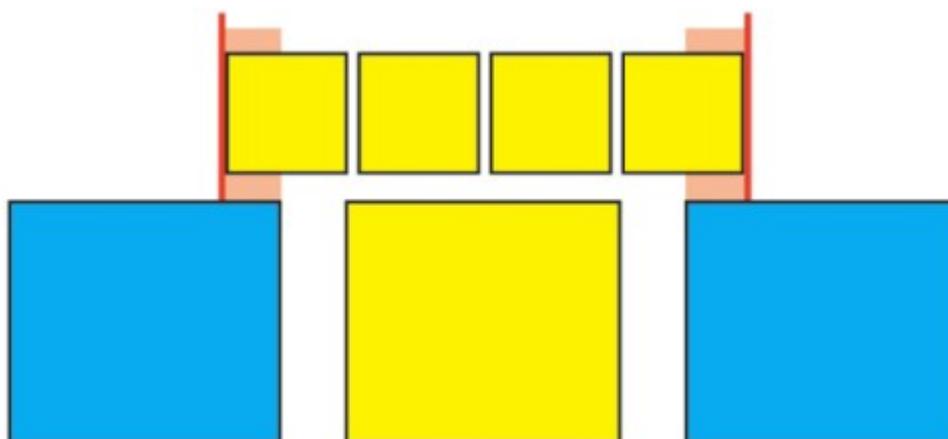
- なし：張り出しは行われません。

- **ルビ文字1個まで**：関連付けられていないベーステキスト文字の上に、ルビテキスト文字1個分の張り出しを認めます。



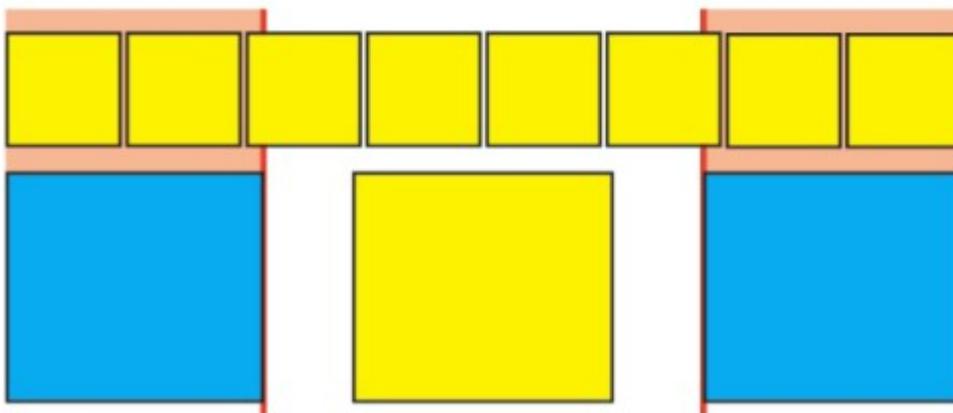
ルビ文字1個まで

- **ルビ文字1/2個まで**：関連付けられていないベーステキスト文字の上に、ルビテキスト文字1/2個分の張り出しを認めます。



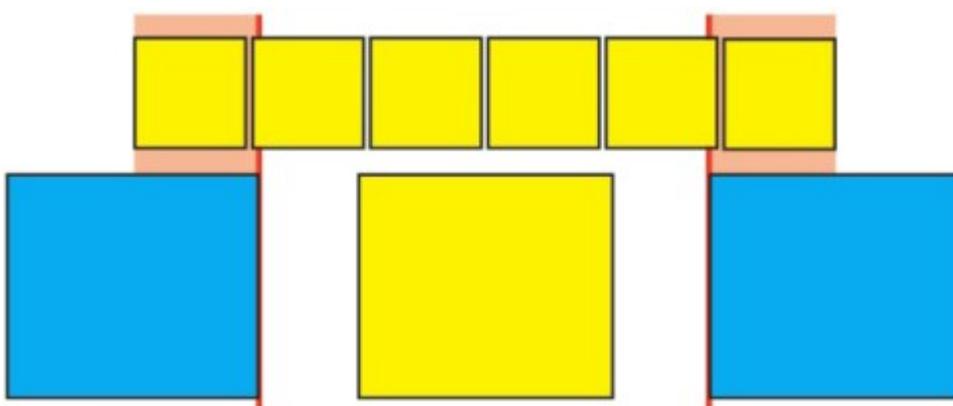
ルビ文字1/2個まで

- **ベース文字1個まで**：関連付けられていないルビテキスト文字の下に、ベーステキスト文字1個分の配置を認めます。



ベース文字1個まで

- **ベース文字1/2個まで**：関連付けられていないルビテキスト文字の下に、ベーステキスト文字1/2個分の配置を認めます。



ベース文字1/2個まで

- **制限なし**：張り出しが制限なしに行われます。

ぶら下がり文字の使用

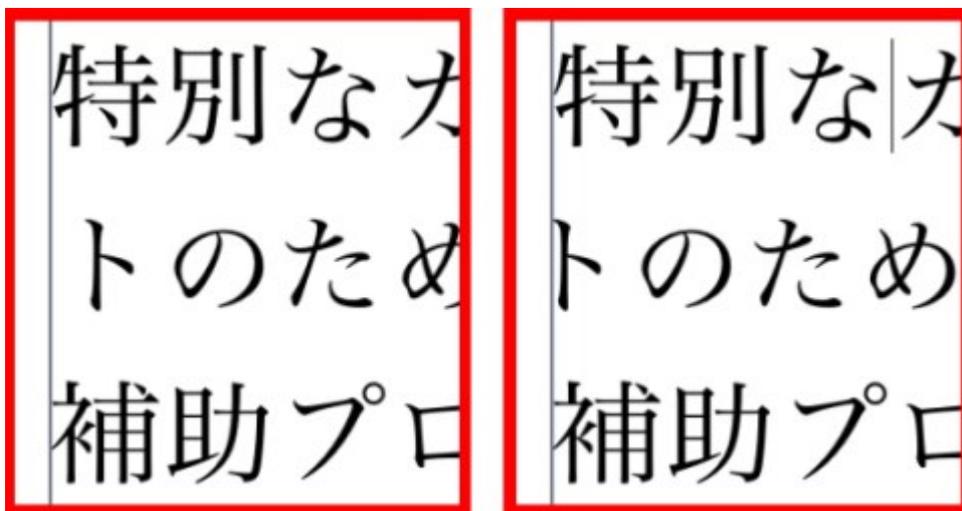
ぶら下がり文字セットでは、**ぶら下がり約物**と**マージン揃え**の両方を処理します。マージン揃えでは、文字をマージン外部に部分的にぶら下げることによって、マージンに沿った視覚的に統一されたテキストの揃えを作成できます。ぶら下がり約物では、約物文字を完全にマージン外部にぶら下げることによって、テキストの行頭（先頭）やテキストの行末（末尾）での均一なマージンで、テキストを揃えることができます。たとえば、以下の最初のテキストサンプルにある引用符記号は先頭マージンの外部にぶら下げられているため、テキストの1行目にある最初の文字をその下のテキストの行と均等に揃えられます。以下の2番目のテキストサンプルにある引用符記号は、末尾マージンの外部にぶら下げられています。たとえば、2番目のテキストサンプルにあるピリオドは、末尾マージンの外部にぶら下げられています。

**“This is a sentence
that has a hanging
quotation at the
beginning.”**

The opening quotation mark in this sample text is a leading hanging character

**“This is a sentence
that has a hanging
quotation at the end.”**

The closing quotation mark in this sample text is a trailing hanging character



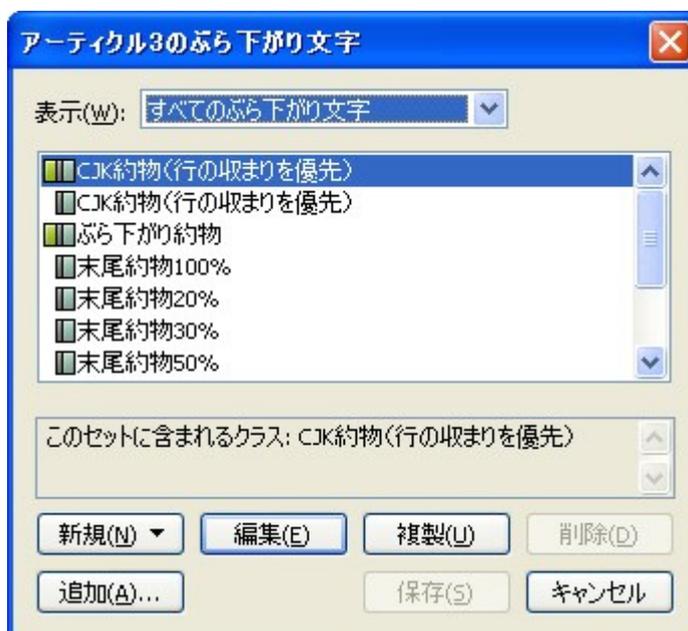
このサンプルテキストの2行目の場合、左側のサンプルにはぶら下がりはありませんが、右側のサンプルには行頭ぶら下がりがあります。

分けるとか、
プロジェクト
ができます。
次のように

このサンプルテキストでは、約物文字が末尾のぶら下がり文字です。

カスタムのぶら下がり文字クラス、およびぶら下がり文字セットを作成することも、ソフトウェアに含まれるデフォルトのクラスとセットを使用することもできます。ぶら下がり文字クラスとは、マージン外部に常にぶら下げられるか、同一パーセントでマージン内部にインデントされる必要のある文字のグループのことです。ぶら下がり文字セットとは、ぶら下がり文字クラスからなるグループのことです。ぶら下がり文字セットを使用することで、段落に1つまたは複数のぶら下がり文字クラスを適用できます。

ぶら下がり文字セットとクラスの表示、作成、編集、複製、および削除を行うには、ぶら下がり文字ダイアログボックス（編集 > ぶら下がり文字）を使用します。



ぶら下がり文字ダイアログボックス

ぶら下がり文字セットの前には、アイコンが付きます。ぶら下がり文字クラスの前には、アイコンが付きます。

ダイアログボックスの中央ペインでぶら下がり文字セットを選択すると、そのセットに属すぶら下がり文字クラスが下のペインに表示されます。ダイアログボックスの中央ペインでクラスを選択すると、選択したクラスが属すセットと選択したクラスの属性が下のペインに表示されます。

- ぶら下がり文字セットやクラスを比較するには、**ぶら下がり文字**ダイアログボックスで2つのクラスまたはセットを選択し、Option/Altキーを押します。**追加**ボタンが**比較**ボタンに変化します。

ぶら下がり文字クラスの作成

ぶら下がり文字クラスに含まれる文字、クラスのぶら下がり率、ぶら下がり文字クラスを先頭と末尾のどちらにするかを指定するには、**ぶら下がり文字クラスの編集**ダイアログボックス（**編集** > **ぶら下がり文字** > **新規** > **クラス**）を使用します。

名前: 新規ぶら下がり文字クラス

次のセットに所属:

種類: 行末 ぶら下がり率: 100%

行の取まりがぶら下がりに優先

文字*

*空の場合は、ぶら下がりはいりません。

プレビュー OK キャンセル

ぶら下がり文字クラスの編集ダイアログボックス

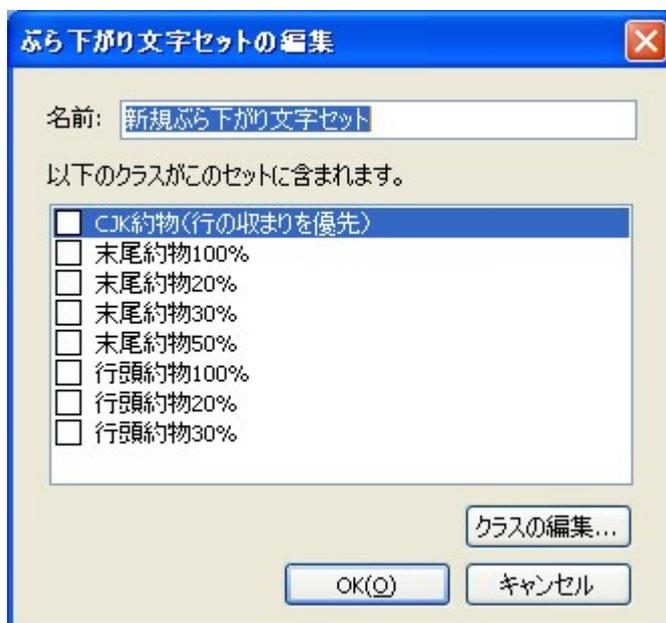
文字ペインで文字を入力します。**ぶら下がり率**ドロップダウンメニューからぶら下がり率を選択します。**ぶら下がり率**は、表示される字形に対する一定のぶら下がりまたはインデントの割合を指定するものです。たとえば、**-50%**を選択すると、文字クラスの文字が、表示される文字幅の半分だけ行端よりも内部にインデントされます。**100%**を選択すると、文字クラスの文字が、表示される字形の分だけ行端の外にぶら下がります。

次に、文字クラスを**行頭**と**末尾**のどちらにするかを指定します。**行頭**クラスの文字は行頭の外側へぶら下がります。**末尾**クラスの文字は末尾の外側へぶら下がります。

- ぶら下がり文字クラスをぶら下がり文字セットに保存後、**プレビュー**チェックボックスをオンにすると、編集時にぶら下がり文字クラスへの変更を表示できます。

ぶら下がり文字セットの作成

ぶら下がり文字セットに含めるぶら下がり文字クラスを指定するには、**ぶら下がり文字セットの編集**ダイアログボックス（**編集 > ぶら下がり文字 > 新規 > セット**）を使用します。



ぶら下がり文字セットの編集ダイアログボックス

ダイアログボックス中央のペインに、使用できるぶら下がり文字クラスがすべて表示されます。これらのぶら下がり文字クラスはぶら下がり文字セットに追加できます。追加するぶら下がり文字クラスの横にあるチェックボックスをオンにし、ぶら下がり文字セットの名前を指定してから**OK**をクリックします。

新しいぶら下がり文字セットを保存する前にぶら下がり文字クラスを編集するには、クラスを選択してから**クラスの編集**をクリックします。

➡ ぶら下がり文字セット内で同じ文字に対して、異なる先頭または末尾の値を指定することはできません。

ぶら下がり文字セットの適用

テキストにぶら下がり文字セットを適用するには、**段落設定**ダイアログボックス（**編集 > フォーマット**）の**ぶら下がり文字セット**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

段落スタイルシートにぶら下がり文字セットを適用するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート > 新規 > 段落**または**編集 > スタイルシート > 編集**）の**フォーマット**タブにある**ぶら下がり文字セット**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

文字組みセットとクラスの使用

! 文字組み機能で、指定した約物文字が特定の位置にある場合の間隔を制御できます。この機能を使用するには、**文字組み文字クラス**と**文字組みセット**を選択するか作成する必要があります。

- **文字組み文字クラス**とは、特定の 방법으로常に間隔を置く必要がある約物文字の名前付きセットのことです。
- **文字組みセット**とは、文字の仮想ボディの幅に基づく一連の文字間隔仕様です。文字組みセットによる規定の例を挙げると、開き約物が行頭にある場合には固定長の半角間隔を使用し、閉じ約物が行末にある場合には半角間隔または全角間隔を使用する、などです。各文字組みセットは、1つの文字組み文字クラスに関連付けられます。

文字組み機能を使用するには、段落に文字組みセットを適用します。文字組みセットの設定は、関連付けられている文字組み文字クラスの文字に適用されます。

2つの全角文字間にある小括弧が全emボックス幅を占めないようにするには、小括弧を含む文字組み文字クラスを作成し、その文字組みセット設定で、2つの全em幅文字間にある小括弧が常に半em幅を使用するように設定します。

- ➡ 各段落に適用できるのは、1つの文字組みセットのみです。
- ➡ 文字と字形の違いについての詳細は、「[字形パレットの使用](#)」を参照してください。

文字組み文字クラスの作成と編集

文字組み文字クラスは、文字組みセットで使用するように設計されている約物文字の名前付きセットのことです（詳細については、「[文字組みセットとクラスの使用](#)」を参照してください）。カスタムの文字組み文字クラスを作成することも、ソフトウェアに含まれるデフォルトの文字組み文字クラスを使用することもできます。

カスタムの文字組み文字クラスの作成については、下記の手順に従ってください。

- 1 **編集 > 文字組み > 文字クラス**を選択します。**文字組み文字クラス**ダイアログボックスが表示されます。
- 2 **新規**をクリックします。**文字組み文字クラスの編集**ダイアログボックスが表示されます。
- 3 **名前**フィールドに名前を入力します。
- 4 **約物起こし**フィールド、**約物受け（括弧）**フィールド、**約物受け（句読点）**フィールド、および**中付き約物**フィールドに文字を入力します。
- 5 **OK**をクリックします。
- 6 **保存**をクリックします。

- ➡ **句読点**は、日本語で「ピリオドおよびコンマ」に当たる文字です。

文字組みセットの作成および編集

文字組みセットは、文字組みの文字クラスに関連付けてから段落に適用できる仕様のセットです。詳細は、「[文字組みセットとクラスの使用](#)」を参照してください。

文字組みセットを作成するには、**編集 > 文字組み > セット**を選択して**文字組みセット**ダイアログボックスを表示します。次に**新規**をクリックします。**文字組みセット**の**編集**ダイアログボックスが表示されたら**名前**フィールドに名前を入力し、**クラス**ドロップダウンメニューから文字組みの文字クラスを選択します。

文字組みセットの**編集**ダイアログボックスの設定により、指定された文字組みの文字クラスで文字の幅や文字間隔を制御できます。また、どの調整を優先するか制御することもできます。



文字組みセットの編集ダイアログボックス

- **名前**：編集する文字組みセットの名前を表示します。
- **単位**：このダイアログボックスで使用する表示単位を指定します。
- **クラス**：編集する文字組みの文字クラス名を表示します。

約物起こし

- **行頭**：行の先頭で使用する始め括弧の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行中**：行の中間で使用する始め括弧の文字幅または文字間隔を指定します。
- **段落の開始**：段落の先頭で使用する始め括弧の文字幅または文字間隔を指定します。この設定は、**行頭**の設定よりも優先されます。

約物受け

- **行中（括弧）**：行の中間で使用する終わり括弧の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行中（句読点）**：行の中間で使用する**句読点**の文字幅または文字間隔を指定します。**句読点**は、日本語で「ピリオドおよびコンマ」に当たる文字です。
- **行末**：行の末尾で使用する終わり括弧の文字幅または文字間隔を指定します。

中付き約物

- **行頭**：行の先頭で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行中**：行の中間で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行末**：行の末尾で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。
- **段落の開始**：段落の先頭で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。この設定は、**行頭**の設定よりも優先されます。

連続する約物

- **始め括弧 - 始め括弧**：始め括弧どうしが隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：((
- **終わり括弧 - 始め括弧**：終わり括弧と始め括弧が隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：)(
- **句読点 - 始め括弧**：始め括弧に隣接する**句読点**の文字幅または文字間隔を指定します。**句読点**は、日本語で「ピリオドおよびコンマ」に当たる文字です。例：。(
- **終わり括弧 - 終わり括弧**：終わり括弧どうしが隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：))
- **行中受け**：隣接する約物受けと中付き約物の間の文字幅または文字間隔を指定します。例：;)
- **行中起こし**：中付き約物と始め括弧が隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：(;

CJK／欧文間スペース

中国語、日本語、または韓国語の文字と欧文が隣接する場合の文字間隔を指定します。この機能は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk**／**編集** > **環境設定**）の**文字設定**ペインにある**CJK／欧文間スペース**フィールドで指定する値よりも優先されます。ただし、この機能が影響するのは、文字組みの文字セット内の文字のみです。

文字幅の設定、文字間隔の設定

約物起こし、約物受け、中付き約物、および**連続する約物**の文字幅または文字間隔を指定します。

- **全角に固定**：文字幅をすべて全角に固定します。
- **半角に固定**：文字幅をすべて半角に固定します。
- **全角から半角**：文字幅を全角に指定しますが、半角に縮めることもできます。
- **半角から全角**：文字幅を半角に指定しますが、全角に拡大することもできます。
- **全角または半角**：文字を全角と半角のどちらかの幅に収めます。全角が優先されます。

- **半角または全角**：文字を半角と全角のどちらかの幅に収めます。半角が優先されます。
- **全角スペース**：表示される文字間のスペースを全角に指定します。
- **半角スペース**：表示される文字間のスペースを半角に指定します。
- **全角からスペースなし**：表示される文字間のスペースを全角に指定しますが、スペースなしに変更することもできます。
- **半角からスペースなし**：表示される文字間のスペースを半角に指定しますが、スペースなしに変更することもできます。
- **スペースなしから半角**：表示される文字間のスペースをなしに指定しますが、半角スペースに変更することもできます。
- **1/4角スペース**：表示される文字間のスペースを1/4角に指定します。
- **1/4角からスペースなし**：表示される文字間のスペースを1/4角に指定しますが、スペースなしに変更することもできます。

優先度

文字組みの間隔調整の優先順位を指定します。

- **高**：最初に調整します。
- **中**：2番目に調整します。
- **低**：最後に調整します。

プレビュー

幅および間隔の設定に関する編集可能なプレビューを有効または無効にします。

文字組みセットの適用

段落に文字組みセットを適用するには、**段落設定**ダイアログボックス（スタイル > 段落設定）（Windows）、または**メジャーパレット**の段落タブ（Mac OS X）の**文字組みセット**ドロップダウンメニューから名前を選択します。

段落スタイルシートに文字組みセットを適用するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（編集 > スタイルシート > 新規 > 段落または編集 > スタイルシート > 編集）の**形式**タブにある**文字組みセット**ドロップダウンメニューから文字組みセット名を選択します。

- ➡ 1つの段落に適用できる文字組みセットは1つだけです。

カラー、不透明度、およびドロップシャドウ

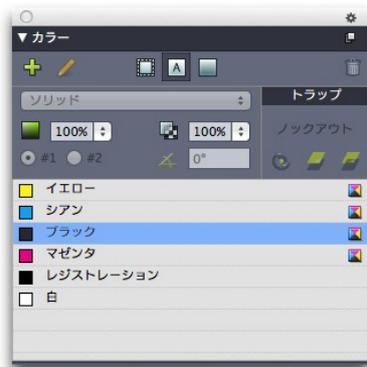
QuarkCopyDeskでは、カスタムカラーの作成、いくつかの標準化カラーマッチングシステムからの色の選択、およびカラーの編集を行えます。テキストと画像にカラーとシェードの両方を適用できます。テキストの不透明度もテキストのカラーと同じ方法で制御できます。アイテムとテキストの両方にドロップシャドウを適用できます。

カラーの使用

一部のカラーは、自動的にカラーパレットに組み込まれます。他のカラーを使用するには、カラーダイアログボックスを使用してカラーを作成するか、既存のカラーを編集する必要があります。このダイアログボックスでは、カラーホイールや数値フィールド、カラーマッチングシステムを使用してカラーを作成できます。

カラーパレット

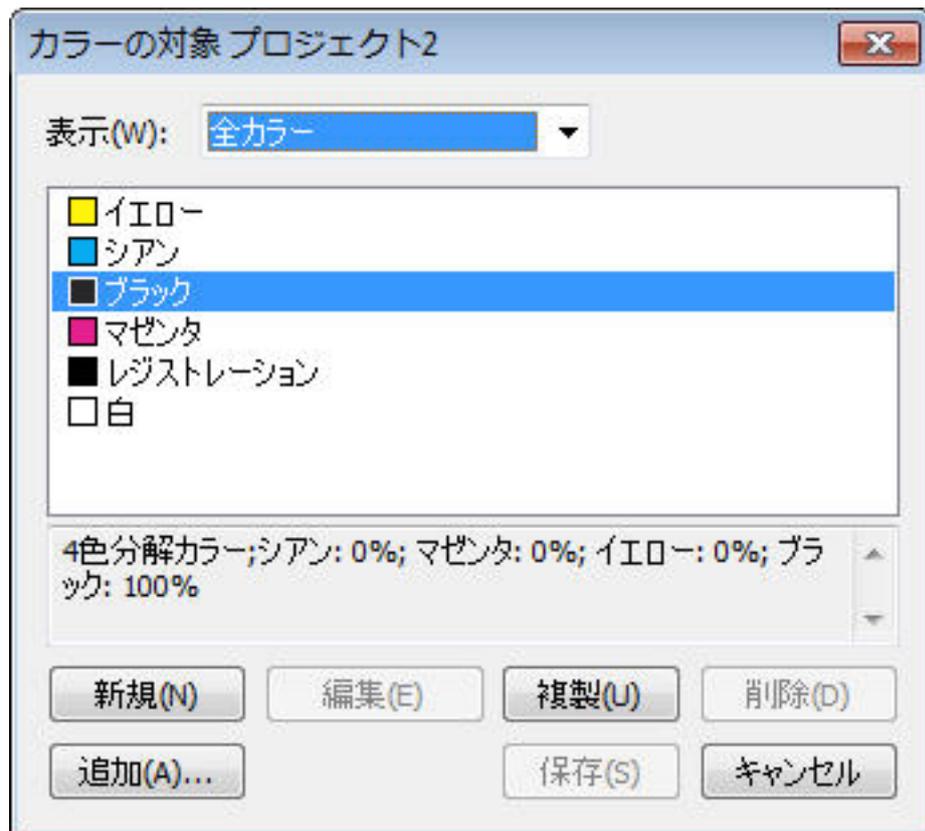
カラーパレット（ウィンドウ > カラー）を使用して、プロジェクト用のカラーを作成、編集、複製、および管理できます。このパレットでは、オーバープリントやノックアウトの設定も制御できます。



カラーパレットにより、カラーを作成、編集、削除できます。

カラーダイアログボックス

カラーダイアログボックス（編集 > カラー）を使用して、カラーを作成、編集、複製、削除、および追加できます。



カラーダイアログボックスにより、カラー定義を作成、編集、削除できます。

カラーの作成

カラーの作成時、いくつかのカラーモデル、または多数あるカラーマッチングシステムから選択できます。頻繁に使用するカラーがある場合、ファイルが開いていないときに、アプリケーションのデフォルトカラーリストのカラーを作成できます。最大で1,000までのデフォルトカラー、またはアークティック固有のカラーを作成できます。カラーを作成するには、**編集 > カラー**を選択してカラーダイアログボックスを表示し、**新規**をクリックして**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。その後、**名前**フィールドに名前を入力して新しいカラーのカラーモデルを指定します。**カラーパレットの新規**ボタンをクリックしてカラーを作成することもできます。

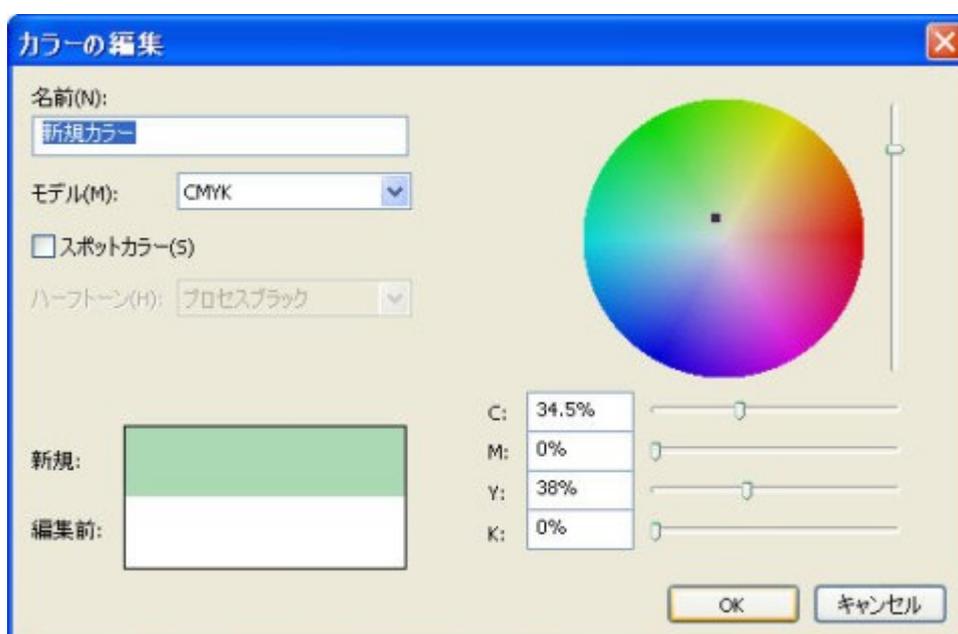
- **RGB**：この加法混色法カラーシステムは、スライドレコーダーやカラービデオモニターで最もよく使用され、ウェブページにもよく使用されます。赤、緑、および青の光を混ぜ合わせ、ビデオ画面に色を表示します。
- **HSB**：このカラーモデルは色を混ぜ合わせる方法と似ているため、デザイナーに多く使用されます。色相はカラーピグメントを、彩度はカラーピグメントの量を、明度はカラーの黒の量を表します。
- **LAB**：このカラースペースは、モニターやプリンタの製造業者による解釈の違いに依存しないように設計されています。LABカラースペースとも呼ばれるLABカラーモデルは、カラーを表現するための標準3次元モデルです。輝度座標（**L**）、および2つのクロミナンス座標（緑色-赤色の**A**）、および（青色-黄色の**B**）でカラーを指定します。
- **Multi-Ink**：このカラーモデルは、既存のプロセスやスポットインキの色調のパーセントを基にしています。

カラー、不透明度、およびドロップシャドウ

- **CMYK** : CMYKは、印刷機上でシアン、マゼンタ、黄色、および黒色インキを組み合わせることでカラーを再生成するために、プロフェッショナルプリンタで使用される減法混色法カラーモデルです。
- **ウェブセーフまたはウェブ名前付きカラー** : ウェブセーフカラーは、ウェブアプリケーション間で一貫したカラーを実現するために使用されます。
- カラーマッチングシステムからカラーを選択して、カラーリストに追加するには、**モデル**ドロップダウンメニューから標準カラーマッチングシステムの1つを選択します。

カラーの編集

既存のカラーを編集するには、**編集 > カラー**を選択して**カラーリスト**で編集するカラーを選択し、**編集**をクリックして**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。**カラーリスト**で編集するカラーをダブルクリックしても、**カラーの編集**ダイアログボックスを表示できます。



カラーの編集ダイアログボックス

カラーの複製

既存カラーを複製するには、**編集 > カラー**を選択して**カラーリスト**から複製するカラーを選択し、**複製**をクリックして複製する**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。

色の削除

デフォルトカラーの一部は削除できませんが、作成した新しいカラーや複製カラーは削除できます。カラーリストからカラーを削除するには、**編集 > カラー**を選択し、**カラーリスト**から削除するカラーを選択して、**削除**をクリックします。

別アーティクルやプロジェクトからのカラーの取り込み

別アーティクルやプロジェクトのカラーを追加するには、**カラー**ダイアログボックス (**編集 > カラー**) または**追加**コマンド (**ファイル > 追加**) を使用します。

カラーの一括変換

あるカラーが適用されたすべてのアイテムを別のカラーに一括変換するには、カラーを目的のカラーに編集するか、**編集 > カラー**を選択して**カラー**ダイアログボックスを表示し、編集するカラーの名前を選択して**編集**をクリックし、変更を加えます。

- ➡ あるカラーが適用されたすべてのアイテムとテキストを別のカラーに一括変換する場合は、実行前に必ず作業を保存してください。こうすることで、不適切なカラーに変換されてしまった場合に、**ファイル > 復帰**を選択するだけで不適切な変更を取り消すことができ、他の作業が影響を受けることもありません。

カラーおよびシェードをテキストに適用

下記の4つの方法で、カラーおよびシェードをテキストに適用できます。

- カラーおよびシェードは、**スタイル > カラーおよびスタイル > シェード**コマンドを使用して適用できます。
- **カラーパレット** (**表示 > カラーパレット表示**) を使用します。
- **スタイル > 文字スタイルシート**にある**文字スタイルシート**コマンドを使用すれば、作成した文字スタイルシートを使用している選択済みテキストに、カラーおよびコマンドを適用できます。
- **スタイル > 文字**にある**文字属性**ダイアログボックスを使用できます。

不透明度の使用

不透明度の指定は、カラーのシェードの指定と同様に、簡単に行えます。実際に、**カラーパレット**、**スタイルメニュー**、**文字属性ダイアログボックス** (**スタイル > 文字**) などのカラーを選択可能なコンポーネントであれば、0% (透明) から100% (不透明) の間の不透明度値を0.1%きざみで入力できます。

画像

画像は、イメージ編集アプリケーションや他のグラフィックアプリケーションから、QuarkCopyDeskに取り込みおよびペーストできます。画像を画像コンポーネントに取り込むと、位置の変更、サイズの変更、傾斜、またはフリップなど、その画像に対して多くの操作を実行できます。

画像の使用

アークティクルに画像が含まれる場合、QuarkCopyDeskでその画像を表示および操作できます。また、画像コンポーネントを作成することもできます。

画像の取り込み

画像を取り込むには、下記のいずれかを実行します。

- **ファイル > 取り込み**を選択します。
- 画像ファイルをファイルシステムから画像コンポーネント上にドラッグします。コンポーネントに画像が入っている場合、Command/Ctrlキーを押して画像を置き換えます。
- 画像を別のアプリケーションから画像コンポーネント上にドラッグします。コンポーネントに画像が入っている場合、Command/Ctrlキーを押して画像を置き換えます。
- 画像ファイルをファイルシステムからテキストコンポーネント上にドラッグした後、Command/Ctrlキーを押してコンポーネントが画像を受け付けるようにします。
- 画像を別のアプリケーションからテキストコンポーネント上にドラッグした後、Command/Ctrlキーを押してコンポーネントが画像を受け付けるようにします。

画像の移動

画像のサイズ変更

画像の角や側面にある丸形の画像ハンドルをクリックしてドラッグすることにより、画像を拡大縮小できます。画像のサイズを変更するときにShiftキーを押すと、縦横比を維持したまま画像のサイズが変更されます。画像を中心から比率を保ちながらサイズ変更するには、Shift+Option/Shift+Altキーを押しながら角ハンドルをドラッグします。**スタイルメニュー**、**メジャーパレット**、または**コンテキストメニュー**を使用しても画像のサイズを変更できます。

縦横比を維持したまま画像を拡大縮小し、最大寸法が画像コンポーネントの内部に収まるようにするには、**コンテキストメニュー**または**スタイルメニュー**で**画像をボックスに合わせる（縦横比を保持）**を選択します。縦横比を維持したまま画像を拡大縮小し、画

像コンポーネントを完全に埋めるようにするには、コンテキストメニューまたは**スタイル**メニューで**画像をボックスに合わせる（縦横比を保持）**を選択します。

画像の切り抜き

画像の一部のみが必要な場合は、画像ハンドルで画像のサイズを調整して手動で切り抜くことができます。

画像の回転と傾斜

画像を回転させるとボックス内での画像の角度が変わり、画像を傾斜させると画像が傾いて表示されます。

画像を回転させるには、画像の角ハンドルの1つにマウスのポインタを置きます。選択した角に応じた回転ポインタが表示されます。ポインタをドラッグして画像を回転させます。また、画像の回転角度を、**Windowsの設定**ダイアログボックス（**スタイル > 画像**）、または**メジャーパレット**（**ホーム / クラシック**タブ）の**画像の角度**フィールドに入力することもできます。

画像を傾斜させるには、**Windowsの設定**ダイアログボックス（**スタイル > 画像**）、または**メジャーパレット**（**ホーム / クラシック**タブ）の**画像の傾斜**フィールドに値を入力します。

画像へのカラーおよびシェードの適用

シャドウ、白黒の中間調、およびグレイスケールの画像に、カラーとシェードの値を適用できます。これには、**カラーパレット**（**ウィンドウ > カラー**）、**設定**ダイアログボックス、**メジャーパレット**、または**スタイル**メニューを使用します。画像バックグラウンドおよびボックスバックグラウンドにもカラーを適用できます。

- 白黒またはグレイスケールの画像にカラーを適用するには、**画像カラーアイコン**を選択して、カラー名をクリックします。
- 白黒またはグレイスケールの画像のバックグラウンドにカラーを適用するには、**画像バックグラウンドカラーアイコン**を選択して、カラー名をクリックします。

画像のフリップ

画像コンポーネントのコンテンツは、**スタイル**メニュー（**スタイル > 水平フリップ**または**スタイル > 垂直フリップ**）または**メジャーパレット**（**水平フリップアイコン**または**垂直フリップアイコン**をクリック）を使用して、左から右または上から下へフリップできます。

画像の一覧表示、状況確認、および更新

QuarkCopyDeskは、画像ファイルへのパスを保持し、出力に必要な高解像度情報を取得しながら、取り込まれた各画像ファイルの低解像度72dpiプレビューを自動的に表示します。

使用状況機能（**補助**メニュー）では、取り込んだ画像すべてをトラッキングできます。この機能を使用するには、**補助 > 使用状況**を選択し、**画像**をクリックして**画像**ペインを表示します。

表示ボタンを使用すると、選択した画像がレイアウト上に表示されます。

更新ボタンを使用すると、移動されている画像および変更された画像を更新できます。確認のための警告を出さずに変更された画像を更新するには、Option/Altキーを押ししながら**更新**ボタンをクリックします。

画像を出力しないようにするには、画像の**印刷列**のチェックボックスをオフにします。

画像バックグラウンドカラーの指定

画像で選択できるデザインオプションを増やすため、ボックスのカラー、画像カラー、および画像バックグラウンドカラーを変更できます。詳細は、「[画像へのカラーおよびシェードの適用](#)」を参照してください。

- グレイピクセルの場合は、画像カラーと画像バックグラウンドカラーが混合されます。
- 画像カラーまたは画像バックグラウンドカラーにさまざまな不透明度を指定する場合は、カラーがお互いに、およびボックスカラーと相互作用します。

画像属性の保持

画像を画像コンポーネントに取り込む場合は、その画像コンポーネントに画像が入っているかどうかに関係なく、すべての画像属性を保持できます。たとえば、空の画像コンポーネントで、画像を50%に縮小して90度回転させるように指定されている場合は、新しい画像を取り込んでそれらの属性を自動的に適用できます。

画像を取り込み、そのコンポーネントおよび/または既存の画像に指定されている属性を保持するには、**取り込み**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）で**画像属性を保持**をオンにします。

クリッピングパスの使用

クリッピングパスとは、画像のどの部分を表示し、どの部分を透明として扱うかを示す、閉じたベジエ形状です。クリッピングパスは、元の画像ファイルのバックグラウンドから画像の標題を分離するときなどに、特に役立ちます。

クリッピングパスは、QuarkXPressまたはQuarkCopyDeskで新規作成したり、埋め込みパスまたはアルファチャンネル情報を使用して作成したりできます。QuarkXPressまたはQuarkCopyDeskで作成されたクリッピングパスは、画像ファイルに基づき、レイアウトとともに保存されます。



クリッピングパスを使用すれば、画像のどの部分を表示し、非表示にするか、制御できます。

クリッピングパスの基本

クリッピングパスは、表示として扱う部分と非表示として扱う部分を定義する、閉じたベジエ形状です。

クリッピングパスは、QuarkXPressとQuarkCopyDeskに画像のどの部分を表示するかを指示します。また、回り込みパスは、QuarkXPressとQuarkCopyDeskにテキスト回り込みの位置を指示します。回り込みパスとクリッピングパスに同じ設定を使用する必要はありません。回り込みパスとクリッピングパスの設定に、異なるクリッピングパスまたはアルファチャンネルを使用することもできます。

QuarkCopyDeskで作成されたクリッピングパスは、高解像度画像ファイルに基づき、アティクルとともに保存されます。

クリッピングパスの作成

アクティブな画像コンポーネントのクリッピングパスの作成または割り当てを行うには、**Windows**では**クリッピングタブ**をクリックし、**種類**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**Mac OS X**では、**メジャーパレットのクリッピングタブ**を使用します。

- イメージを画像コンポーネント境界に合わせて切り抜くには、**アイテム**を選択します。**アイテム**を選択するだけでは、クリッピングパスは作成されません。画像コンポーネントの形に合わせて画像が切り抜かれるだけです。
- 既に画像ファイルに埋め込まれているパスに沿って画像をクリップするには、**埋め込みパス**を選択します。画像ファイルに複数のパスが埋め込まれている場合は、**パス**ドロップダウンメニューから目的のパスを選択します。
- 既に画像ファイルに埋め込まれているアルファチャンネルに沿って画像をクリップするには、**アルファチャンネル**を選択します。画像ファイルに複数のアルファチャンネルが埋め込まれている場合は、**アルファ**ドロップダウンメニューから目的のアルファチャンネルを選択します。アルファチャンネルに沿ってクリッピングパスを使用すると、ブレンドされた効果ではなくハードエッジが作成される点に注意してください。半透明のブレンドが必要な場合は、アルファマスクを使用してください（「[アルファマスクの使用](#)」を参照してください）。
- 画像の主体に基づいてクリッピングパスを作成するには、**白以外の領域**を選択します。クリッピングパスは、イメージと**限界**フィールドの値に応じて、全体に白または白に近い

いイメージ内で、白以外の形状部分のアウトラインを描きます（またはその逆）。**白以外の領域**オプションは、イメージの不要な部分が画像の主体よりも明るい場合（または暗い場合）に使用すると効果的です。

- 取り込んだ画像ファイルの、矩形の「キャンバス領域」に沿って画像をクリップするには、**画像境界**を選択します。これには、元の画像ファイルで保存されている白のバックグラウンドも含まれます。**上**、**左**、**下**、および**右**の各フィールドに値を入力して、画像境界からのクリッピングパスの距離を決定します。正の値は距離を増やし、負の値は距離を減らします。

埋め込みクリッピングパスの使用

画像編集アプリケーションを使用すれば、イメージにパスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。これらの情報を格納している画像がQuarkCopyDeskに取り込まれると、**設定**ダイアログボックスの**クリッピング**タブ、**メジャーパレット**のタブを使用して、パスとチャンネルの情報にアクセスできます。

TIFFとPSDには、パスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。EPS、BMP、JPEG、PCX、およびPICTファイルには、パスのみを埋め込むことができます。

アルファマスクの使用

クリッピングパスはスムーズエッジを生成し、これは主に前面イメージをバックグラウンドイメージと分離するために使用されます。これに対してアルファマスクは透明度情報を含み、新しいバックグラウンドに前面イメージを微妙にブレンドできます。

QuarkCopyDeskでアルファマスクを使用するには、まずAdobe Photoshopなどの画像編集アプリケーションでアルファマスクを作成する必要があります。それから、作成したアルファマスクをQuarkCopyDeskで使用します。



フレーム上のアルファマスクを使用して、バックグラウンドのテキストを表示できます。

QuarkCopyDeskでアルファマスクを使用するには、アルファチャンネルをサポートする形式で画像とともに保存する必要があります。

選択した画像にアルファマスクを適用するには、**メジャーパレットのマスクドロップダウンメニュー**からアルファチャンネルを選択します。

- ➔ デフォルトでは、このドロップダウンメニューは**コンポジット**に設定されており、この状態ではイメージ全体の透明度が保持されます。

PSD画像の使用

Adobe Photoshopの変更されていないネイティブの画像ファイルを、PSD Import XTensionsソフトウェアを使用して、QuarkCopyDeskに直接取り込むことができます。いったんファイルが取り込まれると、Photoshop (PSD) ファイルで保存されたレイヤー、チャンネル、およびパスを操作できるようになります。このようにPhotoshopとQuarkCopyDeskを統合することで、ワークフローが効率的になり、変更をスキップできます。また、ネイティブファイルを操作できるのでハードディスクのスペースを節約でき、レイヤー、チャンネル、パスへアクセスできるため、創造面での可能性が広がります。

PSD Import XTensionsソフトウェアが実行されていると、**ファイル > 取り込み**を使用して、選択したQuarkCopyDesk画像ボックスにPSDファイルを取り込むことができます。

イメージのレイヤー、チャンネル、パスを使用するには、**ウィンドウ > 高度なイメージ制御**を選択します。**高度なイメージ制御**パレットを使用すれば、レイヤーをブレンドしたり、カラーチャンネルを使用したり、パスを選択したりできます。

➡ QuarkCopyDeskでPSDファイルを使用するには、PSD Import XTensionsをロードしておく必要があります。

PSDファイルの準備

高度なイメージ制御で使用する画像をPhotoshopで準備する場合は、下記の点を念頭に置く必要があります。

- イメージを別のファイル形式で保存する必要はありません。したがって、レイヤーを平滑化する必要もありません。
- テキストを周囲に回り込ませる輪郭のアルファチャンネルまたはクリッピングパスを作成します。
- 別のスポットカラーまたは光沢を適用する領域のチャンネルを作成します。
- 高度なイメージ制御では、レイヤー効果を使用する画像を含む、特定画像のレイヤー情報を読み込めません。代わりにコンポジット画像が使用されます。

➡ Photoshop画像の場合は、画像効果を使用できません。

➡ 高度なイメージ制御は、グレースケール、RGB、CMYK、索引、およびマルチチャンネルの各モードでPSDファイルをサポートします。

PSDレイヤーの使用

レイヤーを使用していろいろと試すことで、レイアウト全体のコンテキストの中でさまざまなイメージを確認できます。さらに、レイヤーの不透明度を変更したり、ディゾルブ、明、差分などのさまざまなブレンドモードを試したりして、デザインの残りの部分にこれらの効果がどのように影響するかを確認できます。

PSD画像内のレイヤーの不透明度を表示、非表示、ブレンド、変更するには、**高度なイメージ制御**パレットの**レイヤーペイン**を使用します。**高度なイメージ制御**パレットでは、画像ファイルがどのように作成されたかの情報が表示されますが、画像ファイルに基本的な変更を加えることはできません。

- **レイヤーペイン**を使用しても、レイヤーを作成、命名、コピー、複製、整列、位置の変更、削除、または結合できません。
- PSDファイルにレイヤーがない場合、**高度なイメージ制御**パレットにはバックグラウンドレイヤーだけが表示されます。

PSDレイヤーのブレンド

レイヤーペインの**ブレンドモード**ドロップダウンメニューでは、選択されているレイヤーのピクセルが、そのレイヤーのすべての下位レイヤーのピクセルとどのように対話する

かを制御します。ブレンドモードは、画像編集アプリケーションのものと同様で、**乗算、覆い焼きカラー、除外、および彩度**などのオプションを使用できます。

Photoshopレイヤーの表示および非表示

表示のレイヤーは画面に表示し、印刷できます。非表示のレイヤーは画面に表示されず、印刷されません。高度なイメージ制御を使用して、バックグラウンドレイヤーを含む任意のレイヤーを非表示にできます。

- レイヤーを表示するには、そのレイヤーの左にある空のボックスアイコンをクリックします。
- すべてのレイヤーを表示するには、Option+Shift/Alt+Shiftキーを押しながら、空のボックスアイコンをクリックします。
- レイヤーを非表示にするには、目アイコンをクリックします。
- 1レイヤーを除いたすべてのレイヤーを非表示にするには、Option/Altキーを押しながら目アイコンをクリックします。

レイヤーのブレンドと不透明度を変更して得られた結果が望ましくない場合、**高度なイメージ制御**パレットメニューの**レイヤー復帰**または**全レイヤー復帰**オプションを使用して、取り込んだPSDファイルの元の状態にレイヤーを戻すことができます。

PSDレイヤーの不透明度の変更

レイヤーペインのフィールドを使用して、選択したレイヤーでのピクセルの透明度を制御できます。透明度は、0%（完全に透明）から100%（完全に不透明）までの範囲で指定できます。

レイヤーマスクの使用

PSDファイルにレイヤーマスクが保存されている場合、**高度なイメージ制御**パレットのレイヤーペインで、Shiftキーを押しながらレイヤーマスクのサムネイルプレビューをクリックすると、マスクを有効/無効にできます。

PSDチャンネルの使用

Photoshopチャンネルは、画像に関するカラー情報を保存しています。デフォルトでは、グレースケールおよびインデックスカラーイメージには1つのチャンネル、RGBイメージには3つのチャンネル、CMYKイメージには4つのチャンネルがあります。これらのチャンネルは、まとめて**デフォルトチャンネル**と呼ばれます。You can use the **Channels** pane of the **Advanced Image Control** palette to show and hide all channels, to change the color and ink solidity of a selected spot-color channel or alpha channel, and to assign spot colors to selected indexed colors.たとえば、チャンネルに光沢、エンボス、打ち抜きなどの特殊効果を割り当てることができます。

チャンネルの表示および非表示

取り込んだPSDファイル中の表示のチャンネルは画面上に表示して印刷できます。非表示のチャンネルは画面上には表示されず、印刷できません。チャンネルの表示と非表示の切り替え処理は、レイヤーの場合と同様です。

コンポジットチャンネルをクリックすると、CMYKやRGBなどのデフォルトチャンネルがすべて表示されます。

チャンネルのカラーおよび不透明度の変更

高度なイメージ制御を使用して、Photoshopで作成したスポットカラー、マスク、またはアルファチャンネルのカラー、シェードおよび不透明度を変更できます。コンポジットイメージをオーバープリントするチャンネルにスポットカラーを割り当てたり、チャンネルの画面表示およびカラーコンポジットの印刷時の不透明度を指定したりできます。

Photoshopでマスクチャンネルとして指定されるチャンネルは、スポットカラーとして指定されるチャンネルとは別に取り込まれます。Photoshopでは、マスクチャンネルとスポットチャンネルには不透明度の設定値が割り当てられます。PSD Importでは不透明度がサポートされているので、マスクチャンネルの不透明度は0%として取り込まれます。取り込んだPSDのマスクチャンネルを表示するには、**高度なイメージ制御**パレットの**チャンネル**タブでマスクチャンネルを手動で有効にする必要があります。一方、スポットカラーチャンネルはPSDファイルに保存されている不透明度値を保持し、デフォルトでQuarkCopyDeskのカラーにマップされます。

チャンネルオプションダイアログボックスを使用して、スポットカラーまたはアルファチャンネルのピクセルのカラー、シェード、または不透明度を変更します。**チャンネルオプション**ダイアログボックスを表示するには、**高度なイメージ制御**パレット（**ウィンドウメニュー**）の**チャンネル**ペインで、チャンネルをダブルクリックします。

インデックスカラーチャンネルの使用

デフォルトでは、QuarkXPressでPSD Importを使用して色分解を印刷する場合、インデックスカラーイメージのカラーはCMYKに分解されます。デフォルト設定を上書きするには、**編集 > カラー**でスポットカラーまたはMulti-Inkカラーを作成し、画像で選択したインデックスカラーに適用します。高度なイメージ制御では、インデックスカラーイメージのカラーからスポットカラーを作成することもできます。変更しないインデックスカラーは、引き続きCMYKに分解されます。

PSDパスの使用

PSD Importを使用して、クリッピングおよび回り込みを指定するための埋め込みパスを選択することもできます。**高度なイメージ制御**パレットの**パス**ペインから、QuarkCopyDeskのクリッピングパス機能およびテキスト回り込み機能に簡単にアクセスできます。

パスペインを使用すれば、さまざまなクリッピングパスを選択して、テキスト回り込みの輪郭に使用できます。テキスト回り込みの輪郭を選択するには、最初の列で空のボックスをクリックします。**テキスト回り込み**アイコンが表示され、テキストがクリッピングパスの輪郭に回り込みます。

また、**パス**ペインを使用し、Photoshopで作成したクリッピングパスを選択して、イメージの表示を制御することもできます。クリッピングパスを選択するには、2番目の列で空のボックスをクリックします。**クリッピングパス**アイコンが表示され、選択したクリッピングパス内の画像領域も表示されます。

PSD Importでパスに加えた変更は、元に戻すことができます。パスは、取り込まれたPSDファイルで作成されたときの、元の状態に戻ります。元の状態に戻すには、**高度なイメージ制御**パレットまたはコンテキストメニューから、**パス復帰**または**全パス復帰**を選択します。

PSD Importによる印刷

PSD Importを使用してアーティクルを印刷する場合は、印刷する各PSD画像内で、レイヤー、チャンネル、およびパスを指定できます。**高度なイメージ制御**パレットの目のアイコンは表示と印刷の両方を制御するため、画像は表示されたとおりに印刷されます。

- ➡ PSD Import XTensionsソフトウェアを実行せずにアーティクルを印刷する場合、PSDファイルは低解像度のコンジットプレビューとして印刷されます。レイヤー、チャンネル、およびパス情報は使用できず、画像は分割されません。

ドキュメントの構築

リスト機能を使用すると、目次や他のリストを作成できます。

リストの使用

リスト機能により、特定の文字または段落スタイルシートが適用されている段落のテキストを収集できます。リスト機能は、目次の作成で最も多く使用されますが、出版物で使用される図や画像のリストを作成するために使用することもできます。

リストの準備

リストを作成する前に、ドキュメント内にスタイルシートを作成して適用する必要があります。まず、「CHAPTER名」、「SECTION名」、「本文のテキスト」など、目次で使用するスタイルシートを作成します。次に、フォーマットされた目次に別の段落スタイルシートを作成します。

リストにスタイルシートを追加する

リストの作成の最初の手順として、まずリストに含めるスタイルシートを決定します。目次には、一般的にCHAPTERタイトルおよびその該当ページ番号が記載されるため、目次を作成するには、CHAPTERおよびSECTIONのスタイルシートをリストに含めます。リストには、段落および文字のスタイルシートを含めることができます。

リストのレベルの指定

リストの作成前に、段落スタイルシートの各レベルの定義方法についても決めておく必要があります。たとえば、CHAPTERの見出しを第1レベルに、CHAPTER内の標題を第2レベルにそれぞれ設定します。また、アプリケーションに関するマニュアルを作成している場合、「ファイルメニュー」というタイトルが付いている場合、「ファイルメニュー」という見出しのCHAPTERをリストの第1レベルに設定します。さらに、「新規」、「開く」、「閉じる」、「保存」などのアイテムは、「ファイルメニュー」CHAPTERのサブ見出しとなり、これを第2レベルに設定できます。あらかじめこのように決定しておけば、リストの作成プロセスが簡単になります。

リストの作成

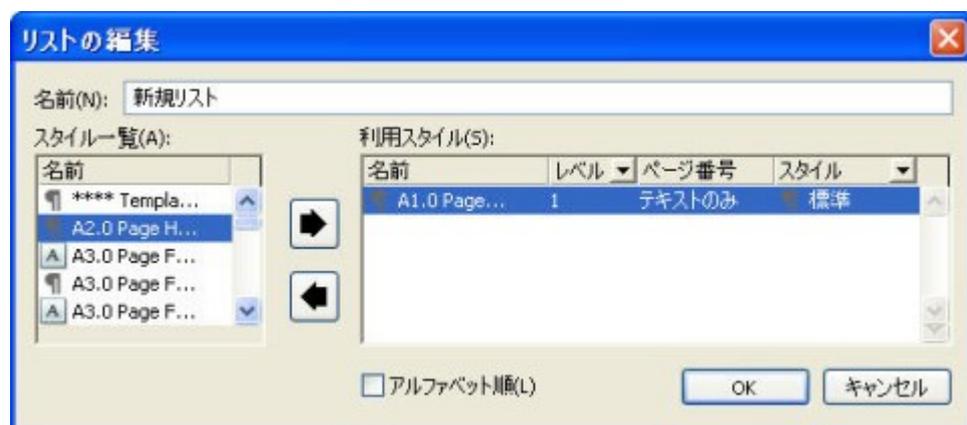
ドキュメントでスタイルシートを作成して適用し、リストに含める内容を決めたら、リストの作成を開始できます。**編集 > リスト**を選択して**新規**をクリックし、**リストの編集**ダイアログボックスを表示して、**名前**フィールドに名前を入力します。

スタイル一覧に、アクティブなアーティクルの全スタイルシートが一覧されます。リストに使用する各スタイルシートを選択して**追加**をクリックして、**利用スタイル**リストに

追加します。たとえば、「Heading 1」および「Heading 2」スタイルシートを使用するすべての見出しを目次を含める場合、この2つのスタイルシートを**利用スタイル**リストに追加します。

目次に入る内容を指定するスタイルシートを指定すると、目次のフォーマット方法を指定できるようになります。**利用スタイル**リストの各スタイルに対し、**レベル**、**ページ番号**オプション、および**スタイル**スタイルシートを選択します。

- **レベル**は、リストのコンテンツが**リストパレット**でどのようにインデントされるかを指定します（レベルを高くするとさらにインデントされます）。
- **ページ番号**は、スタイルシートの各オカレンスのページ番号をリストに含めるかどうかとその位置を制御します。
- **スタイル**では、自動的に生成される目次の各レベルにスタイルシートを適用できます。



リストの編集ダイアログボックスを使用して、自動目次のようなリストを作成できます。

別のドキュメントからのリストのインポート

QuarkCopyDeskでは、リストを別のドキュメントから、または**編集 > リスト**にある**リスト**ダイアログボックスや**ファイル > 追加**にある**追加**コマンドを使用して追加できます。

リストでのナビゲーション

リストを表示するには、**ウィンドウメニュー**の**リストパレット**を表示して、**リスト名**ドロップダウンメニューにあるリストを選択し、**更新**をクリックします。選択したリストが**リストパレット**に表示されます。



リストパレットを使用して、レイアウト内をナビゲートできます。

- ➡ アーティクルに複数のレイアウトを含んでいる場合、**表示リスト**ドロップダウンリストから別のレイアウトを選択できます。

アクティブリスト内の特定の行を探すには、パレットの**検索**フィールドにその行の語を入力します。パレットのリストが、指定した語のリスト内での**最初の出現場所**にスクロールします。

特定の段落にジャンプするには、**リストパレット**でその段落をダブルクリックします。ウィンドウが、レイアウト内のその段落の場所にスクロールします。

リストの作成

レイアウト中に目次（またはその他のタイプのリスト）を作成するには、リストの配置先にテキストの挿入ポイントを配置し、**リストパレット**にある**作成**をクリックします。リストが自動的に作成されます。**スタイル**ドロップダウンメニュー（**新規リスト**ダイアログボックス）でリスト用に選択したスタイルシートが自動的に適用されます。

- ➡ ドキュメントのテキストがペーストボードにある場合、作成されるリストではページ番号の代わりに、ダガー記号（**Mac OS X**）や「PB」という文字列（**Windows**）がテキストの横に表示されます。

リストの更新

リストパレットは、パレットで作業しても自動的に更新されません。テキストを変更したときは、**最新の状態**になるようにリストを更新する必要があります。**リストパレット**の**更新**ボタンをクリックすると、リストアイテムのドキュメントがスキャンされ、**リストパレット**のリストが再構築されます。

アクティブなテキストコンポーネントに既にフローしているリストを更新するには、**更新**をクリックしてリストを確実に**最新の状態**にし、**作成**をクリックします。アプリケーションは、テキストコンポーネントに既にそのリストのコピーがあることを検出し、リ

ストの新しいコピーを**挿入**するのか、または既存のバージョンを**置換**するのかを尋ねる警告を表示します。既存のリストを更新するには、**置換**をクリックします。

出力

レビューのためレーザープリンタでプルーフコピーを印刷する場合や、高解像度のイメージセッターやプレートセッターでフィルムや版の最終的な出力が必要な場合、QuarkCopyDeskによって常に満足できる結果が得られます。QuarkXpress 9およびそれ以降のバージョンではホストベースの分解がサポートされていませんが、**In-RIP**分解または**コンポジット**出力を使用して出力を続行できます。

アーティクルの印刷

アクティブなアーティクルを印刷するには、まず**ファイル > 印刷** (Command+P / Ctrl+P) を選択します。**印刷**ダイアログボックスが表示されます。出力の外観を指定するには、このダイアログボックスのコントロールを使用します。指定したら、**印刷**をクリックします。

画像パスの更新

QuarkCopyDeskでは、取り込まれた画像について、低解像度と高解像度の2種類の情報が使用されます。低解像度の情報は、画像のプレビュー表示に使用します。印刷時に元の画像ファイルに含まれる高解像度の情報は、その画像へのパスを使用してアクセスできます。

画像へのパスは、画像を取り込むときに確立されます。アプリケーションは、各画像パスに関する情報と、画像の最終変更日の情報を保持します。

取り込み後に画像を移動または変更すると、**出力コマンド** (印刷、PDF、EPS、またはデジタル出力)、または**出力用ファイルの収集**コマンド (**ファイル**メニュー) を実行したときに、警告メッセージが表示されます。

- ➡ アプリケーションでは、ドキュメントと同じフォルダに格納されている画像であれば、その画像が取り込み時に同じフォルダに格納されたかどうかに関係なく、常に「検索」できます。

印刷ダイアログボックスの制御に関する設定

アーティクルを印刷するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **ファイル > 印刷** (Command+P / Ctrl+P) を選択します。**印刷**ダイアログボックスが表示されます。
- 2 プリンタドライバを選択するには、**プリンタ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

- **(Windowsのみ)** : **プロパティ** ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが開き、選択したプリンタドライバに固有のコントロールが表示されます。このダイアログボックスのオプション、またはプリンタのインストール方法についての詳細は、Microsoft Windowsソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。
- 3 以下のいずれかの方法で出力オプションを指定します。
 - 既存の印刷出力スタイルを使用するには、**印刷書式** ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
 - 手で印刷オプションを構成するには、ダイアログボックス下部のコントロールを使用します。**印刷** ダイアログボックスのこの部分はいくつかのペインに分かれています。ペインを表示するには、左下のリストから名前をクリックします。詳細は、「[印刷ダイアログボックス](#)」を参照してください。
 - 選択した印刷オプションを新しい出力スタイルとして保存するには、**印刷書式** ドロップダウンメニューから**新規印刷出力スタイル**を選択します。
 - 4 印刷部数を指定するには、**部数** フィールドに値を入力します。
 - 5 印刷対象のページを指定するには、**ページ** フィールドに値を入力します。印刷するページ範囲、不連続のページ、または範囲と不連続のページの組み合わせを入力することもできます。連続または不連続のページ範囲を指定するには、コンマおよびハイフンを使用します。たとえば、20ページのレイアウトがあり、3~9ページ、12~15ページ、および19ページを印刷する場合、ページフィールドに「3-9,12-15,19」と入力します。
 - 6 奇数ページのみを印刷するか、偶数ページのみを印刷するか、すべてのページを印刷するかを指定するには、**ページ選択** ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**全ての** (デフォルト設定) を選択すると、関連ページがすべて印刷されます。**奇数ページ** を選択すると、奇数ページのみが印刷されます。**偶数ページ** を選択すると、偶数ページのみが印刷されます。
 - 7 ドキュメントの印刷を拡大または縮小するには、**縮小率** フィールドに割合を入力します。デフォルトは100%です。
 - 8 レイアウトを2部以上印刷する場合で、1部ずつページ順に出力する場合、**丁合い** チェックボックスをオンにします。**丁合い** チェックボックスをオフにすると、各ページが一度に複数部印刷されます。
 - 9 フィルムまたは用紙に横一列にスプレッド印刷する (隣接するページを平行に印刷する) には、**スプレッド** チェックボックスをオンにします。
 - 10 逆順で複数レイアウトを印刷するには、**逆順** チェックボックスをオンにします。レイアウトの最後のページが最初に印刷されます。
 - 11 **印刷領域に合わせる** チェックボックスをオンにすると、選択したメディアの印刷可能領域に合わせてドキュメントでページのサイズが拡大または縮小します。
 - 12 **(Mac OS Xのみ)** : **プリンタ** ボタンをクリックすると、**プリンタドライバ** ダイアログボックスが開きます。詳細は、コンピュータに付属のマニュアルを参照してください。
 - 13 レイアウトを印刷するには、**印刷** をクリックします。
 - 14 設定を保存しない場合、またはレイアウトを印刷しない場合は、**キャンセル** をクリックして**印刷** ダイアログボックスを閉じます。

- ➡ (Windowsのみ) 印刷ダイアログボックスの右上に、ページのプレビュー領域があります。この画像を使用して、出力デバイスでのページの表示方法をプレビューできます。
- ➡ (Mac OS Xのみ) 実際の出力が表示されるように、印刷ダイアログが拡張されています。

印刷ダイアログボックス

印刷ダイアログボックスのペインについては、以下のトピックで説明します。

デバイスペイン

PPDの選択やページの配置など、デバイス固有の設定を行うには、**デバイスペイン**を使用します。

- PPDを指定すると、**用紙サイズ**、**横**、および**縦**フィールドに、PPDから供給されるデフォルトの情報が自動的に入力されます。イメージセッタでPPDを選択すると、**ページ間隔**と**用紙のオフセット**フィールドも使用できるようになります。Windowsでは、**PPDマネージャー**ダイアログボックス (**補助メニュー**) を使用して、**PPD**ドロップダウンメニューで使用できるPPDのリストをカスタマイズできます。**Mac OS X**では、**MAC HD > Library > Printers > PPDs**フォルダにPPDをインストールし、QuarkXPressを再起動する必要があります。これで、印刷ダイアログボックスのPPDリストに、すべてのPPDが表示されるようになります。適切なPPDがない場合、類似する汎用の組み込みPPDが選択されます。
- プリンタで使用するメディアのサイズを指定するには、**用紙サイズ**ドロップダウンメニューからサイズを選択します。
- プリンタでメディア縦横のサイズをカスタマイズするには、**用紙サイズ**ドロップダウンメニューから**その他**を選択し、**横**および**縦**フィールドに値を入力します。連続給紙または非ドラム式のイメージセッタに出力を送信する場合、**縦**フィールドを**自動**に設定します。
- 選択した出力メディアでドキュメントの位置を指定するには、**設定位置**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- **イメージセッタの場合のみ**：**用紙のオフセット**フィールドに値を入力し、ページの左端がロールメディアの左端からオフセット（またはインセット）される距離を指定します。
- **イメージセッタの場合のみ**：**ページ間隔**フィールドに値を入力し、ページをロールに印刷する場合のレイアウトのページ間隔を指定します。
- ページ画像のネガを印刷する場合、**ネガ印刷**チェックボックスをオンにします。
- 出力中に報告されるPostScriptのエラー出力を受信するには、**PostScriptエラーハンドラ**をオンにします。

ページペイン

ページ方向、タイリング、ページのフリップなどの関連オプションを指定するには、**ページペイン**を使用します。

- 縦置きモードと横置きモードのどちらで印刷するかを指定するには、**方向**ラジオボタン (**縦置き**または**横置き**) をクリックします。

- 空白のページを出力に含める場合は、**空白ページを含む**チェックボックスをオンにします。
- 出力を縦と横のどちらかにフリップさせるには、**ページフリップ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

セクション（タイトル）に大きなレイアウトを印刷するには、**ページタイリング**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。アプリケーションでは、チェックマークと位置情報がタイトルごとに印刷されるため、組み直しの場合に便利です。

- ルーラーの元の位置を指定してページのタイリング方法を制御するには、**手動**を選択します。
- アプリケーションでレイアウトのサイズ、メディアのサイズ、**絶対オーバーラップ**をオンにするかどうか、および**オーバーラップ幅**フィールドの値に応じて、各ドキュメントの印刷に必要なタイトル数を決定するには、**自動**を選択します。**オーバーラップ幅**フィールドで入力する値は、アプリケーションで必要に応じてタイトルを作成する場合にページの拡大に使用する値です。**絶対オーバーラップ**をオンにすると、ページを拡大してタイトルを作成する場合に、アプリケーションで**オーバーラップ幅**フィールドの値のみが使用されます。**絶対オーバーラップ**をオフにすると、タイトルの作成時にアプリケーションで**オーバーラップ幅**フィールドの最小値が使用されますが、より大きな値を必要に応じて使用する場合があります。最終的な組み立てタイトルの中央にレイアウトを配置する場合は、**絶対オーバーラップ**チェックボックスをオフにします。

カラーペイン

カラーペインでは、PDFをカラーまたはグレースケールのどちらで作成するかを指定できます。

画像ペイン

画像の印刷方法を制御するには、**画像**ペインを使用します。

- 画像の印刷方法を指定するには、**出力**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**標準**を選択すると、画像のソースファイルのデータを使用して高解像度で画像が出力されます。**低解像度**を選択すると、画像が画面のプレビューどおりの解像度で印刷されます。**ラフ**を選択すると、画像が出力されず、フレーム付のボックスとその中の「x」がブレンドして印刷されます。そのため、画面では空の画像ボックスのように表示されます。
- 印刷データの形式を指定するには、**データ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。バイナリ形式の場合、ドキュメントの印刷速度が上がりますが、**ASCII**オプションの方が、さまざまなプリンタやプリントスプーラで読み取り可能な標準形式であるため簡単です。**クリーン8ビット**オプションでは、ASCIIとバイナリがさまざまなポータブルファイル形式で組み合わせられます。

トンボペイン

切り抜きマーク、トンボ、ブリードマークなどを出力に含めるには、**トンボペイン**を使用します。**切り抜きマーク**を選択すると、短い縦横の線がページの最終的なトリムサイズの外側に印刷されます。このマークはページの切り取り位置を示します。**トンボ**は、版のオーバーレイ調節に使用する記号です。**ブリードマーク**は、ページのブリード範囲を示します。

- 切り取りマークとトンボをすべてのページに含めるには、**モード**ドロップダウンメニューから**センター**または**オフセンター**を選択します。

ア－ティクルペイン

ア－ティクルペインを使用すると、WYSIWYGモード、ゲラモード、または全画面モードのどのモードでア－ティクルを出力するかを選択できます。すべてのコンポーネント、アクティブコンポーネントのみ、またはア－ティクルウィンドウで展開されているコンポーネントのみを出力できます。WYSIWYG表示を使用している場合、画像やページ画像を含めるかどうかを選択できます。

ノートペイン

ア－ティクルとともにノートを出力するには、**ノートペイン**を使用します。すべてのノートまたは開いているノートのみを出力できます。脚注についてもインラインにまたは別のページに出力できます。

変更履歴ペイン

変更履歴ペインでは、追跡された変更をハイライトするかどうかを指定します。

- 印刷されるア－ティクルで変更をハイライトするには、**変更をハイライトする**をオンにします。

概要ペイン

概要ペインには、他のペインの設定の概要が表示されます。

PDF形式でのア－ティクルの書き出し

PDF形式でアクティブなア－ティクルを書き出すには、下記の手順に従ってください。

- 1 **ファイル**>**PDF**を選択します。**PDFとして書き出し**ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 **ページ**フィールドにページの範囲を入力します。
 - 3 既存の出力スタイルを使用するには、**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
 - 4 出力設定を変更するには、**オプション**をクリックします。書き出されたファイルの形式を制御するには、表示されるダイアログボックスのペインを使用します。
- PDFの出力スタイルを使用するには、**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。現在の設定を使用してPDFの出力スタイルを作成するには、**新規PDF出力スタイル**を選択します。
 - スプレッドで書き出すかどうか、各ページを個別のPDFファイルとして書き出すかどうか、空白ページを含めるかどうか、およびPDFファイルのサムネイルを埋め込むかどうかを指定するには、**ページペイン**を使用します。
 - Adobe Acrobat Readerの**文書のプロパティ**ダイアログボックスにある**詳細設定**タブで詳細情報を表示するには、**メタデータ**ペインを使用します。

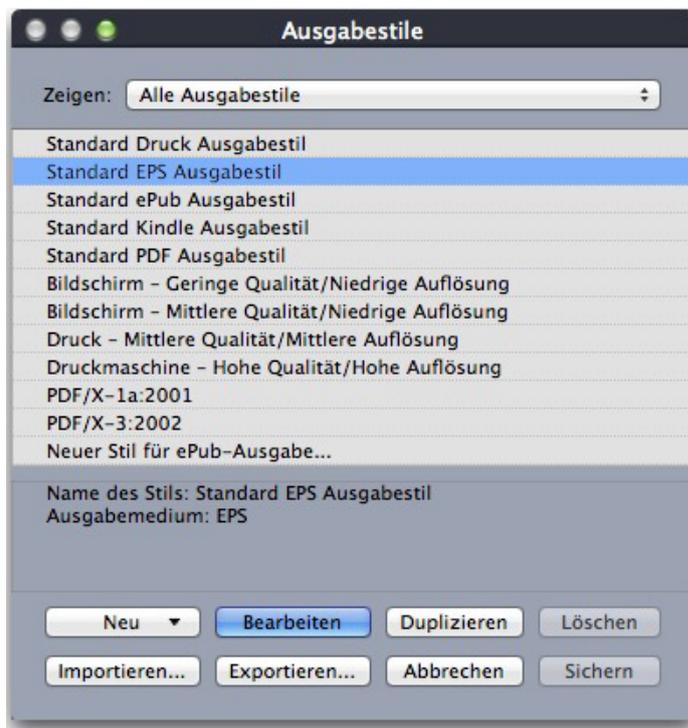
- レイアウト書き出しのリンクおよびリストの方法、およびハイパーリンクをPDFに表示する方法を指定するには、**ハイパーリンク**ペインを使用します。また、このペインを使用してPDFファイルのデフォルトの表示倍率を指定できます。
 - **圧縮**ペインを使用して、下記の3つの圧縮オプションから選択します。**最適**では、個人用のプリンタでの印刷に適したPDFファイルを作成します。この設定で作成されるファイルはサイズが比較的大きく、生成に時間がかかる場合があります。**高画質**では、サイズが適度に小さく、画質も適度なレベルのPDFファイルを作成します。画像は圧縮されますが、画面上での表示に適しています。この設定で作成されるファイルは、電子メールでの送信に支障のない十分小さなサイズになります。**低画質**では、ごく小さいサイズのPDFファイルを作成します。この設定で作成されるPDF内の画像の画質は許容範囲内ですが、ラスター画像内のテキストは解読不能になる場合があります。この設定を使用すると、他の設定の場合よりも迅速にPDFを生成できます。
 - コンポジット出力または色分解のどちらを作成するかを指定する、PDFファイルの出力セットアップを選択する、および出力に含める版を選択するには、**カラー**ペインを使用します。
 - PDFファイルでトンボの位置、幅、および長さを指定するには、**マーク**ペインを使用します。
 - **アークティクル**ペインを使用して、アークティクルの出力モードとして、WYSIWYGモード、ゲラモード、または全画面モードのいずれかを選択します。すべてのコンポーネント、アクティブコンポーネントのみ、またはアークティクルウィンドウで展開されているコンポーネントのみを出力できます。WYSIWYG表示を使用している場合、画像やページ画像を含めるかどうかを選択できます。
 - アークティクルとともにノートを出力するには、**ノート**ペインを使用します。
 - **概要**ペインを使用して、他のペインの設定の概要を表示します。
- 5 **OK**をクリックします（PDFファイルを作成せずに現在の設定を保存するには、**保存して閉じる**をクリックします）。
- 6 **保存**をクリックします。

出カスタイルの使用

出カスタイルを使用すると、特定の構成設定に名前を付けて保存し、その後**印刷**ダイアログボックスの**出カスタイル**ドロップダウンメニューから名前を選択するだけで、その設定を呼び出すことができます。

出カスタイルを作成するには、下記の3つの方法があります。

- **編集** > **出カスタイル**を選択し、**新規**をクリックし、**印刷**または**PDF**を選択して、**印刷書式の編集**または**PDFスタイルの編集**ダイアログボックスでコントロールを設定します。



出力スタイルを作成、取り込み、書き出し、編集、または削除するには、**出力スタイル** ダイアログボックスを使用します。

- 印刷出力スタイルの場合のみ、**ファイル > 印刷**を選択し、**印刷**ダイアログボックスでコントロールを設定して、**出力スタイル**ドロップダウンメニューから**新規印刷出力スタイル**を選択します。
- PDF出力スタイルの場合のみ、**ファイル > PDF**を選択し、**PDFとして書き出し**ダイアログボックスでコントロールを設定して、**オプション**をクリックし、**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューから**新規PDF出力スタイル**を選択します。

印刷時に出力スタイルを使用するには、**印刷**をクリックする前に、**印刷**ダイアログボックスの**印刷書式**ドロップダウンメニューから出力スタイルを選択します。PDFの保存時に出力スタイルを使用するには、**保存**をクリックする前に、**PDFとして書き出し**ダイアログボックスの**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューから出力スタイルを選択します。

- ➔ **デフォルト**出力スタイルは、**印刷書式**または**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューで別のオプションを選択しない限り、すべての新規アークティクルに適用されます。**デフォルト**出力スタイルでは、現在の出力設定が、特定の出力スタイルではなく、アークティクルと関連付けられています。ニーズに合った印刷を実行するために、**印刷書式**の**編集**ダイアログボックス (**編集**メニュー) を使用して、**デフォルト**出力スタイルの初期設定をカスタマイズできます。

表示

QuarkCopyDeskには、アートを編集するための表示方法が3種類（WYSIWYG、全画面、およびゲラ）用意されています。WYSIWYG表示ではページのジオメトリが表示され、同時に、そのジオメトリを含むQuarkXPressレイアウトのQuarkCopyDeskアートを囲むその他のページ要素が表示されます。全画面表示とゲラ表示は、効率良く編集できるように設計されています。**アプリケーション環境設定**ダイアログボックス（**編集メニュー**）を使用すると、全画面表示とゲラ表示でのフォント、フォントのサイズ、および行送りの他に、カラー表示や文字飾りを指定することもできます。

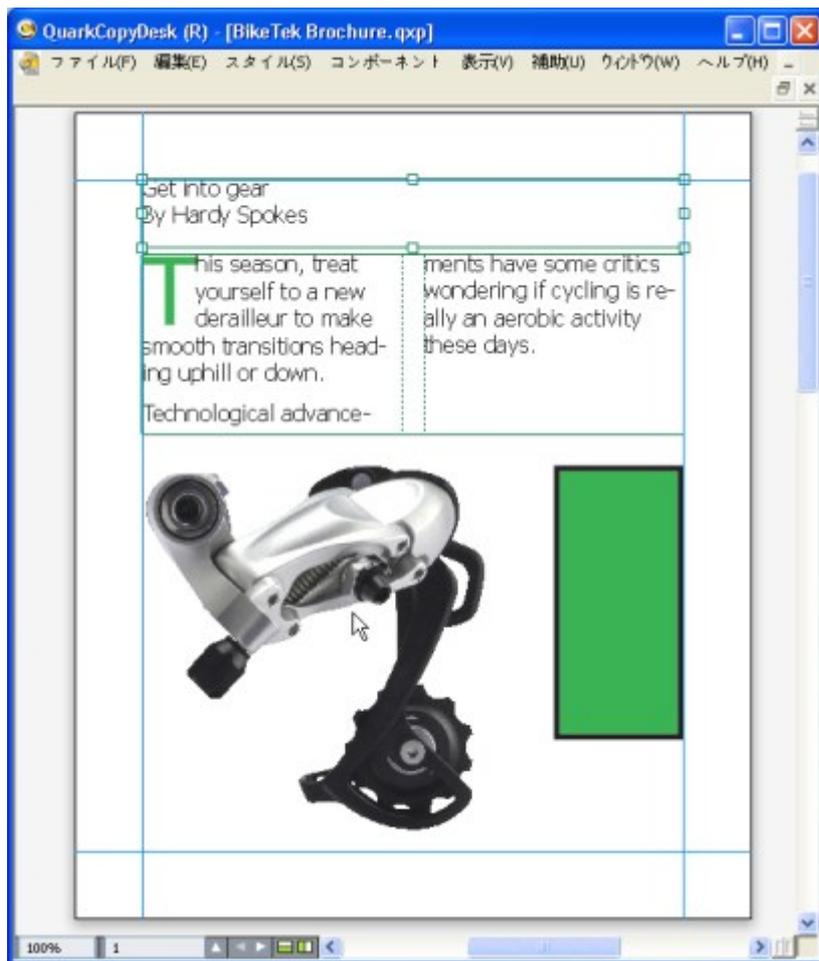
表示間の切り替え

表示間を切り替えるには、下記の3つの方法があります。

- **表示メニュー**でオプションを選択します。**WYSIWYG**表示に切り替えるには、**表示 > WYSIWYG**サブメニューからオプションを選択します。ゲラ表示に切り替えるには、**表示 > ゲラ**を選択します。**全画面**表示に切り替えるには、**表示 > 全画面**を選択します。
- アートウィンドウの下部にある**表示メニュー**からオプションを選択します。
- **メジャーパレット**で、**WYSIWYG** 、**ゲラ** 、または**全画面**  のいずれか1つのボタンをクリックします。

WYSIWYG表示での作業

WYSIWYG（What You See Is What You Get）には、リンクされているQuarkXPressレイアウトで定義されたとおりに、または**新規アート**ダイアログボックスで指定されたアート設定に従って、QuarkCopyDeskアートのコンポーネントが表示されます。



WYSIWYG表示は、出力時のレイアウトの実際の外観を示す表示です。

WYSIWYG表示で作業する間は、Shift+Control/Ctrl+Spaceキーを押してアークウィンドウをクリックすることで表示率を25%ずつ拡大させたり、Control+Option/Ctrl+Alt+Spaceキーを押してアークウィンドウをクリックすることで表示率を25%ずつ縮小したりできます。また、Command/Ctrlキーを押し、**ズームツール**で領域をドラッグすることで、特定のテキストをズームインすることもできます。

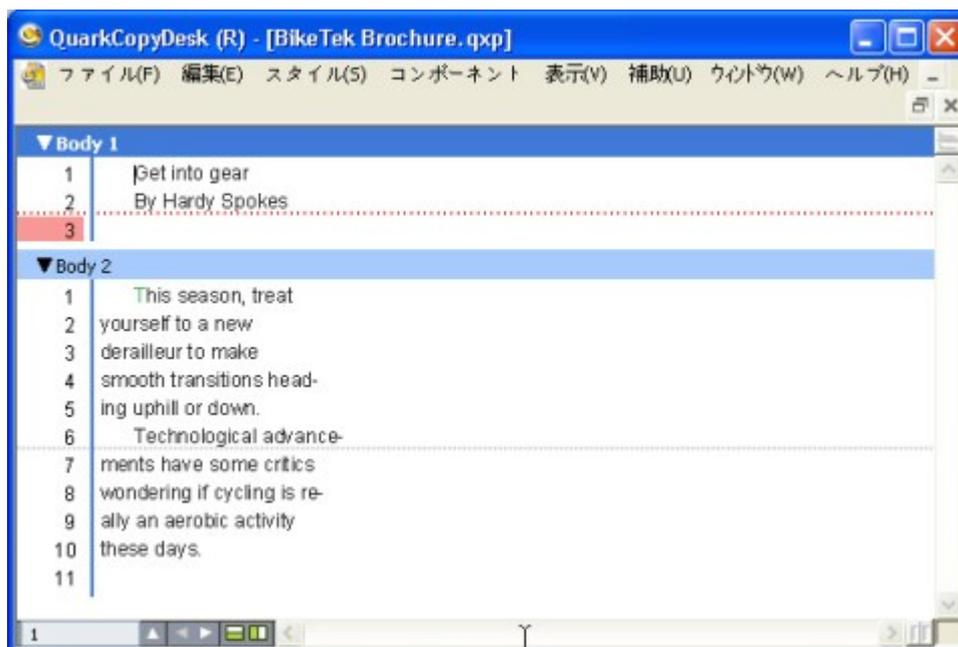
WYSIWYG表示での作業時には、テキストと画像の両方を編集できます。画像を編集するには、画像を選択し、**メジャーパレット**のコントロールを使用します。またWYSIWYG表示では、アンカーされたボックスのコンテンツにもアクセスできます。

ゲラ表示での作業

ゲラ表示では、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk/編集メニュー）の**ゲラ表示**ペインで指定するフォントとフォントサイズを使用してテキストが表示されます。各行は、可能であればWYSIWYG表示の改行にしたがって回り込み、番号付けされます。**環境設定**ダイアログボックスの**ゲラ表示**ペインで**スタイルを表示**をオンにすると、ボールド、イタリック、オールキャプス、およびスモールキャプスなどの文字飾りが表示されます。**カラーを表示**をオンにすると、テキストに適用されるカラーが表示されます。

➡ WYSIWYG表示での行が長すぎてゲラ表示のウィンドウの端からはみ出す場合、ゲラ表示では改行が行われます。改行後の行は番号付けされないため、どこで改行されるかが分かかります。

アーティクルに複数のコンポーネントが含まれている場合は、各コンポーネントが水平方向バーとしてアーティクルウィンドウに表示されます。コンポーネントを表示または非表示にするには、コンポーネントの水平バーに表示されるコンポーネント名の横の三角形をクリックします。ゲラ表示でのコンポーネントの読み込み順序を変更するには、コンポーネントのタイトルバーをクリックして別の位置までドラッグします。



ゲラ表示では、実際のフォント、サイズ、および改行状態でテキストを表示できます。ゲラ表示には下記のインジケータが表示されます。

- 改ページはダッシュ線で示されます。
- カラムの分割は点線で示されます。
- オーバーセットは色つきの点線で示されます。
- アンカーされたテーブルは  アイコンで示されます。

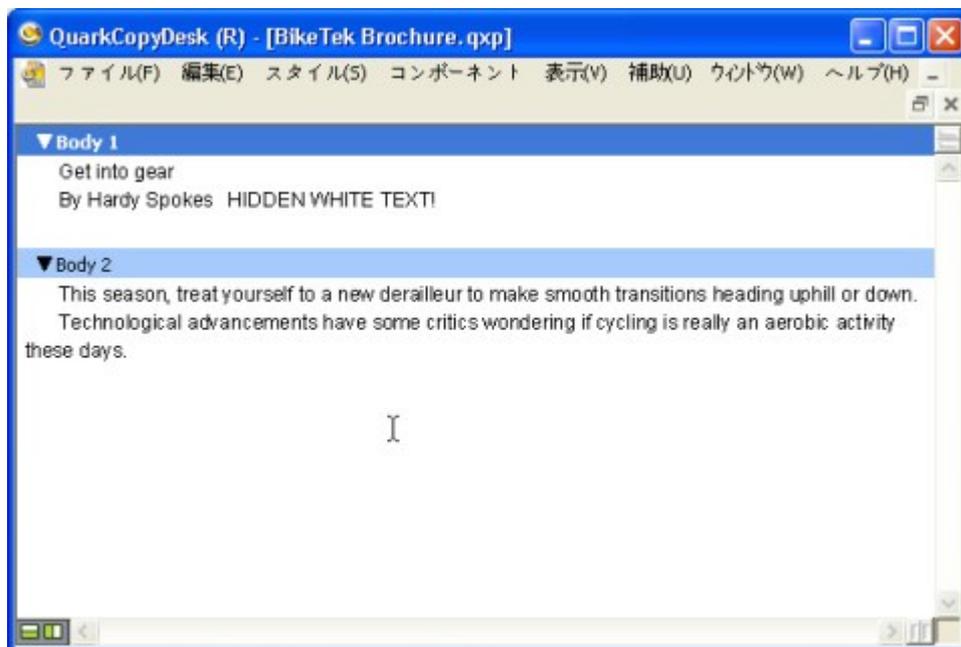
全画面表示での作業

全画面表示では、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**全画面ビュー**ペインで指定するフォントとフォントサイズを使用して、アーティクルウィンドウの端から端までテキストが表示されます。**環境設定**ダイアログボックスの**全画面ビュー**ペインで**スタイルを表示**をオンにすると、ボールドとイタリックの文字飾りが全画面表示に表示されます。

アーティクルに複数のコンポーネントが含まれている場合は、各コンポーネントが水平方向バーとしてアーティクルウィンドウに表示されます。コンポーネントを表示または非表示にするには、コンポーネントの水平バーに表示されるコンポーネント名の横の三

表示

角形をクリックします。全画面表示でのコンポーネントの順序を変更するには、コンポーネントのタイトルバーをクリックして別の位置までドラッグします。読み込み順序の変更方法に関係なく、コンポーネントは常にWYSIWYG表示と同じ方法で表示されます。



全画面表示では、出力時の外観を気にせずに、テキストの操作に集中できます。

変更履歴

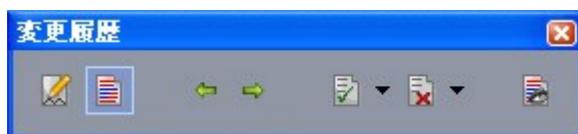
ドキュメントの確認環境では、管理編集者やコピー編集者などの確認者がコンポーネントに変更を加えます。変更履歴はそれらの変更点を追跡するための機能で、これにより執筆者、編集者、プロジェクトマネージャー、および他のユーザーは、コンポーネントの変更内容を確認し、その変更が適切かどうかを判断できます。変更履歴機能を使用して、コンポーネントに加えられた挿入や削除の部分を参照し、その変更を受け入れるか拒否するかを決定できます。

- ➡ 変更履歴機能を使用するには、Redline XTensionsソフトウェアがインストールされている必要があります。
- ➡ Quark Publishing Platform®で使用する場合、変更履歴機能ではQuark Publishing Platformで定義済みの設定が使用されます。詳細は、『A Guide to Quark Publishing Platform』を参照してください。

トラッキングの切り替え

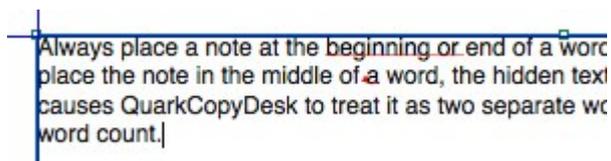
トラッキングをオンにするには、下記のいずれかを実行します。

- 補助 > 変更履歴 > **トラッキングする** がオンになっていることを確認します。
- **変更履歴** ツールバー（補助 > 変更履歴 > **ツールバーを表示する**）を表示し、**トラッキングする** ボタン  をクリックします。



変更履歴ツールバーを使用して、トラッキングのオンとオフを切り替えることができます。

トラッキングをオンにすると、QuarkCopyDeskは、アクティブなコンポーネントのテキストに加えられるすべての変更をトラッキングします。削除されたテキストはWYSIWYG表示に表示されませんが、削除内容は引き続きトラッキングされます。削除内容は、ゲラおよび全画面表示で見ることができます。



変更履歴機能を使用して、自分が行った変更をトラッキングできます。

➡ フォーマットの変更はトラッキングされません。

トラッキングされた変更内容の表示

すべてのトラッキングされた変更内容を表示するには、下記のいずれかを実行します。

- 補助 > 変更履歴 > ハイライトするがオンになっていることを確認します。
- 変更履歴ツールバー（補助 > 変更履歴 > ツールバーを表示する）を表示し、ハイライトするボタンをクリックします。

コンポーネントに対する変更内容の中では、**変更履歴**ツールバーのナビゲーションボタン（前へ  および次へ ）を使用して移動できます。

表示される変更の種類を指定するには、**変更履歴**ツールバーの**ハイライト表示オプション**をクリックします。**ハイライト表示オプション**ダイアログボックスが表示されます。**ハイライトする**ドロップダウンメニューでは、**挿入個所のみ**、**削除個所のみ**、または**挿入個所と削除個所**を表示するように選択できます。**確認者を選択**リストを使用して特定の確認者によって加えられた変更内容のみを表示したり、**すべて**をオンにしてすべての確認者による変更内容を表示したりできます。



表示オプションダイアログボックスを使用して、どの確認者の編集内容を表示するか指定したり、挿入個所、削除個所、またはその両方を表示するように指定したりできます。

➡ ハイライト表示されるのは、**トラッキングする**が有効になっている間にコンポーネントに対して行われた挿入個所と削除個所だけです。

- ➡ 変更内容のトラッキングフォーマットの外観を変更するには、**アプリケーション環境設定**ダイアログボックス（**編集 > 環境設定**（Windows）または**QuarkCopyDesk > 環境設定**（Mac OS X））の**変更履歴**ペインのコントロールを使用します。

変更内容の同意および拒否

挿入に同意すると、ハイライトが削除され、コンポーネントのコンテンツにテキストが追加されます。削除に同意すると、コンポーネントからコンテンツが削除されます。変更内容に同意するには、変更対象のテキストを選択し、**同意する**  ドロップダウンメニュー（**変更履歴**ツールバー）からオプションを選択します。

- **変更内容に同意する**： 選択された変更を受け入れます。
- **表示されているすべての変更内容に同意する**： コンポーネント内でハイライトされているすべての変更を受け入れます。
- **すべての変更内容に同意する**： レビューによって行われたすべての変更を受け入れません。

挿入を拒否すると、コンポーネントからテキストが削除されます。削除を拒否すると、ハイライトが削除され、テキストが通常のテキストとしてコンポーネントに残されます。変更内容を拒否するには、変更対象のテキストを選択し、**拒否**  ドロップダウンメニュー（**変更履歴**ツールバー）からオプションを選択します。

- **変更内容を拒否する**： 選択された変更を拒否します。
- **表示されているすべての変更内容を拒否する**： コンポーネント内でハイライトされているすべての変更を拒否します。
- **すべての変更内容を拒否する**： レビューによって行われたすべての変更を拒否します。

ノート

ノート機能を使用して、実際のアーティクルのコンテンツに影響を与えることなく、アーティクルにコメントを保存できます。ノートを使用してコンテンツに警告やコメントを追加したり、アーティクルにURLを追加したりできます。WYSIWYG表示の場合、開いたノートはハードコピーに張り付ける付箋のように見えます。全画面表示およびゲラ表示の場合、開いたノートはテキストフロー内で表示されるか、またはWYSIWYG表示と同様に表示されます。

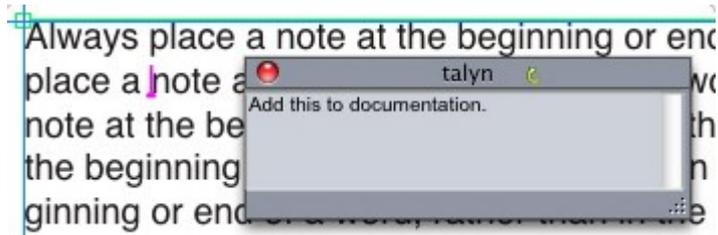
- ➡ ノート機能を使用するには、Notes XTensionsソフトウェアがインストールされている必要があります。
- ➡ Quark Publishing Platformで使用する場合、ノート機能ではQuark Publishing Platformで定義済みの設定が使用されます。詳細は、『**A Guide to Quark Publishing Platform**』を参照してください。

ノートの作成

ノート进行操作するには、まず**表示 > ノートの表示**を選択してノートが表示されていることを確認します（このメニューアイテムが**ノートを非表示にする**と表示されていれば、ノートがすでに表示されています）。このオプションをオフにすると、テキストでノートアイコンが表示されなくなり、ノート进行操作するメニューアイテムが無効になります。

ノートを作成するには、ノートを入力するテキスト挿入ポイントの場所を指定し、**編集 > ノート > 挿入**を選択します。ノートウィンドウが表示され、WYSIWYG表示ではテキスト挿入ポイントの右側に**ノートアイコン**も表示されます。ノートのテキストをノートウィンドウに入力します。

- ➡ **Mac OS X**では、ノートアイコンとノートウィンドウとの間にリンクも表示され、新たに作成されたノートはアーティクル領域に表示されず、代わりにペーストボード領域に表示され、アーティクルテキストを隠しません。



ノートを使用してアーティクルにコメントを保存できます。

- ➡ 実際、ノートアイコンは特殊なテキスト文字です。ノートアイコンはテキストフローに影響しませんが、別の方法で通常のテキスト文字のような動作をします。たとえば、ノートアイコンを含むテキストの範囲を選択してから文字入力を開始すると、ノートアイコンを含むテキストが入力した文字に置き換わり、ノートが失われてしまいます。
- ➡ ノートの書式を変更するには、ノート環境設定を使用します。詳細は、「[環境設定 - アプリケーション - ノート](#)」を参照してください。

ノートの使用

補助 > ノートサブメニューのコマンドを使用して、ノートからノートに移動し、個々のノートを作成および削除し、アーティクル内のすべてのノートを開いたり閉じたりすることができます。

ノートの開始と終了

ノートをレビューコメントとして開いたり閉じたりするには、下記の手順を実行します。

- 既存のノートを開くには、ノートアイコンをクリックして、**編集 > ノート > ノートを開く**を選択します。
- アーティクルのすべてのノートを開くには、**編集 > ノート > すべてのノートを開く**を選択します。
- ノートを閉じるには、ノートウィンドウの左上隅 (Mac OS X) または右上隅 (Windows) の閉じるボックスをクリックするか、または**編集 > ノート > ノートを閉じる**を選択します。
- アーティクルの開いているすべてのノートを閉じるには、**編集 > ノート > すべてのノートを閉じる**を選択します。
- テキスト挿入ポイントをテキスト内の次のノートへ移動させるには、**編集 > ノート > 次へ進む**を選択します。テキスト挿入ポイントをテキスト内の前のノートへ移動させるには、**編集 > ノート > 前へ戻る**を選択します。

ノートの表示および非表示

非表示のノートを表示するには、**表示 > ノートの表示**を選択します。表示されているノートを非表示にするには、**表示 > ノートを非表示にする**を選択します。

ノートの削除

ノートを削除するには、下記のいずれかを実行します。

- ノートアイコンをクリックしてから、**編集 > ノート > 削除**を選択します。
- 開いているノートウィンドウをクリックしてから、**編集 > ノート > 削除**を選択します。
- ノートアイコンの右側にテキスト挿入バーを配置して、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。
- ノートアイコンを含むテキストの範囲を選択して、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。

ノートおよびテキストの相互変換

選択したテキストをノートに変換するには、F10を押します。

ノートまたはノートの一部をテキストに変換するには、ノート内の対象の文字を選択してからF10キーを押します。

作成者、日付、名前、または色別のノートの表示

特定の作成者別または作成された日付別にノートを表示するには、**表示 > ノートの表示**を選択してノートを有効にし、**編集 > ノート > ノートを開く (条件指定) . . .**を選択して開いたノートダイアログボックスを表示し、**すべてのノート**をクリックして、**すべてのノート**領域のコントロールを使用します。

名前別または色別にノートを表示するには、**編集 > ノート > 新規アークティクル内のすべてのノートを開く**を選択して、**名前別サブメニュー**または**色別サブメニュー**からオプションを選択します。ノートがテキストとして新規アークティクルに表示されます。

ノートの移動とサイズ変更

ノートウィンドウを移動するには、タイトルバーをドラッグします。ノートウィンドウはアークティクルアークティクル内のどこにでも移動できます。**Windows**では、ノートのボタンをクリックして、移動されたノートを元の場所に戻すことができます。

ノートのサイズを変更するには、ノートウィンドウの右下にあるサイズ変更ボックスをクリックしてドラッグします。

ノートの印刷

アークティクルを印刷するとき、ノートを含めるかどうか、およびどのようなフォーマットにするかを選択できます。**印刷**ダイアログボックス (**ファイル**メニュー) で左のリストにある**ノート**をクリックすると、**ノート**ペインが表示されます。次に**ノート**を印刷をオンにして、出力にノートを含めます。すべてのノートを含めるか、開いているノートのみを含めるかを選択できます。また、ノートを脚注としてフォーマットするか、インラインのままにしておくか、または別のページにノートをまとめるかを指定できます。

PDFのノート

ノートを含むアークティクルからPDFを作成する場合、PDFでノートを表示するかどうかを選択できます。WYSIWYG表示で書き出すと、ノートがPDFノートとして含まれます。ゲラ表示または全画面表示で書き出すと、これらのモードの画面に表示されるとおり、ノートがインラインで表示されます。

ノートをPDFファイルに含めるには、**PDFとして書き出し**ダイアログボックス (**ファイル > PDF**) の**オプション**をクリックし、左側に表示されるリストの**ノート**をクリックして、PDFに**ノート**を含めるをオンにします。

多言語の使用

QuarkCopyDeskは、複数の言語設定で使用できます。言語設定でサポートされていれば、次の機能を使用できます。

- サポートされている**文字言語**を使用するアートを開いて編集する。文字言語とは、属性の1つで、テキストに適用してそのテキストで使用する自動ハイフンとスペルチェックのルールを指定することができます。文字言語は文字レベルで適用できます。そのため、たとえ1つの文に2つの言語の単語が含まれていても、すべての単語に対して正しくハイフネーションとスペルチェックを行うことができます。詳細は、「[文字言語の適用](#)」を参照してください。
- **(Windowsのみ)** ユーザーインターフェイスとキーボードコマンドを、サポートされている任意の**表示言語**に変更できます。表示言語とは、アプリケーションメニューやダイアログボックスで使用される言語のことです。表示言語はユーザーインターフェイスにのみ影響します。スペルチェックや自動ハイフンには影響しません。詳細は、「[表示言語の変更](#)」を参照してください。
- **(Mac OS Xのみ)** 表示言語はインストール時に、OS言語に従って決定されます。

➡ QuarkCopyDeskのすべての言語版で、CJK機能を使用するプロジェクトを開く、表示する、および出力することが可能です。ただし、CJK機能を使用するテキストは、CJK環境設定を有効にしているときのみ編集できます（**QuarkCopyDesk／編集 > CJK**）。

文字言語の適用

文字言語属性は、スペルチェックに使用される辞書および自動ハイフンに使用されるルールと例外を決定します。複数の言語を使用するテキストのスペルをチェックする場合、各単語が、割り当てられた言語辞書を使用してチェックされます。複数の文字言語を使用するプロジェクトで自動ハイフンが有効な場合、各単語には、その言語の該当する自動ハイフンルールと例外ハイフンを使用してハイフネーションが行われます。

テキストに文字言語を適用するには、下記の操作を行ってください。

- **文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）の**言語**ドロップダウンメニューを使用します。
- スタイルシートと、**メジャーパレット**の**文字／文字属性**ペインを使用します。

表示言語の変更

表示言語を指定するには、下記の操作を行ってください。

- **(Windowsのみ)** **編集** > **表示言語**サブメニューからオプションを選択します。
- **(Mac OS Xのみ)** 表示言語はインストール時に、OS言語に従って決定されます。

メニュー、ダイアログボックス、およびパレットが選択した言語に変更されます。キーボードコマンドは表示言語に基づいています。

➡ 表示言語が、自動ハイフンとスペルチェックに影響を与えることはありません。

XTensionsソフトウェア

XTensionsモジュールを使用して、実行するほぼすべてのアクティビティを拡張するパレット、コマンド、ツール、およびメニューなどの機能を追加できます。

XTensionsモジュールの使用

QuarkCopyDeskには、本章に記載されているデフォルトのXTensionsモジュールのセットが同梱されています。また、Quarkまたはサードパーティによって開発されたその他のXTensionsソフトウェアをインストールすることもできます。

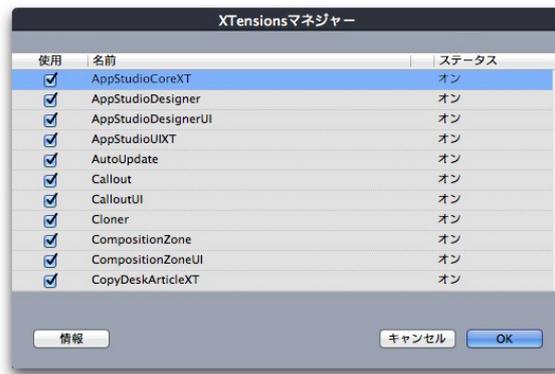
- ➔ 多くのXTensionsには、2つの要素があります。1つはXTensionsモジュールの機能用のファイルで、もう1つはユーザーインターフェイス用のファイルです。ユーザーインターフェイスのモジュールの名前は、通常、最後が「UI」です。ユーザーインターフェイスのないXTensionsモジュールには、UIファイルは必要ありません。

XTensionsモジュールのインストール

XTensionsモジュールをインストールするには、アプリケーションフォルダ内の"XTensions"フォルダにモジュールを配置します。新たにインストールされたXTensionsモジュールは、次回起動時に読み込まれます。

XTensionsの有効化と無効化

メモリ不足のときに、またはトラブルシューティング時に、XTensionsモジュールを無効にする場合があります。XTensionsモジュールを有効化または無効化するには、まず、**補助 > XTensionsマネージャー**を選択し、**XTensionsマネージャーダイアログボックス**を表示します。



XTensionsマネジャーダイアログボックスを使用して、XTensionsモジュールを有効化および無効化できます。

モジュールを有効化するには、**使用する**列のモジュール名の横にあるボックスをオンにします。モジュールを無効化するには、このボックスをオフにします。この変更は、アプリケーションの次回起動時に適用されます。

XTensionsセットの使用（Windowのみ）

XTensionsモジュールの特定のグループを頻繁に有効化および無効化する場合、XTensionsセットを作成して、これらのグループを簡単に切り替えることができます。

XTensionsグループを作成するには、まず、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックス（補助メニュー）を表示して、グループに含めるXTensionsモジュールを有効にします。次に、**新規保存**をクリックして、グループの名前を入力します。このグループに切り替える場合は、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックスを表示し、**セット**ドロップダウンメニューからメニューそのグループの名前を選択します。

また、その他のユーザーとXTensionsセットを共有する場合には、**取り込み**および**書き出し**ボタンを使用して、XTensionsセットを取り込みおよび書き出しすることもできます。

XTensionsモジュールの概要

QuarkCopyDeskには、下記のXTensionsモジュールが同梱されています。

- **AltSpellChecker.xnt** : オランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ドイツ語（新正書法）、およびスイスドイツ語の最新のスペルチェック機能を提供します。QuarkXPress 5.0以前に付属する辞書を使用してスペルチェックを実行する必要がある限り、このモジュールを使用してください。
- **Callout.xnt** : QuarkCopyDeskで、QuarkXPressプロジェクトのコールアウト内のコンテンツを編集するために使用されます。
- **CompositionZone.xnt** : QuarkCopyDeskで、プロジェクトファイルと完全機能アーティクルファイルのコンポジションゾーンの設定を保持するため使用されます。
- **CompressedImage Import.xnt** : LZW圧縮を使用したTIFF画像を取り込むことができます。
- **Custom Bleeds.xnt** : QuarkCopyDeskで、プロジェクトファイルと完全機能アーティクルファイルのカスタムブリード設定を保持するために使用されます。

- **Dejavu.xnt** : 最近開いたアートのリストを、**ファイル**メニューの下部に、または**ファイル > 開く**サブメニューの階層メニューとして追加します。詳細は、「[DejaVu XTensionsソフトウェア \(Windowsのみ\)](#)」を参照してください。
- **DropShadow.xnt** : 自動的に羽根付きドロップシャドウを表示できます。
- **ErrorReporting.xnt** : QuarkCopyDeskが突然終了した場合に、プログラムエラーについての情報をQuarkに送信できます。
- **GlyphPalette.xnt** : フォントおよび特殊文字の操作を簡単に行うことができる**字形パレット**を追加します。詳細は、「[字形パレットの使用](#)」を参照してください。
- **HTML Text Import.xnt** : コンテンツをHTMLフォーマットで取り込みおよび書き出しできます。
- **Hyph_CNS_1.xnt**、**Hyph_CNS_2.xnt**、**Hyph_CNS_3.xnt** : QuarkCopyDeskの自動ハイフネーションコントロールに機能を追加します。
- **Notes.xnt** : アーティクルにノートを追加したり、アーティクルのノートを表示したりできます。
- **PNG Filter.xnt** : PNGファイルフォーマットで保存されている画像を取り込むことができます。
- **PSD Import XT.xnt** : PSD (Photoshop) ファイルフォーマットで保存されている画像を取り込むことができます。
- **QCD PDF Filter.xnt** : PDFファイルを取り込みおよび書き出しできます。
- **RedLine.xnt** : アーティクルに加えられた変更内容をトラッキングおよび処理できます。
- **RTF Filter.xnt** : RTFファイルフォーマットのテキストファイルを取り込みおよび書き出しできます。
- **Script.xnt** (Mac OSのみ) : AppleScriptを利用してQuarkCopyDeskの操作を自動化できます。
- **TypeTricks.xnt** : さまざまな組版機能を提供します。詳細は、「[TypeTricks](#)」を参照してください。
- **Word 6-2000 Filter.xnt** : Microsoft Wordファイルフォーマットのテキストファイルを取り込みおよび書き出しできます。詳細は、「[Word 6-2000 Filter](#)」を参照してください。
- **WordPerfect Filter.xnt** : WordPerfectフォーマットのテキストファイルを取り込みおよび書き出しできます。詳細は、「[WordPerfect Filter](#)」を参照してください。
- **XPress Tags Filter.xnt** : 「XPress Tags」フォーマットのテキストファイルを取り込みおよび書き出しできます。

TypeTricks

Type Tricksは、いくつかの組版機能を追加するXTensionsソフトウェアです。追加される組版機能は、分数の作成、通貨の作成、単語スペーストラッキング、ラインチェック、およびカスタムアンダーラインです。

分数の作成

分数の作成コマンド（**スタイル > 文字飾り**）を使用すると、分数を自動的にフォーマットできます。このコマンドは、分数が選択された場合、またはカーソルが分数を構成する文字の隣（および同じ行）に置かれると、アクティブになります。フォーマットできる分数の例は、11/42、131/416、および11/4xなどです。

文字を分数に変換するには、文字を選択し、**スタイル > 文字飾り > 分数の作成**を選択します。

分数の文字は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk / 編集 > 環境設定 > アプリケーション > 分数/通貨**）の**分数/通貨**タブで指定したベースラインシフトおよびフォーマットを使用して変換されます。

通貨の作成

通貨の作成コマンド（**スタイル > 文字飾り**）を使用すると、通貨を自動的にフォーマットできます。このコマンドは、通貨としてフォーマットできるテキスト（\$1.49、£20.00、およびa.bcなど）が選択されている場合、またはこれらの文字の隣（および同じ行）にカーソルがある場合に利用できます。通貨には、ピリオドまたはカンマで示される基数（デシマルシンボル）を含める必要があります。基数の前後の文字は、文字または数字である場合があります。

文字を通貨に変換するには、フォーマットする文字を選択し、**スタイル > 文字飾り > 通貨の作成**を選択します。

通貨の作成を適用すると、QuarkCopyDeskは、基数に続く文字に肩文字飾りを自動的に適用します。

変換された分数および通貨のアピランスは、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk / 編集 > 環境設定 > アプリケーション > 分数/通貨**）の**分数/通貨**タブで入力した値および選択内容によって決定します。

単語スペーストラッキング

単語スペーストラッキング機能では、単語スペースにのみトラッキングを適用できます（トラッキング値は、通常文字間および単語間に適用されます）。この機能は、キーボードコマンドでのみアクセスできます。

Mac OS X

トラッキング値	Commandキー
スペースを0.05emずつ増やします。	Command+Control+Shiftキー+]]
スペースを0.005emずつ増やします。	Command+Control+Option+Shiftキー+]]
スペースを0.05emずつ減らします。	Command+Control+Shiftキー+[[
スペースを0.005emずつ減らします。	Command+Control+Option+Shiftキー+[[

Windows

トラッキング値	Commandキー
スペースを0.05emずつ増やします。	Control+Shiftキー+@
スペースを0.005emずつ増やします。	Control+Alt+Shiftキー+@

トラッキング値	Commandキー
スペースを0.05emずつ減らします。	Control+Shiftキー+!
スペースを0.005emずつ減らします。	Control+Alt+Shiftキー+!

- ➡ 単語スペーストラッキングは、選択されたスペースの後に手動カーニングを適用することによって適用されます。単語スペーストラッキングを消去するには、テキストを選択し、**補助 > 手動カーニングをクリア**を選択します。

ラインチェック

ウィンドウ、オーファン、両端揃えされた行、ハイフンで終了する行、およびテキストボックスのオーバーフローを検索するには、**ラインチェック**機能を使用します。**ラインチェック (補助 > ラインチェック)** は、不確かな行をハイライトしながら、ドキュメント全体を移動します。

ラインチェックが検索する対象を指定するには、**検索対象**ダイアログボックス (**補助 > ラインチェック > 検索対象**) を表示し、好ましくない印刷体制のカテゴリをオンにします。

ドキュメント全体を検索するには、テキストの任意の場所にカーソルを置き、**補助 > ラインチェック > 第1行**を選択します。カーソルの位置からドキュメントの最後まで検索するには、検索を開始する位置にカーソルを置き、**補助 > ラインチェック > 次行**を選択するか、Commandキー+;/Ctrlキー+;/を押します。検索を続けるには、Commandキー+;/Ctrlキー+;/を押します。

カスタムアンダーライン

カスタムアンダーライン機能を使用すると、アンダーラインのカラー、シェード、幅、およびオフセットをカスタマイズできます。カスタムアンダーラインは、文字飾りアンダーラインとほとんど同様に動作しますが、アンダーラインの属性をさらに制御しながら、カスタマイズできます。

カスタムアンダーラインのスタイルは、スタイルシートとほとんど同様に機能します。アンダーラインスタイルを作成、編集、または削除するには、**編集 > アンダーラインスタイル**を選択します。カスタムアンダーラインスタイルを適用するには、**Windows**では**スタイル > アンダーラインスタイル**サブメニューから、**Mac OS X**では**スタイル > 文字飾り > アンダーラインスタイル**サブメニューから、それぞれ名前を選択します。

カスタムアンダーラインを適用するには、適用対象のテキストを選択し、**Windows**では**スタイル > アンダーラインスタイル > カスタム**を、**Mac OS X**では**スタイル > 文字飾り > アンダーラインスタイル > カスタム**を選択します。**アンダーラインの属性**ダイアログボックスでは、アンダーラインのカラー、シェード、幅、およびオフセットを指定できます。

カスタムアンダーラインを消去するには、テキストを選択し、**スタイル > 文字飾り > カスタムアンダーラインをクリア**を選択します。

DejaVu XTensionsソフトウェア (Windowsのみ)

DejaVu XTensionsソフトウェアは、**ファイル**メニューの下部または**ファイル > 開く**サブメニューの階層メニューとして、最近開かれたプロジェクトのリストを追加します。

このリストによって、より迅速かつ簡単に、プロジェクトにアクセスできます。DejaVuを使用すると、テキストおよび画像を取得するためのデフォルトフォルダ、およびプロジェクトを開いて保存するためのデフォルトフォルダを指定することもできます。

ファイルリスト機能は、**ファイル**メニューの下部に、または**ファイル > 開く**サブメニューの階層メニューとして、最近開かれたプロジェクトのリストを追加します。最近編集および保存した3つから9つのファイルを表示するように選択できます。ファイルリスト設定を変更するには、**環境設定**ダイアログボックス (**QuarkCopyDesk / 編集**メニュー)の**ファイルリスト**ペインにあるコントロールを使用します。

デフォルトパス機能を使用して、**開く**、**取り込み**、**保存**、および**新規保存**の**ファイル**メニューコマンドに使用するデフォルトフォルダを指定します。

- ➡ デフォルトパス機能は、ユーザーがデフォルトパスを指定するまで機能しません。そのためには、**環境設定**ダイアログボックス (**QuarkCopyDesk / 編集**メニュー)の**デフォルトパス**ペインを表示します。**ファイル**メニューコマンド用にデフォルトパスを指定すると、そのコマンドを実行するときは常にアプリケーションでそのパスが使用されます。

Multiple Article XTensionsソフトウェア

Multiple Article XTensionsソフトウェアでは、QuarkXPressのアーティクルを使用できます。このモジュールを使用して一連のテキストおよび画像ボックスにアーティクルとしてタグを付けたり、そのアーティクル内のコンポーネントの順序を変更できます。終了したら、プロジェクトを保存してQuarkCopyDeskで開くか、またはQuarkCopyDeskアーティクルファイルとしてアーティクルを書き出すことができます。

- ➡ Multiple Article XTensionsソフトウェアはQuarkXPress専用で、QuarkCopyDeskで読み込むことはできません。
- ➡ アーティクルおよびコンポーネントの詳細は、「[アーティクルとコンポーネント](#)」を参照してください。

Multiple Article XTensionsソフトウェアのインストール

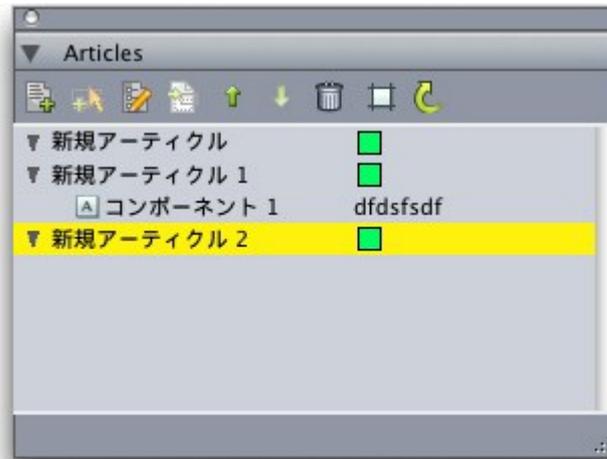
QCDDMultipleArticle XTensionsモジュールにより、QuarkXPressのユーザーインターフェイスに下記のコマンドが追加されます。

- **ウィンドウ > アーティクル** : **アーティクル**パレットが表示されます。
- **表示 > アーティクルガイド** : アーティクルに含まれるアイテムの周囲でカラーのアウトラインの表示、非表示を切り替えます。
- **ファイル > 書き出し > アーティクル形式のレイアウト** : QuarkCopyDeskファイルとしてアーティクルを書き出します。

QCDDMultipleArticle XTensionsソフトウェアをインストールするには、"CopyDeskArticleXT.xnt"ファイルと"QCDDMultipleArticle.xnt"ファイルをQuarkXPressアプリケーションフォルダの"XTensions"フォルダへコピーしてから、QuarkXPressを停止して再起動します。これらのファイルは、QuarkCopyDeskアプリケーションフォルダ内の"For QuarkXPress > XTension"フォルダにあります。

Multiple Article XTensionsソフトウェアの使用

アティクルで作業する場合の主なインターフェイスはアティクルパレットです。アティクルパレットを表示または非表示にするには、**ウィンドウ > アティクル**を選択します。



アティクルパレットでは、アティクルを使用して作業できます。

このパレットの上部には、下記のボタンが表示されます。

- **新規アティクル** : パレットでアティクルを作成できます。
- **アイテムの追加** : 選択したアティクルに、レイアウト内のアクティブなアイテムをテキストまたは画像コンポーネントとして追加します。
- **プロパティを編集** : パレットで選択したアティクルまたはコンポーネントのプロパティを編集できます。このボタンを使用して、アティクルまたはコンポーネントの名前を変更したり、アティクルのアティクルガイドのカラーを変更したりできます。
- **アイテムを表示** : パレットで選択したアイテムまでレイアウトをスクロールします。
- **上へ移動** と**下へ移動** : アティクル内のコンポーネントの順序を、読み込み順に合わせて変更します。
- **削除** : アティクルを削除したり、アティクルからコンポーネントを削除したりできます（対応するアイテムはレイアウトから削除されません）。
- **アティクルのハイライト** : ダイナミックなハイライト表示のオンとオフを切り替えることができます。ダイナミックなハイライト表示がオンのとき、アティクルパレットで、すべてのアティクルとそのコンポーネントにアティクルガイドが表示されます。
- **更新** : アティクルパレットのテキストプレビューと取り込まれた画像パスを更新します。

パレットには、さまざまなタイプのコンポーネントを示すアイコンが組み込まれています。

-  画像ボックスに基づくコンポーネント

-  テキストボックスに基づくコンポーネント
-  テキストチェーンに基づくコンポーネント
-  テキストパスに基づくコンポーネント
-  テーブルに基づくコンポーネント

アーティクルの作成

アーティクルを作成するには、**アーティクルパレット**（ウィンドウメニュー）を表示し、パレットで**新規アーティクル**ボタンをクリックします。新しいアーティクルが**アーティクルパレット**に、デフォルトの名前とカラーで作成されます。**アーティクルパレット**でアーティクルを選択し、**プロパティを編集**ボタンをクリックします。**プロパティを編集**ダイアログボックスが表示されます。アーティクルの名前を入力し、アーティクルガイドの色を選択して、**OK**をクリックします。

アーティクルにコンポーネントを追加するには、**アーティクルパレット**でアーティクルを選択し、そのアーティクルに追加するレイアウトアイテムを選択して、パレットで**アイテムの追加**ボタンをクリックします。そのコンポーネントが、**アーティクルパレット**の**アーティクルを選択**セクションに追加されます。

- ➡ 印刷レイアウトスペースとApp Studioレイアウトスペースにあるアイテムのみをアーティクルに含めることができます。1つのアーティクルのアイテムはすべて同じレイアウトスペースのものでなければなりません。

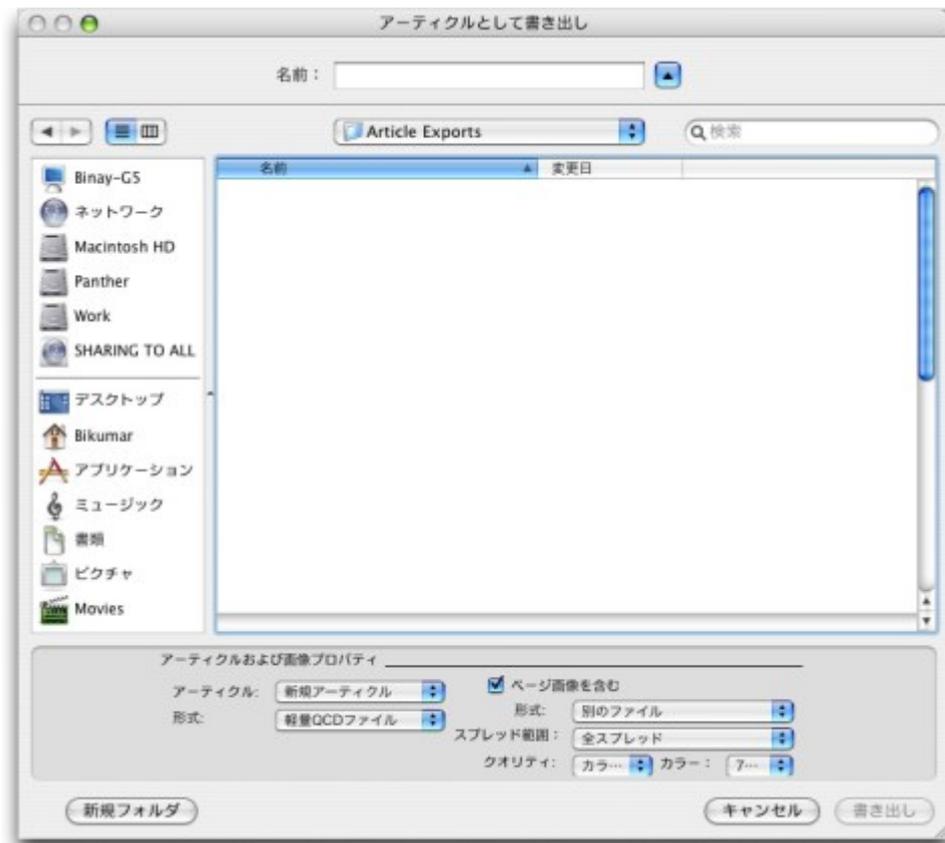
アーティクルとコンポーネントの操作

アーティクルパレットの矢印ボタンを使用して、アーティクル内でコンポーネントの順序を読み取り順に変更できます。

アーティクルからコンポーネントを削除するには、**アーティクルパレット**からコンポーネントを選択し、パレットの**削除**ボタンをクリックします。

アーティクルの書き出し

QuarkCopyDeskファイルとしてアクティブレイアウトのアーティクルを書き出すには、**ファイル > 書き出し > アーティクル形式のレイアウト**を選択します。**アーティクル**として**書き出し**ダイアログボックスが表示されます。



ア－ティクルとして書き出しダイアログボックスを使用して、アクティブレイアウトをQuarkCopyDeskファイルとして保存します。

このダイアログボックスのコントロールを使用して、ア－ティクルの保存方法を指定できます。

- **ア－ティクル**：このドロップダウンメニューに、アクティブレイアウトのア－ティクルがすべて表示されます。書き出すア－ティクルを選択します。
- **形式**：レイアウト全体を含むQuarkCopyDeskファイルを作成するには、**完全機能QCDファイル**を選択します。ア－ティクル自体のコンテンツのみを含む小さなファイルを作成するには、**軽量QCDファイル**を選択します。これらのファイル形式の詳細は、「[ア－ティクルとコンポーネント](#)」を参照してください。
- **ページ画像を含む**：形式ドロップダウンメニューから**軽量QCDファイル**を選択すると、このコントロールを使用できます。レイアウトの画像を作成する場合はチェックボックスをオンにします。ア－ティクルのコンテンツのみを含める場合は、このチェックボックスをオフにしておきます。

ページ画像を含むをオンにすると、下記のコントロールを使用できるようになります。

- **形式**：QCDファイルにページ画像を埋め込む場合は**埋め込み**を選択します。ページ画像を別のファイルとして書き出す場合は**別のファイル**を選択します。
- **スプレッド範囲**：ページ画像にすべてのスプレッドを含めるか、最初のスプレッドのみを含めるかを指定するには、このコントロールを使用します。
- **クオリティ**：ページ画像をカラーにするか白黒にするかを指定するには、このコントロールを使用します。白黒のページ画像を選択すると、ファイルサイズを抑えることができます。

- **解像度**：ページ画像の解像度を指定するには、このコントロールを使用します。解像度を高くするとより詳細な表示が可能になりますが、ファイルサイズが大きくなります。

これらのコントロールの設定が完了したら、**書き出し**をクリックしてアフィリエイトファイルを作成します。

QCDImportFilter XTensionsソフトウェア

QCDImportFilterはQuarkXPress用のXTensionsソフトウェアで、QuarkCopyDeskアフィリエイトのコンポーネントからQuarkXPressレイアウトへテキストおよび画像を取り込むことができます。

QCDImportFilter XTensionsソフトウェアをインストールするには、"QCDImportFilter.xnt"ファイルと"CopyDeskArticleXT.xnt"ファイルをQuarkXPressアプリケーションフォルダの"XTensions"フォルダへコピーしてから、QuarkXPressを停止して再起動します。これらのファイルは、QuarkCopyDeskアプリケーションフォルダ内の"For QuarkXPress/XTensions"フォルダにあります。

バージョン7.0以降のQuarkCopyDeskで作成されたアフィリエイトからテキストまたは画像を取り込むには、テキストボックスまたは画像ボックスを選択してから、**ファイル > QCDテキストの取り込み**または**ファイル > QCD画像の取り込み**を選択し、アフィリエイトファイルを選択します。ファイルに指定した種類の複数のコンポーネントが含まれる場合、取り込むコンポーネントを選択できます。

Word 6-2000 Filter

Word 6-2000 Filterを使用すると、ドキュメントをWord 2007およびWord 2010 (.docx) フォーマットで取り込みまたは書き出しできます。Microsoft Word 6.0/95 (Word 6およびWord 7) のドキュメントも取り込めます。

- ➡ 取り込みの問題を回避するには、Microsoft Wordの**高速保存**（オプションダイアログボックスの**保存タブ**）をオフにするか、**名前を付けて保存**コマンドを使用して、取り込まれるWordファイルのコピーを作成します。
- ➡ .docxフォーマットで書き出すには、**形式**ドロップダウンメニューから**Word文書**を選択します。.docフォーマットで書き出すには、**Word 97/98/2000文書**を選択します。

WordPerfect Filter

WordPerfect Filterを使用すると、WordPerfect 3.0および3.1 (Mac OS) およびWordPerfect 5.xおよび6.x (Windows) からドキュメントを取り込むことができます。また、WordPerfect 6.0フォーマットで、テキストを保存することもできます。

- ➡ WordPerfect 3.1 for Mac OSは、WordPerfect 6.0 for Windowsドキュメントを読み取ることができるため、WordPerfect 3.1 for Mac OSの書き出しオプションはありません。

Output Enhancements

Output Enhancements XTensionsソフトウェアでは、単一または複数のプリンタへの出力、PDF形式の出力、またはArticle XMLの出力を1回の操作で実行できます。

このXTensions®ソフトウェアを使用して、出力プロファイルおよび出力プロファイルグループ（出力プロファイルのセット）を作成できます。出力プロファイルと出力プロファイルグループにより、同じプロジェクトからさまざまな形式の出力を生成できます。

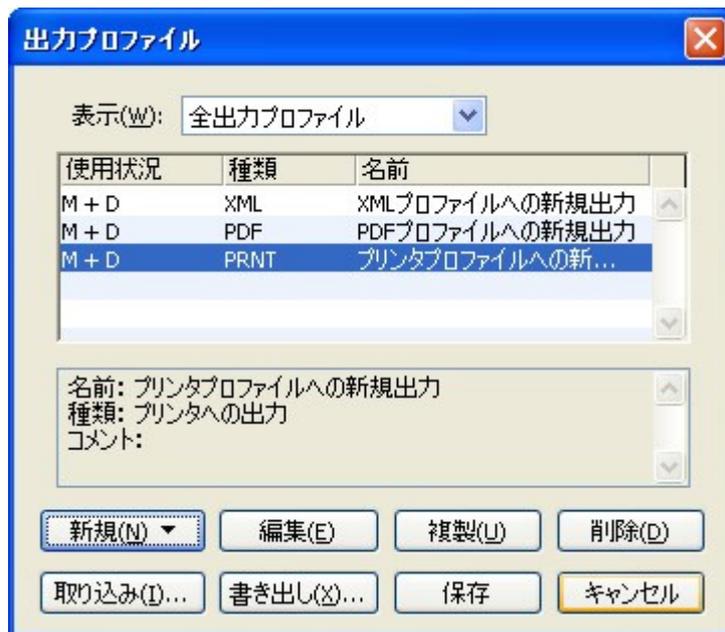
出力プロファイル

出力プロファイルは出カスタイルの強化版で、QuarkCopyDeskアークトルまたはQuarkXPressレイアウトをプリンタ、PDFファイル、またはPostScriptファイルに出力できます。出力プロファイルでは、シングルクリックでプロファイルを実行できます。また、ヘッダーボックスおよびプレースホルダ、高度な画像処理、プロファイルのグループ化機能もサポートしています。

プリンタ用の出力プロファイルの作成

プリンタ用の出力プロファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **編集 > 出力プロファイル**を選択して、**出力プロファイル**ダイアログボックスを表示します。



出力プロファイルダイアログボックスが表示されます。

- 2 新規をクリックし、ドロップダウンメニューからプリンタへの出力を選択して、プリンタへの出力プロファイルの編集ダイアログボックスを表示します。



プリンタへの出力プロファイルの編集ダイアログボックス

- 3 名前フィールドに出力プロファイルの名前を入力します。
- 4 コメントがある場合は、コメントフィールドに入力します。
- 5 キーボードショートカットフィールドにキーボードショートカットを入力します。
- 6 ファイル > 出力プロファイルジョブサブメニューに出力プロファイルを表示するには、出力プロファイルジョブメニューに表示をオンにします。このオプションを選択すると、出力プロファイルダイアログボックスの使用状況列にMと表示されます。
- 7 出力プロファイルジョブダイアログボックス（ファイル > 出力プロファイルジョブ > 出力プロファイルジョブ）に出力プロファイルを表示するには、出力プロファイルジョブ

ダイアログボックスに表示をオンにします。このオプションを選択すると、出力プロファイルダイアログボックスの使用状況列にDと表示されます。

8 下記のペインのコントロールを設定します。

- デバイス：詳細は、「[印刷用デバイスのオプションの指定](#)」を参照してください。
- ページ：詳細は、「[印刷用ページオプションの指定](#)」を参照してください。
- カラー：詳細は、「[カラーオプションの指定](#)」を参照してください。
- 画像：詳細は、「[印刷用画像オプションの指定](#)」を参照してください。
- ヘッダー：詳細は、「[ヘッダーオプションの指定](#)」を参照してください。
- ヘッダーの配置：詳細は、「[印刷用のヘッダーの配置オプションの指定](#)」を参照してください。
- マーク：詳細は、「[トンボオプションの指定](#)」を参照してください。
- アーティクル：詳細は、「[アーティクルオプションの指定](#)」を参照してください。
- ノート：詳細は、「[印刷用ノートオプションの指定](#)」を参照してください。

9 プリンタへの出力プロファイルの編集ダイアログボックスでOKをクリックし、次に出力プロファイルダイアログボックスで保存をクリックして、指定した情報を保存します。

印刷用デバイスのオプションの指定

デバイスペインでは、出力デバイスに固有のオプションを指定できます。



デバイスペイン

- 出力プロファイルでプリンタの設定を保存するには、**プリンタ**ドロップダウンメニューからプリンタを選択します。
- ➡ **プリンタ**ドロップダウンメニューの**現在のプリンタ**では、コンピュータにインストールされているデフォルトプリンタを参照します。
- 選択されているプリンタをその処理で使用できない場合は、**使用できないプリンタ**ドロップダウンメニューからオプションを選択できます。プロファイルの印刷を省略するには

OUTPUT ENHANCEMENTS

印刷ジョブを省略を、印刷ジョブの処理前に表示される使用可能なプリンタのリストからプリンタを選択するには**ユーザーに尋ねる**を、コンピュータにインストールされているデフォルトのプリンタを使用するには**現在のプリンタを使用**を選択します。

- 使用するPost-Scriptプリンタに適切なPostScript® Printer Description (PPD) ファイルを指定するには、**プリンタ**ドロップダウンメニューから**PPD**を選択します。**プリンタ**ドロップダウンメニューに表示されるPPDのリストは、**PPDマネージャー**ダイアログボックス (**補助メニュー**) を使用してカスタマイズできます。

PPDを指定すると、PPDによって与えられるデフォルト情報が、**用紙サイズ**、**横**、および**縦**の各フィールドに自動的に取り込まれます。イメージセッターでPPDを選択すると、**ページ間隔**と**用紙のオフセット**フィールドも有効になります。特定のPPDがない場合は、類似する汎用の組み込みPPDを選択してください。

➡ PPDは、プリンタメーカーによって作成され、通常はPost-Scriptプリンタに付属しています。詳細は、該当するプリンタメーカーにお問い合わせください。

- プリンタで使用するメディアのサイズを指定するには、**用紙サイズ**ドロップダウンメニューからサイズを選択します。
- プリンタでメディア縦横のサイズをカスタマイズするには、**サイズ**ドロップダウンメニューから**その他**を選択し、**横**および**縦**フィールドに値を入力します。**その他**は、使用するPPDでサポートされている場合にのみ表示されます。
- 選択した出力メディアでドキュメントの位置を指定するには、**設定位置**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- ページ画像のネガを印刷する場合、**ネガ印刷**チェックボックスをオンにします。
- QuarkCopyDeskから報告されるPostScriptのエラー出力を受信するには、**PostScriptエラーハンドラ**をオンにします。PostScriptエラーハンドラは、PostScript印刷専用として設計されています。PostScriptエラーハンドラは、使用している他のすべてのPostScriptエラー報告ユーティリティにそのレポートを付加します。

印刷用ページオプションの指定

ページペインでは、出力に送信するページや、出力時の表示方法を指定できます。



ページペイン

印刷部数を指定するには、**部数**に値を入力します。**部数**フィールドの**アクション**プレースホルダを使用することもできます（詳細は、「**プレースホルダ**」を参照してください）。

出力するページを指定するには、**ページ**フィールドに値を入力します。ページ範囲、不連続のページ、または範囲と不連続のページの組み合わせを指定することもできます。また、**ページ**フィールドの**アクション**プレースホルダを使用することもできます（詳細は、「**プレースホルダ**」を参照してください）。連続または不連続のページ範囲を指定するには、コンマおよびハイフンを使用します。たとえば、20ページのアーティクルがあり、3～9ページ、12～15ページ、および19ページを出力に送信する場合、**ページ**フィールドに「3-9, 12-15, 19」と入力します。

ページ選択を指定するには、**ページ選択**ドロップダウンメニューから、**すべて**、**奇数ページ**、または**偶数ページ**を選択します。**スプレッド**チェックボックスがオンになっている場合、**ページ選択**フィールドは表示されません。

ドキュメントの印刷を拡大または縮小するには、**縮小率**フィールドに割合を入力します。

縦置きモードまたは横置きモードのどちらで出力するかを指定するには、方向として**縦置き**または**横置き**を選択します。

ページフリップドロップダウンメニューからオプションを選択します。

セクション（タイトル）ごとに大きなドキュメントを印刷するには、**タイリング**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

アーティクルを2部以上印刷し、製本用に正しい順序ですべてのページが出力されるようにするには、**丁合い**をオンにします。

複数の隣接するページを並べてフィルムまたは用紙に印刷するには、**スプレッド**をオンにします。

空白のページを印刷するには、**空白ページを含む**をオンにします。

複数のアーティクルを逆順に印刷するには、**逆順**をオンにします。アーティクルの最後のページが最初に印刷されます。

選択したメディアの印刷可能領域に合わせてドキュメントのページサイズを拡大または縮小するには、**印刷領域に合わせる**をオンにします。**印刷領域に合わせる**がオンになっている場合、**縮小率**オプションと**ページタイリング**オプションは使用できません。

カラーオプションの指定

カラーペインでは、カラーオプションを指定できます。



カラーペイン

印刷カラードロップダウンメニューから、**グレースケール**、**コンポジットRGB**、または**コンポジットCMYK**を選択します。

印刷用画像オプションの指定

画像ペインでは、出力時の画像の表示方法を指定できます。

画像ペインをクリックして、**出力とデータ**の設定を表示します。



出力およびデータドロップダウンメニュー（画像ペイン）

- 画像の印刷方法を指定するには、**出力**ドロップダウンメニューから、**標準**、**低画質**、または**ラフ**を選択します。**標準**はデフォルト設定です。画像のソースファイルのデータを使用し、高解像度で画像が出力されます。**低画質**オプションを選択すると、画像が画面のプレビューどおりの解像度で印刷されます。**ラフ**オプションを選択すると、画像とボックスフレームが出力されず、画面上の空の画像ボックスのように、中に「x」と表示されたボックスが印刷されます。
- **データ**ドロップダウンメニューから、**ASCII**、**バイナリ**、または**クリーン8ビット**を選択します。**バイナリ**形式ではドキュメントの印刷速度が上がるのに対し、**ASCII**オプションは、より多くの種類のプリンタやプリントスプーラで読み取り可能な標準形式であるため、移植性に優れています。**クリーン8ビット**オプションでは、ASCIIとバイナリがさまざまなポータブルファイル形式で組み合わせられます。

ヘッダーオプションの指定

ヘッダーペインでは、アートのヘッダーに関する情報を指定できます。ヘッダーは各ページの先頭に配置され、ページ番号やアート名など、固定テキストと可変テキスト（プレースホルダを使用）の両方を含めることができます。



ヘッダーペイン

➡ ヘッダーペインで指定する情報は、出力に表示されます。

ヘッダーを指定し、そのヘッダーのオプションを指定するには、**ページヘッダーを表示**をオンにします。

左領域、中央領域、および右領域の幅の割合を**幅 (%)**フィールドに入力します。左、中央、および右のフィールドに表示するテキストを入力します。

➡ ヘッダーに指定する幅の割合は、アートが印刷されるドキュメントまたは用紙のページ幅に対する値です。この割合は100%未満にします。

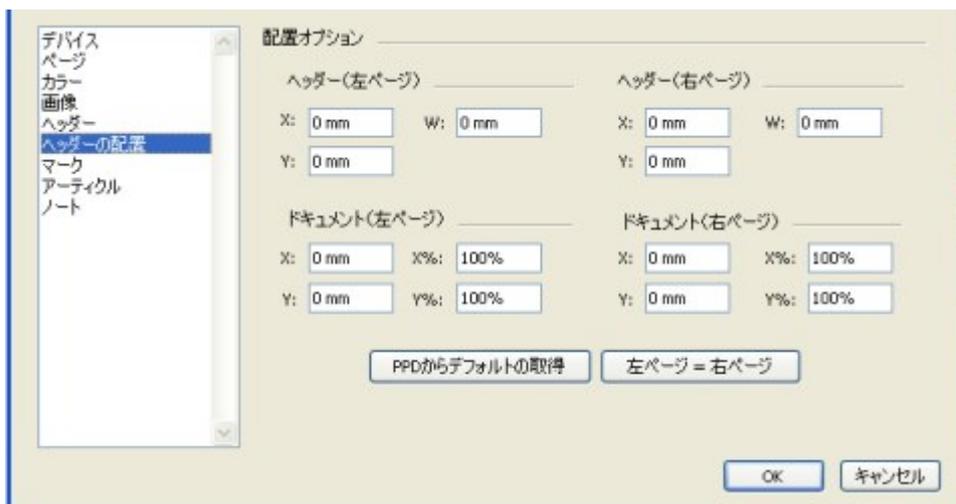
プレースホルダドロップダウンメニュー (<>) から関連するプレースホルダオプションを選択することもできます。

フォントタイプ、フォントサイズ、行送りの値を指定するには、**フォント**、**サイズ**、および**行送り**ドロップダウンメニューから関連するオプションを選択します。

開いているQuarkCopyDeskアートのヘッダーの印刷状態を確認するには、**プレビュー**をクリックします。QuarkCopyDeskアートが開いていない場合は、ヘッダーフィールドに####という文字が表示されます。

印刷用のヘッダーの配置オプションの指定

ヘッダーの**配置**ペインでは、出力時に表示するアートのヘッダー位置を指定できます。



ヘッダーの配置ペイン

ヘッダー（左ページ）領域とヘッダー（右ページ）領域では、ヘッダーボックスとアーティクルを配置する領域を設定できます。ヘッダー（左ページ）領域とヘッダー（右ページ）領域のXフィールドとYフィールドに、それぞれx軸とy軸の値を入力します。幅フィールドを使用して、ヘッダーボックスの全体の幅を変更します。

ドキュメントのコンテンツの開始位置を指定するには、ドキュメント（左ページ）領域とドキュメント（右ページ）領域のXフィールドとYフィールドに、それぞれx軸とy軸の値を入力します。ドキュメントに倍率を適用して印刷可能範囲内に必ず収まるようにするには、X%フィールドとY%フィールドに拡大縮小率を入力します。

印刷可能範囲にデフォルトのプリンタ設定を使用するには、PPDからデフォルトの取得をクリックします。

左ページと右ページに同じページヘッダー設定を適用するには、左ページ = 右ページをクリックします。

トンボオプションの指定

マークペインでは、トンボのオプションを指定できます。



マークペイン

すべてのページにトンボを印刷するように指定するには、レジストレーションドロップダウンメニューからセンターまたはオフセンターを選択します。

名前フィールドにページのラベル名を入力します。このラベル名は、先頭のトンボとトンボの間に表示されます。プレースホルダドロップダウンメニュー (< >) からラベル名としてプレースホルダを選択することもできます。

トンボのプレビューを表示するには、**プレビュー**をクリックします。

ア－ティクルオプションの指定

ア－ティクルペインでは、ア－ティクルの出力に関するオプションを指定できます。



ア－ティクルペイン

印刷する表示ドロップダウンメニューから印刷表示を選択します。**WYSIWYG**、**ゲラ**、**全画面**、**WYSIWYG (1コラム)**、または**現在のア－ティクルの表示**を選択できます。

展開されたコンポーネントのみを印刷するには、**コンポーネント**ドロップダウンメニューから**展開されているコンポーネントのみ**を選択します。**現在**を選択して、現在のコンポーネントのみを印刷します。

ページ画像を含むをオンにして、ロックされているか編集不可になっているコンポーネントを印刷します。

ア－ティクルの画像を印刷するには、**画像を含む**をオンにします。

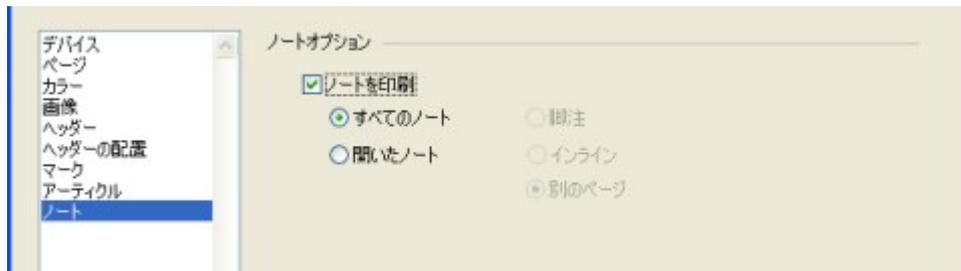
日付、時刻、ドキュメント名、およびページ番号を脚注として表示するには、**ア－ティクル情報を表示**をオンにします。

テキストを出力に送信する方法をカスタマイズするには、**カスタマイズしたテキストコンテンツ設定を使用 (ゲラ/全画面表示)** をオンにして、下記のコントロールを使用します。

- **スタイルを表示 (ゲラおよび全画面表示)** : ゲラ表示と全画面表示でテキストにボールドやイタリックなどの文字飾りを適用します。
- **カラーを表示 (ゲラ表示)** : ゲラ表示でスタイル設定されているテキストにカラーを適用します。
- **コンポーネントIDと行番号を表示 (ゲラ表示)** : ゲラ表示で各コンポーネントの名前を表示し、行番号を追加します。
- **コンポーネントIDとコンポーネントバーを表示 (ゲラおよび全画面表示)** : ゲラ表示で各コンポーネントの名前を表示し、ページの先頭にコンポーネント名とグレイのバーを追加します。
- **フォント、サイズ、間隔の各コントロール** : ゲラ表示と全画面表示でテキストのフォント、サイズ、および行間隔を指定します。

印刷用ノートオプションの指定

ノートペインでは、ノートに関するオプションを指定できます。



ノートペイン

- ドキュメントのノートを印刷するには、**ノートを印刷**をオンにします。
- 開いているノートと閉じているノートすべてを印刷するには、**すべてのノート**をクリックします。開いているノートのみを印刷するには、**開いたノート**をクリックします。
- ドキュメント内でのノートの印刷位置を選択できます。ノートを脚注として印刷するには**脚注**を、コンテンツでのそれぞれの位置にノートを印刷するには**インライン**を、ドキュメントの残りのコンテンツとは別のページにすべてのノートを印刷するには**別のページ**をクリックします。

PDF出力用の出力プロファイルの作成

PDF出力用の出力プロファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **編集 > 出力プロファイル**を選択して、**出力プロファイル**ダイアログボックスを表示します。
- 2 **新規 > PDFへの出力**を選択して、**PDFへの出力プロファイルの編集**ダイアログボックスを表示します。



PDFへの出力プロファイルの編集ダイアログボックス

- 3 **名前**フィールドに出力プロファイルの名前を入力します。

- 4 コメントがある場合は、コメントフィールドに入力します。
- 5 キーボードショートカットフィールドにキーボードショートカットを入力します。
- 6 ファイル > 出力プロファイルジョブサブメニューに出力プロファイルを表示するには、出力プロファイルジョブメニューに表示をオンにします。このオプションを選択すると、出力プロファイルダイアログボックスの使用状況列にMと表示されます。
- 7 出力プロファイルジョブダイアログボックス（ファイル > 出力プロファイルジョブ > 出力プロファイルジョブ）に出力プロファイルを表示するには、出力プロファイルジョブダイアログに表示をオンにします。このオプションを選択すると、出力プロファイルダイアログボックスの使用状況列にDと表示されます。
- 8 下記のペインのコントロールを設定します。
 - 設定：詳細は、「[設定オプションの指定](#)」を参照してください。
 - ページ：詳細は、「[印刷用ページオプションの指定](#)」を参照してください。
 - メタデータ：詳細は、「[PDFのメタデータオプションの指定](#)」を参照してください。
 - ハイパーリンク：詳細は、「[PDFのハイパーリンクオプションの指定](#)」を参照してください。
 - 圧縮：詳細は、「[PDFの圧縮オプションの指定](#)」を参照してください。
 - カラー：詳細は、「[カラーオプションの指定](#)」を参照してください。
 - 画像：詳細は、「[PDFの画像オプションの指定](#)」を参照してください。
 - ヘッダー：詳細は、「[ヘッダーオプションの指定](#)」を参照してください。
 - ヘッダーの配置：詳細は、「[PDFのヘッダーの配置オプションの指定](#)」を参照してください。
 - マーク：詳細は、「[トンボオプションの指定](#)」を参照してください。
 - アーティクル：詳細は、「[アーティクルオプションの指定](#)」を参照してください。
 - ノート：詳細は、「[PDFのノートオプションの指定](#)」を参照してください。
- 9 PDFプロファイルへの出力の編集ダイアログボックスでOKをクリックし、次いで出力プロファイルダイアログボックスで保存をクリックして、指定した情報を保存します。

設定オプションの指定

設定ペインでは、PDFを保存するときのオプションを指定できます。



設定ペイン

新規保存ダイアログを使うをクリックして、デフォルトの**新規保存**ダイアログボックスを表示します。

出力PDFファイルに固有の名前を付け、選択した場所に保存するには、**この場所に、このファイル名でPDFファイルを保存する**をクリックします。ファイル名フィールドにPDFファイルの名前を入力します。一時フォルダフィールドに一時フォルダのパスを入力します。最終ファイルを保存するフォルダのパスを**ターゲットフォルダ**フィールドに入力します。ファイル名、一時フォルダ、およびターゲットフォルダの各フィールドでは、プレースホルダドロップダウンメニュー (<>) から関連するプレースホルダを選択することもできます。

ファイルが存在する場合ドロップダウンメニューからは、同じ名前のPDFファイルがすでに存在している場合の対処方法を選択できます。デフォルトの**新規保存**ダイアログボックスを表示するには**新規保存ダイアログボックスを表示する**を、既存のファイルを新規ファイルで置き換えるには**上書きする**を、別バージョンのファイルを作成するには**バージョンを作成する**を選択します。

アクティブなフィールドのプレビューを表示するには、**プレビュー**をクリックします。プレースホルダ値がない場合は、プレビューのそのプレースホルダとして####という文字が表示されます。

PDFのページオプションの指定

ページペインでは、ページ出力に関するオプションを指定できます。



ページペイン

出力するページを指定するには、**ページ**に値を入力します。ページ範囲、不連続のページ、または範囲と不連続のページの組み合わせを指定することもできます。**ページフィールド**の**アクション**プレースホルダを使用することもできます。詳細は、「[プレースホルダ](#)」を参照してください。

連続または不連続のページ範囲を指定するには、コンマおよびハイフンを使用します。たとえば、20ページのアーティクルがあり、3～9ページ、12～15ページ、および19ページを出力に送信する場合、**ページ**フィールドに「3-9, 12-15, 19」と入力します。

複数の隣接するページを並べて表示するには、**スプレッド**をオンにします。

空白のページを出力するには、**空白ページを含む**をオンにします。

ページを個々のPDFとして書き出すをオンにすると、各ページまたはスプレッドが別々のPDFファイルとして書き出されます。

PDFファイルにサムネールを含めるには、**サムネールの埋め込み**をオンにします。**サムネールの埋め込み**ドロップダウンメニューから、**カラーサムネール**または**白黒サムネール**を選択できます。

PDFのメタデータオプションの指定

メタデータペインでは、書き出されるPDFに説明的なメタデータを追加できます。



メタデータペイン

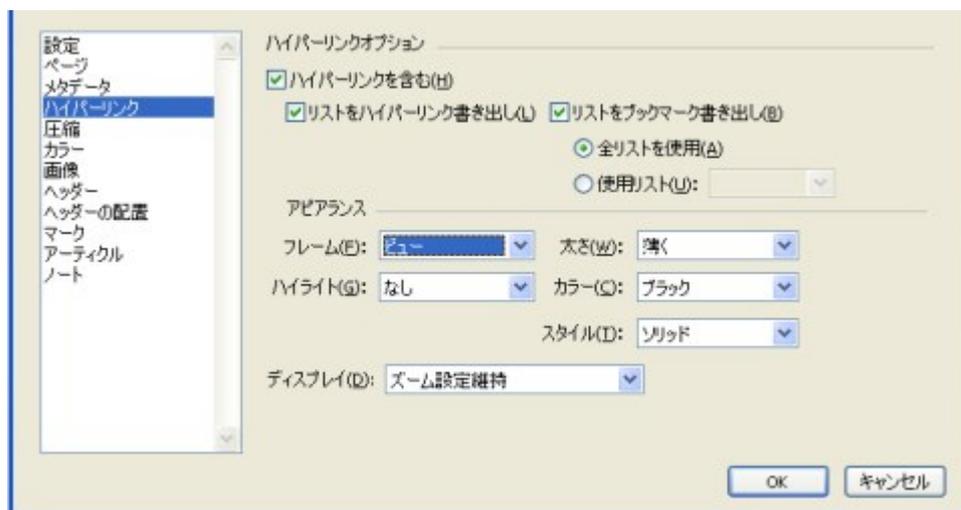
タイトル、件名、作成者、およびキーワードの各フィールドにテキストを入力します。

プレースホルダドロップダウンメニュー (<>) から、これらの各フィールドにプレースホルダを選択することもできます。フォーマットされたプレースホルダテキストがフィールドに挿入されます。詳細は、「[プレースホルダ](#)」を参照してください。

アクティブなフィールドのプレビューを表示するには、**プレビュー**をクリックします。プレースホルダ値がない場合は、プレビューのそのプレースホルダとして####という文字が表示されます。

PDFのハイパーリンクオプションの指定

ハイパーリンクペインでは、書き出されるPDFにハイパーリンクを含めるかどうか、およびPDFハイパーリンクを表示する方法を指定できます。



ハイパーリンクペイン

PDFファイルでハイパーリンクを有効にするには、**ハイパーリンクを含む**をオンにします。

リストをハイパーリンクに変換するには、**リストをハイパーリンク書き出し**をオンにします。

リストをPDFのブックマークに変更するには、**リストをブックマーク書き出し**をオンにします。

アーティクル内のすべてのリストをPDFのブックマークに変更するには、**全リストを使用**を選択します。アーティクル内の1つのリストのみをPDFのブックマークに変更するには、**使用リスト**を選択します。

各ハイパーリンクの周りにフレームを表示するかどうかを指定するには、**フレーム**ドロップダウンメニューから**不可視**または**可視**を選択します。**フレーム**を**可視**に設定する場合は、**幅**、**カラー**、および**スタイル**ドロップダウンメニューを使用してハイパーリンクフレームをフォーマットします。

PDFファイルでクリックされたときのハイパーリンクの表示方法を指定するには、**ハイライト**ドロップダウンメニューを使用します。

PDFファイルでのハイパーリンクページの表示方法を指定するには、**表示**ドロップダウンメニューを使用します。

- ➡ リストをハイパーリンクやブックマークに変換するには、アートをPDFファイルとして書き出す前に、QuarkCopyDeskの**リスト機能**（**編集**および**表示メニュー**）を使用してリストを作成および構築する必要があります。

PDFの圧縮オプションの指定

圧縮ペインでは、書き出されたPDFの圧縮方法を指定できます。



圧縮ペイン

クオリティドロップダウンメニューでは、次の3つの圧縮オプションを選択できます。

- **最適**：個人用のプリンタでの印刷に適したPDFファイルを作成します。この設定で作成されるファイルはサイズが比較的大きく、生成に時間がかかる場合があります。
- **高画質**：サイズが適度に小さく、画質も適度なレベルのPDFファイルを作成します。画質は圧縮されますが、画面上での表示に適しています。この設定で作成されるファイルは、電子メールでの送信に支障のない十分小さなサイズになります。
- **低画質**：ごく小さいサイズのPDFファイルを作成します。この設定で作成されるPDF内の画質は許容範囲内ですが、ラスター画像内のテキストは解読不能になる場合があります。この設定を使用すると、他の設定の場合よりも迅速にPDFを生成できます。

PDFファイルをバイナリフォーマットではなくASCIIとして書き出すには、**ASCIIファイルフォーマット**をオンにします。

カラーオプションの指定

カラーペインでは、書き出されるPDFのカラーモードを指定できます。

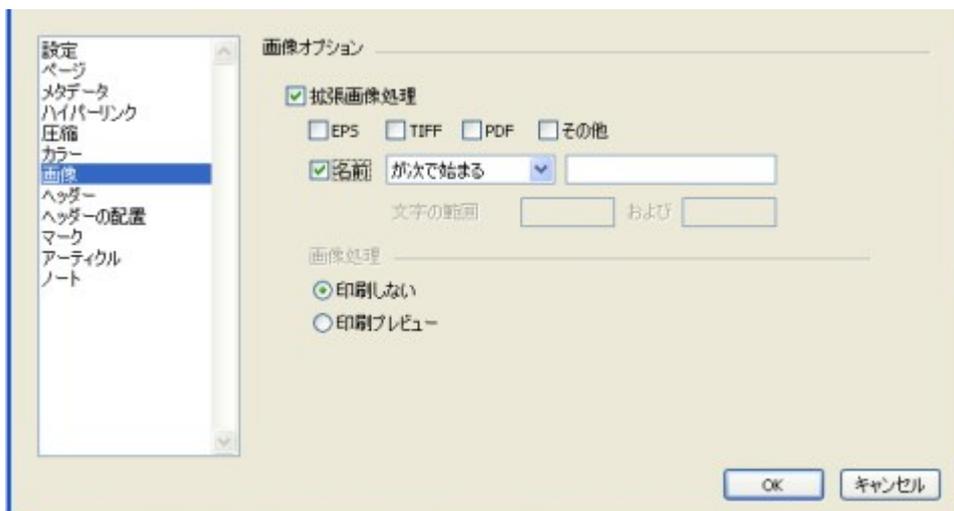


カラーペイン

印刷カラードロップダウンメニューから、**グレイスケール**、**コンポジットRGB**、または**コンポジットCMYK**を選択します。

PDFの画像オプションの指定

画像ペインでは、画像の出力方法を指定できます。



画像ペイン

出力時に画像に対してルールを適用するには、**拡張画像処理**をオンにします。

EPS、TIFF、およびPDF画像タイプのみを置き換えるには、**EPS**、**TIFF**、および**PDF**をオンにします。その他の画像フォーマット（EPS、TIFF、PDFを除く）を置き換えるには、**その他**をオンにします。

特定の名前で画像を検索し、その画像にルールを適用するには、**名前**をオンにし、**名前**ドロップダウンメニューからオプション（**が次で始まる**、**が次で終わる**、**が次を含む**、**が次を含まない**、**次と等しい**、**および次と等しくない**）を選択し、**名前**ドロップダウンメニューの横にあるボックスに検索対象の名前を入力します。

オンにした画像タイプの画像を出力しない場合は、**印刷しない**をクリックします。

オンにした画像タイプの低解像度プレビューを印刷するには、**印刷プレビュー**をクリックします。たとえば、**EPS**をオンにして**印刷プレビュー**をクリックすると、すべてのEPS画像が低解像度プレビューで印刷されます。

ヘッダーオプションの指定

ヘッダーペインでは、アートのヘッダーに関する情報を指定できます。ヘッダーは各ページの先頭に配置され、ページ番号やアート名など、固定テキストと可変テキスト（プレースホルダを使用）の両方を含めることができます。



ヘッダーペイン

- ➡ ヘッダーペインで指定する情報は、出力に表示されます。

ヘッダーを指定し、そのヘッダーのオプションを指定するには、**ページヘッダーを表示**をオンにします。

左領域、中央領域、および右領域の幅の割合を**幅 (%)**フィールドに入力します。左、中央、および右のフィールドに表示するテキストを入力します。

- ➡ ヘッダーに指定する幅の割合は、アーティクルが印刷されるドキュメントまたは用紙のページ幅に対する値です。この割合は100%未満にします。

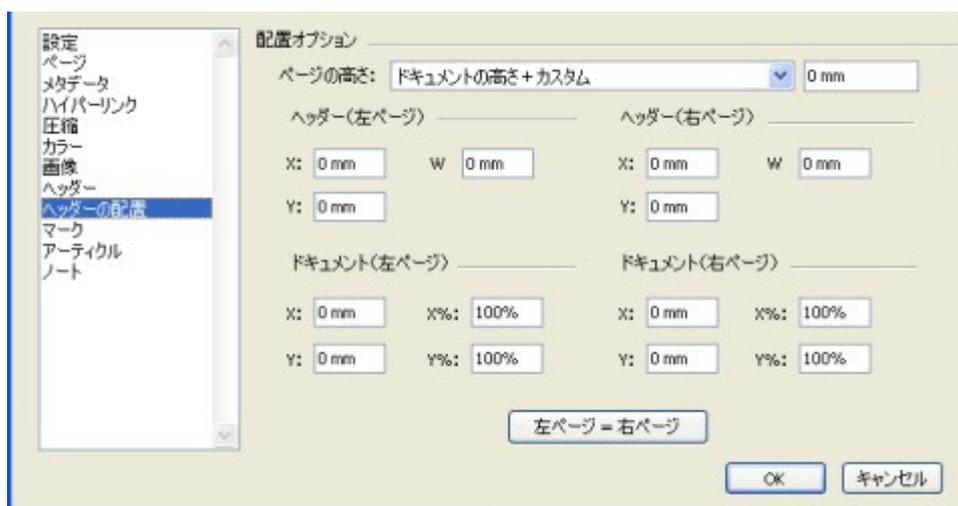
プレースホルダドロップダウンメニュー (<>) から関連するプレースホルダオプションを選択することもできます。

フォントタイプ、フォントサイズ、行送りの値を指定するには、**フォント**、**サイズ**、および**行送り**ドロップダウンメニューから関連するオプションを選択します。

開いているQuarkCopyDeskアーティクルのヘッダーの印刷状態を確認するには、**プレビュー**をクリックします。QuarkCopyDeskアーティクルが開いていない場合は、ヘッダーフィールドに####という文字が表示されます。

PDFのヘッダーの配置オプションの指定

ヘッダーの**配置**ペインでは、ヘッダーの配置方法を指定できます。



ヘッダーの配置ペイン

ページの高さドロップダウンメニューからオプションを選択します。

ヘッダー（左ページ）領域とヘッダー（右ページ）領域では、ヘッダーボックスとアークティクルを配置する領域を設定できます。ヘッダー（左ページ）領域とヘッダー（右ページ）領域のXフィールドとYフィールドに、それぞれx軸とy軸の値を入力します。幅フィールドを使用して、ヘッダーボックスの全体の幅を変更します。

ドキュメントのコンテンツの開始位置を指定するには、ドキュメント（左ページ）領域とドキュメント（右ページ）領域のXフィールドとYフィールドに、それぞれx軸とy軸の値を入力します。ドキュメントに倍率を適用して印刷可能範囲内に必ず収まるようにするには、X%フィールドとY%フィールドに拡大縮小率を入力します。

選択したPPDファイルからヘッダーの配置のデフォルト値を読み取るには、PPDからデフォルトの取得をクリックします。

左ページと右ページに同じページヘッダー設定を適用するには、左ページ = 右ページをクリックします。

トンボオプションの指定

マークペインでは、トンボのオプションを指定できます。



マークペイン

すべてのページにトンボを印刷するように指定するには、レジストレーションドロップダウンメニューからセンターまたはオフセンターを選択します。

名前フィールドにページのラベル名を入力します。このラベル名は、先頭のトンボとトンボの間に表示されます。プレースホルダドロップダウンメニュー (<>) からラベル名としてプレースホルダを選択することもできます。

トンボのプレビューを表示するには、**プレビュー**をクリックします。

アーティクルオプションの指定

アーティクルペインでは、アーティクルの出力に関するオプションを指定できます。



アーティクルペイン

印刷する表示ドロップダウンメニューから印刷表示を選択します。**WYSIWYG**、**ゲラ**、**全画面**、**WYSIWYG (1コラム)**、または**現在のアーティクルの表示**を選択できます。

展開されたコンポーネントのみを印刷するには、**コンポーネント**ドロップダウンメニューから**展開されているコンポーネントのみ**を選択します。**現在**を選択して、現在のコンポーネントのみを印刷します。

ページ画像を含むをオンにして、ロックされているか編集不可になっているコンポーネントを印刷します。

アーティクルの画像を印刷するには、**画像を含む**をオンにします。

日付、時刻、ドキュメント名、およびページ番号を脚注として表示するには、**アーティクル情報を表示**をオンにします。

テキストを出力に送信する方法をカスタマイズするには、**カスタマイズしたテキストコンテンツ設定を使用 (ゲラ/全画面表示)** をオンにして、下記のコントロールを使用します。

- **スタイルを表示 (ゲラおよび全画面表示)** : ゲラ表示と全画面表示でテキストにボールドやイタリックなどの文字飾りを適用します。
- **カラーを表示 (ゲラ表示)** : ゲラ表示でスタイル設定されているテキストにカラーを適用します。
- **コンポーネントIDと行番号を表示 (ゲラ表示)** : ゲラ表示で各コンポーネントの名前を表示し、行番号を追加します。
- **コンポーネントIDとコンポーネントバーを表示 (ゲラおよび全画面表示)** : ゲラ表示で各コンポーネントの名前を表示し、ページの先頭にコンポーネント名とグレイのバーを追加します。

OUTPUT ENHANCEMENTS

- フォント、サイズ、間隔の各コントロール：ゲラ表示と全画面表示でテキストのフォント、サイズ、および行間隔を指定します。

PDFのノートオプションの指定

ノートペインでは、ノートに関するオプションを指定できます。



ノートペイン

PDFファイルにドキュメントのノートを追加するには、**PDFにノートを含める**をオンにします。

アーティクルXMLファイルの出カプロファイルの作成

アーティクルXMLファイルの出カプロファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **編集** > **出カプロファイル**を選択して、**出カプロファイル**ダイアログボックスを表示します。
- 2 **新規** > **アーティクルXMLへの出力**を選択して、**XMLへの出カプロファイルの編集**ダイアログボックスを表示します。



XMLへの出カプロファイルの編集ダイアログボックス

- 3 **名前**フィールドに出カプロファイルの名前を入力します。
- 4 コメントがある場合は、**コメント**フィールドに入力します。

- 5 キーボードショートカットフィールドにキーボードショートカットを入力します。
- 6 ファイル > 出力プロファイルジョブサブメニューに出力プロファイルを表示するには、出力プロファイルジョブメニューに**表示**をオンにします。このオプションを選択すると、出力プロファイルダイアログボックスの**使用状況列**に**M**と表示されます。
- 7 出力プロファイルジョブダイアログボックス（ファイル > 出力プロファイルジョブ > 出力プロファイルジョブ）に出力プロファイルを表示するには、**出力プロファイルジョブダイアログ**に**表示**をオンにします。このオプションを選択すると、**出力プロファイルダイアログ**ボックスの**使用状況列**に**D**と表示されます。
- 8 下記のペインのコントロールを設定します。
 - **設定**：詳細は、「[設定オプションの指定](#)」を参照してください。
 - **タグ付けルール**：詳細は、「[XMLのタグ付けルールオプションの指定](#)」を参照してください。
 - **文字のマッピング**：詳細は、「[XMLの文字のマッピングオプションの指定](#)」を参照してください。
 - **オプション**：詳細は、「[XMLのメタデータオプションの指定](#)」を参照してください。
- 9 XMLプロファイルへの出力の**編集**ダイアログボックスで**OK**をクリックし、次いで**出力プロファイル**ダイアログボックスで**保存**をクリックして、指定した情報を保存します。

XMLの設定オプションの指定

設定ペインでは、XMLを保存するときのオプションを指定できます。



設定ペイン

- **新規保存ダイアログ**をクリックして、デフォルトの**新規保存**ダイアログボックスを表示します。
- 出力XMLファイルに固有の名前を付け、選択した場所に保存するには、**この場所に、このファイル名でXMLファイルを保存する**をクリックします。ファイル名フィールドにXMLファイルの名前を入力します。**一時フォルダ**フィールドに一時フォルダのパスを入力します。最終ファイルを保存するフォルダのパスを**ターゲットフォルダ**フィールドに

入力します。ファイル名、一時フォルダ、およびターゲットフォルダの各フィールドでは、プレースホルダドロップダウンメニュー (<>) から関連するプレースホルダを選択することもできます。

ファイルが存在する場合ドロップダウンメニューからは、同じ名前のXMLファイルがすでに存在している場合の対処方法を選択できます。デフォルトの**新規保存ダイアログボックス**を表示するには**新規保存ダイアログボックスを表示する**を、既存のファイルを新規ファイルで置き換えるには**上書きする**を、別バージョンのファイルを作成するには**バージョンを作成する**を選択します。

アクティブなフィールドのプレビューを表示するには、**プレビュー**をクリックします。プレースホルダ値がない場合は、プレビューのそのプレースホルダとして####という文字が表示されます。

XMLのタグ付けルールオプションの指定

タグ付けルールペインでは、テキストにXMLとしてタグ付けするときのオプションを指定できます。



コンポーネント名方式のタグ付けルールオプション

XMLマッピングボックスで方式を選択して、XMLマッピング方式のオプションを設定できます。選択可能な方式は、**コンポーネント名**、**スタイルシート**、および**フェイルオーバー**の3種類です。**コンポーネント名**方式または**スタイルシート**方式を有効にするには、それぞれの方式の横にある**使用する**ボックスをオンにします。**コンポーネント名**方式または**スタイルシート**方式を無効にするには、**使用する**ボックスをオフにします。**フェイルオーバー**方式は常に有効になっており、無効にすることはできません。

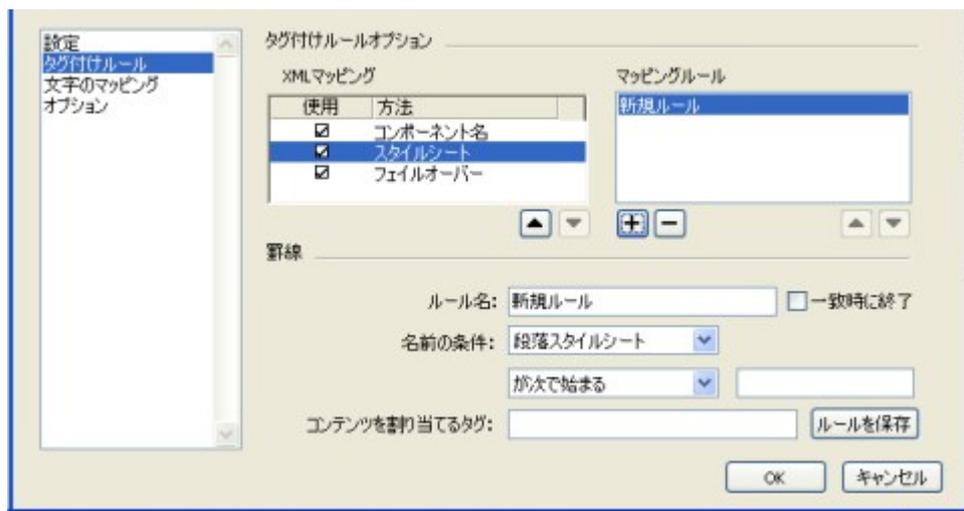
方式を選択し、**XMLマッピング**ボックスの下にある上下の矢印ボタンをクリックして、選択した方式をリストの上方または下方に移動します。**フェイルオーバー**方式は常に方式リストの最後に表示され、その位置に固定されています。

方式のマッピングルールを表示するには、**XMLマッピング**ボックスで方式を選択します。**マッピングルール**ボックスにルールが表示されます。マッピングルールを選択し、**マッピングルール**ボックスの下にある上下の矢印ボタンをクリックして、選択したマッピングルールをリストの上方または下方に移動します。マッピングルールを選択し、**-**ボタンをクリックしてそのマッピングルールを削除します。

➡ フェイルオーバールールを削除することはできません。

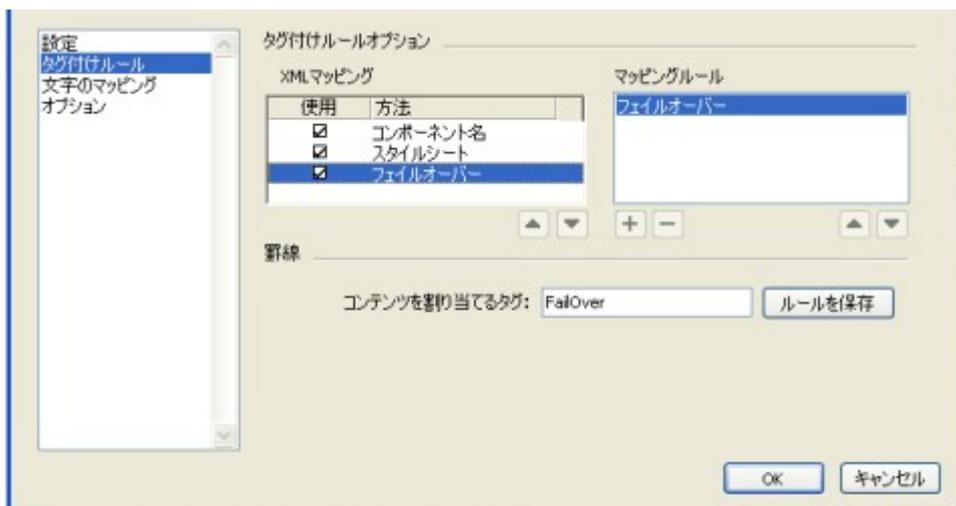
マッピングルールを作成するには、+をクリックします。XMLマッピングボックスとルール名フィールドにデフォルト名（新規ルール）が表示されます。デフォルトルール名を使用するか、そのルールの新しい名前をルール名フィールドに入力します。

コンポーネント名のマッピングルールを作成する場合は、コンポーネント名の条件ドロップダウンメニューから条件を選択します。選択したら、コンポーネント名の条件ドロップダウンメニューの横のフィールドに検索するテキストを入力します。コンテンツを割り当てるタグフィールドに、コンポーネントテキストを割り当てるXMLタグを入力します。マッピングルールを保存するには、ルールを保存をクリックします。



スタイルシート方式のタグ付けルールオプション

スタイルシートのマッピングルールを作成する場合は、名前条件ドロップダウンメニューから段落スタイルシートまたは文字スタイルシートを選択します。段落スタイルシートを選択する場合は、一致時に終了をクリックして、一致するスタイルシートが見つかったときにシステムが段落の内容の探索を停止するようにします。名前条件ドロップダウンメニューの下にあるドロップダウンメニューから条件を選択します。選択したら、ドロップダウンメニューの横のフィールドに検索するテキストを入力します。コンテンツを割り当てるタグフィールドに、コンポーネントテキストを割り当てる定義済みのXMLタグを入力します。マッピングルールを保存するには、ルールを保存をクリックします。



フェイルオーバー方式のタグ付けルールオプション

フェイルオーバー方式には、デフォルトのフェイルオーバールールがあります。フェイルオーバー方式のルールを作成することはできませんが、フェイルオーバーテキストを割り当てるXMLタグを**コンテンツを割り当てるタグ**フィールドに入力できます。入力したテキストは、**ルールを保存**をクリックするとデフォルトのフェイルオーバールールに適用されます。

XMLの文字のマッピングオプションの指定

文字のマッピングペインでは、文字変換のオプションを指定できます。



文字のマッピングペイン

文字のマッピングを定義するルールは、**変換ルール**ボックスに表示されます。ルールは、**種類**別と**ルール名**別に一覧で表示されます。**種類**カラムは、**検索の種類**フィールドの設定を参照します。リスト内でルールの位置を上下に移動するには、ルールを選択して上下矢印をクリックします。

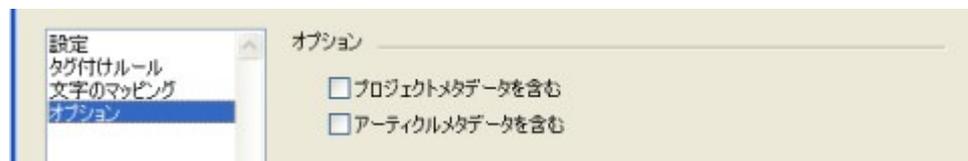
ルールを削除するには、**変換ルール**ボックスでルールを選択して、**-**をクリックします。

変換ルールを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 +をクリックします。デフォルト名（新規ルール）とデフォルトの種類（C）のルールが変換ルールボックスに表示されます。デフォルト名は、ルール名フィールドにも表示されます。
- 2 検索の種類ドロップダウンメニューから、文字、フォント、またはフォントおよび文字を選択します。
- 3 検索対象フィールドに、検索するテキストを入力します。検索の種類フィールドでフォントおよび文字を選択した場合は、使用されているフォントドロップダウンメニューから、検索するフォントを選択します。
- 4 置換単語フィールドに置換テキストを入力します。
- 5 ルールを保存をクリックして設定を保存します。

XMLのメタデータオプションの指定

オプションペインでは、書き出されるXMLにメタデータを含めるかどうかを指定できます。



XMLプロファイルのオプション

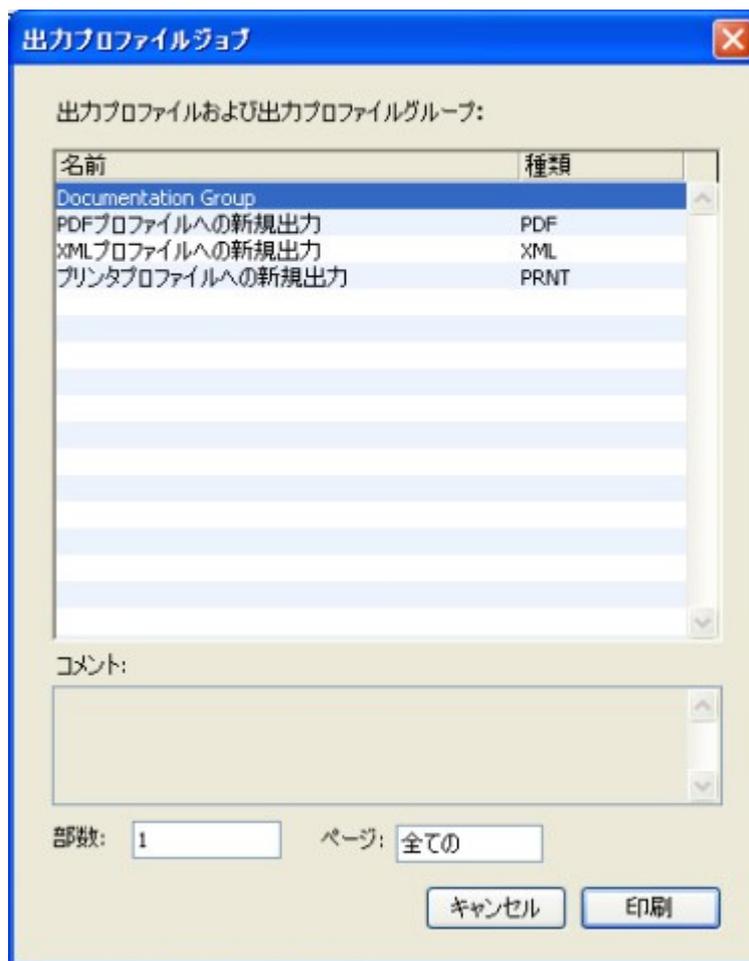
プロジェクトのメタデータをXMLファイルに追加するには、プロジェクトメタデータを含むをオンにします。

アーティクルのメタデータをXMLファイルに追加するには、アーティクルメタデータを含むをオンにします。

出力プロファイルの実行

出力プロファイルを開始するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ファイル>出力プロファイルジョブ>出力プロファイルジョブを選択して、出力プロファイルジョブダイアログボックスを表示します。
- ➡ ファイルメニュー（ファイル>出力プロファイルジョブ><出力プロファイル名>）から出力プロファイルを直接選択することもできます。



出力プロファイルジョブダイアログボックス

- 2 リストから出力プロファイルを選択します。処理する出力プロファイルを複数選択することもできます。
- 3 部数フィールドに出力する部数を入力します。
- 4 印刷するページを指定するには、ページフィールドに値を入力します。
- ➡ 個々の出力プロファイルで部数またはページフィールドの<継承>プレースホルダを選択すると、出力プロファイルジョブダイアログボックスで入力する値が、個々の出力プロファイルの部数またはページフィールドの値として使用されます。詳細は、「[プレースホルダ](#)」を参照してください。
- 5 印刷をクリックして、選択した出力プロファイルの処理を開始します。

出力プロファイルグループ

出力プロファイルグループは、出力プロファイルの集合です。出力プロファイルグループを実行すると、その出力プロファイルグループの出力プロファイルがすべて実行されます。

出力プロファイルグループの作成

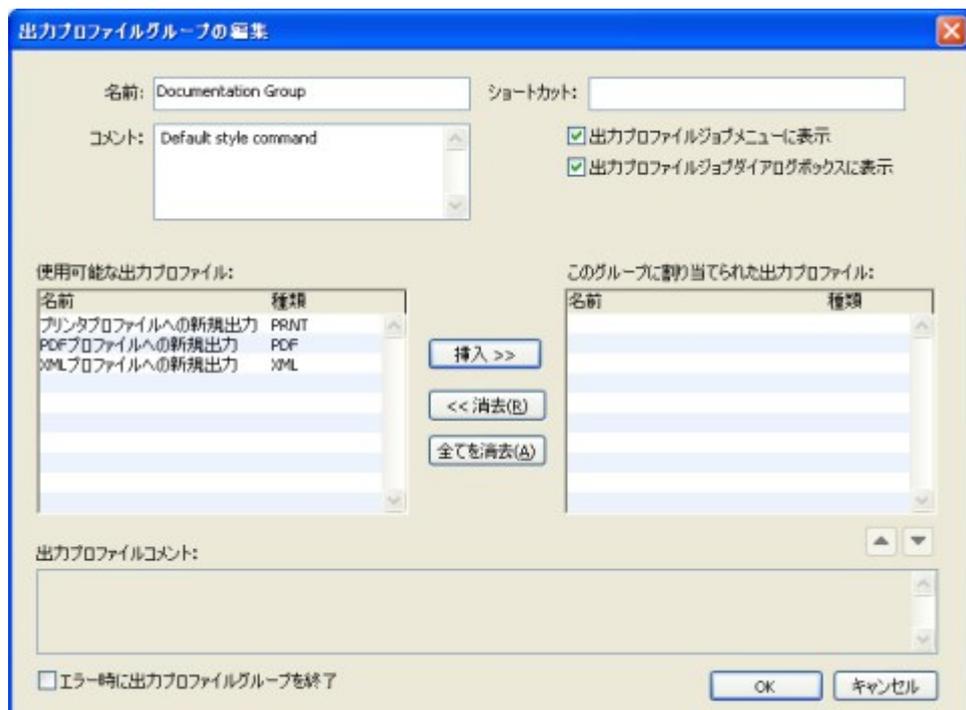
出力プロファイルグループを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **編集**>**出力プロファイルグループ**を選択して、**出力プロファイルグループ**ダイアログボックスを表示します。



出力プロファイルグループダイアログボックス

- 2 **新規**をクリックして、**出力プロファイルグループ**の**編集**ダイアログボックスを表示します。



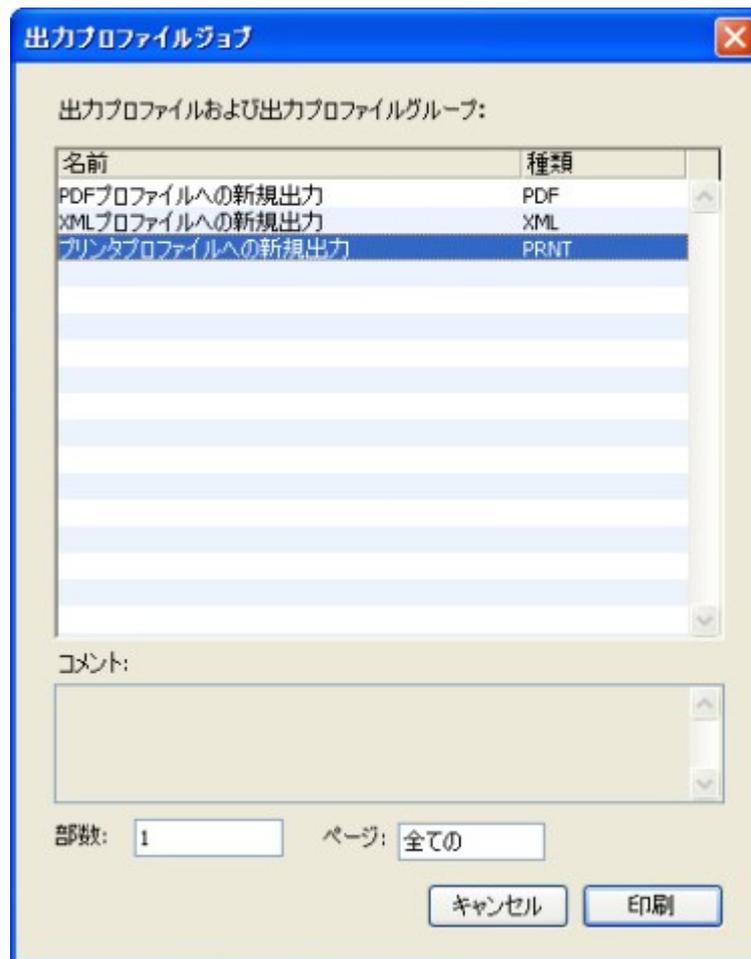
出力プロファイルグループの編集ダイアログボックス

- 3 名前フィールドに出力プロファイルグループの固有の名前を入力します。
- 4 コメントフィールドにコメントを入力します。
- 5 **ファイル > 出力プロファイルジョブ > <出力プロファイルグループ>**サブメニューに出力プロファイルグループを表示するには、**メニューに表示**をオンにします。次いで、**ファイル**メニューから出力プロファイルグループにアクセスするか、または**キーボードショートカット**フィールドにキーボードショートカットを入力できます。
- 6 **出力プロファイルジョブ**ダイアログボックス (**ファイル > 出力プロファイルジョブ > 出力プロファイルジョブ**) に出力プロファイルグループを表示するには、**ダイアログに表示**をオンにします。
- 7 **使用可能な出力プロファイル**ペインに、使用可能なすべての出力プロファイルの一覧が表示されます。選択した出力プロファイルを**このグループに割り当てられた出力プロファイル**ペインに追加するには、**挿入**をクリックします。この一覧に割り当てられる出力プロファイルは、すべて出力プロファイルグループからのものです。選択した出力プロファイルを**このグループに割り当てられた出力プロファイル**ペインから削除するには、**削除**をクリックします。すべての出力プロファイルを**このグループに割り当てられた出力プロファイル**ペインから削除するには、**全てを消去**をクリックします。
- 8 **使用可能な出力プロファイル**ペインで出力プロファイルをクリックし、**出力プロファイルコメント**フィールドに関連情報を表示します。
- 9 エラー発生時に、次の**使用可能な出力プロファイル**の処理を停止するには、**エラー時に出力プロファイルグループを終了**をオンにします。このオプションをオフにすると、グループ内の次に**使用可能な出力プロファイル**の処理が開始されます。
- 10 **出力プロファイルグループの編集**ダイアログボックスで**OK**をクリックし、次いで**出力プロファイルグループ**ダイアログボックスで**保存**をクリックして、指定した情報を保存します。

出力プロファイルグループの実行

出力プロファイルグループを実行するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **ファイル > 出力プロファイルジョブ > 出力プロファイルジョブ**を選択して、**出力プロファイルジョブ**ダイアログボックスを表示します。
- ➡ **ファイル**メニュー (**ファイル > 出力プロファイルジョブ > <出力プロファイルグループ名>**) から出力プロファイルグループを直接選択することもできます。



出力プロファイルジョブダイアログボックス

- 2 リストから出力プロファイルグループを選択します。処理する出力プロファイルグループを複数選択することもできます。
- 3 部数フィールドに出力する部数を入力します。
- 4 印刷するページを指定するには、ページフィールドに値を入力します（デフォルトはすべて）。ページフィールドでは、印刷するページ範囲、不連続のページ、または範囲と不連続のページの組み合わせを指定できます。

プレースホルダ

出力プロファイルを作成するには、プレースホルダについて理解する必要があります。プレースホルダは、出力時に正しい値に動的に置き換えられる変数です。

関連するプレースホルダは、ドロップダウンメニュー以下でそれぞれグループ化されます。ドロップダウンメニューからオプションを選択すると、プレースホルダの構文をテキスト挿入ポイントに挿入できます。また、プレースホルダを適切なフィールドに入力することもできます。プレースホルダは、出力が実行された後に正しい値を返します。

プレースホルダの構文

プレースホルダの構文を使用してテキストフィールドにテキストを入力するだけで、プレースホルダを作成できます。プレースホルダには独自の構文があります。これらの構

文により、入力されたテキストがプレースホルダであることをシステムが認識できます。プレースホルダの構文は、基本的な文字列の操作とフォーマット用に強化されています。

プレースホルダの基本的な構文は、`<placeholder>`です。プレースホルダを開始するには「`<`」、終了するには「`>`」を使用します。プレースホルダテキストの一部として「`<`」および「`>`」文字を使用するには、フィールドにそれぞれ「`<<`」と「`>>`」を入力します。

たとえば、`<IPAddress>`と入力すると、`192.168.99.200`など、コンピュータのIPアドレスが返されます。

➡ プレースホルダ名では、大文字と小文字が区別されません。

プレースホルダ値のサブ文字列の取得

下記のトピックでは、プレースホルダ値のサブ文字列を取得する3つの方法について説明します。

戻り値の先頭n文字および末尾n文字の取得

`<placeholdername, numberOfChar>`という構文を使用して、戻り値の先頭n文字および末尾n文字を取得します。この構文を正しく入力するには、下記の点を理解する必要があります。

- 区切り文字にはカンマ (,) を使用します。
- 区切り文字の後ろに空白を使用できます。
- 文字数はパラメータとして追加します。
- 正の数は、戻り値の先頭からの文字数を返します。
- 負の数は、戻り値の末尾からの文字数を返します。
- 文字列または数字の戻り値は同じものとして扱われます。
- 値が要求よりも小さい場合、使用できる値が返されます。

特定の位置から始まる文字のサブ文字列の取得

`<placeholdername, start, numberOfChar>`という構文を使用して、`start`という位置から始まる`numberOfChar`文字のサブ文字列を取得します。この構文を正しく入力するには、下記の点を理解する必要があります。

- 区切り文字にはカンマ (,) を使用します。
- 区切り文字の後ろに空白を使用できます。
- 開始位置はパラメータとして追加します。
- 取り出す文字数はパラメータとして追加します。
- 戻り値の最初の文字は、最初の位置番号にあります。
- 正の数は戻り値の位置を指し、この位置から先の指定した文字数を返します。
- 負の数は、戻り値の末尾からの文字数を返します。
- 負の数は末尾からカウントして開始位置を移動し、この位置から戻り値の先頭までの文字数を返します。
- 値が要求よりも小さい場合、使用できる値が返されます。

- 開始位置が使用できる文字数よりも大きい場合、空の文字列が返されます。

たとえば、次の例の入力は、コンピュータのIPアドレスが192.168.99.200の場合で、`<IPAddress>`は192.168.99.200、`<IPAddress, 3>`は192、`<IPAddress, -3>`は200、`<IPAddress, 3, 2>`は2、`<IPAddress, -5, 3>`は.99を返します。

***n*番目の単語の取得**

`<placeholdername, nthWord>`という構文を使用して、*n*番目の単語を取得できます。この構文を正しく入力するには、下記の点を理解する必要があります。

- 区切り文字にはカンマ (,) を使用します。
- 区切り文字の後ろに空白を使用できます。
- パラメータとして追加する*n*番目の単語は、数字と「w」です。
- 正の数は戻り値の*n*番目の単語を返します。
- 負の数は、戻り値の末尾から*n*番目の単語を返します。
- 空白、ドット (.)、およびカンマ (,) は語を区切るために使用されます。
- *n*番目の単語を値で使用できない場合、空の文字列が返されます。

たとえば、次の例の入力は、コンピュータのIPアドレスが192.168.99.200の場合で、`<IPAddress>`は192.168.99.200、`<IPAddress, 1w>`は192、`<IPAddress, -1w>`は200を返します。

プレースホルダ出力の形式設定

下記のトピックでは、出力の形式を設定する2つの方法について説明します。

単純な出力パターンの使用

出力パターンを指定する基本的な構文は`<placeholdername, numberOfChar !>`です。この構文を正しく入力するには、下記の点を理解する必要があります。

- 出力をフォーマットするには「!」文字を使用します。
- 任意のバージョンのサブ文字列を取り出すには、「!」文字を追加します。
- 「!」文字を使用すると、結果のサブ文字列の幅が要求した文字数の幅と同じになります。数字は右揃え、テキストは左揃えになります。

たとえば、現在のページ番号が5の場合、`<CurrentPageNumber>`は5を返します。一方`<CurrentPageNumber, 3!>`の場合は、現在のページ番号を表示するために3つの文字間隔を使用するよう`3!`によって指定されるので、2つのスペースに続いて5が返されます。

行頭と末尾の文字による出力の形式設定

行頭と末尾の文字で出力をフォーマットする構文は、`<placeholdername, numberOfChar !Char>`です。この構文を正しく入力するには、下記の点を理解する必要があります。

- 出力をフォーマットするには「!」文字を使用します。
- 任意のバージョンのサブ文字列を取り出すには、「!」文字を追加します。

OUTPUT ENHANCEMENTS

- 「!」文字を使用すると、結果のサブ文字列の幅が要求した文字数の幅と同じになります。数字は右揃え、テキストは左揃えになります。
- 「!」直後の文字は、行頭または末尾のスペースを埋める文字として使用されます。

たとえば、<CurrentPageNumber, 3!0>は005、<DocumentName, 31!_>はThis is a test document_____を返します。

プレースホルダ参照

プレースホルダは、システム、アクション、ドキュメント（一般的なドキュメント情報）の3つのカテゴリに分けることができます。

システムプレースホルダ

システムプレースホルダには、下記のものがあります。

プレースホルダ	説明
起動ディスク	コンピュータのDiskBootドライブ。
ユーザー名	システムユーザーのログオン名。
IPアドレス	コンピュータのIPアドレス。
マシン名	コンピュータの名前。
現在の日付	日付/時刻プロパティ ダイアログボックスに表示される現在の日付。
現在の時刻	日付/時刻プロパティ ダイアログボックスに表示される現在の時刻。

アクションプレースホルダ

アクションプレースホルダには、下記のものがあります。

プレースホルダ	説明
尋ねる	所定のテキストとともに警告がパラメータとして表示されます。たとえば、<ASK, "Enter Version Number Please">のように表示されます。
通知する	通知の警告が表示されます。たとえば、<Notify, "Output Job Done">のように表示されます。
継承	出力プロファイルの 部数 フィールドまたは ページ フィールドで 継承 を選択し、 出力プロファイルジョブ ダイアログボックス（ ファイル > 出力プロファイルジョブ ）の出力を処理すると、 出力プロファイルジョブ ダイアログボックスの 部数 および ページ フィールドの値が使用されます。 ファイル > 出力プロファイルジョブ > <出力プロファイル名> メニューから出力プロファイルを処理すると、 部数 のデフォルトの値 1 と ページ の すべて が使用されます。

ドキュメントプレースホルダ

ドキュメントプレースホルダには、下記のものがあります。

プレースホルダ	説明
ドキュメント名	印刷するドキュメントの名前です。
ドキュメントファイルパス	印刷するドキュメントのファイルパスです。
作成日	印刷するドキュメントの作成日です。
作成時刻	印刷するドキュメントの作成時刻です。
現在の版番号	印刷する現在の版番号です（分版で印刷される場合）。
現在の版名	印刷する現在の版名です（分版で印刷される場合）。
修正日	印刷するドキュメントの最後の修正日です。
修正時刻	印刷するドキュメントの最後の修正時刻です。
ドキュメントサイズ	印刷するドキュメントのサイズです。
ドキュメントページの数	印刷するドキュメントの合計ページ数です。
ドキュメントスプレッドの数	印刷するドキュメントの合計スプレッド数です。
カラースペース	モデルは、編集ワークフローの画像のカラースペースです。アートのカラースペースは、CMYK、白黒、スポットカラー、CMYK+スポットカラーのいずれかです。
最初の実出力ページ	印刷するドキュメントの最初のページのスーケンス番号です。
最後の実出力ページ	ページ範囲の最後のページのスーケンス番号です。たとえば、アートのページが10ページあり、印刷するページ範囲を3から7にすると、最後の実出力ページは5となります。これはスーケンス3から7の5ページ目、すなわち7ページを示しています。
最初の実出力スプレッド	印刷するドキュメントの最初のスプレッドのスーケンス番号です（すべてのケースで「1」が返されます）。
最後の実出力スプレッド	ページ範囲に応じた最後のスプレッドのスーケンス番号です。たとえば、アートの見開きページが12の場合、この数値は6スプレッドとなります。出力ページ範囲が3から8の場合、「最後の実出力スプレッド」は3となります。
現在の出力ページ	ページ範囲に応じた現在印刷中のページのスーケンス番号です。
現在の出力スプレッド	ページ範囲に応じた現在印刷中のスプレッドのスーケンス番号です。
現在の出力スプレッドの最初のフォリオ	現在のスプレッドの最初のページの番号です。
現在の出力スプレッドの最後のフォリオ	現在のスプレッドの最後のページの番号です。
出力スタイル名	現在印刷中のドキュメントで選択する出力スタイルです。
プリンタ名	印刷書式を印刷するプリンタの名前です。
版の数	CMYK版およびスポットカラー版の合計数です。
4c版の数	現在のドキュメントで使用されているCMYK版の数です。
スポットカラー版の数	スポットカラー版の数です。

OUTPUT ENHANCEMENTS

プレースホルダ	説明
フォリオ	印刷中のページのページ番号です。
フォリオの接頭辞	セクション ダイアログボックスの 接頭辞 フィールドでユーザーが書式設定するページの接頭辞です。
版のリスト	ドキュメントのCMYK版とスポットカラー版の全リストです。
4c版のリスト	ドキュメントで使用されているCMYK版のリストです。
スポットカラー版のリスト	ドキュメントで使用されているスポットカラー版のリストです。

環境設定

環境設定では、QuarkCopyDeskのデフォルトの動作を制御します。

環境設定の理解

環境設定コマンド（QuarkCopyDesk／編集＞環境設定）を実行すると、環境設定ダイアログボックスが表示されます。環境設定ダイアログボックスにはいくつかのペインが含まれており、これらのペインでは、アプリケーションのさまざまな機能のデフォルト設定を指定できます。ペインを表示するには、左のリストから名前をクリックします。環境設定には下記の3種類があります。

- **アプリケーションの環境設定**はアプリケーションに適用され、プロジェクトすべての処理方法に影響します。
- **アートの環境設定**は、アクティブなアートのレイアウトすべてに影響します。ただし、アートが開かれていない状態でアートの環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規アートのデフォルト設定になります。
- **印刷レイアウトの環境設定**を使用して、測定単位、ハイフネーション、およびガイドなど、アクティブなアートのレイアウトレベルの環境設定を指定できます。ただし、アートが開いていない状態でレイアウトの環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規アートのデフォルト設定になります。

その他のペインおよびオプションは、特定のXTensionsソフトウェアを読み込んだ場合に**環境設定**サブメニューに表示されます。

QuarkCopyDesk環境設定ファイルの内容

QuarkCopyDesk環境設定ファイルの内容は下記のとおりです。さまざまな環境設定の保存方法に応じて、リストは3つのグループに分かれます。

グループA

- カーニングテーブル（QuarkXPressで定義）
- トラッキングテーブル（QuarkXPressで定義）
- 例外ハイフン（**補助**＞**例外ハイフン**）

グループB

- デフォルトスタイルシート、カラー、ダッシュおよびフレーム、リスト、およびハイフネーション&ジャスティフィケーション仕様（**編集**メニュー）

- デフォルトユーザー辞書に関するパスの情報（補助 > ユーザー辞書）

グループC

- 出力スタイル（編集 > 出力スタイル）
- XTensionsマネージャーおよびPPDマネージャーダイアログボックスの設定（補助メニュー）
- 環境設定ダイアログボックスのアプリケーションペインの設定

上記のグループの使用：

- アーティクルが開いていない状態でグループAまたはグループBの設定を変更すると、環境設定ファイルにその変更が保存され、以降作成されるすべてのアーティクルで使用されます。
- アーティクルが開いている状態でグループBの設定を変更すると、変更はそのアーティクルのみに保存されます。
- グループCの設定を変更すると、アーティクルが開いているかどうかに関係なく、変更は常に環境設定ファイルに保存されます。
- アーティクルを開いて**環境設定が一致しません**という警告が表示され、**QuarkCopyDesk Preferencesを使用**をクリックした場合、以降グループAの設定を変更すると、その変更がアーティクルと環境設定ファイルの両方に保存されます（**QuarkCopyDesk Preferencesを使用**をクリックすると、アーティクルの元のグループA設定は破棄されます）。
- アーティクルを開いて**環境設定が一致しません**という警告が表示され、**ドキュメント設定を保持**をクリックした場合、以降グループAの設定を変更すると、その変更がアーティクルのみに保存されます。

QuarkCopyDesk環境設定への変更

QuarkCopyDesk環境設定への変更は、下記の方法で処理します。

- **環境設定**ダイアログボックスでアプリケーション環境設定を変更すると、開いているアーティクルの有無に関わらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、開いているすべてのアーティクル、および今後開くすべてのアーティクルにただちに影響します。
- **XTensionsマネージャー**設定（補助メニュー）を変更すると、開いているアーティクルの有無に関わらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、QuarkCopyDeskの再起動後にすべてのアーティクルに影響します。
- **PPDマネージャー**設定（補助メニュー）を変更すると、開いているアーティクルの有無に関わらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、開いているすべてのアーティクル、および今後開くすべてのアーティクルにただちに影響します。
- アーティクルを開いた状態で**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk/編集**メニュー）でアーティクル環境設定を変更すると、アクティブなアーティクルにのみ変更内容が保存されます。
- アーティクルを開いた状態で別のユーザー辞書を選択すると、アクティブなアーティクルにのみ変更内容が保存されます。
- 新規アーティクルで例外ハイフンに変更を加えると、アクティブなアーティクルと環境設定ファイルにこれらの変更内容が保存されます。

- アーティクルを開いて**環境設定が一致しません**警告が表示されたときに、**QuarkCopyDesk Preferences**を使用をクリックすると、カーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、および例外ハイフンは、そのアーティクルと環境設定ファイルの両方に格納されます。

アプリケーションの環境設定

環境設定ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集＞環境設定）のアプリケーションペインにあるコントロールは、アーティクルの表示方法と保存方法など、QuarkCopyDeskでの全アーティクルの使用方法に影響します。これらの設定はアプリケーションに保存され、アーティクルには保存されません。

環境設定 - アプリケーション - 一般

下記の機能をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**アプリケーション**セクションにある**一般**ペインを使用します。

- アーティクルを複数のモニターに並べて表示するには、**マルチモニターに並べて表示**をオンにします。
- アーティクルで全画面を使用できるようにするには、**全画面アーティクル**をオンにします。
- カスタムモニタープロファイルを指定するには、**モニタープロファイル**ドロップダウンメニューを使用します。
- 「以後この警告を表示しない」オプションがあるすべての警告をリセットして、警告が表示されるようにするには、**すべての警告を表示**をクリックします。

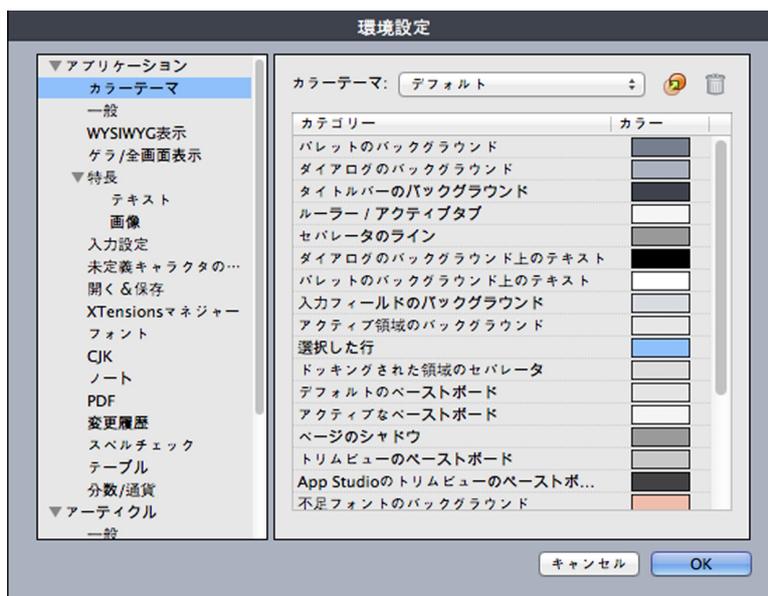
環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ

➡ Mac OS Xのみ。

QuarkCopyDeskのカラーテーマを指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**カラーテーマ**ペインを使用します。

カラーテーマドロップダウンメニューを使用して既存のカラーテーマを選択するか、 アイコンをクリックして既存のカラーテーマを複製します。

各カテゴリのカラーを指定するには、**カラーコントロール**を使用します。



環境設定ダイアログボックスのカラーテーマペイン

環境設定 - アプリケーション - WYSIWYG表示

WYSIWYG表示の環境設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**WYSIWYG表示**ペインを使用します。

レイアウトでソリッドカラーになっていない場合でも、テキストコンポーネントのバックグラウンドをソリッドにするには、**テキストボックス編集時の不透明化**をオンにします。ソリッドカラーのバックグラウンドにより、テキストの読み取りや編集が容易になります。

環境設定 - アプリケーション - ゲラ/全画面表示

ゲラ表示と全画面表示のテキストおよび画像の表示方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**ゲラ/全画面表示**ペインを使用します。

ゲラ表示と全画面表示のテキストの表示をカスタマイズするには、**テキストコンテンツ**領域を使用します。編集が容易な「標準」でテキストを表示するか、または他の形式で表示させることができます。

- ゲラ表示と全画面表示でスタイルシート属性を表示するには、**スタイルを表示**（ゲラおよび全画面表示）をオンにします。
- ゲラ表示でテキストカラーを表示するには、**カラーを表示**（ゲラ表示）をオンにします。
- ゲラ表示と全画面表示で各コンポーネントのID番号を表示するには、**コンポーネントIDとコンポーネントバーを表示**（ゲラおよび全画面表示）をオンにします。
- ゲラ表示で各コンポーネントのID番号と各行のテキストの行番号を表示するには、**コンポーネントIDと行番号を表示**（ゲラ表示）をオンにします。
- 固定フォントを使用するには、**固定フォントを使用**をオンにします。この環境設定がオンのとき、アーティクルで使用されているフォントにかかわらず、この環境設定の下の**フォントメニュー**で指定されたフォントがゲラ表示および全画面表示に使用されます。この環境設定がオフのとき、アーティクルで使用されているフォントがゲラ表示および全画面表示に使用されます。

- ゲラ表示とWYSIWYG表示でテキストのデフォルトフォント、サイズ、および行間隔を指定するには、**フォント**、**サイズ**、および行送り^Aのコントロールを使用します。

ゲラ表示と全画面表示で画像の表示をカスタマイズするには、**画像コンテンツ**領域を使用します。

- 画像コンポーネントで画像を表示するには、**画像を表示**をオンにします。
- ゲラ表示と全画面表示で画像のサイズを設定するには、**画像のサイズ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- ゲラ表示と全画面表示で画像の高さの最大値を設定するには、**最大フィールド**に値を入力します。

環境設定 - アプリケーション - 特長

QuarkCopyDeskでテキストの長さとおおさを評価する方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**特長**ペインを使用します。

特定の長さのテキストコンポーネントを編集する場合、**メジャー**パレットの左端にある2つのフィールドにより、割付のフィールドバックが提供されます。特にこれらのフィールドでは、特定の長さとお一致するために追加または削除する必要が有るテキストの量が表示されます。テキスト入力時に**メジャー**パレットに表示する情報を指定するには、**テキスト**タブのドロップダウンメニューからオプションを選択します。

- 最初の2つのドロップダウンメニューでは、**メジャー**パレットの左端にある一番上のフィールドを設定します。
- 最後の2つのドロップダウンメニューでは、**メジャー**パレットの左端にある一番下のフィールドを設定します。

画像を画像コンポーネントに取り込むと、**メジャー**パレットから画像の解像度とカラースペースに関するフィールドバックが返されます。これらの値が範囲外にある場合、画像を再サンプリングするか、または別のカラースペースに変換できます。

- カラー、グレースケール、白黒のラスターイメージの最小／最大解像度を指定するには、**解像度と比率**領域にある上の6つのフィールドを使用します。**ベクトル**フィールドを使用すると、ベクトル画像の最小／最大解像度を指定できます。
- 取り込んだ画像に最適なカラースペースを示すには、**要求されたカラー空間**ドロップダウンメニューを使用します。**要求されたカラー空間**ドロップダウンメニューで**グレースケール**以外のオプションを選択して、1ビットおよびグレースケールのイメージが許可されている場合、**要求されたカラーが問題となっていないときはB/Wおよびグレースケールを使用する**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - 入力設定

スクロールとその他の「オンザフライ」アクションをカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**入力設定**ペインを使用します。

- アーティクルをスクロールできるスピード、および画面上でのアーティクルの更新方法を指定するには、**スクロール**領域を使用します。アーティクルウィンドウのスクロールバーのスクロールボックスをドラッグすると同時にアーティクル表示が更新されるようにするには、**ライブスクロール**をオンにします。スクロール時に一時的に**ライブスク**

ロールのオン、オフを切り替えるには、スクロールボックスをドラッグするときにOption / Altキーを押します。

- 引用符記号の変換と入力スタイルを選択するには、**形式**ドロップダウンメニューと**引用符の自動変換**チェックボックスを使用します。**引用符の自動変換**機能、および**取り込み**ダイアログボックス（**ファイル > 取り込み**）にある**引用符を変換**オプションで使用されるデフォルト文字を指定するには、**引用符**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。フィート記号とインチ記号（'と"）を入力した引用符記号に自動的に変換するには、**引用符の自動変換**をオンにします。
- ハイフンとカンマは、印刷レイアウトの**印刷**ダイアログボックスの**ページフィールド**の、**連続**、および**不連続範囲**を指定するデフォルトセパレータです。**セクション**ダイアログボックス（**ページ**メニュー）にページ番号の一部としてカンマやハイフンを指定した場合、ここでデフォルトセパレータを変更する必要があります。たとえば、ページ番号が「A-1、A-2」である場合、**ページ**フィールドにハイフンを使用して範囲を指定することはできなくなります。セパレータを編集するには、**連続**および**非連続**フィールドに新しい文字を入力します。
- **（Mac OS Xのみ）**：Controlキーでの操作内容を制御するには、**キーを押すと有効領域**を使用します。Controlキーで一時的にズームモードを起動するには、**ズーム**をクリックします。Controlキーでコンテキストメニューを開くには、**コンテキストメニュー**をクリックします（Control+Shiftキーを押すと、選択されていない機能が実行されます）。
- **（Windowsのみ）**：ライブリドローのクリックとドラッグ間のディレイを指定するには、**ライブリドロードラッグまでのディレイ**フィールドを使用します。ライブリドローには、アイテムの移動によって起こる回り込みの変化がリアルタイムに表示されます。
- ストーリーのテキストのカット、コピー、およびペーストを、メニューやキーボードコマンドではなくマウスを使用して行うには、**テキストのドラッグ&ドロップ**をオンにします。**Mac OS X**では、ドラッグを開始する前にControl+Commandを押すことで、この機能を一時的にオンにできます。カットしてペーストするには、テキストを選択してから、新しい位置にドラッグします。コピーしてペーストするには、テキストを選択してから、Shiftを押しながら新しい位置にドラッグします。
- 新規画像をコンポーネントに取り込むとき、縮小率とその他の属性を画像コンポーネントにデフォルトで「記憶させる」には、**画像ボックス属性を保持**をオンにします。
- **（Windowsのみ）** デフォルトでは、CJK文字を入力するためシステムで提供されているウィンドウに入力するのと同じ方法で、テキストボックスにテキストを直接入力できます。この機能を無効にするには、**インライン入力**をオフにします。
- **（Windowsのみ）** **OTFプリンタフォント検索を行う**をオンにすると、**ファイル**メニューの**印刷**ダイアログボックスにある**フォント**ペインで**プリンタの検索**をクリックしたとき、OpenTypeフォントも検索されるようになります。

環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替

不足フォントが使用されるプロジェクトをアプリケーションで開いたときの動作を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk / 編集**メニュー）の**未定義キャラクタの代替**ペインを使用します。

未定義キャラクタの代替機能を有効にするには、**未定義キャラクタの代替**をオンにします。この機能をアクティブにすると、現在のフォントでは表示できない文字が使用された場合、その文字を表示できるフォントの検索を試みます。

アプリケーションでプロジェクトを開いたときに不足フォントが見つかったら、このペインの環境設定で使用する代替フォントを決定します。

- ➡ 文字を既存のプロジェクトに追加しようとして、その文字がフォントでサポートされていない場合、その文字を表示できるシステムのフォントが検索されます。

アクティブストーリーで使用する適切なフォントをアプリケーションに検索させるには、**検索**をオンにします。特定の範囲に検索を限定するには、**最後**をオンにして、**段落**フィールドに数値を入力します。フォントが見つからない場合に、ストーリー全体にまで検索を広げるには、**アクティブストーリー**をオンにします。

他のフォントが見つからない場合に使用する代替フォントを指定するには（**検索**設定を考慮して）、**スクリプト／言語**リストに表示される各スクリプト／言語の**フォント**コラムでオプションを選択します。

レイアウトをトンボ付きで印刷するときに、スラグラインで使用するフォントを指定するには、**ページ情報**フォントドロップダウンメニューでオプションを選択します。

環境設定 - アプリケーション - 取り消し

- ➡ Windowsのみ。

複数取り消しオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**取り消し**ペインを使用します。

- **やり直し**コマンドを呼び出すキーボードコマンドを指定するには、「**やり直し**」キーボードドロップダウンメニューを使用します。
- 取り消し履歴に格納できるアクションの回数を指定するには、「**取り消し/やり直し**」アクションの**最大回数**フィールドを使用します。取り消し履歴は最大で30アクションまで保持できます。デフォルト設定は20です。

環境設定 - アプリケーション - 開く & 保存

アプリケーションでの保存とバックアップの実行方法をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**開く & 保存**ペインを使用します。

- システムまたは電力の障害から作業を保護するには、**自動保存**をオンにします。このオプションをオンにすると、アーティクルフォルダにある一時ファイルに変更内容が、指定した時間間隔で自動的に記録されます。**間隔（分）**フィールドに間隔を分数で入力します。指定できる最短時間間隔は、0.25分です。**自動保存**がオンの場合、デフォルト設定は**5分間隔**です。手動で保存（**ファイル > 保存**）しない限り、元のファイルは上書きされません。システムが中断された後にプロジェクトを開くと、プロジェクトが最後に自動保存されたバージョンに復元される旨の警告が表示されます。
- **自動バックアップ**をオンにして、**リビジョンを保持**フィールドに値を入力すると、1アーティクルにつき最大100のリビジョンを保持できます。手動で保存（**ファイル > 保存**）するたびに、以前に手動で保存したバージョンが、指定した**保存フォルダ**にコピーされます。**自動バックアップ**のデフォルト設定はオフです。アーティクルと同じフォルダにリビジョンを保存するには、**アーティクルのフォルダ**をクリックします。別のフォルダにリビジョンを保存するには、**その他のフォルダ**をクリックしてから**参照**をクリックします。各バックアップを表す連番がファイル名に追加されます。最新リビジョン（5個の

うちの5番目など) が作成されると、フォルダで最も古いリビジョンが削除されます。保存フォルダからバックアップを取得するには、リビジョンファイルを開きます。

- アーティクルウィンドウのサイズ、位置、および縦横比をアプリケーションに自動的に保存するには、**アーティクルの位置の保存**をオンにします。
- Unicode以外のテキストの文字の表示方法を指定するには、**Unicode以外のサポート**の下にある**エンコーディング**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

環境設定 - アプリケーション - XTensionsマネジャー

XTensionsマネジャーダイアログボックスが表示されるタイミングを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス (QuarkCopyDesk/編集メニュー) のXTensionsマネジャーペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - フォント

下記の環境設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス (QuarkCopyDesk/編集メニュー) の**フォント**ペインを使用します。

(Windowsのみ) : 対応するフォントに各フォント名を表示するには、**フォントプレビュー**領域で、**フォントメニューに表示**をオンにします。

フォントマッピング領域で、以下の操作を実行します。

- **不足フォント**ダイアログボックスを非表示にするには、**不足フォントダイアログを表示しない**をオンにします。置換フォントを定義していない不足フォントを含むアーティクルを開いたときの動作を、このチェックボックスの下にあるラジオボタンで決定します。
- デフォルトの置換フォントを指定するには、**デフォルト置換フォントを指定しません**をオンにし、**デフォルト置換フォント**ドロップダウンメニューから置換フォントを選択します。
- デフォルトの置換フォントを指定するには、**デフォルト置換フォントを指定しません**をオンにし、**欧文およびCJK**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- 中国語 (繁体字) エンコーディングのUDA/VDA (ユーザ定義領域/ベンダー定義領域) 範囲にある文字を強調表示して、該当文字を視覚的に確認できるようにするには、**フォントメーカーによって定義された繁体字の文字範囲に入っている文字をハイライトする**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - テキストのハイライト

➡ Windowsのみ。

下記の環境設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス (QuarkCopyDesk/編集メニュー) の**テキストのハイライト**ペインを使用します。

不足フォントのバックグラウンド領域で、下記の操作を行ってください。

- **カラーコントロール**を使用してカラーを指定します。
- **不透明度コントロール**を使用して、不透明度の値を0% (完全に透明) から100% (完全に不透明) の間で指定します。

環境設定 - アプリケーション - 東アジア

東アジア言語の機能を有効にするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／**編集メニュー**）の**CJK**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - ファイルリスト

➡ Windowsでのみ使用できます。Mac OS Xでは、OSレベルの環境設定が継承されます。

ファイルメニューで、最近開いて保存したファイルの表示をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／**編集メニュー**）の**ファイルリスト**ペインを使用します。

- 最近開いて保存したファイルの表示数を指定するには、**最近表示したファイルの数**フィールドを使用します。
- 最近開いたファイルのリストを表示するメニューを選択するには、**ファイルリストの位置**領域を使用します。
- アルファベット順でファイルリストを表示するには、**名前をアルファベット順に**をオンにします。
- ファイルの位置を表示するには、**フルパス表示**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - デフォルトパス

（Windowsのみ）**開く**、**保存／新規保存**、**取り込み**コマンド用に、ファイルシステムまたはネットワーク上のデフォルトの場所を定義するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／**編集メニュー**）の**デフォルトパス**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - ノート

ゲラ表示と全画面表示のノートの表示方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／**編集メニュー**）の**ノート**ペインを使用します。

WYSIWYG表示のノートの外観を設定するには、**フォント**、**サイズ**、**行送り**、および**バックグラウンドコントロール**を使用します。

ゲラ表示と全画面表示でノートをインラインテキストとして表示するには、**全画面およびゲラ内のインラインノート**をオンにします。各ノートの作成者名を含めるには、**名前を表示**をオンにします。ノートが作成された日時を含めるには、**作成日を表示**および**作成時刻を表示**をオンにします。

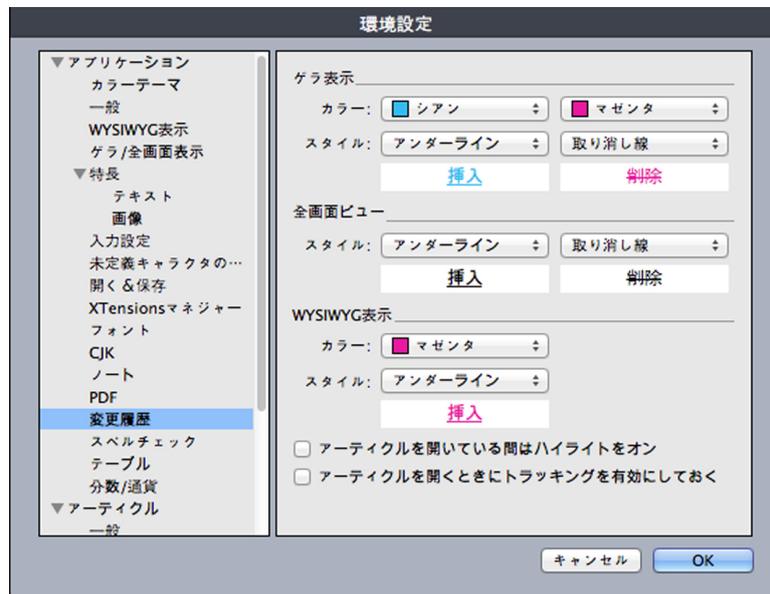
環境設定 - アプリケーション - PDF

PDF書き出しの環境設定を行うには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／**編集メニュー**）の**PDF**ペインを使用します。

PDFファイル作成中のエラー（ある場合）のログを作成するには、**ログエラー**をオンにします。このオプションがオンの場合、**ログフォルダの使用**をオンにしてログファイルの保存先を指定します。**ログフォルダの使用**がオフの場合、書き出されたPDFファイルと同じディレクトリにログファイルが作成されます。

環境設定 - アプリケーション - 変更履歴

すべての表示の挿入されたテキストと削除されたテキストの表示方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**変更履歴**ペインを使用します。



環境設定ダイアログボックスの変更履歴ペイン

アーティクルを作成または開いたときにハイライト表示を自動的にオンにするには、**アーティクルを開いている間はハイライトをオン**をオンにします。

アーティクルを作成または開いたときに変更のトラッキングを自動的にオンにするには、**アーティクルを開くときにトラッキングを有効にしておく**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - スペルチェック

スペルチェックのオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**スペルチェック**ペインを使用します。

スペルチェックの例外領域で、以下の操作を実行します。

- スペルチェックから数字を含む単語を除外するには、**数字を含む単語を無視**をオンにします。
- スペルチェックから電子メールアドレスおよびURLを除外するには、**インターネットおよびファイルアドレスを無視**をオンにします。
- スペルチェックの際、ドイツ言語に適用されている大文字小文字の区別および単語間スペースの確認を無効にするには、**ドイツ語で大文字化を無視**をオンにします。ドイツ言語とは、ドイツ語、スイスドイツ語、ドイツ語（新正書法）、スイスドイツ語（新正書法）です。
- スペルチェックの際、非ドイツ言語に適用されている大文字小文字の区別および単語間スペースの確認を無効にするには、**ドイツ語以外で大文字化を無視**をオンにします。

ドイツ語文字でタグ付けされたテキストをスペルチェックする場合にドイツ語（新正書法）を使用するには、**新正書法の適用される言語領域にあるドイツ語（新正書法2006年版）**を使用をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - テーブル

アンカーテーブルに自動分割を許可機能を有効/無効にするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk/編集メニュー）の**テーブル**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - 分数/通貨

分数と通貨を自動的にフォーマットするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk/編集メニュー）の**分数/通貨**ペインを使用します。

- **分子**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にして分子が配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントで分子の高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントで分子の幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。
- **分母**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にして分母が配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントで分母の高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントで分母の幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。
- **スラッシュ**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にしてスラッシュが配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントでスラッシュの高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントでスラッシュの幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。**スタイル > 文字飾り > 分数の作成**を選択した場合に、タイプサイズを保持するには、**分数用スラッシュ**をオンにします。
- **通貨**領域では、**¢**に**アンダーライン**を適用オプションでセント記号（¢）の下にアンダーラインを配置し、**Radix**の削除オプションで通貨から小数点やカンマ記号を削除します。

アートの環境設定

環境設定ダイアログボックス（QuarkCopyDesk/編集メニュー）で使用できるアートレベルの環境設定を使用して、アクティブなアートの環境設定を制御できます。アートが開いていない場合、アートの環境設定に対する変更が以降作成されるすべてのアートに適用されます。

環境設定 - アート - 一般

下記の機能をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk/編集メニュー）の**アート**セクションにある**一般**ペインを使用します。

アートを最後に開いてから変更された画像をアプリケーションで自動的に更新するかどうかを設定するには、**自動画像取込み**ドロップダウンメニューを使用します。

- 自動画像取込み機能を有効にするには、**オン**をクリックします。プロジェクトを開くと、変更済みファイルを使用して自動的に変更済み画像が各レイアウトへ再度取り込まれます。
- 自動画像取込み機能を無効にするには、**オフ**をクリックします。
- アプリケーションで変更済み画像を取り込む前に警告を表示するには、**確認する**をクリックします。

OpenTypeフォントのデフォルトのカーニング値を有効にするには、**OpenTypeのカーニング情報を使用**チェックボックスをオンにします。OpenTypeカーニングがアクティブな場合、QuarkXPressでそのカーニングがOpenTypeフォントの**カーニングエディタ**（補助メニュー）で指定したすべてのカーニングよりも優先されます。

全角文字のOpenTypeカーニングを無効にするには、**全角文字をカーニングしない**をオンにします。

環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - 一般

ページレイアウトのさまざまなデフォルト設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk**/編集メニュー）の一般ペインで**レイアウト**のバージョンを使用します。

ディスプレイ領域で、下記の操作を行ってください。

- **グリークテキスト(<)**をオンにしてフィールドに値を入力すると、「グリーキング」によりアプリケーションの画面の再描画速度が上がります。グリーキングとは、指定したサイズよりも小さなテキストの代わりにグレイのバーを表示する処理のことです。グリーキングは印刷や書き出しには影響しません。テキストのグリーキングは表示率の影響を受けます。
- **画像グリーキング**をオンにすると、取り込んだ画像をアプリケーションにグレイのボックスで表示できます。グリーキングされた画像を含むボックスを選択すると、画像が普通に表示されます。

環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - メジャーパレット

ルーラーおよびメジャーパレットのデフォルトの単位を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk**/編集メニュー）の**メジャーパレット**ペインを使用します。

- レイアウトウィンドウの上と左に沿って表示されるルーラーの基準単位を指定するには、**水平方向**および**垂直方向**ドロップダウンメニューを使用します。**水平方向**は上のルーラーに対応し、**垂直方向**は左のルーラーに対応します。
- ユーザーインターフェイスのその他の機能は、**メジャーパレット**のデフォルトの**X**および**Y**座標など、**水平方向**と**垂直方向**ドロップダウンメニューの影響を受けます。フォントのサイズ、フレームの幅、行送り、線の幅などは、選択した単位に関係なくアプリケーションにより自動的にポイント単位に変換されます。
- 72ポイント/インチのデフォルト値を上書きするには、**ポイント/インチ**フィールドを使用します。アプリケーションでは、このフィールドの値をすべてのポイントおよびパイカとポイント/インチ変換およびパイカ/インチ変換の単位の基本として使用します。DTPのポイント/インチ変換の基準は72です。ただし、大部分の組版用の金属製ルーラーで使用されていた従来の組版基準は約72.27または72.307ポイント/インチ（範囲は60～80pt、基準単位はポイント、最小増分値は0.001）です。
- シセロからセンチメートルへの変換値を標準の2.1967（範囲は2～3c、基準単位はシセロ、最小増分値は0.001）とは異なる値に指定するには、**シセロ/cm**フィールドを使用します。
- 新規アーティクルのデフォルトの単位を設定するには、**単位**ドロップダウンメニューを使用します。

環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - 段落

さまざまな段落レベルの設定を制御するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk**/編集メニュー）の**段落**ペインを使用します。

行間隔を自動的に設定するには、**行送りの自動設定**機能を使用します。**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル** > **行送り**）の**行送り**フィールドに「auto」または「0」を入力すると、この設定を段落に適用できます。行送りが絶対的な設定になっている段落（すべての行で行間隔が等しい段落）とは異なり、行送りが自動設定されている段落の場合、フォントやフォントサイズが同じ段落内で混在している場合、行間隔の異なる行が含まれている場合があります。

行送りの自動設定では、行送りの基本値から始まります。この基本値は、自動設定の行送りの行とその上の行で使用するフォントに組み込まれたアセントおよびディセントの値を検証することにより、アプリケーションが計算します。ただし、ユーザーが指定するテキストサイズ（**スタイル** > **サイズ**）は、行送りの基本値を決定するときの最大要素となります。最後に、**行送りの自動設定**フィールドでユーザーが指定した値を行送りの基本値に追加すると、行送りの合計値に到達します。

行送りの自動設定をパーセントで指定するには、0%から100%までの値を1%刻みで入力します。この値により、2つのテキスト行間の行送りの値が下記のとおり決まります。上の行の最大フォントサイズに割合の値をかけます。その結果を、2行間の行送りの自動設定の基本値に追加します。フォントのデザインによってはこの処理が複雑になる場合もありますが、その例を簡単に示します。10ポイントのテキストで、スタイル設定を一貫して「標準」フォントにし、**行送りの自動設定**を20%に設定した場合、行送りは12ポイントとなります（ $10\text{pt} + [10\text{pt} \times 20\%] = 12\text{pt}$ ）。行送りの自動設定を増分値で指定するには、値の前にプラス記号（+）またはマイナス記号（-）を付けて入力します。範囲は-63ポイントから+63ポイントまでで、単位は任意です。「+5」と入力すると、5ポイントの行送りが行送りの自動設定の基本値に追加されます。「+5 mm」と入力すると、5ミリメートル追加されます。

列またはボックスで障害物の直下にあるテキスト行の配置を制御するには、**行送り値の保持**チェックボックスをオンにします。**行送り値の保持**チェックボックスをオンにすると、行のベースラインが適用された行送り値に従って配置されます。**行送り値の保持**チェックボックスをオフにすると、行のアセントが障害物または適用した回り込み値（**アイテム** > **回り込み**）の下にきます。

グリッド固定のベース領域で、下記の操作を行ってください。

- 文字のアセンダーおよびディセッターに応じてテキストをグリッドに対して固定するには、**アセントおよびディセント**をクリックします。
- 文字の仮想ボディのサイズに応じてグリッドにテキストを固定するには、**フォントサイズ (仮想ボディ)**をクリックします。

例外ハイフン辞書で対応する見出し語が見つからない場合に、アプリケーションが段落の自動ハイフネーションに使用する方法を指定するには、**自動ハイフンリスト**の言語ごとに、**ハイフネーション領域の方法**ドロップダウンメニューを使用します。ここで選択する設定は、**自動ハイフン**（**編集** > **H&J**）が有効な段落のみに影響します。

- バージョン3.1以前のQuarkXPressに組み込まれているアルゴリズムを使用してハイフネーションを実行するには、**標準**チェックボックスをオンにします。バージョン3.1以前のQuarkXPressで作成されたドキュメントをバージョン3.1以降で開くと、デフォルトで**標準**チェックボックスがオンになっています。

- バージョン3.1以降のQuarkXPressに組み込まれているアルゴリズムを使用してハイフネーションを実行するには、**拡張**チェックボックスをオンにします。
- **Extended 2**では、**拡張**と同じアルゴリズムが使用されますが、そのアルゴリズムを使用する前に標準のハイフネーション辞書をチェックします。**Extended 2**では、Dieckmannの例外リソースとアルゴリズムをハイフネーションに使用します。このオプションはQuarkXPress 4.11 ドイツ語（新正書法）版から導入されたもので、最近のバージョンでは他の言語にも導入が拡大されています。言語版で使用可能な場合、これがデフォルトの方法になります。

環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - 文字設定

アプリケーションによる上付きおよび下付きなどの組版スタイルの構成方法を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkCopyDesk**／**編集**メニュー）の**文字設定**ペインを使用します。

- 上付き文字の配置と縮小率（サイズ）を制御するには、**上付き領域**を使用します。**オフセット**値で、上付き文字の配置位置をベースラインからの下方向の距離で指定します。**オフセット**値は、フォントサイズの割合で測定されます。デフォルト値は33%です。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナーによって指定された通常の文字の幅の割合で表されます。両方の縮小率のデフォルト値は60%です（範囲は0~100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- 下付き文字の位置と縮小率（サイズ）を制御するには、**下付き領域**を使用します。**オフセット**値で、下付き文字の配置位置をベースラインからの上方向の距離で指定します。**オフセット**値は、フォントサイズの割合で測定されます。デフォルト値は33%です。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナーによって指定された通常の文字の幅の割合で表されます。両方の縮小率のデフォルト値は100%です（範囲は0~100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- **スモールキャップ**スタイルが適用されている文字の縮小率を制御するには、**スモールキャップ**領域を使用します。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で測定されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナーによって指定された通常の文字の幅の割合で測定されます。両方の縮小率のデフォルト値は75%です（範囲は0~100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- 肩文字の縮小率を制御するには、**肩文字**領域を使用します。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で測定されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナーによって指定された通常の文字の幅の割合で測定されます。両方の縮小率のデフォルト値は60%です（範囲は0~100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- フォントに組み込まれた合字を使用するには、**合字**領域を使用します。合字とは、特定の複数文字を組み合わせる単一字形にする組版手法です。大抵のフォントには、「f」とそれに続く「i」、「f」とそれに続く「l」のための合字が含まれています。**カーニング (>)**で分割フィールドで、合字への組み合わせが行われるカーニングとトラッキングの上限値（単位は1/200全角スペース）を指定できます。たとえば、大きなトラッキング値を含む見出しに合字が含まれることはありません。デフォルト値は1です（範囲は0~10、測定方法は0.005（1/200）全角スペース、最小単位は0.001）。「office」および「waffle」などの「ffi」と「ffl」にある2番目の2文字が合字に組み合わせられないようにするには、「**ffi**または**ffl**は使用しない」をオンにします。従来のタイプセッティングシステムによく見られるこれらの組み合わせの3文字合字は、Mac OS用にデザインされた

フォントでは標準化されていないため、3文字のうちの2文字のみを組み合わせるのではなく、3文字すべてを別々にしておくことを望む組版作成者もいます。多くのPostScriptフォントには「ffi」および「ffl」合字はありませんが、ほとんどのOpenTypeフォントにはあります。このチェックボックスはデフォルトでオフになっています。

- 文字間隔を制御するために、ほとんどのフォントに組み込まれているカーニングテーブルを使用するには、**自動カーニング(>)**をオンにします。**自動カーニング(>)**フィールドで、自動カーニングを使用する必要があるポイントサイズの下限を指定できます。**自動カーニング(>)**機能には、選択したフォントの**トラッキング値**ダイアログボックス(**補助>トラッキングの編集**)で指定する、カスタムトラッキング情報も実装されています。このオプションはデフォルトでオンになっていて、4ポイントのしきい値が設定されています(範囲は0~72ポイント、測定方法はインチ、ポイント、cmなど、最小単位は0.001)。
- テキストのポイントサイズに等しい全角スペース(たとえば、24ポイントのテキストには24ポイントの全角スペースがあります)を指定するには、**標準emスペース**をオンにします**標準emスペース**がオフの場合、現在のフォントの2つのゼロの幅が全角スペースの幅として使用されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。Option+スペースキー/ Ctrl+Shift+6を押して、テキストに全角スペースを挿入できます。
- フレックススペース幅のデフォルト値50%を変更するには、**フレックススペース幅**フィールドを使用します。改行のあるフレックススペースを作成するには、Option+Shift+スペースキー/ Ctrl+Shift+5を押します。改行のないフレックススペースを作成するには、Command+Option+Shift+スペースキー/ Ctrl+Alt+Shift+5を押します。**フレックススペース幅**の値は、指定されたフォントとフォントサイズの通常の半角スペースの割合で表されます(範囲は0~400%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1)。
- オールキャップスタイルが適用されているアクセント付き文字にアクセント記号を含めるかどうかを指定するには、**オールキャップスのアクセント記号**チェックボックスを使用します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- 中国語、日本語、または韓国語の文字と隣接する欧文文字との間に含める間隔の大きさを指定するには、**CJK/欧文間スペース**フィールドを使用します。

環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - ガイドとグリッド

ガイドやデザイングリッドのさまざまなデフォルト設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス(QuarkCopyDesk/編集メニュー)の**ガイドとグリッド**ペインを使用します。

ガイド吸着距離フィールドでは、6ピクセルのデフォルトの吸着距離を変更できます。**ガイドへの吸着**チェックボックス(**表示メニュー**)をオンにすると、この距離でオブジェクトがページガイドに吸着します(範囲は1~216、基準単位はピクセル、最小増分値は1です)。

ガイド領域で、下記の操作を行ってください。

- デフォルトの余白とガイドの色を指定するには、**マージンの色**ボタンと**ガイドの色**ボタンを使用します。
- ルーラーガイドおよびページガイドをページアイテムの前後どちらに配置するかを指定するには、**コンテンツの前**または**コンテンツの後ろ**をクリックします。

ページグリッド領域で、下記の操作を行ってください。

- マスターページグリッドとテキストボックスグリッドを表示できるズームの最小倍率を制御するには、**ズーム表示倍率**フィールドに値を入力します。

- マスターページグリッドをページアイテムの前後どちらに配置するかを指定するには、**コンテンツの前**または**コンテンツの後ろ**をクリックします。**コンテンツの前**をクリックすると、マスターページグリッドをガイドの前後どちらに配置するかも指定できます。

環境設定 - 印刷レイアウト/デフォルトのアーティクル - グリッドセルの塗りつぶし

デザイングリッドセルの塗りつぶし方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集メニュー）の**グリッドセルの塗りつぶし**ペインを使用します。

グリッドスタイルまたはマスターページグリッドの**表示設定**タブで**全セルを表示**をオンにすると、シーケンスのセルの1つをグリッドの他のセルのアウトラインを描く色で塗りつぶすよう指定できます。シーケンス内でセルの番号や位置を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkCopyDesk／編集 > 環境設定）の**グリッドセルの塗りつぶし**ペインのコントロールを使用します。

- 塗りつぶすセルを指定するには、**増幅値**チェックボックスをオンにしてフィールドに値を入力します。たとえば、セル4、セル8、セル12を塗りつぶすには、**4**と入力します。
- テキストボックスの各行の先頭からセルのカウントを再開するには、**ラインの開始**をクリックします。段組みの先頭からセルのカウントを開始し、以降は改行に関係なくカウントを続行する場合、**ストーリーの開始**をクリックします。

法律上の注記

©2022 Quark Software Inc. and its licensors. All rights reserved.

次の米国特許によって保護されています。5,541,991、5,907,704、6,005,560、6,052,514、6,081,262、6,633,666 B2、6,947,959 B1、6,940,518 B2、7,116,843、7,463,793およびその他の出願中の特許。

Quark、Quarkロゴ、QuarkXPress、QuarkCopyDeskは、Quark Software Inc.とQuark関連会社の米国およびその他の各国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

当ソフトウェアアプリケーションまたはユーザーのドキュメントに表示されるPantone® Colorの表示は、PANTONE標準色とは合致しない場合があります。正確な色については最新のPANTONE色見本帳を利用してください。PANTONE®およびその他のPantoneの商標は、Pantone LLCに帰属します。© Pantone LLC, 2010が著作権を有します。

カラーデータおよび/またはソフトウェアの著作権は、Pantoneが所有しています。Quark Software, Inc.はライセンスに基づき、Quarkソフトウェアとの併用に限定して配布を許可されています。Quarkソフトウェアによる作業の一部でないかぎり、PANTONEカラーデータおよび/またはソフトウェアをディスクまたはメモリに複製することは禁じられています。

索引

C

CMYK 111

D

DejaVu 151
docx 39, 156

H

HSB 111

L

LAB 111

M

Microsoft Word 39

O

OpenType 201
OpenTypeスタイル 85
OpenTypeフォント 84
OTFプリンタ検索 195
Output Enhancements 157

P

PDF 132, 199
Photoshopの取り込み 21
Photoshopファイル 119, 120, 121, 122, 123
PSD Import 21, 119, 120, 121, 122, 123

R

RGB 111

T

Type Tricks 150, 151
TypeTricks 149, 150, 151

U

Unicode 22

W

Word 156
Word 6-2000 Filter 156
WordPerfect 39
WordPerfect Filter 156
WYSIWYG表示 194

X

XML 176, 177, 178, 180, 181
XTensions 147, 148, 198
XTensionsセット 148

あ

アーティクルの環境設定 201
アプリケーションの環境設定 191, 193, 194, 195,
196, 197, 198, 199, 200, 201
アルファマスク 118
アンカーカラー 202

い

インデックスカラー 122
インライン入力 195

う

ウィドウ 56
ウィンドウ 26
ウィンドウの分割 26
ウェブセーフカラー 111
ウェブ名前付きカラー 111

お

オーファン 56
オールキャップスのアクセント記号 204

か

カーニング 57, 201
ガイド 194, 205
カスタムアンダーライン 151
カラー 21, 46, 110, 111, 112, 113, 115
カラーテーマ 193

く

グリーキング 202
グリッド固定 203
クリッピングパス 116, 117, 118, 122
グループルビ 92

け

ゲラ表示 194

こ

コンテキストメニュー 19

し

シェード 46, 113, 115
ジャスティフィケーション 58

す

スタイルシート 24, 61, 65, 66
スペース 90
スペルチェック 41, 43, 200
スモールキャップス 204

た

タブ 55

ち

チャンネル 121, 122

つ

ツール・ヘルプ 195

て

テーブル 201
テキスト 38, 39, 40, 41, 43, 81, 83, 113
テキストのドラッグ&ドロップ 195
テキストのハイライト 198
テキストの位置 80
テキストフォーマット 14

テキストボックス 80
デザイングリッド 205, 206
デフォルトパス 199

と

ドイツ語（新正書法2006年版） 200
トラッキング 60
ドロップキャップス 84
トンボ 164, 174

の

ノート 166, 176, 199, 200

は

ハイパーリンク 170
ハイパーリンクカラー 202
ハイフネーション 58
ハイフネーション設定 203
パス 122
バックグラウンドカラー 116
パレット 19
パレットグループ 24
パレットセット 24

ふ

ファイルリスト 199
フォント 44, 80, 194
フォントサイズ 45
フォントセット 48
フォントマッピング 91, 198
ぶら下がり文字 101, 104, 105
ぶら下がり文字クラス 101, 104
ぶら下がり文字セット 101, 105
ぶら下がり約物 101
フリップ 115
プレースホルダ 185, 186, 187, 188
フレーム 202
フレックススペース幅 204
ブレンドモード 120
プロジェクトの環境設定 191

へ

ページセパレータ 195
ベースラインシフト 47
ヘッダー 163, 172, 173
ヘルプ 19

索引

ま

マーク 131
マージン揃え 101
マスターページアイテム 202

め

メタデータ 169, 181

も

モニタープロファイル 193
モノルビ 92, 96

ゆ

ユーザー辞書 43

ら

ライブスクロール 195
ラインチェック 151

り

リスト 23, 124, 125, 126

る

ルビ 92
ルビ専用仮名 92
ルビ文字 92, 94, 96, 97, 99

れ

レイアウト環境設定 191, 202, 203, 204, 205,
206
レイヤー 120, 121